

令和6年度  
「専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」

事業名

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための  
研修プログラム開発事業

事業成果報告書



## 目次

1. 構成機関・構成員等 .....	1
2. 事業の実施体制 .....	3
3. 事業の内容.....	4
1. 事業の趣旨・目的等について.....	4
2. 開発する講座の概要 .....	5
3. 具体的な取組 .....	5
i. 計画の全体像.....	5
ii. 今年度の具体的活動 .....	8
iii. 実施した実証講座の概要 .....	35
4. 巻末 参考資料 .....	63
教材 PBL①.....	65
教材 知識教材 .....	136
教材 知識教材確認テスト .....	259
e ラーニング PBLーシステム .....	269



## 1. 構成機関・構成員等

### ●事業構成機関

#### 教育機関

	名称	都道府県名
1	学校法人長良学園	滋賀県
2	学校法人秋葉学園	千葉県
3	学校法人こおりやま東都学園	福島県
4	学校法人河原学園	愛媛県
5	学校法人清永学園	石川県
6	学校法人青池学園	福井県
7	学校法人岩永学園	長崎県
8	社会福祉法人華頂会	滋賀県
9	学校法人智帆学園	沖縄県

#### 企業・団体

	名称	都道府県名
1	一般社団法人全国介護事業者連盟	東京都
2	介護福祉教育コンソーシアム	東京都
3	株式会社日本ヒューマンサポート	埼玉県
4	株式会社日本介護医療センター	大阪府
5	株式会社ファーラウト	東京都
6	株式会社ヘルスアンドメディカル	東京都
7	ジャパンヘルスケアサービス株式会社	東京都
8	株式会社万燈	東京都

## ●事業推進に関する取り組み

本事業では、「実施委員会」と「分科会」という2つの会議を設置することによって事業を推進した。令和6年度は、6月7日（金）、1月16日（木）、2月19日（水）の3回の会議を開催した。

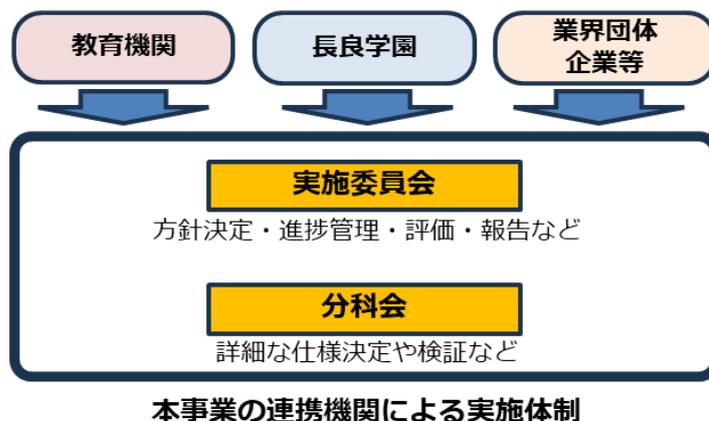
## 実施委員会の構成員

	氏名	所属・職名	所在
1	齋藤桂三	学校法人長良学園・理事長	滋賀県
2	秋葉英一	学校法人秋葉学園・理事長	千葉県
3	大本研二	学校法人こおりやま東都学園・理事長	福島県
4	河原成紀	学校法人河原学園・理事長	愛媛県
5	越中屋薫	学校法人清永学園・理事長	石川県
6	青池浩生	学校法人青池学園・理事長	福井県
7	岩永城児	学校法人岩永学園・理事長	長崎県
8	加藤英材	社会福祉法人華頂会・理事長	滋賀県
9	儀間智	学校法人智帆学園・理事長	沖縄県
10	朴春代	ぬくもりグループ医療法人誠安会研修センター・講師	奈良県
11	斉藤正行	一般社団法人全国介護事業者連盟・理事長	東京都
12	谷田部賢一	介護福祉教育コンソーシアム・事務局	東京都
13	久野義博	株式会社日本ヒューマンサポート・代表取締役	埼玉県
14	谷口直人	株式会社日本介護医療センター・会長	大阪府
15	島岡潤	株式会社ファーラウト・取締役	東京都
16	加藤勝利	株式会社ヘルスアンドメディカル・代表取締役	東京都
17	島辰夫	ジャパンヘルスケアサービス株式会社・代表取締役社長	東京都
18	佐々木雄哉	株式会社万燈・代表取締役	東京都

## 2. 事業の実施体制

本事業では、学校法人長良学園向陽台水口専門学校が事業主体として事業推進の管理と事務局としての業務を行う。また、連携機関との事業実施体制として、実施委員会と分科会を設置する。

実施委員会では本事業のすべての連携機関が参画し、事業全体の方針・計画決定を行い、進捗の管理や実施内容の評価、全体への報告を行う。分科会は調査・開発・実証に関して、詳細な仕様決定や検証を行う。



### 各機関の役割

#### 【教育機関】

- ①介護士の養成に関する情報提供
- ②実証講座実施会場の提供
- ③評価指標・カリキュラム・シラバスの設計補助

#### 【業界団体】

- ①介護現場の実態に関する情報提供
- ②実証評価

#### 【介護事業者】

- ①介護現場の実態に関する情報提供
- ②実証講座受講者の募集補助
- ③アンケート及びヒアリング調査への協力
- ④実証評価

#### 【その他企業】

- ①それぞれの持つ知見や情報の提供

### 3. 事業の内容

#### 1. 事業の趣旨・目的等について

介護の現場では、日本人介護士と外国人介護士が共同して働くケースが増加している。しかし、言語や文化の違いからコミュニケーションのギャップが生じることがあり、スムーズな業務遂行に支障をきたすこともあることが課題となっている。

このような状況の中でも、自然言語生成 AI の活用が容易になったことにより、AI を介して言語の壁を取り払い、円滑なコミュニケーションを実現することが可能になり始めている。また、分析型 AI によってコミュニケーションや業務を「見える化」し、効率的な情報共有や業務の把握をサポートすることにより、介護現場におけるコミュニケーションや業務の改善点を明確にすることができる。様々な AI ツールの導入により、日本人介護士と外国人介護士が共に働く「多国籍共生介護現場」の環境を整備することが可能である。

本事業では、多国籍共生介護現場のマネージャー及びその候補者を対象としたリカレント教育プログラムの開発と実証を行う。ここでは PBL (Problem Based Learning) の手法を用いて、日本人と外国人介護士がスムーズに会話、申し送り、日誌の作成などのコミュニケーションを図りながら業務を遂行するための環境を整備する知識・スキルを身につけることを目指す。

基本情報	内容・目標等
対象とする職業・分野	介護福祉・医療
学習ターゲット、目指すべき人材像	多国籍共生介護現場におけるマネージャー
対象者のレベル（当該プログラムの内容に関する基礎知識の有無）	介護現場のマネージャーまたはその候補者が望ましい
プログラム受講後に想定される受講者のキャリア・受講者が目指す姿	AI を活用し多国籍共生介護現場の環境を整備するマネージャー
開発するプログラムの目標受講者数（1 期間あたり）	20 人
開発するプログラムの想定総授業時数（1 期間あたり）	60 時間以上

開発するプログラムの想定受講期間 (1 期間あたり)	2～3 か月
e-ラーニングの実施の有無	有

## 2. 開発する講座の概要

多国籍共生介護現場のマネージャー対象 AI 導入研修。

## 3. 具体的な取組

### i. 計画の全体像

#### 【令和 5 年度】

##### ●調査に関する取組

##### ◎介護施設へのアンケート調査

介護施設を対象に、外国人雇用の現状や日本人と外国人の協働の課題に関する調査を実施する。

##### ◎介護職員へのヒアリング調査

様々な属性の介護職員を対象に、現状の課題や研修へのニーズに関する調査を実施する。

##### ◎先端技術導入事例調査

介護・医療・サービス業等における AI 等の先端技術の導入・活用事例に関する調査を実施する。

##### ●開発に関する取組

##### ◎カリキュラムの策定・評価指標の開発

リカレント教育プログラムのカリキュラムを策定する。また、受講者の知識・スキル・コンピテンシーの評価のための指標を開発する。

##### ◎教材のプロトタイプ試作

知識学習のための eラーニング教材と知識・スキル・コンピテンシーを身につけるための PBL 教材のプロトタイプを試作する。

##### ●実証に関する取組

##### ◎プレ実証講座

プロトタイプ教材を使い、小規模な実証を行う。

##### ●事業推進に関する取り組み

##### ◎会議

事業推進を主導する実施委員会を3回、調査・開発の項目を具体化する分科会を3回開催する。その際、委員の状況に合わせ、対面とオンラインのハイブリッド形式を基本とする。

#### 【令和6年度】

##### ●開発に関する取組

###### ◎シラバス開発

前年度に策定したカリキュラムをもとに、科目の概要、学習内容、到達目標、教材といった項目を具体化し、シラバスを開発する。

###### ◎改訂版教材と追加教材の開発

令和5年度のプロトタイプ教材に関し、分科会での検討やプレ実証講座等の結果をもとに、改訂版と追加する教材を開発する。

##### ●実証に関する取組

###### ◎実証講座

これまでに開発した教材を活用することにより、リカレント教育プログラムの実証講座を実施する。令和6年度においては、令和5年度のプレ実証講座より教育内容を拡大した実証となることを想定している。

その結果は、令和6年度及び令和7年度の開発に関する取組の方針決定において活用する。

##### ●事業推進に関する取組

###### ◎会議

事業推進を主導する実施委員会を3回、開発・実証の項目を具体化する分科会を3回開催する。その際、委員の状況に合わせ、対面とオンラインのハイブリッド形式を基本とする。

#### 【令和7年度】

##### ●開発に関する取組

###### ◎カリキュラム・シラバス・評価指標の改訂

令和6年度の実証講座の結果を基礎資料とすることにより、カリキュラム・シラバス・評価指標といったリカレント教育プログラムの骨子に、必要に応じて追加・改訂を行う。

###### ◎改訂版教材と追加教材の開発

令和6年度に開発した教材に関し、分科会での検討や実証講座の結果をもとに、改訂版と追加する教材を開発する。

##### ●実証に関する取組

###### ◎実証講座

これまでに開発した教材を活用することにより、リカレント教育プログラムの実証講座を実施する。令和7年度は令和6年度より規模を拡大した実証となることを想定している。

●コミュニティ構築に関する取組

◎多国籍共生介護コミュニティ

教育プログラムの受講者や修了者を中心として介護人材に対して広く開かれたコミュニティを構築することにより、成果を共有していく。

●事業推進に関する取組

◎会議

事業推進を主導する実施委員会を3回、開発・実証の項目を具体化する分科会を3回開催する。その際、委員の状況に合わせ、対面とオンラインのハイブリッド形式を基本とする。

ii. 今年度の具体的活動

●開発に関する取り組み

リカレント教育プログラム開発として、令和5年度は以下の2種類の取組を実施した。

◎カリキュラムの策定・評価指標の開発

リカレント教育プログラムの骨子となるカリキュラムと評価指標の策定・開発をそれぞれ行った。

カリキュラムに関しては以下の通りPBL①～③の3科目および知識の習得を目的とする4科目の合計7科目構成とした。

学習形式	学習目的	科目名	科目概要	時間数
同期型 集合学習	知識・スキルの習得 コンピテンシーの獲得	PBL①	各受講者の職場において、ニーズや課題を分析し、AIツールの選定を行ったうえで、導入計画の資料を作成する。	20 時間
		PBL②	集合授業において、受講者は発表やグループ学習を行い、フィードバックを分析する。	20 時間
		PBL③	各受講者の職場において、導入計画の改訂を行う。それをもとに実際の職場でAIツールを導入・活用し、効果や課題を評価する。	10 時間
非同期型 eラーニング	知識の習得	多国籍共生介護の重要性と課題	日本人と外国人の協働による介護現場の意義や利点、重要性や言語・文化の違いによる課題を理解する。	2 時間
		AI技術の概要と介護及びその隣接分野	AIの基本的な概念と、AI技術が介護や隣接分野においてどのように活用されるかを具体的な事例を交えて紹介する。	2 時間
		AI導入における課題と倫理的考慮事項	AI導入に伴うプライバシーやセキュリティ等の課題やリスク、倫理的な考慮事項について学ぶ。	2 時間
		導入事例の分析	多国籍介護現場におけるAIツール導入の成功事例や課題を具体的なケーススタディを通じて分析する。	2 時間
		導入計画の作成方法	AIツールの導入計画の資料の作成方法や記載すべき項目・要素について学ぶ。	2 時間

評価指標は、調査結果の結果分析で受講者の知識・スキル・コンピテンシーを適切に評価するための項目を大きく「言語能力」「文化理解」「コミュニケーション能力」「チームワーク能力」「問題解決能力」「適応能力」「対人能力」「自己管理能力」「マネジメント能力」「先端技術活用能力」「業界知識」の11に分類し以下の内容でとりまとめた。

評価指標	
言語能力	<p><b>聴解能力</b>：異なる言語での話し言葉を理解する能力。</p> <p><b>発話能力</b>：適切な言葉を使って明確に意思を伝える能力。</p> <p><b>読解能力</b>：書かれた文書を理解する能力。</p> <p><b>文章能力</b>：正確で明確な文章を作成する能力。</p> <p><b>文化的理解</b>：言語の文化的なニュアンスや慣用句を理解し適切に応用する能力。</p>
文化理解	<p><b>文化的感受性</b>：異文化間でのコミュニケーションにおける文化的な感受性を持つ能力。</p> <p><b>文化的適応性</b>：異なる文化間での行動や態度を適切に調整し適応する能力。</p> <p><b>コミュニケーションスタイルの調整</b>：相手の文化的背景に応じてコミュニケーションスタイルを調整する能力。</p> <p><b>文化的相対主義</b>：自らの文化や価値観を超えて他者の文化を理解し受け入れる能力。</p> <p><b>距離感調整</b>：相手との距離感を適切に調整し適度なコミュニケーション確保する能力。</p>
コミュニケーション能力	<p><b>アクティブリスニング</b>：相手の話に注意を払い、理解しようとする能力。</p> <p><b>適切なフィードバック提供</b>：相手の発言や行動に適切なフィードバックを提供する能力。</p> <p><b>質問スキル</b>：適切な質問をすることで相手とのコミュニケーションを促進する能力。</p> <p><b>非言語コミュニケーションの理解</b>：ジェスチャーや表情などの非言語的なコミュニケーションを理解する能力。</p> <p><b>エンパシーの表現</b>：相手の立場や感情に共感し、適切に表現する能力。</p>
チームワーク能力	<p><b>協調性</b>：他のメンバーとの協力関係を築き、協働する能力。</p> <p><b>コラボレーション</b>：チーム内外のメンバーと効果的に連携し共同で目標達成する能力。</p> <p><b>コミュニケーション促進</b>：チーム内でのコミュニケーションを促進し、情報共有を効果的に行う能力。</p> <p><b>役割理解と遂行</b>：自身の役割と責任を理解し、効果的に遂行する能力。</p> <p><b>問題解決と意見の提供</b>：チーム内での問題解決に積極的に参加し、意見や提案を積極的に提供する能力。</p>

問題解決能力	<p><b>問題分析</b>：問題を明確に理解し、要因や影響を分析する能力。</p> <p><b>解決策の検討</b>：様々な解決策を考え、適切な解決策を選択する能力。</p> <p><b>柔軟性と創造性</b>：柔軟な発想や新しいアプローチを用いて問題に対処する能力。</p> <p><b>実行力</b>：選択した解決策を実行し、問題解決に向けて行動する能力。</p> <p><b>結果の評価と改善</b>：実施した解決策の結果を評価し、必要に応じて改善を行う能力。</p>
適応能力	<p><b>新しい状況への適応</b>：新しい状況や環境に迅速かつ効果的に適応する能力。</p> <p><b>変化への対応</b>：変化する状況や要求に柔軟に対応し、適切に行動する能力。</p> <p><b>リスク管理</b>：新しい状況や変化に伴うリスクを適切に管理し、適切な対策を講じる能力。</p> <p><b>イノベーション</b>：新しいアイデアや方法を探求し業務やプロセス改善に貢献する能力。</p> <p><b>多様性対応</b>：様々なバックグラウンドやアプローチを受け入れ、適切に活用する能力。</p> <p><b>ストレス耐性</b>：プレッシャーやストレスの中でも冷静さを保ち、効果的に対処する能力。</p>
対人能力	<p><b>利用者中心のアプローチ</b>：利用者のニーズや希望を理解し、それに応じたケアや支援を提供する能力。</p> <p><b>同情心と共感力</b>：他者の感情や立場を理解し、適切に共感し支援する能力。</p> <p><b>コミュニケーションの配慮</b>：相手の感情や状況に適切に配慮し、適切なコミュニケーションを行う能力。</p> <p><b>個別対応能力</b>：個々の利用者や同僚の状況やニーズに適切に対応する能力。</p> <p><b>優先順位の理解</b>：重要なニーズや要求を優先し、それに適切に対処する能力。</p> <p><b>自己表現と相手理解</b>：自己の考えや感情を適切に表現し相手の理解と共感を促進する能力。</p>
自己管理能力	<p><b>タイムマネジメント</b>：業務やタスクを効率的に計画し時間を適切に管理する能力。</p> <p><b>優先順位設定</b>：業務やタスクの重要度や緊急度を判断し、優先順位を適切に設定する能力。</p> <p><b>目標設定と達成</b>：明確な目標を設定し、それを達成するための計画を立て、実行する能力。</p> <p><b>ストレス管理</b>：ストレスを適切に管理し、冷静さを保ちながら業務を遂行する能力。</p> <p><b>自己啓発</b>：自己の成長や学習に積極的に取り組み、自己啓発を行う能力。</p> <p><b>ワークライフバランス</b>：仕事とプライベートのバランスを取りながら、健康的な生活を送る能力。</p>

マネジメント能力	<p><b>チームリーダーシップ</b>：チームを率いて効果的に業務を遂行し、目標達成に向けて指導する能力。</p> <p><b>チームビルディング</b>：チームメンバーの能力や個性を活かし結束を高める能力。</p> <p><b>コーディネーション</b>：異なる部門や関係者との連携を図り、効率的な業務の進行を促進する能力。</p> <p><b>問題解決能力</b>：問題を適切に分析し迅速かつ効果的な解決策を提供する能力。</p> <p><b>目標設定と管理</b>：明確な目標を設定し、それらを達成するための計画を策定し、進捗を管理する能力。</p> <p><b>パフォーマンス評価</b>：チームメンバーのパフォーマンスを評価し、フィードバックを提供し、成長を促進する能力。</p>
先端技術活用能力	<p><b>コンピューター操作</b>：コンピューターやデジタルツールを適切に操作し、利用する能力。</p> <p><b>ソフトウェア利用能力</b>：業務に必要なソフトウェアやアプリを適切に利用する能力。</p> <p><b>データ管理と分析</b>：データの収集、管理、分析を行い情報を活用する能力。</p> <p><b>インターネットリサーチ</b>：インターネットを利用して情報を収集し、問題解決や意思決定に役立てる能力。</p> <p><b>セキュリティ意識</b>：情報セキュリティに関する基本的な知識を持ち、情報の安全性を確保する能力。</p> <p><b>AI ツール活用</b>：AI ツールや自然言語生成 AI、分析型 AI の技術を適切活用する能力。</p>
業界知識	<p><b>介護サービス理解</b>：介護サービスの種類や提供方法、利用者ニーズを理解する能力。</p> <p><b>関連法規の理解</b>：介護に関連する法律や規制について理解し、適切に運用する能力。</p> <p><b>倫理規定の遵守</b>：介護倫理やプロフェッショナリズムの原則を遵守し、適切な行動を取る能力。</p> <p><b>産業動向の把握</b>：介護産業の動向やトレンドを把握し業務に適用する能力。</p> <p><b>利用者の権利とニーズ</b>：利用者の権利やニーズを理解し、その尊重と適切な対応を行う能力。</p> <p><b>クオリティ・アセスメント</b>：介護サービスの品質評価や改善方法を理解し実践する能力。</p>

今年度は、検討結果を踏まえ、各科目の概要、学習項目、スケジュール、到達目標、使用教材などを具体化し、シラバスを作成した。各科目の学習内容を整理し、体系的なカリキュラムを構築することで、学習の効果を高めることを目指した。具体的には、到達目標を明確に設定し、各学習項目が適切に組み込まれるよう調整した。さらに、使用教材についても精査し、学習内容に最適なものを選定した。これにより、各科目の教育内容がより充実し、学習者にとって理解しやすいシラバスを開発することができた。

●開発したシラバス

PBL①

科目名	PBL①		
科目概要	各受講者が国籍共生介護施設において現場のニーズや課題を分析し、適切な AI ツールの検討を行う。その後、AI ツールの導入計画資料を作成し、具体的な行動計画を提案することで、現場の解決力を向上させる。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職場の課題を多面的に分析する能力を養う。</li> <li>2. 課題解決に向けた適切な AI ツールを検討する力を身につける。</li> <li>3. 引き受け計画の作成、論理的かつ実践的な計画スキルを習得する。</li> </ol>		
学習形式	同期型セット学習	時間数	20 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題発見 (4 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場での課題を分析し、ニーズを明確にする。</li> <li>・多国籍共生介護における主要課題のフレームワークを学ぶ。</li> </ul> </li> <li>2. AI ツールの検討 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI 技術の基本的な概要を学び、応用可能なツールを比較・評価する。</li> <li>・受け入れ可能な AI ツールのデモを体験する。</li> </ul> </li> <li>3. 採択計画の検討 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書の基本構成や記載内容について理解する。</li> <li>・サンプルケースを使って計画書を試作する。</li> </ul> </li> <li>4. 発表と感想 (4 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は自身の導入計画案を発表し、講師や他の受講者からのフィードバックを受ける。</li> <li>・フィードバックを元に計画案を改善する。</li> </ul> </li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職場のニーズや課題の分析能力を習得する 自分の職場で解決する課題やニーズを明確にする方法を学び、それを体系的に分析できるようになる。</li> <li>2. AI ツールの重視基準と適用能力を養う AI ツールの特徴や利用可能性を見据え、現場の課題に最適なツールを見据える能力を身につける。</li> <li>3. 採択計画書を作成する実務スキルを習得する 実行可能な AI ツール導入計画を構造化し、プレゼンテーションや書面で効果的に伝えられるようになる。</li> <li>4. 問題解決型プロセスを実践する 自分の職場で実際に適用可能なソリューションを、効果的に実施するための基本的なプロセスをデザインする。</li> <li>5. チーム内で協働スキルを発揮する</li> </ol>		

	<p>グループディスカッションや共同保育、効果的にアイデアを交換し、共同で課題解決に取り組む能力を育成する。</p> <p>6. 実践的なフィードバックの受け取りと活用</p> <p>他者からのフィードバックを受け、それを基に自らの計画やアプローチを改善する能力を向上させる。</p>
評価方法	<p>1. 課題分析能力：職場の課題を正確に理解・表現できるか。</p> <p>2. ツール選定スキル：適切な AI ツールを選ぶ、その理由を説明できるか。</p> <p>3. 計画書の完了度：計画の具体性、実現可能性、論理性が評価対象。</p> <p>4. プレゼンテーション能力：発表の明確さと論理性を評価。</p>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『介護・医療現場の叫び: AI・人工知能は敵か味方か』（著：月花瑤子）</p> <p>『介護現場の外国人労働者—日本のケア現場はどう変わるのか』（著：塚田典子）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況</p> <p><a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p>

PBL②

科目名	PBL②		
科目概要	受講者は集合授業を通じて、PBL①で作成したAIツール導入計画を発表し、他の受講者や講師からフィードバックを受けます。また、グループ学習を通じて計画の課題を洗い出し、改善策を検討することで、計画の実現可能性を高めることを目的とします。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自身の導入計画を他者に分かりやすく説明するプレゼンテーション能力を向上させる。</li> <li>他の受講者の意見を取り入れ、導入計画の改善に活かす力を養う。</li> <li>グループディスカッションを通じて、異なる視点から課題を捉える能力を強化する。</li> </ol>		
学習形式	同期型集合学習	時間数	20 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>導入計画のプレゼンテーション (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者が自身の AI ツール導入計画を発表する。</li> <li>プレゼンテーションの基本技術 (構成、視覚資料の活用、話し方) を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>フィードバックの受け取りと分析 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>講師・他の受講者からのフィードバックを受け計画の改善点を明確にする。</li> <li>フィードバックの分析方法を学び、建設的な意見の活用方法を考える。</li> </ul> </li> <li>グループ学習と計画改善 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークを通じて、導入計画の問題点を議論し、解決策を考える。</li> <li>他の受講者の事例と比較し、最適な改善策を検討する。</li> <li>改善案の発表と評価 (2 時間)</li> </ul> </li> <li>改善後の導入計画を再発表し、講師・他の受講者から最終フィードバックを受ける。</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション能力の向上 自身の AI 導入計画を論理的かつ分かりやすく説明し、視覚資料を活用しながら説得力のある発表ができる。</li> <li>フィードバックの受容と分析 他者からの意見や指摘を適切に受け入れ、計画の課題や改善点を的確に分析し、効果的な修正ができる。</li> <li>グループディスカッションの活用 異なる視点や意見を尊重しながら建設的な議論を行い、チームで協力しながら最適な解決策を見出すことができる。</li> <li>AI 導入計画の改善 計画の問題点を特定し、実行可能性や効果を高めるための具体的な改善策</li> </ol>		

	を考え、より現実的な計画に仕上げることができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーション能力：発表の明確さ、論理的構成、説得力が評価対象。</li> <li>2. フィードバック活用スキル：受け取ったフィードバックを適切に分析し、計画の改善につなげる力。</li> <li>3. グループディスカッション能力：他者と協力しながら、建設的な意見交換ができるか。</li> <li>4. 計画の改善度：計画がより現実的・実践的になっているかどうか。</li> </ol>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『これだけは知っておきたい「プレゼンテーション」の基本と常識』（著：アイング株式会社）</p> <p>『実践ファシリテーション技法』（著：堀 公俊）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>Adobe：伝わりやすいプレゼン資料の作り方と構成・デザインのコツ  <a href="https://www.adobe.com/jp/acrobat/roc/blog/how-to-create-presentation-notes.html">https://www.adobe.com/jp/acrobat/roc/blog/how-to-create-presentation-notes.html</a></p>

PBL③

科目名	PBL③		
科目概要	<p>本科目では、PBL②で改善されたAI導入計画をさらにブラッシュアップし、実践的な導入戦略を立案します。受講者は、相互評価や講師からのフィードバックを通じて、計画の精度を向上させ、より現実的かつ効果的なAI導入プランを作成します。また、最終発表を行い、計画の実現可能性を検証することを目的とします。</p>		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身のAI導入計画を、論理的かつ実践的な内容に仕上げる力を養う。</li> <li>2. 他者からのフィードバックを活用し、計画の具体性と実現可能性を向上させる。</li> <li>3. 他施設との比較を通じて、独自性や課題を明確にし、より効果的な導入戦略を策定する。</li> </ol>		
学習形式	同期型集合学習	時間数	20 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PBL②の振り返り (4 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>PBL②での学びを整理し、企画書の改善点を再確認する。他施設と比較しながら、施設特有の課題を明確にする。</li> </ul> </li> <li>2. 企画書のフィードバックと改善 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価 (他施設との比較を通じた共通課題・独自課題の明確化)</li> <li>・講師からのフィードバック (企画の方向性、実現可能性の向上ポイント)</li> <li>・AI 導入計画のブラッシュアップ (設備、スケジュール、コスト、サポート体制の具体化)</li> </ul> </li> <li>3. 企画書の詳細化と改善策の立案 (6 時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特性を活かした導入計画の策定</li> <li>・AI 機器の具体的な活用シナリオの作成</li> <li>・費用対効果や導入後の運用体制の整理</li> <li>・他システムとの連携方法の検討</li> </ul> </li> <li>4. 最終発表 &amp; 講評 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の AI 導入計画を発表</li> <li>・講師および参加者による評価とフィードバック</li> <li>・計画の実現可能性を評価し、最終調整を行う</li> </ul> </li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入計画の実現可能性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>計画の具体性を高め、施設の実情に即した導入戦略を策定できる。</li> </ul> </li> <li>2. フィードバックを活かした計画改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見を適切に分析し、計画に反映する力を身につける。</li> </ul> </li> <li>3. 他施設との比較を通じた独自戦略の確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設ごとの課題や特徴を明確化し、差別化された導入計画を作成できる。</li> </ul> </li> <li>4. 実践的なプレゼンテーション能力の向上</li> </ol>		

	自施設の計画を説得力のある形で発表し適切な評価を得ることができる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画書の完成度：計画が具体的かつ実現可能な内容になっているか（詳細な導入スケジュール・コスト試算などが含まれているか）。</li> <li>2. フィードバック活用スキル：相互評価や講師の意見を適切に取り入れ、改善につなげることができるか。</li> <li>3. 独自戦略の策定能力：他施設と比較しながら、施設特有の課題を反映した導入戦略を考案できているか。</li> <li>4. プレゼンテーション能力：論理的な説明と明確な視覚資料を活用し、効果的な発表ができるか。</li> </ol>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『AI 導入の教科書』（著：井原渉）</p> <p>『医療・介護 DX ～コロナデジタル敗戦から AI まで～』（著：武藤正樹）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>Adobe：伝わりやすいプレゼン資料の作り方と構成・デザインのコツ  <a href="https://www.adobe.com/jp/acrobat/roc/blog/how-to-create-presentation-notes.html">https://www.adobe.com/jp/acrobat/roc/blog/how-to-create-presentation-notes.html</a></p>

## 知識教材

科目名	多国籍共生介護の重要性と課題		
科目概要	日本人と外国人が協働する介護現場の意義や利点を理解し、言語や文化の違いによる課題を学びます。多国籍共生介護の現状や、円滑なコミュニケーションのための基本知識を習得することを目的とします。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多国籍共生介護の意義と利点を理解し、実践の重要性を認識できる。</li> <li>2. 言語や文化の違いが介護現場に与える影響を把握し、適切な対応策を考えられる。</li> <li>3. 介護現場で求められる多文化共生の基本的な考え方を学び、実践に活かせる。</li> </ol>		
学習形式	非同期型 e ラーニング	時間数	2 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多国籍共生介護とは (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における外国人スタッフの役割と現状</li> <li>・多国籍共生の必要性と社会的背景</li> <li>・日本人と外国人の協働による利点</li> </ul> </li> <li>2. 多様な視点による介護の質の向上 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人スタッフの活躍による人材不足の解消</li> </ul> </li> <li>3. 言語の壁とその克服方法 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の違いによるコミュニケーション課題</li> <li>・基本的な多言語対応策と実践例</li> </ul> </li> <li>4. 文化の違いによる課題 (30 分)</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多国籍共生介護の意義の理解 日本人と外国人が協働する介護現場の役割や利点を理解し、多国籍共生が必要とされる背景を説明できる。</li> <li>2. 言語の違いによる課題の把握 介護現場における言語の壁が生じる要因を理解し、基本的な多言語対応策を考えられる。</li> <li>3. 文化の違いと対応策の理解 文化や価値観の違いが介護に与える影響を把握し、異文化理解のための適切な対応方法を説明できる。</li> <li>4. 実践的な異文化共生スキルの習得 多国籍介護現場でのコミュニケーションや協働の基本的な考え方を理解し、実践に活かせる知識を身につける。</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理解度チェックテスト (講義内容の確認)</li> <li>2. ケーススタディ課題 (異文化理解の対応策を考える)</li> </ol>		
備考	参考書籍： 『外国人介護士と働くための異文化理解』(著：渡辺 長)		

『多文化共生のコミュニケーション』（著：徳井 厚子） サイト URL： 厚生労働省：外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会 <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syakai_225506_00001.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syakai_225506_00001.html</a> 外国人介護福祉士を採用するための異文化理解と組織体制づくり <a href="https://www.care-iro.com/fixation/respect_forculture.html">https://www.care-iro.com/fixation/respect_forculture.html</a>
--

## 知識教材

科目名	AI 技術の概要と介護及びその隣接分野		
科目概要	本科目では、AI 技術の基本的な概念を学び、介護分野およびその周辺領域での活用事例を紹介します。受講者は、AI が介護現場にもたらす可能性や課題を理解し、実践的な活用方法について考察します。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 技術の基本概念を理解し、介護分野での応用可能性を学ぶ。</li> <li>2. 介護や隣接分野での AI 導入事例を知りその活用のポイントを理解する。</li> <li>3. AI 技術が介護業務の効率化や質の向上にどのように貢献するかを考察する。</li> </ol>		
学習形式	非同期型 e ラーニング	時間数	2 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 技術の基本概念 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI (人工知能) の定義と種類 (機械学習・ディープラーニングなど)</li> <li>・ AI の発展の歴史と現在のトレンド</li> <li>・ 介護分野における AI 技術の役割</li> </ul> </li> <li>2. 介護分野における AI の活用事例 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケアロボット (見守り・移動支援・自動介助など)</li> <li>・ 介護記録の自動化 (音声入力・画像解析・電子カルテ連携)</li> <li>・ 利用者の健康状態の予測 (バイタルデータの分析・異常検知システム)</li> </ul> </li> <li>3. 隣接分野 (医療・福祉・リハビリ) での AI 活用 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI による診断支援 (画像診断・自然言語処理)</li> <li>・ 認知症予防 AI (脳トレアプリ・会話型 AI)</li> <li>・ AI を活用した福祉サービスの最適化</li> </ul> </li> <li>4. AI 技術導入のメリットと課題 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 導入による業務効率化とケアの質向上</li> <li>・ AI 活用時の倫理的・プライバシーの課題</li> <li>・ 介護職員のスキル向上と AI の共存戦略</li> </ul> </li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 技術の基本概念を理解する 機械学習・ディープラーニングを含む AI 技術の基礎知識を習得する。</li> <li>2. 介護分野における AI の具体的な活用方法を学ぶ 実際の導入事例を通じて、AI が介護業務にどのように貢献できるかを理解</li> </ol>		

	<p>する。</p> <p>3. 隣接分野（医療・福祉・リハビリ）での AI の役割を把握する AI が医療や福祉分野で果たす役割を学び、介護との連携について考える。</p> <p>4. AI 導入時のメリットと課題を整理する AI の導入における利点と倫理的・技術的な課題を分析できるようになる。</p>
評価方法	<p>1. 知識習得度（AI の基本概念や介護分野での活用事例を正しく理解しているか）</p> <p>2. 事例分析能力（介護や隣接分野での AI の応用方法を説明できるか）</p> <p>3. 課題認識能力（AI 導入時の利点と課題を整理し自身の意見を持てるか）</p>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『外国人介護士と働くための異文化理解』（著：渡辺 長）</p> <p>『多文化共生のコミュニケーション』（著：徳井 厚子）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>介護業界の AI 活用   メリットや具体的事例・今後の動向について <a href="https://rehab.cloud/mag/13025/">https://rehab.cloud/mag/13025/</a></p>

## 知識教材

科目名	AI 導入における課題と倫理的考慮事項		
科目概要	<p>本科目では、AI 導入に伴うプライバシーやセキュリティの課題、リスク、および倫理的な考慮事項について学びます。受講者は、AI を介護現場に適用する際の問題点を理解し倫理的な側面を考慮した活用方法を検討します。</p>		
学習目標	<p>1. AI 導入に伴う主なリスク（プライバシー・セキュリティ・法的責任）を理解する。</p> <p>2. 介護分野における AI 活用時の倫理的問題を把握し、適切な対応策を考える。</p> <p>3. AI 技術と人間の役割分担を考慮しながら、安全かつ効果的に活用する方法を学ぶ。</p>		
学習形式	非同期型 e ラーニング	時間数	2 時間
学習項目	<p>1. AI 導入に伴うリスクと課題（30 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー問題（個人情報の取り扱い・データの匿名化）</li> <li>・サイバーセキュリティ（ハッキング・データ漏洩のリスク）</li> <li>・偏見や差別のリスク（AI のバイアス問題）</li> </ul> <p>2. 倫理的な考慮事項（30 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI による意思決定の透明性と説明責任</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI と人間の役割分担（人間の判断が必要な領域の明確化）</li> <li>・ 介護現場での倫理的配慮（利用者の尊厳・人間らしさの保持）</li> <li>3. 法的・制度的な枠組み（30分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報保護法・AI 関連の法規制（国内・海外の動向）</li> <li>・ AI ガバナンス（公平性・説明可能性・責任の所在）</li> <li>・ 介護業界で求められる AI 利用のルールとガイドライン</li> </ul> </li> <li>4. リスク管理と安全な AI 運用（30分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 導入時のリスクアセスメントの手法</li> <li>・ 倫理的問題の回避策（利用者への説明・意見収集）</li> <li>・ 介護従事者の AI リテラシー向上の重要性</li> </ul> </li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入のリスクと課題を明確に理解する 介護分野におけるプライバシー・セキュリティ・法的責任の重要性を認識する。</li> <li>2. AI 活用の倫理的な問題点を把握する AI による意思決定の透明性や、人間の尊厳を考慮した導入の必要性を理解する。</li> <li>3. 法的・制度的な枠組みを理解する AI 導入に関する国内外の法規制やガイドラインを学び、適切な運用方法を考える。</li> <li>4. 安全で倫理的な AI 活用の方法を検討できる リスク管理の手法を学び、AI を安全に活用するための戦略を考えられるようになる。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識習得度（AI 導入時の課題やリスクについて正しく理解しているか）</li> <li>2. 倫理的考慮の理解（AI の倫理的問題を説明し、介護分野での適切な運用方法を考えられるか）</li> <li>3. 法規制の理解（個人情報保護法や AI ガバナンスについての基礎知識を持ち、適用できるか）</li> <li>4. リスク管理スキル（AI 導入時のリスクを適切に分析し、リスク回避策を提案できるか）</li> </ol>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『AI 時代の情報倫理: データ管理と AI の責任ある利用』（著：若杉祥太）</p> <p>『多文化共生のコミュニケーション』（著：徳井 厚子）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>個人情報保護委員会：AI と個人情報保護に関するガイドライン  <a href="https://www.ppc.go.jp/">https://www.ppc.go.jp/</a></p>

知識教材

科目名	導入事例の分析		
科目概要	本科目では、多国籍介護現場における AI ツール導入の成功事例や課題を学びます。具体的なケーススタディを通じて、AI 導入がもたらすメリットやリスクを分析し、効果的な導入戦略を考察します。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多国籍介護現場での AI 導入事例を学び、成功要因を理解する。</li> <li>2. 導入事例を分析し、課題やリスクを特定する。</li> <li>3. 事例をもとに、効果的な AI 導入戦略を考察する。</li> </ol>		
学習形式	非同期型 e ラーニング	時間数	2 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入の成功事例 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボットの導入事例 (見守り・移動支援・会話支援)</li> <li>・AI によるケアプラン作成の自動化事例</li> <li>・音声認識 AI を活用した記録業務の効率化</li> </ul> </li> <li>2. AI 導入の課題とリスク (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・多国籍介護現場における言語・文化の違いによる課題</li> <li>・AI 活用に対する現場スタッフの意識と受容性</li> <li>・導入コストと費用対効果の分析</li> </ul> </li> <li>3. ケーススタディを通じた分析 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例をもとに、成功の要因と課題を整理する</li> <li>・異なる施設での AI 導入状況の比較と考察</li> <li>・施設ごとに異なるニーズに応じた AI 活用の工夫</li> </ul> </li> <li>4. 効果的な AI 導入戦略の検討 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・成功事例を踏まえた最適な AI 導入の方法を考察</li> <li>・現場での AI 活用の課題を解決するための提案</li> <li>・継続的な運用と改善のための仕組み作り</li> </ul> </li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入事例の分析スキルを身につける 成功事例を理解し、導入のポイントを整理できる。</li> <li>2. AI 活用における課題の特定と対策を考察できる ケーススタディを通じて、導入時の課題とリスクを特定し対策を考える。</li> <li>3. 多国籍介護現場での適切な AI 導入戦略を提案できる 施設の特性に応じた導入計画を考え、実現可能な戦略を提案する。</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例分析能力 (成功事例の要因を正しく理解し、導入のポイントを説明できるか)</li> <li>2. 課題認識と解決能力 (AI 導入の課題を整理し適切な解決策を考えられるか)</li> <li>3. 比較検討能力 (他施設の事例を参考に、自施設に適した導入方法を検討</li> </ol>		

	<p>できるか)</p> <p>4. 戦略立案スキル (AI 導入後の効果を予測し、評価・改善策を提案できるか)</p>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『AI 時代の情報倫理: データ管理と AI の責任ある利用』(著：若杉祥太)</p> <p>『多文化共生のコミュニケーション』(著：徳井 厚子)</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>介護業界での AI 活用事例、メリット  <a href="https://www.matrixflow.net/case-study/67/">https://www.matrixflow.net/case-study/67/</a></p>

### 知識教材

科目名	導入計画の作成方法		
科目概要	本科目では、AI ツールの導入計画の資料作成方法を学びます。計画書に記載すべき要素や具体的な記載例を学習し、実践的な導入計画の作成スキルを習得します。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入計画の基本的な構成や記載項目を理解する。</li> <li>2. 計画書作成のためのポイントや具体的な記載方法を学ぶ。</li> <li>3. 施設ごとの特徴やニーズに応じた導入計画を立案できるようになる。</li> </ol>		
学習形式	非同期型 e ラーニング	時間数	2 時間
学習項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入計画の目的と概要 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 導入の目的と期待される効果を明確にする。</li> <li>・ 導入計画の基本構成 (目的・対象・スケジュール・予算) を理解する。</li> <li>・ 過去の成功事例を参考に、計画の方向性を考える。</li> </ul> </li> <li>2. 導入計画の記載項目とポイント (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入対象 (施設・スタッフ・利用者) の明確化。</li> <li>・ スケジュールの作成方法 (短期・中期・長期の計画)。</li> <li>・ コストとリソースの見積もり方法。</li> </ul> </li> <li>3. 計画書作成の実践 (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サンプル計画書を用いた演習。</li> <li>・ 具体的な記載例とフォーマットの活用。</li> <li>・ 実際の施設の状況に応じたカスタマイズ方法を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>4. 計画の評価とブラッシュアップ (30 分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の実現可能性を評価するチェックポイント。</li> <li>・ 他施設との比較を通じた改善の視点。</li> <li>・ フィードバックを活用した計画の最終調整。</li> </ul> </li> </ol>		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. AI 導入計画の基本構成を理解し、必要な要素を整理できる 目的・対象・スケジュール・予算など、計画書に記載すべき内容を明確にできる。</li> <li>2. 具体的な導入計画を作成するスキルを習得する 計画書の作成方法を学び、自施設に適した計画を作成できるようになる。</li> <li>3. 計画の実現可能性を高めるためのブラッシュアップができる 計画の実行性を検討し、フィードバックを活用して改善を行えるようになる。</li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画書の構成理解（導入計画の基本構成を正しく理解し、記載できているか）</li> <li>2. 計画の実現可能性（スケジュール・予算・リソースを考慮し、現実的な計画を作成できているか）</li> <li>3. 計画のカスタマイズ能力（施設の特性を考慮し、適切な計画を立案できているか）</li> <li>4. フィードバック活用スキル（計画書に対するフィードバックを活かし、適切に修正できるか）</li> </ol>
備考	<p>参考書籍：</p> <p>『医療・介護 DX ～コロナデジタル敗戦から AI まで～』（著：武藤正樹） 『AI 導入の教科書』（著：井原 渉）</p> <p>サイト URL：</p> <p>厚生労働省：介護分野における AI 等の活用状況  <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/001002876.pdf</a></p> <p>AI を活用したものづくり補助金の事業計画書の作成方法  <a href="https://hojo.mono-support.com/monodukuri/chatgpt/">https://hojo.mono-support.com/monodukuri/chatgpt/</a></p>

● 昨年度開発の知識教材の改訂と追加教材の開発

本事業では、知識学習のための個人学習用 e ラーニング教材と知識・スキル・コンピテンシーを総合的に身につけるためのグループ学習用 PBL 教材を開発した。昨年度は、試作としてカリキュラム内の一部の科目の教材のプロタイプ版「PBL①」を開発した。今年度はカリキュラムのうち PBL の第一段階に位置付けられる「PBL①」の改訂と、PBL 学習の第 2 段階、第 3 段階である「PBL②」「PBL③」、また前提知識を学習するための知識学習科目 5 科目の改訂も行った。

○ 改訂後のグループ学習用 P B L 教材「PBL①」の内容構成

学習内容	アウトプット	時間配分
オリエンテーション		1 時間
第 1 段階 (令和 5 年度) 導入計画作成	・施設における課題抽出	3 時間
	・AI ニーズの分析	3 時間
	・AI ツールの選定	3 時間
	・AI 導入企画書案の選定	2 時間
	・AI 導入企画案作成・発表	8 時間
		20 時間



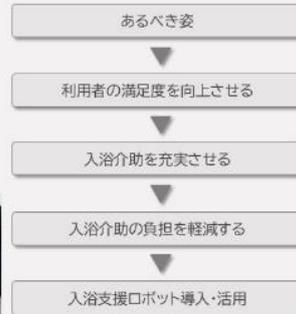
Step 1 事例把握 (1)状況説明

課題抽出

入浴介助は、体を清潔に保つことと同時に、血行をよくし、疾患を悪化させないといった効果がある。一方で温度・湿度の高い中での身体的負担、安全面への心理的負担があり、負荷がかかるサービスの1つと言える。



【出典】(左)ホストセブン (右)京都新聞



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

Step 1 事例把握 (1)状況説明

状況設定

レクリエーションとは？

状況(2)

管理者のあなたは、入浴支援に活用できるデジタル機器の導入を検討している。これまで施設ではロボットを導入したことがない為、まずは導入を検討する機器の調査(実際に活用をしている事例をインターネット等で調べてグループディスカッションを行う)を予定している。



【出典】メーカーHPほか(左から酒井医療(株)「アラエル」、(株)アマノ「ヌクティ」、(株)金堂「ビュアット」)

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

Step 1 演習

課題抽出(個人)15分

(1)現場での課題(回答例)

考えられる施設内の課題について記載をしてください。

課題

【人的課題】

現在はスタッフは充足しているが、スタッフの経験値や意識の違いがあり、提供するサービスにおいても差が生じている。  
今後、2025年・2040年問題と言われている社会情勢の中、少子高齢化が進み、サービスを提供するスタッフの確保(及び育成)が難しくなるのではないかと懸念している。

【環境課題】

外的環境・・・医療介護費の増大がもたらされる影響として、マイナス改定なども想定されており、現状のサービスを提供することが難しくなるのではないかと懸念がある。  
内的課題・・・サービスを提供するスタッフの確保(及び育成・定着支援)について十分に出来ない可能性がある。特に管理職候補の養成が出来ていない。

【その他】

現在のスタッフ間の良好な関係づくり、多職種連携、スタッフの能力格差の是正、事業規模拡大(及び縮小)など・・・

PBL の第 2 段階である「PBL②」に対応する PBL 教材を新規開発し、第 1 段階でリーダーとなった受講者が講座の会場に集合し発表や相互評価を実施した。第 2 段階の PBL 教材は PPT の体裁で全体 40 ページの 5 段階構成となっている。

○ 第 2 段階となるグループ学習用 P B L 教材「PBL②」の内容構成

学習内容	アウトプット	時間配分
第 2 段階 (令和 6 年度) 企画書相互評価	・ 自己紹介・施設紹介	0.5 時間
	・ AI を含む先端機器活用事例 講義	0.5 時間
	・ 企画案発表 (相互評価/気付記録)	1 時間
	・ 参加者ディスカッション	1 時間
	・ 講師講評 企画書作成手法 講義	1 時間
		4 時間



# …目次…

【1】自己紹介・所属法人について(概要等の紹介)

【2】法人・施設における課題とその要因について

【3】課題解決の為のAI機器の紹介と活用事例について

【4】企画書の作成について

【5】気づき・振り返りについて



## 【2】法人・施設における課題とその要因について

課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の抽出	現在起きている現象(特に良くない)および将来にわたり起こりうるもの、日々提供しているサービスやスタッフのマネジメントにおける課題など、具体的な内容を列挙する。
要因分析	何が原因で課題が発生しているのか、要因について分析を行い、現状と理想(あるべき姿)のギャップを分析する。
課題解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
課題解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。(IT先端機器の活用で解決の一助となるか)

### (1)課題抽出

- ①福祉現場における課題を直視する
- ②課題解決の為の作業や手法について検討する
- ③その目的と背景についても理解する
- ④設定された状況から課題を抽出する

### (2)課題解決シート作成

- ①課題解決の為のツールとしてIT先端機器の導入や活用を検討する
- ②検討している先端機器の導入状況及び活用事例について調査する

What

Where

Why

How

Do

## 【3】課題解決の為のAI機器の紹介と活用事例について②

### 【事例】(特別養護老人ホームの場合)

- ①歩くことが出来ていた利用者が、コロナ罹患後、ADLレベルが下がり、オムツ介助が必要となった。
- ②スタッフの高齢化に伴い、利用者を車椅子からトイレ・ベット間の移乗、入浴時に車椅子とシャワーチェア間の移乗介助することが難しい。
- ③リフト移動の際は、2名が付き添いをしなくてはならない為、負担が大きい。

### 【目標】(同上)

- ①ADLの向上に努めたい。
- ②自力で排泄が出来るようになり、オムツの量を減らしたい。
- ③利用者の移乗介助は1人に対応出来るようにしたい。

### 【法人・施設の方針】

- ①スタッフの負担軽減(心理的・肉体的)を図り、
- ②利用者の立位機能回復等のリハビリに役立ち、
- ③夜勤スタッフの見守り等の負担軽減に役立つ機器が望ましい…

### 【導入理由とその目的】



【出典】介護ロボットポータルサイト

## ○ 個人学習用 e ラーニング教材の内容構成

知識学習のための個人学習用 e ラーニング教材については、昨年度の以下の科目の教材や資料を踏襲して、資料・ワーク・映像の作成作業等を行った。

### 【昨年度知識教材】

- 第 1 章 多国籍共生介護の重要性と課題
- 第 2 章 AI 技術の概要と介護及びその隣接分野
- 第 3 章 AI 導入における課題と倫理的考慮事項
- 第 4 章 導入事例の分析
- 第 5 章 導入計画の作成方法

### 【今年度知識教材】

本年度は、令和 5 年度の知識教材を基盤としながら、多国籍共生介護というテーマに則し、より具体的かつ実践的な内容を追求したテキストを開発した。

以下がその章立てである。

## 第 1 章：多国籍介護現場の基礎理解

### 1.1 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

- ① 日本における多国籍介護福祉士の受け入れ状況
- ② 外国人介護福祉士向けの法的枠組みと規制
- ③ 就業ビザや資格取得の要件
- ④ 日本と外国の介護制度の違い
- ⑤ 外国人介護福祉士の労働権と待遇に関する課題

### 1.2 多国籍共生介護とケアの適応

- ① 多国籍スタッフ間での役割理解と協力
- ② 偏見や誤解を避けるためのアプローチ
- ③ 文化的背景に基づくコミュニケーションの最適化
- ④ 多国籍共生介護の概念を取り入れた組織づくり
- ⑤ 介護業務における文化的感受性の重要性

### 1.3 言語の壁と多言語対応ツールの活用

- ① 言語の壁が介護現場に与える影響
- ② 多言語対応ツールの選定基準
- ③ 翻訳ソフトウェアや AI 翻訳の活用方法
- ④ 通訳者の役割と適応手法
- ⑤ 言語教育プログラムとその効果

### 1.4 多国籍スタッフの業務特性と役割

- ① 多国籍スタッフの強みとその活躍場面
- ② 多国籍共生介護を持つ介護スタッフの特性

- ③ 多国籍スタッフのモチベーションと課題
- ④ 役割分担の重要性とチームワークの促進
- ⑤ 管理職としての多国籍スタッフへの支援方法

#### 1.5 多国籍共生介護を成功に導く方法

- ① 多国籍スタッフの長期的な雇用確保
- ② 異文化理解を深める職場環境の作り方
- ③ 多国籍スタッフ間の連携強化のための研修方法
- ④ 効率的な多言語サポートシステムの導入手法
- ⑤ 多国籍共生介護における持続可能な管理体制の構築

### 第2章：AI技術と多国籍共生介護環境への適応

#### 2.1 介護DXの概要とAIの基礎知識

- ① 介護DXの定義とその重要性
- ② 介護業界におけるAIの基本概念と活用分野
- ③ AI技術の進化と介護分野への適用事例
- ④ 介護現場でのAI導入に必要な環境
- ⑤ 介護DXを成功させるための方法

#### 2.2 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

- ① 言語支援AIによる多国籍スタッフとの連携強化
- ② AIを活用した介護記録の自動化
- ③ AIを活用したケアプランの作成支援
- ④ 多国籍共生介護スタッフ向けAIトレーニングシステムの導入方法
- ⑤ 多国籍共生介護におけるAI活用法

#### 2.3 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

- ① 異文化理解を促進するAI教育ツールの活用
- ② AIによる多国籍共生介護向けのリモート教育プログラム
- ③ 教育効果を高めるためのAIトレーニング評価方法
- ④ 介護スキル向上を目的としたAI学習手法
- ⑤ AIを活用した教育とトレーニング手法

#### 2.4 AIを活用した言語サポートの拡充

- ① 多国籍共生介護環境における言語上の課題特定
- ② AIによるリアルタイム翻訳システムの活用法
- ③ AI応答システムを利用した言語支援事例
- ④ 言語教育プログラムへのAI導入効果
- ⑤ AIによる言語サポートの最適化

#### 2.5 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

- ① AIによる多国籍共生介護環境でのプライバシー保護
- ② 公平性を確保するAI活用手法の設計
- ③ AIが多国籍共生介護の文化的感受性に与える影響
- ④ AI導入による多国籍共生介護環境での偏見軽減策
- ⑤ AI活用における倫理的配慮の方法

### 第3章：多国籍共生介護環境におけるリスク管理

#### 3.1 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

- ① 多国籍共生介護環境に起因するリスクの特定と分析
- ② 多国籍共生介護リスク管理体制の導入

- ③ 多国籍共生介護環境における課題解決策
- ④ リスク予測と事前対応の実践
- ⑤ リスク管理の効果的な実施方法

### **3.2 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備**

- ① 多国籍スタッフが快適に働ける環境作り
- ② 多国籍共生介護に配慮した職場設計
- ③ 迷惑行為防止と多国籍共生介護への理解促進
- ④ 多国籍共生介護チームのストレス管理方法
- ⑤ 多国籍共生介護職場環境の改善手法

### **3.3 多国籍共生介護環境における問題解決手法**

- ① 多国籍共生介護環境上の問題の特定と解決策
- ② 多国籍共生介護環境の整備とサポート体制
- ③ スタッフへのフィードバックを活用した改善手法
- ④ システムエラーの防止策と予備システムの設計
- ⑤ 効果的な問題解決手法

### **3.4 多国籍共生介護環境における AI 運用問題解決手法**

- ① 多国籍共生介護環境で起こりやすい AI 運用トラブル
- ② トラブル解決のための多国籍共生介護向けサポート体制
- ③ AI トラブルの早期発見と予防策
- ④ 多国籍共生介護スタッフによる AI トラブル対応スキル
- ⑤ AI トラブル対応の最適な手法

### **3.5 多国籍共生介護環境でのリスク管理**

- ① 多国籍スタッフ間での透明性を保つための方針設定
- ② リスク管理における AI の活用手法
- ③ 異文化間の課題を早期に発見するための管理手法
- ④ 問題解決手法を効率化するためのツール導入
- ⑤ リスク管理を成功に導くためのチーム全体での取り組み

## **第 4 章：多国籍共生介護を支援する AI とコミュニケーション戦略**

### **4.1 AI を活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上**

- ① AI を活用した多国籍共生介護の促進と効果
- ② 多国籍共生介護環境での AI の役割
- ③ AI で解消できる多国籍共生介護環境のコミュニケーション課題
- ④ AI を使った多国籍共生介護環境の壁の克服方法
- ⑤ AI を活用した効果的なコミュニケーション方法

### **4.2 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援**

- ① NLP 技術を活用した多国籍共生介護環境での会話支援方法
- ② NLP 会話支援システムの導入による効果
- ③ 多国籍共生介護での複雑な専門用語の翻訳・通訳支援
- ④ NLP 技術の進化による多国籍共生介護環境でのサービス向上
- ⑤ NLP を活用した会話支援の導入方法

### **4.3 多国籍共生介護環境における AI 応答システムの活用**

- ① 多国籍共生介護環境向け応答システムの開発と導入ステップ
- ② 多国籍共生介護環境での多言語サポート事例
- ③ AI 応答システムによる即時対応の実施
- ④ 多国籍共生介護環境向け応答システムの効果

- ⑤ 効果的な AI 応答システムの活用方法

#### **4.4 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア**

- ① 迷惑行為防止のための AI ツール活用方法
- ② 多国籍共生介護チームのメンタルケア支援 AI 導入事例
- ③ 多国籍共生介護環境での迷惑行為解決策
- ④ 多国籍共生介護チームにおける心のケアとサポート方法
- ⑤ 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止手法

#### **4.5 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法**

- ① AI を用いた多国籍共生介護環境での連絡手段の統一
- ② AI 翻訳ツールを活用したコミュニケーション効率化
- ③ リアルタイム通訳デバイスの導入と運用方法
- ④ 多国籍共生介護スタッフ間での共通理解を深める研修
- ⑤ 定期的な意見交換を通じたコミュニケーションの向上策

### **第 5 章：現場適応型 AI 導入モデルの構築**

#### **5.1 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じた AI 導入計画の策定**

- ① 多国籍共生介護背景に基づいたニーズ分析
- ② 施設ごとの特化型多国籍共生介護 AI 導入プラン
- ③ 多国籍共生介護に適した AI システムの選定
- ④ スタッフ教育とインフラ整備の調整方法
- ⑤ 施設別の AI 導入計画を成功に導く方法

#### **5.2 多国籍共生介護環境における業務最適化と AI 導入の費用対効果**

- ① 多国籍共生介護環境での業務プロセス最適化手法
- ② AI 導入の費用対効果を測る指標
- ③ AI 導入後の多国籍共生介護環境での効率化とコスト削減の成果
- ④ 多国籍共生介護環境における AI 活用の収益性
- ⑤ コスト削減と品質向上を両立する AI 導入手法

#### **5.3 多国籍共生介護スタッフのための AI トレーニングプログラム**

- ① 多国籍共生介護向け AI トレーニングプログラムの設計方法
- ② 多国籍共生介護に特化した AI トレーニングの実施
- ③ トレーニングの評価方法と効果測定
- ④ AI 教育を通じた多国籍共生介護スタッフスキル向上
- ⑤ 多国籍共生介護 AI トレーニングプログラムの実施方法

#### **5.4 AI を活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減**

- ① AI を活用した多国籍共生介護業務の自動化と効率化手法
- ② 多国籍共生介護スタッフの負担軽減と業務最適化
- ③ AI による多国籍共生介護環境での問題削減とクオリティ向上
- ④ AI 導入後の多国籍共生介護スタッフ負担軽減の実例
- ⑤ ベストプラクティス：AI を活用した業務効率化手法

#### **5.5 多国籍共生介護環境に適応した AI 導入方法**

- ① 多国籍共生介護に対応した AI 導入計画
- ② 異文化環境における AI 導入の挑戦と成功
- ③ AI 導入後の多国籍共生介護環境での適応状況の分析
- ④ 多国籍共生介護ニーズに応じた AI 導入最適事例
- ⑤ 成果を最大化するための AI 導入手法

○ 改訂後の知識学習教材の一部



令和6年度  
「専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業」

介護DX多国籍共生  
介護現場のマネージャー対象  
AI導入研修②

学校法人長良学園  
向陽台水口専門学校

**目次**

<p>第1章 多国籍介護現場の基礎理解</p> <p>1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解</p> <p>2節 多国籍共生介護とケアの適応</p> <p>3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用</p> <p>4節 多国籍スタッフの業務特性と役割</p> <p>5節 多国籍共生介護を成功に導く方法</p> <p>第2章 AI技術と多国籍共生介護環境への適応</p> <p>1節 介護DXの概要とAIの基礎知識</p> <p>2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例</p> <p>3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング</p> <p>4節 AIを活用した言語サポートの拡充</p> <p>5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題</p> <p>第3章 多国籍共生介護環境におけるリスク管理</p> <p>1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定</p> <p>2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備</p> <p>3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法</p> <p>4節 多国籍共生介護環境におけるAI活用問題解決手法</p> <p>5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理</p>	<p>第4章 多国籍共生介護を支援するAIとコミュニケーション戦略</p> <p>1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上</p> <p>2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援</p> <p>3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用</p> <p>4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア</p> <p>5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法</p> <p>第5章 現場適応型AI導入モデルの構築</p> <p>1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定</p> <p>2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果</p> <p>3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム</p> <p>4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減</p> <p>5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法</p>
--	--



令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

## 第1章 多国籍介護現場の基礎理解

- 1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解
- 2節 多国籍共生介護とケアの適応
- 3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用
- 4節 多国籍スタッフの業務特性と役割
- 5節 多国籍共生介護を成功に導く方法



介護士 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

本章では、多国籍共生介護の現状や法制度、異文化対応、言語支援、職場環境の整備について整理します。多様なスタッフが円滑に協力し、質の高い介護を提供するために必要な要素を考察します。

### 第1章 多国籍介護現場の基礎理解

#### 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

多国籍スタッフの強みや業務特性を理解し、モチベーション向上、役割分担、チームワークの促進、管理職による支援方法を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフの強みとその活躍場面
- ② 多国籍共生介護を持つ介護スタッフの特性
- ③ 多国籍スタッフのモチベーションと課題
- ④ 役割分担の重要性とチームワークの促進
- ⑤ 管理職としての多国籍スタッフへの支援方法



介護士 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

多国籍スタッフは、異文化理解や多言語対応などの強みを活かし、介護現場で重要な役割を果たします。適切な役割分担とチームワークの促進が、業務の効率化につながります。また、モチベーションを維持するためには、働きやすい環境と管理職の適切な支援が必要です。多国籍共生介護を円滑に進めるために、スタッフの特性を理解し、それぞれの能力を最大限に活かすことが求められます。

### iii. 実施した実証講座の概要

<b>実証講座 の対象者</b>	<b>【STEP1】</b> 介護現場の経営者およびマネージャーと職員												
<b>期 間</b>	① 癒しの森 令和6年10月14日から29日、3日間 対面会議で実施 ② こころのしろ 令和6年11月1日～2月17日 eラーニング併用で実施 ③ 福寿荘 令和6年12月17日～2月17日 eラーニング併用で実施												
<b>実施手法</b>	開発したPBL①教材や個人学習用eラーニング教材を用いて、リカレント教育プログラムの全体体系から実証講座向けに教育要素を抽出・再構成して、プログラムの一部を運営した。 実施内容は、多国籍共生介護現場における介護マネジメントへのAIツールの導入検討を題材としたPBL学習を中心とした。PBL学習はグループワークを前提として、集合学習とオンラインで講師が講義する手法、PBL専用開発したeラーニングシステムで実施した。またPBL学習で必要となる知識（AI技術の概要、導入事例、導入計画の作成方法など）は事前に個人学習した。												
<b>実証結果</b>	<b>① 実証講座 癒しの森</b> <table border="1" data-bbox="400 1431 1348 2011"> <tr> <td data-bbox="400 1431 644 1563">           実施日時         </td> <td data-bbox="644 1431 1348 1563">           令和6年10月14日（月）18:00～20:00            令和6年10月23日（水）17:30～19:30            令和6年10月29日（火）17:30～19:30         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1563 644 1608">           実施施設         </td> <td data-bbox="644 1563 1348 1608">           癒しの森 水元         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1608 644 1653">           参加人数         </td> <td data-bbox="644 1608 1348 1653">           4名         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1653 644 1697">           講師氏名         </td> <td data-bbox="644 1653 1348 1697">           得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1697 644 1787">           使用教材         </td> <td data-bbox="644 1697 1348 1787">           介護現場における実際について（介護DXを推進する）            AI導入スキルPBL実証講座         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1787 644 2011">           実施スケジュール         </td> <td data-bbox="644 1787 1348 2011">           第1回集合講座 10月14日（月）            【1】昨年度の振り返り、本年度の事業内容について（15分）            【2】事例集を活用した個別演習（15分）            【3】施設導入検討についてのグループ討論（30分）            【4】施設内での課題を個人・グループで抽出し発表         </td> </tr> </table>	実施日時	令和6年10月14日（月）18:00～20:00 令和6年10月23日（水）17:30～19:30 令和6年10月29日（火）17:30～19:30	実施施設	癒しの森 水元	参加人数	4名	講師氏名	得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）	使用教材	介護現場における実際について（介護DXを推進する） AI導入スキルPBL実証講座	実施スケジュール	第1回集合講座 10月14日（月） 【1】昨年度の振り返り、本年度の事業内容について（15分） 【2】事例集を活用した個別演習（15分） 【3】施設導入検討についてのグループ討論（30分） 【4】施設内での課題を個人・グループで抽出し発表
実施日時	令和6年10月14日（月）18:00～20:00 令和6年10月23日（水）17:30～19:30 令和6年10月29日（火）17:30～19:30												
実施施設	癒しの森 水元												
参加人数	4名												
講師氏名	得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）												
使用教材	介護現場における実際について（介護DXを推進する） AI導入スキルPBL実証講座												
実施スケジュール	第1回集合講座 10月14日（月） 【1】昨年度の振り返り、本年度の事業内容について（15分） 【2】事例集を活用した個別演習（15分） 【3】施設導入検討についてのグループ討論（30分） 【4】施設内での課題を個人・グループで抽出し発表												

	<p>(45分)</p> <p>【5】講師の講評 (10分)</p> <p>【6】講座アンケート (5分)</p> <p>第2回集合講座 10月23日(水)</p> <p>【1】前回講座の振り返り (10分)</p> <p>【2】AI 機器の動画資料を確認後、課題の整理・設定 (10分)</p> <p>【3】課題と選定理由の発表 (5分)</p> <p>【4】企画書の必要項目を選定 (20分)</p> <p>【5】企画書草案作成 (45分)</p> <p>【6】グループ代表者より企画書の発表 (5分)</p> <p>【7】講師講評 (20分)</p> <p>【8】講座アンケート (5分)</p> <p>第3回集合講座 10月29日(火)</p> <p>【1】前回講座の振り返り (10分)</p> <p>【2】AI 機器の動画資料を確認後、課題の整理・設定 (10分)</p> <p>【3】ポケトークの利点や課題を整理 (5分)</p> <p>【4】ChatGPT を使用して企画書をブラッシュアップ (15分)</p> <p>【5】企画書作成のフォーマット選定・作成 (40分)</p> <p>【6】完成した企画書の発表 (5分)</p> <p>【7】講師講評 (15分)</p> <p>【8】講座アンケート、eラーニング確認問題 (20分)</p>
--	--

実証講座の様子





### 実証講座の評価

本実証講座の実施後、受講者に対して講座の感想と学習内容への理解に関してアンケートを行った。

【第1回集合講座 10/14 実施後アンケート】

#### 1. 本日の講座内容で関心を持ったことをお書きください。

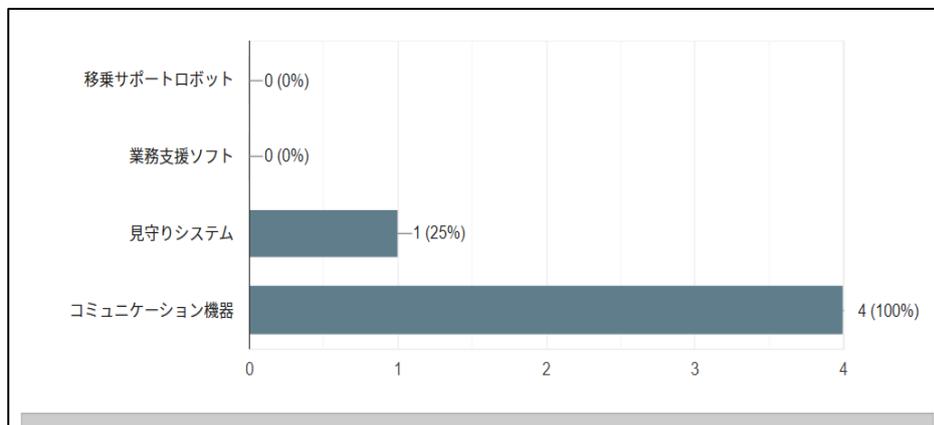
毎月行っているミーティング同様議論が広がった。

介護ロボットの、色々な種類に興味深く感じました

ロボットやAIの使いみち。

諦めるのではなく問題を掘り下げる事により解決の糸口が見つかる可能性が見えてくる

#### 2. 介護支援に役立つと思われる介護機器を選択してください。



アンケート結果から、介護現場において AI 機器の導入が進む中でも、コミュニケーション機器が特に重要視されていることが明確に分かる。利用者との円滑な意思疎通や孤立防止が重視されている一方で、移乗サポートロボットや業務支援ソフトへの関心が低い背景には、現場のニーズや導入コスト、操作の複雑さなどが影響している可能性がある。また、見守りシステムも一定の評価を受けていることから安全確保や負担軽減のための機器も重要と考えられるが総じて現場での実用性がカギとなると考えられる。

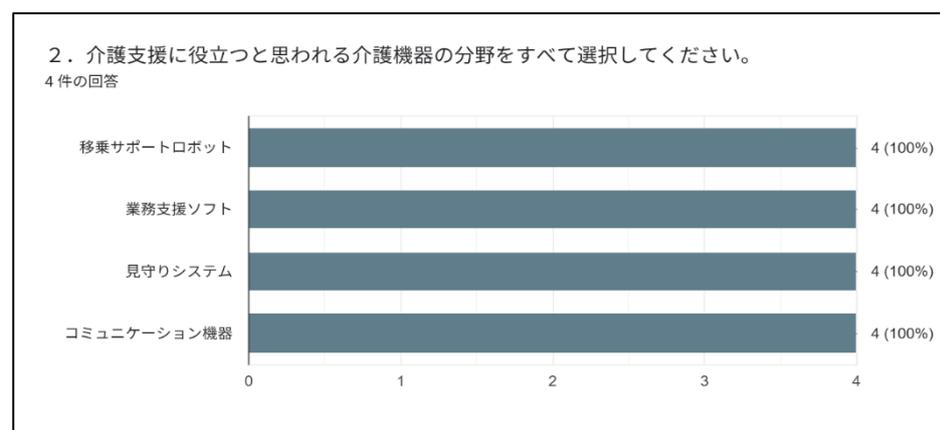
【第 2 回集合講座 10/23 実施後アンケート】

1. 本日の講座内容で特に重要と思われた点をお書きください。

4 件の回答

具体的な使用目的が想定できた。
自分達で、考え、企画まで進めて行くことが、とても重要だと思いました。
ポケトーク自体が思ったより大きく利用者様に見えやすいと思った。
自ら企画を立てられた事

2. 介護支援に役立つと思われる介護機器の分野をすべて選択してください。



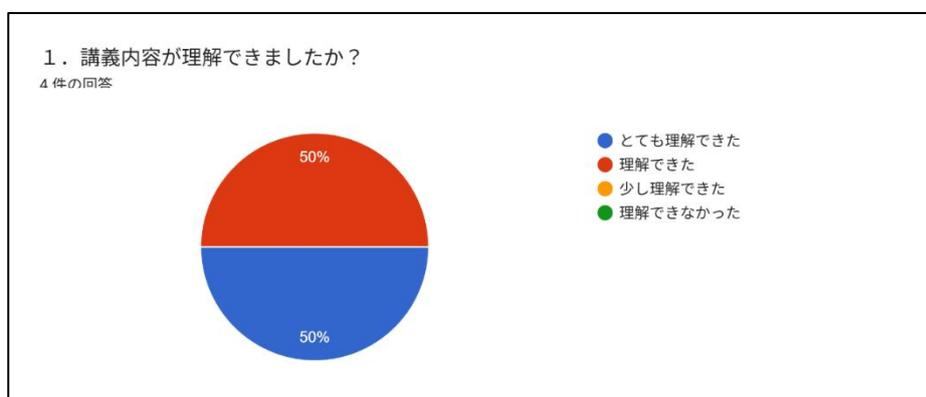
2 回目のアンケート結果では、すべての介護機器分野が 100% の選択率となり、参加者全員が各分野の機器を介護支援に役立つと認識したことが示されている。これは、講座内で資料や動画を通

じて具体的な活用例や効果を確認することで、これらの機器への理解と期待が大きく高まった結果と考えられる。

特に、初回アンケートでは低評価だった移乗サポートロボットや業務支援ソフトも評価されており、情報提供の重要性と、機器の有用性を現場の視点で伝えることの効果が明らかになった。

### 【第3回集合講座 10/29 実施後アンケート】

#### 1. 講義内容が理解できましたか？



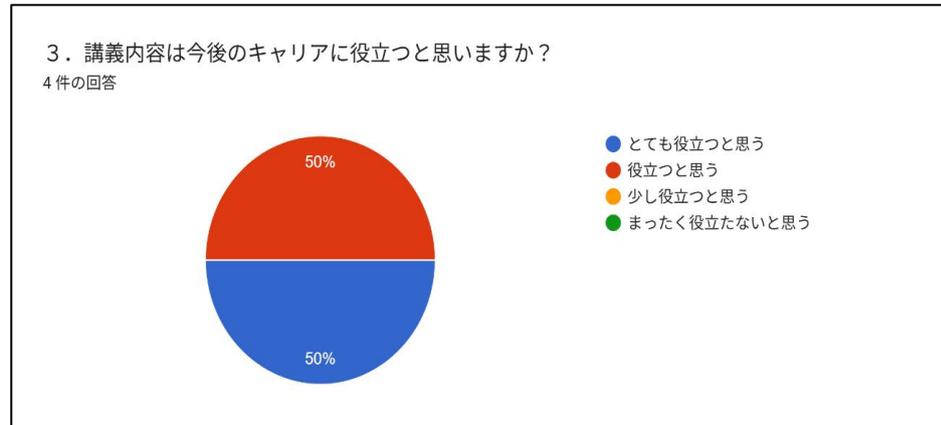
講座終了後のアンケート結果では、参加者全員が「とても理解できた」または「理解できた」と回答しており、講義内容が明確で分かりやすく構成されていたことが示されている。資料や動画による説明、さらに導入提案企画書の作成と発表を通じて、参加者が実践的な理解を深められる仕組みが効果的だったと考えられる。この結果は、AI 機器の導入についての知識が介護現場での実務に応用可能な形で伝わったことを示唆しており、学習プロセスの成功を裏付けている。

#### 2. 介護現場で活躍する AI 機器に対する知識は深まりましたか？

全参加者が「とても深まった」または「深まった」と回答しており、講座が介護現場における AI 機器の知識向上に寄与したことが明らかである。資料や動画を活用した学習に加え、具体的な導入提案企画書の作成・発表という実践的な取り組みが、知識の定着を促したと考えられる。また、現場での活用をイメージしながら学ぶことで、AI 機器のメリットや実用性への理解が深まったこ

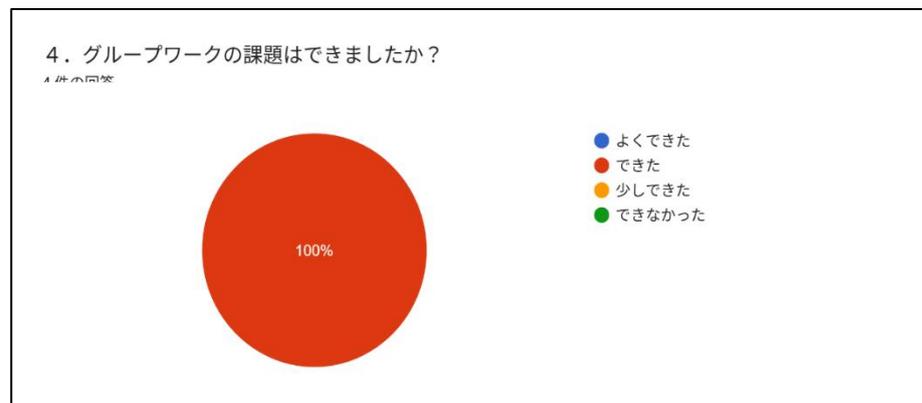
とがうかがえる。この結果は、講座の教育的効果が十分に発揮されたことを示している。

### 3. 講義内容は今後のキャリアに役立つと思いますか？



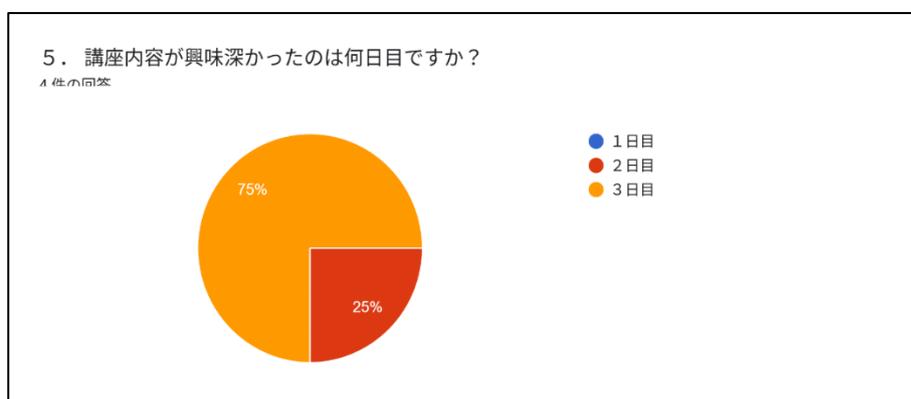
参加者全員が講義内容を「役立つと思う」または「とても役立つと思う」と評価しており、講座が今後のキャリアに有益であると感じられていることが分かる。資料や動画で得た AI 機器の知識に加え、導入提案企画書の作成と発表を通じて、実践的なスキルが身についたことが評価に繋がったと考えられる。また、自分の働く施設への具体的な応用を視野に入れた内容が、キャリア形成における実用性を高めたと言える。これらの結果は、講座の目標が達成されたことを示している。

### 4. グループワークの課題はできましたか？



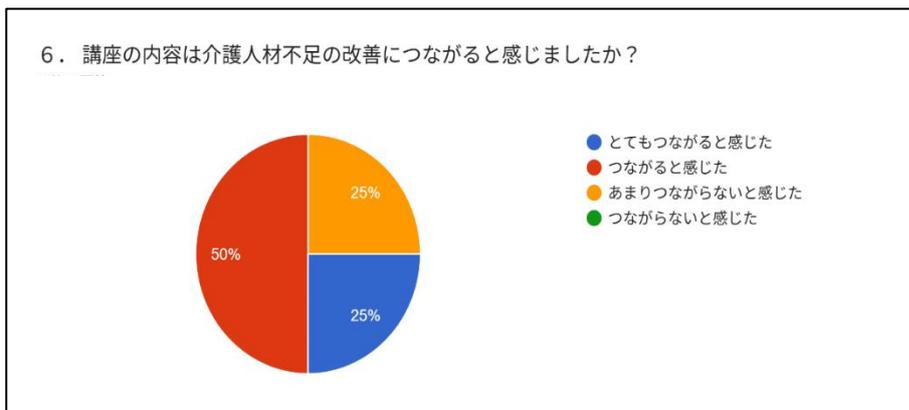
全参加者が「できた」と回答しており、講座内のグループワークが円滑に進行し、全員が課題を達成できたことを示している。この結果は、課題が適切に設計され、参加者が取り組みやすい環境が提供されたことを反映していると考えられる。また、グループでの協力を通じて、個人では得られない知識や視点の共有が行われた可能性が高い。課題達成は、参加者の満足度や学びの効果を高め、講座全体の成功に寄与したと評価できる。

### 5. 講座内容が興味深かったのは何日目ですか？



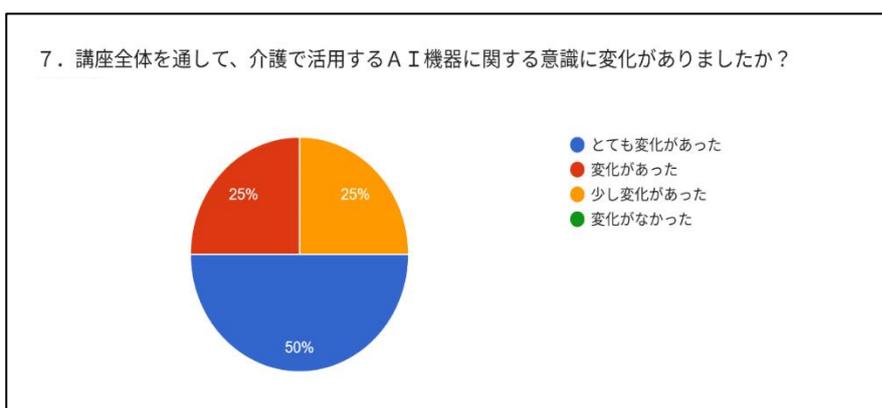
最終日の3日目が最も興味深いと評価されており（75%）、続いて2日目（25%）、1日目は評価が低かった（0%）。この傾向は、講座内容の進行に伴い、より実践的で具体的な活動が行われたことが要因と考えられる。特に3日目は、ChatGPTの活用や企画書の完成に至るブラッシュアップ作業、フォーマット作成など、実務に直結するスキルを学べる内容であり、参加者にとって高い関心を引いたと推測される。一方で、1日目の事務的な内容が中心で、実践性が低かった点が評価に影響した可能性がある。この結果は、学習者にとって実践性と関連性の高い内容が重要であることを示している。

## 6. 講座の内容は介護人材不足の改善につながると感じましたか？



参加者の75%が、講座内容が介護人材不足の改善に「つながると思った」または「とてもつながると思った」と評価している一方で、25%は「あまりつながらないと思った」と回答しており、受講者間で意見が分かれている。高評価の理由としては、AI機器の導入による業務効率化や介護者の負担軽減が現場で有効と感じられた可能性が考えられる。一方、低評価の背景には、AI機器の導入コストや現場での即時的な効果への疑念、があると推測される。この結果は、AI活用の可能性をさらに具体的に示すことや、現場の実情に即した支援策が求められていることを示している。

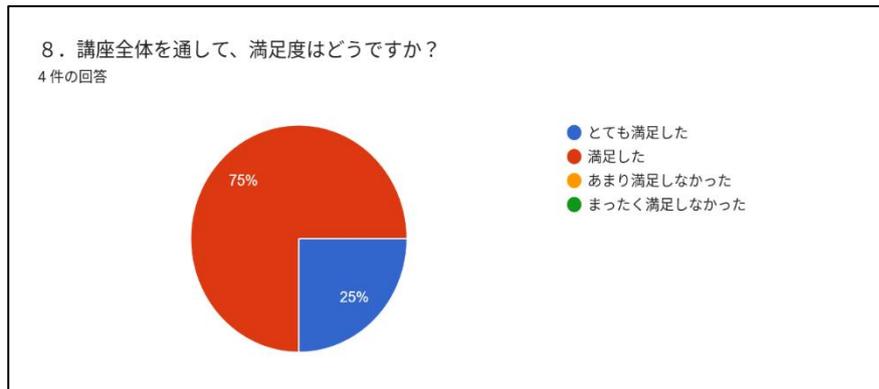
## 7. 講座全体を通して、介護で活用するAI機器に関する意識に変化がありましたか？



全参加者が講座を通じてAI機器に関する意識の変化を感じており、そのうち50%が「とても変化があった」、25%が「変化があった」、残りの25%が「少し変化があった」と回答している。この結果は、講座内容が参加者のAI機器に対する認識を効果的に変化

させる力を持っていたことを示している。特に、実際の課題に基づく提案企画書の作成や発表、AI 機器の具体的な活用例の提示が、意識変化を促した重要な要因と考えられる。一方で、「少し変化があった」と感じた参加者もいることから、さらなる具体性や現場適応性の高い内容が今後の課題として挙げられる。

### 8. 講座全体を通して、満足度はどうですか？



全参加者が講座に対して肯定的な評価を示し、25%が「とても満足した」、75%が「満足した」と回答している。これにより、講座全体が一定以上の満足度を提供できたことが分かる。特に、AI 機器の知識提供や実践的なスキル向上、企画書作成といった講座の構成が、参加者の期待に応えたと考えられる。一方で、「とても満足した」が25%にとどまっている点は、さらなる工夫の余地を示唆している。例えば、個別ニーズへの対応や、講座内容の深掘りが満足度向上のカギとなる可能性がある。

### 9. 講座について感想やご意見などを自由にご記入ください。

- ・今まで、知らなかった分野の事を知ることで、今後の仕事に活かしていきたいと思います
- ・チャット GTP などの使い方など知れて良かったです。
- ・はじめて AI を使用しました。驚きました。

### 10. 介護用 AI 機器について意見・質問があれば自由に記入ください。

- ・実際に手に取って触れてみたいと思いました。他の講習などにも興味が湧きました
- ・色々な機器がある事を知れた事。

#### ■ 総評

3日間にわたる実証講座で、介護現場のスタッフ、管理者それぞれが施設、事業所における課題を抽出した。内訳としては、利用者、スタッフ間のコミュニケーションが円滑に進まず、双方の意図が十分に伝わらない点があげられた。特に、主力となりつつある外国人スタッフとのコミュニケーションの難しさがあげられた。

今回の実証講座ではコミュニケーションロボットの調査、選定と企画書作成、発表といった形で進められた。実際の利用者、サービスを提供する場面等を想定しながら、必要なデジタル機器として、「ポケットーク ポケットーク（株）」、「パルロ 富士ソフト（株）」、「ミクサス KDDI、日本総研」を選定した。この中でも「ポケットーク」が最適と判断され、詳細な情報調査（事例を含む）を経て企画書の作成をした。

外国人スタッフや利用者との意思疎通がスムーズにおこなえる点、さらにスタッフと利用者間で表現が伝わりにくい場面の解消手段として、「ポケットーク」が選定された。

介護ロボットや ICT といったデジタル機器の導入状況は、統計上 20%程度に留まっており、決して高い水準とは言えない。また、「見守り支援機器」や、「タブレット、スマホ、ノート PC」における環境整備にかたよりが生じているようにも見受けられる。

現場でのデジタル機器の普及率が低い要因として、「価格の高さ」や導入による「費用対効果が不明確」といった理由に加え、「機器自体についてよく知らない」といった声が多く挙げられる。

今回の実証講座においては、当該施設が運営において特に重視している内容が反映されている。特に対人援助支援の分野で、コ

コミュニケーションを活発化し、意思疎通を円滑にすることで、利用者の満足度向上だけでなく、介護者のモチベーション向上や働きやすい環境づくりを目指している。そのためのデジタル機器の調査、選定、導入に向けた企画書作成という講座の目的を十分に達成したと思われる。

福祉業界全体の課題（人材確保や育成、定着の難しさ）についてもスタッフ間で議論を行った。今後、課題解決へのため新たなデジタル機器の調査や選定も必要になるとと思われる。

② 実証講座 こころのしろ	
実施日時	令和6年11月1日(金) 17:30~19:30 令和6年12月11日(水) 17:30~19:00 令和7年1月7日(火) 15:30~17:00 令和7年1月8日(水) ~2月10日(金) (eラーニング) 令和7年2月14日(金) 17:00~18:30
実施施設	社会福祉法人 壱心会 介護付有料老人ホームこころのしろ
参加人数	6名
講師氏名	得永真人(公益社団法人かながわ福祉サービス振興会)
使用教材	介護現場における実際について(介護DXを推進する) AI導入スキルPBL実証講座
実施スケジュール	<p>第1回集合講座 11月1日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】事業趣旨に関する説明(10分)</li> <li>【2】PBL概要について説明(5分)</li> <li>【3】AI先端機器の事例集を見て個別演習(20分)</li> <li>【4】施設内での課題選出と解決策(65分)</li> <li>【5】講師の講評(10分)</li> <li>【6】次回スケジュールの確認(5分)</li> <li>【7】講座アンケート(5分)</li> </ul> <p>第2回集合講座 12月11日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】施設内での課題選出と解決策確認(20分)</li> <li>【2】PBLシステムについて説明(20分)</li> <li>【3】施設内での課題への解決策と選択理由(20分)</li> <li>【4】課題への機器選定(20分)</li> <li>【5】次回スケジュールの確認(10分)</li> </ul> <p>第3回集合講座 1月7日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】PBLシステムでの課題と解決策と選定理由確認(30分)</li> <li>【2】PBLシステムの企画項目について説明(20分)</li> <li>【3】課題への解決策と選択理由の再入力(20分)</li> <li>【4】企画書デザイン選定方法について説明(10分)</li> <li>【5】次回スケジュールの確認(10分)</li> </ul> <p>オンライン講座 1月8日(水)~2月10日(月)</p> <p>PBL型eラーニングシステムによる実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】企画項目入力</li> <li>【2】課題への解決策と選択理由の入力</li> <li>【3】企画書デザイン選定</li> </ul>

### 実証講座の様子



### 実証講座の評価

本実証講座の実施後、受講者に対して講座の感想と学習内容への理解に関してアンケートを行った。

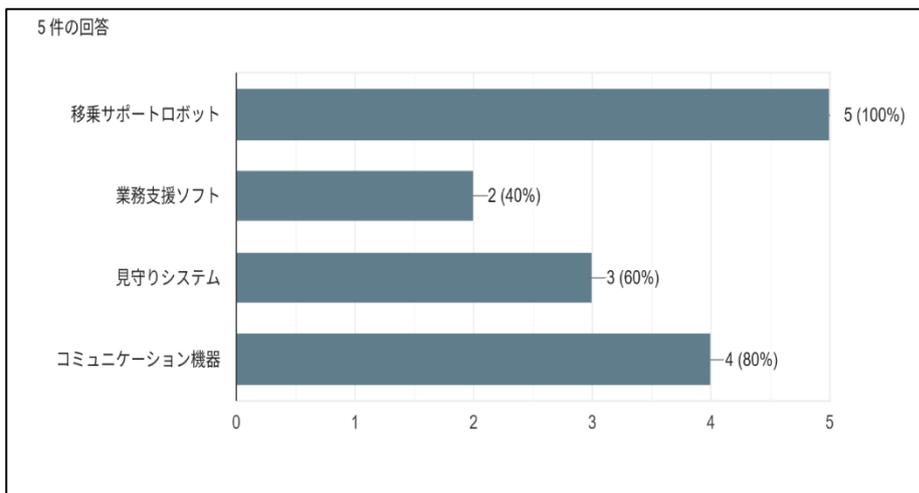
#### 【第1回集合講座 11/1 実施アンケート】

1. 本日の講座内容で関心を持ったことがあれば自由にお書きください。

課題が分かりやすく可視化できた。

言語翻訳ツール
介護機器の種類が多い
チームでの課題を整理する経験をできたのは良かったです。課題解決に向けて、チームで対応していくことで、職員の良い経験になればと思っています。この経験を普段の施設運営に活かしていけるように取り組みたいと思います。
chatGPT の利便性に驚いた

2. 介護支援に役立つと思われる介護機器の分野をすべて選択してください。



アンケート結果では、移乗サポートロボットを全員が選択し、特に高い評価を受けていることが分かる。これは、移乗作業が介護現場での身体的負担の大きな要因であり、その解決策として期待されているためと考えられる。一方で、業務支援ソフト（40%）や見守りシステム（60%）は比較的评价が低く、これらの有用性が十分に伝わらなかった可能性がある。コミュニケーション機器（80%）の高評価は、利用者との意思疎通や孤立防止の重要性を反映している。これらの結果から、各機器の実用性や導入効果を具体的に示す説明が、さらなる理解促進に必要と考えられる。

## ■ eラーニングシステムによるオンライン講座実施

本講座では、PBL 学習用に特化して新規開発した eラーニングシステムを活用し、受講者が場所や時間にとらわれずに学習を進められるようにした。システム上で設定されたフォーム機能を段階的に活用することで、企画書案に必要な項目を入力し、デザインを選択するだけで企画書を完成させることができる仕組みとした。また、管理者だけでなく、受講者同士も必要に応じてコミュニケーションを取れる設計とした。働きながら学ぶ人々に対して柔軟な学習環境を提供し、実務に役立つ知識やスキルの習得を支援する機能を備えた。

### eラーニングシステム

#### メニュー画面

令和6年度  
専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業  
**AI導入スキル**

**個人学習用 eラーニング教材**

第1章 外国籍介護現場の基礎理解

第2章 AI技術と多国籍共生介護環境  
への適応

第3章 多国籍共生介護環境における  
リスク管理

第4章 多国籍共生介護を支援する  
AIとコミュニケーション戦略

第5章 現場適応型AI導入モデルの構築

**グループ学習用 PBL教材**

課題の解決

事例の選定

課題の把握

企画書項目

企画書作成

ログアウト

学校法人 **長良学園**

## 課題の解決画面

## 企画書項目選定画面

### 学校法人 長良学園

グループ学習用 P B L 教材

#### 課題の解決

##### 課題①

【介護の課題】  
業務負担:レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。

##### 課題①の解決策 (機器選定)

##### 課題②

【介護の課題】 清掃管理:清掃の流れ (どこまで完了しているか) が不明。

##### 課題②の解決策 (機器選定)

##### 課題③

【コミュニケーションとサポート】  
利用者との対話:一人一人の利用者との対話の時間確保が難しい。  
不穏対応:不穏対応に時間が取られ、他の業務に支障がある。

##### 課題③の解決策 (機器選定)

音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャビット)を導入して、次のような点を改善する。  
Chapitに対応してもらい、その間に不穏者の対応を行う時間を作る。  
・不穏者も気がまぎれる可能性がある。  
・不穏になりにくいようにサポートをしてもらう。  
チャビットを上手く活用することで、業務時間の確保が可能となり、入居者との対話時間、清掃、レク等に当てる時間を今よりも増やすことができる。

##### 課題④

【その他の課題】  
指導の難しさ:外国人への指導が大変。

##### 課題④の解決策 (機器選定)

戻る

### 学校法人 長良学園

グループ学習用 P B L 教材

#### 企画書項目

##### 項目①

名称

音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャビット)の導入について

##### 項目②

目的

介護付き有料老人ホームこころのしろで抱えている課題を音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』を導入することで少しでも解決する。

##### 項目③

現状の課題

①不穏者の対応は長時間必要となることが多く、他の業務の時間がなくなってしまう等、他の業務に支障が出ることもある。また、1人ひとりの入居者とゆっくりと対話する時間を今よりも確保したい。  
②レクリエーションの内容を毎日考えるのが大変である。  
③清掃業務管理、実施に時間を取られてしまう。

##### 項目④

購入機器の詳細

- 1 製造元:株式会社レイトロン
- 2 製品名:音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャビット)
- 3 製品概要  
発話された音声を音声認識専用LSIによって認識し、認識結果に応じて所望の音声を再生すると共に、赤外線信号で制御可能な家電製品をコントロールすることができる。
  - ・音声認識専用LSI搭載  
雑音に強く高認識率の音声認識エンジンを搭載しており、営業者の発話でも音声聞き取り可。
  - ・WiFi接続不要の簡単設定  
インターネットに接続する必要がなく、初期設定や月々のランニングコストが不要。
  - ・完全ハンズフリーの音声認識  
音声を認識する際にウエイクアップワードの必要がなく、高齢者でも簡単に音声認識可。
  - ・タイムサポート機能  
薬の時間や食事の時間、イベントの設定が可。ロボットより日々のスケジュールの通知があり、介護者の負担を軽減につながる。

<b>③ 実証講座 福寿荘</b>	
実施日時	令和6年12月17日(火) 15:00~16:00 12月27日(金) 15:00~16:00 1月6日~2月17日 eラーニングシステム随時
実施施設	社会福祉法人 華頂会 介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 福寿荘
参加人数	5名
講師氏名	得永真人(公益社団法人かながわ福祉サービス振興会)
使用教材	「多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業(介護現場で使用するAI先端機器(入浴支援機器))」教材
実施スケジュール	<p>第1回集合講座 12月17日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】事業趣旨、PBLに関する説明(10分)</li> <li>【2】AI先端機器の事例集を見て個別演習(20分)</li> <li>【3】グループで課題を施設内における抽出し整理(25分)</li> <li>【4】講師講評と講座アンケート(5分)</li> </ul> <p>第2回集合講座 12月27日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】施設内での課題選出と解決策再確認(20分)</li> <li>【2】PBLシステムについて説明(20分)</li> <li>【3】施設内での課題への解決策と選択理由(10分)</li> <li>【4】次回スケジュールの確認(10分)</li> </ul> <p>オンライン講座 1月6日(月)~2月17日(月)</p> <p>PBL型eラーニングシステムによる実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【1】企画項目入力</li> <li>【2】課題への解決策と選択理由の入力</li> <li>【3】企画書デザイン選定</li> </ul>

## 実証講座の様子



## オンライン会議による講座の様子

導入候補サービス ①

コミュニケーションロボット①

「PALRO(パルロ)」：富士ソフト株式会社

PALRO(パルロ)は、「PALRO パルロ」は会話とコミュニケーション力が特徴の介護コミュニケーションロボット(介護予防支援ロボット)として、介護サービスを提供する様々な場面で活用ができる。

利用者とのコミュニケーションの他にも歌、ダンス、体操、ゲームと多種多様な機能が満載されており、介護コミュニケーションロボットの最先端で職員様の一員として今、介護の現場で活躍の幅を増やしている。

多聞福祉生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 実証講座の評価

本実証講座の実施後、受講者に対して講座の感想と学習内容への理解に関してアンケートを行った。

【第1回集合講座 12/17 実施後アンケート】

1. 本日の講座内容で関心を持ったこと自由にお書きください。

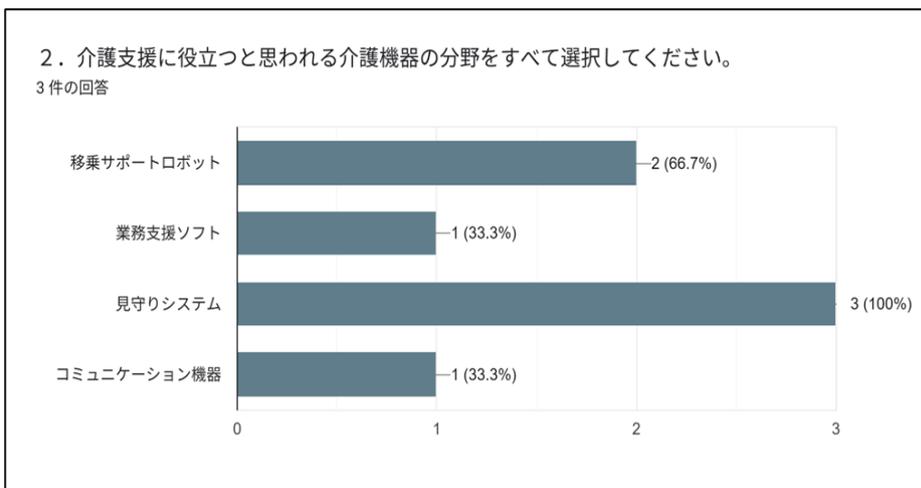
問題課題に対して IT 導入で解決する考え方。どうしても人員等マンパワーでの解決を念頭においていた。

介護 AI 先端技術事例集を見てもたくさんのものであると感じた。

課題の抽出、整理の方法に効率を感じた

チャット AI の分析活用の仕方

2. 介護支援に役立つと思われる介護機器を選択してください。



見守りシステムが100%の支持を集め、介護現場での安全確保や負担軽減に対する高い期待が示されている。一方で、移乗サポートロボットは 66.7%の評価にとどまり、実用性や導入効果への認識が参加者間で分かれた可能性がある。業務支援ソフトとコミュニケーション機器はいずれも 33.3%と低評価で、これらの具体的な利便性や介護支援への直接的な貢献が十分に伝わっていないことがうかがえる。この結果から、各機器の効果を具体例や実績を通じて示すことで、理解と評価を高める必要があると考えられる。

eラーニングシステムによる実施状況

課題の解決画面

**学校法人 長良学園**

グループ学習用 P B L 教材

**課題の解決**

**課題①**

【コミュニケーション・職員間の協力】  
職員間のコミュニケーション不足があり業務負担が偏っている。担当・委員会が機能していない。

**課題①の解決策（機器選定）**

【課題の要因】  
①コロナ禍の影響もあるが、会議や研修（Zoomやeラーニング）、飲み会等、仕事内外で職員が集まる機会が少なくなった。  
②コミュニケーションや連携の必要性（会議の必要性）を感じている職員が少ない。  
③業務が多忙。

**課題②**

【業務・管理体制】  
マニュアルの整備不良や時間外勤務の多さ、環境整備や取り扱いに対する意識の差がある。センサーの反応不足や気づきの遅れもある。

**課題②の解決策（機器選定）**

【課題の要因】  
①介護未経験者が増え、介護の価値観や倫理観が低下している。  
②管理職や指導職も業務が多忙になり、管理業務ができていない。

【解決策】  
酒井医療入浴機器アラエルを導入することで、入居者ひとりあたり3分入浴時間を短縮することができ、1日、20人程入浴されるので60分時間を短縮することができる。入浴時間が60分短縮されることで、業務全体に余裕ができ、リーダー職員にも時間的余裕ができる。その為、②の課題解決にあてる時間をもてる。

**課題③**

【人手・教育・資質】  
人手が不足していて教育・資質が伴わず業務への偏りがある。外国人職員への指導不足などにより利用者との関わりが少ない。

**課題③の解決策（機器選定）**

【課題の要因】  
①人材不足。  
②管理職や指導職も業務が多忙になり、管理業務や教育指導ができていない。  
③外国人職員に、細かい指導ができていない（言葉の壁や日本人より伝える時間がかかり、時間がない）。

**課題④**

【施設・設備環境】  
車いすの種類やセンサーの不足、中間浴槽の老朽化、縦長の構造による見守りの難しさなど、ハード面（縦長構造）の改善が必要。  
取捨場所や片づける場所、食事場所が不足している。さらに汚れやほこりの多さなど、生活環境の整備が必要。

**課題④の解決策（機器選定）**

【課題の要因】  
①既存の建物が、利用者のニーズ（重度化、高齢化）に即していない。  
②物品購入、修繕コストが高い。  
③職員のリスクマネジメント力も低下している。

企画項目選定画面

**学校法人 長良学園**

グループ学習用 P B L 教材

**企画書項目**

**項目①**

現状の分析

・福寿荘は、50年前から事業を開始している従来型特別養護老人ホーム。  
・平成27年より、要介護1～5の対象者が、要介護3～5と変更になり、ご利用者のニーズも重度化、高齢化しているが福寿荘の建物の構造は変わっていない。  
・少子高齢化社会となり介護人材も不足。  
・職員は、日々の業務が忙しく余裕がない。

**項目②**

課題

管理職や指導職の業務が多忙になり、時間外勤務が多い。また、管理業務や教育が不十分である。

**項目③**

導入機器

機器：酒井医療アラエル  
時期：令和7年6月から  
予算：7000,000円/台  
台数：1台  
商品情報：  
自動洗浄機能や温度管理、省スペース設計に優れ、ウルトラフラインパブルが汚れをしっかりと落とします。また、介助者の負担を軽減する設計が施されています

**項目④**

機器導入目的

入浴機器を導入することで、介護者負担の軽減及び入浴時間の短縮。  
管理職や指導職の時間外勤務の減少。

**項目⑤**

機器導入効果

効果①入浴時間の短縮  
【導入前】利用者1名の入浴時間：15分  
【導入後】利用者1名の入浴時間：12分  
1日平均20名の入浴で1人3分時間短縮、1日計60分の時間の確保  
効果②時間外勤務の短縮及びマニュアル整備と研修時間の確保  
・管理職や指導職の残業時間を一人当たり1日30分短縮  
・施設内マニュアルの整備や研修時間の確保。

受講者数

のべ15人

<b>実証講座 の対象者</b>	<b>【STEP2】</b> 介護現場の経営者およびマネージャー															
<b>期 間</b>	令和7年2月18日（火）17:30～19:00 オンライン講座で実施															
<b>実施手法</b>	<p>開発したPBL②教材を活用し、介護現場の経営者やマネージャーが、PBL①で作成した企画書をもとに、リカレント教育プログラムの全体体系からSTEP2講座に向けた教育要素を抽出・再構成し、プログラムの一部を運営した。</p> <p>実施内容は、受講者が多国籍共生介護現場における介護マネジメントへのAIツールの導入検討を題材とした企画書を持ち寄り、自身の導入計画を発表し、相互にフィードバックを受けた。</p> <p>PBL②教材の活用により、働きながら学ぶ人々が実務に即した知識を習得しやすい環境を提供し、企画書再考やより実践的な問題解決能力の向上を支援することができた。</p>															
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"><b>STEP2</b></td> </tr> <tr> <td style="width: 30%;">実施日時</td> <td>令和7年2月18日（火）17:30～19:00</td> </tr> <tr> <td>実施場所</td> <td>オンライン講座</td> </tr> <tr> <td>参加施設</td> <td>3施設</td> </tr> <tr> <td>講師氏名</td> <td>得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）</td> </tr> <tr> <td>使用教材</td> <td>PBL教材 STEP2</td> </tr> <tr> <td>実施スケジュール</td> <td>           オンライン講座 2月18日（火）  <b>【1】</b> 挨拶（斎藤理事長）（5分）  <b>【2】</b> 自己紹介・施設紹介（10分）  <b>【3】</b> AIを含む先端機器活用事例（得永講師）（10分）  <b>【4】</b> 企画案発表（30分）                    相互評価・気付きについての記録  <b>【5】</b> 参加者ディスカッション（10分）  <b>【6】</b> 講師講評（5分）         </td> </tr> </table>		<b>STEP2</b>		実施日時	令和7年2月18日（火）17:30～19:00	実施場所	オンライン講座	参加施設	3施設	講師氏名	得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）	使用教材	PBL教材 STEP2	実施スケジュール	オンライン講座 2月18日（火） <b>【1】</b> 挨拶（斎藤理事長）（5分） <b>【2】</b> 自己紹介・施設紹介（10分） <b>【3】</b> AIを含む先端機器活用事例（得永講師）（10分） <b>【4】</b> 企画案発表（30分） 相互評価・気付きについての記録 <b>【5】</b> 参加者ディスカッション（10分） <b>【6】</b> 講師講評（5分）
<b>STEP2</b>																
実施日時	令和7年2月18日（火）17:30～19:00															
実施場所	オンライン講座															
参加施設	3施設															
講師氏名	得永真人（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）															
使用教材	PBL教材 STEP2															
実施スケジュール	オンライン講座 2月18日（火） <b>【1】</b> 挨拶（斎藤理事長）（5分） <b>【2】</b> 自己紹介・施設紹介（10分） <b>【3】</b> AIを含む先端機器活用事例（得永講師）（10分） <b>【4】</b> 企画案発表（30分） 相互評価・気付きについての記録 <b>【5】</b> 参加者ディスカッション（10分） <b>【6】</b> 講師講評（5分）															

【7】 講座アンケート（5分）

本講座では、オンライン環境を活用し、介護現場の経営者およびマネージャー3名が参加し、学習を進める形式で実施された。PBL教材STEP2を使用し、参加3施設の受講者が、企画案の発表や相互評価、ディスカッションを通じて実務に役立つ知識やスキルを習得することができた。

講座は令和7年2月18日（火）17:30～19:00の時間帯にオンラインで開催された。

この講座では、受講者がSTEP1で開発したeラーニングシステム上で作成した企画書を発表することで実施した。発表後の意見交換や相互評価を通じた学習効果により企画力の向上が見られた。加えて、講師によるAIを含む先端機器活用事例の紹介により、受講者は最新の技術を活用した企画立案の手法も学ぶ機会を得た。

AIを含む先端機器活用事例

(課題解決に向けて) AI機器の活用事例①

**【課題】**  
①(経験やスキルのある)スタッフの確保が出来ず、サービス提供が難しい。  
②(施設内における)新型コロナウイルス感染、インフルエンザ等がまん延することで、サービス提供スタッフの数が限られたり、立ち入りが出来ないエリアが出来ることもある。

**【状況】**  
①スタッフの確保が望ましい。求人は出しているが、応募が少ない。  
②感染症に罹患したスタッフの代わりに働いてくれるロボットはないか？

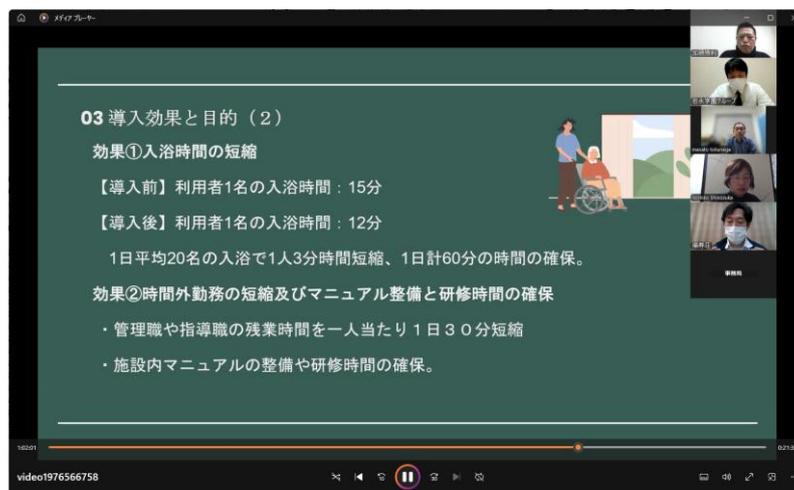
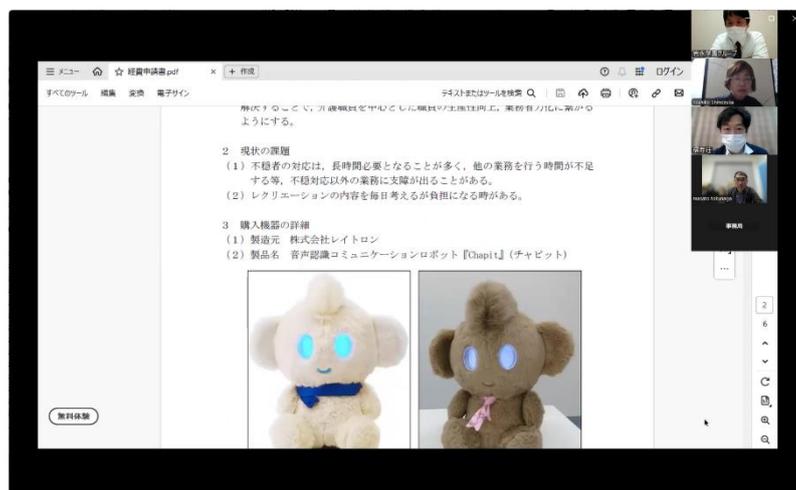
**【機器の選定と活用事例】**  
①スタッフの代わりに日常生活のサービスを提供するAI機器はないか。  
②コロナウイルスや感染症などに罹患した利用者の居室への訪室が可能な機器はないか。

⇒「アイオロス・ロボット」  
働きとしては、荷物を載せるだけで、目的地まで運んでくれて、スタッフの負担軽減を図ることが出来る。リネン類の配布やオムツ等消耗品の補充なども行うことが出来る。

<https://www.marubun.co.jp/products/3019/>      ヒューマン支援ロボット「アイオロス・ロボット」



## 企画案 完成の一例（抜粋）



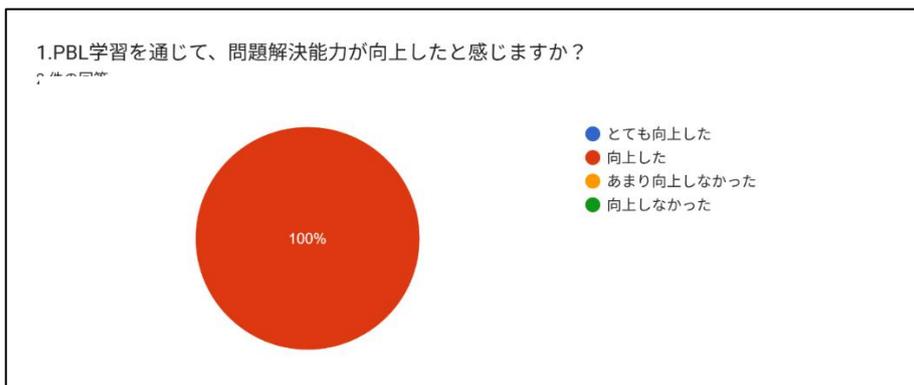
本講座では、PBL教材STEP2を活用し、参加者が実践的な学びを深めることができた。特に、企画案の発表と相互評価により参加者の企画力が向上した点が評価できる。

講師によるAIを含む先端機器活用事例の紹介も、受講者にとって有益な学びとなり、最新技術を取り入れた企画立案の視点を養う機会となった。特に、企画案3事例は3者3様でありながら、どれも優れており、すべて有用と評価された点が印象的であった。

全体として、受講者が積極的に参加したことで実践的な学習効果が見られ、今後の業務改善に向けた良い機会であったことがうかがえる。

【オンライン講座 2/18 実施後アンケート】(抜粋)

### 1. PBL学習で問題解決能力が向上したか？

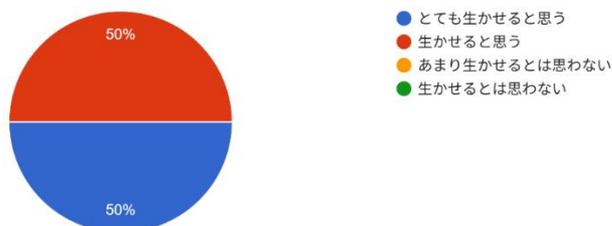


参加者全員が問題解決能力を向上させたと回答した。企画案の発表と相互評価を通じ、広く意見を取り入れることで自らの提案を再確認する機会を得たことが重要な点である。実務に即した学習環境により、現場で検討する課題への対応力が強化されたとがわかる。

### 3. 今回の PBL 教材は施設管理者としてのキャリアに活かせるか？

3. 今回使用した教材は、施設管理者として今後のキャリアに活かせると思いますか？

2 件の回答

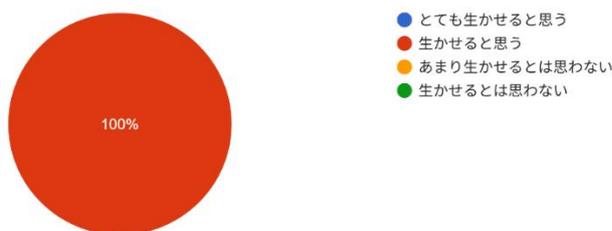


参加者全員が「活かせる」と回答した。相互評価を通じ、受講者が実践的な課題解決力を養い、施設における意思決定力やマネジメントスキルの向上を実現したと考えられる。実践型学習の継続が、より効果的なキャリア形成につながると期待される。

### 4. 施設間での意見交換は今後のキャリアに活かせるか？

4. 施設間での意見交換は、今後のキャリアに活かせると思いますか？

2 件の回答

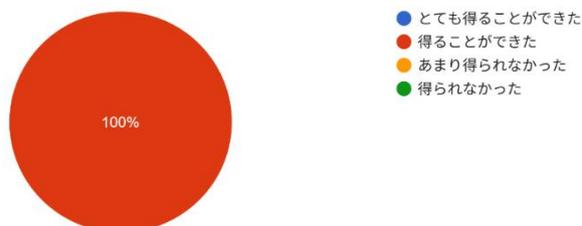


参加者全員が「活かせる」と回答した。施設の管理者同士が意見を出し合うことで、新たな視点や実務の知見を得る機会となったことを示している。他施設の課題やその解決方法を共有することで、自施設の運営改善に向けて検討されることが考えられる。

## 6. 多国籍共生介護における課題や解決策に新たな視点をもたらしたか？

6. 多国籍共生介護における課題や解決策について、新たな視点を得られましたか？

2件の回答



参加者全員が「視点を得られた」と回答した。PBL 学習段階から多国籍共生介護現場における課題を多様な視点で捉え、実務に応用できる解決策を検討する機会となったことを示している。特に、他の参加者の意見や異なる施設の事例を共有することで、新たなアプローチや発想が生まれたと考えられる。

### 【2/18 企画案発表時の相互評価】

相互評価の結果



	<p>相互評価による全体的傾向は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実現可能性と総合評価が安定している <p>すべての施設が実現可能性 4、総合評価 4 という安定した評価を受けており、各企画案の実現性が高く、全体としてバランスの取れた提案が行われていることがわかる。</p> </li> <li>2. ニーズの適合性が高い <p>「ニーズの適合性」はすべて 4 以上となっており、各施設の特性や課題に適した企画案が提案されたことが評価できる。特に 2 施設が 5 を獲得しており、現場に即した内容であったと考えられる。</p> </li> <li>3. コストと効果の評価にばらつきがある <p>「コストと効果」の評価は 2～4 の幅があった。一部の企画案はコスト面での課題を指摘された。導入予定機器が高額であった企画書では 2 という最も低い評価がついており、費用対効果の見直しが求められる点が課題となる。</p> </li> <li>4. プレゼンテーションの評価が分かれる <p>「プレゼンテーション」の評価は 3～5 で、全体としては高い評価だが、より効果的なプレゼンテーション手法の強化が求められる。</p> </li> <li>5. 改善の余地がある企画も見られる <p>「改善の余地」については、多くの企画案で 3～4 の評価がついており、一定の改善の余地があることが示唆されている。</p> </li> </ol> <p>総括</p> <p>各企画案は実現可能性が高く、施設のニーズにも適合しているとなった。しかしながら、コスト面やプレゼンテーションの改善が求められる企画案もあった。</p>
受講者数	3人



#### 4. 卷末 参考資料



教材 PBL教材 S T E P 1 (入浴器編)  
PBL教材 S T E P 1 (コミュニケーションロボット編)  
PBL教材 S T E P 2  
PBL教材 S T E P 3

# 多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業



介護現場で使用するAI先端機器



## PBL教材① STEP1

Step 1

### 事例把握

- (1) 状況説明
- (2) 事例把握シート作成

Step 5

Step 2

Step 4

Step 3

# Step 1

## 事例把握

(1) 状況説明

(2) 事例把握シート作成

PBL教材（回答編）



### Step 1 事例把握 (1)状況説明

作業手順の  
設計

目的・背景の  
設定

現在の状況  
設定

現在抱えている  
課題の抽出

#### (1) 状況説明

- ・ 事例から福祉現場における課題を直視する。
- ・ 課題解決の為の作業や手法について検討する。
- ・ その目的と背景についても理解する。
- ・ 設定された状況から課題を抽出する。

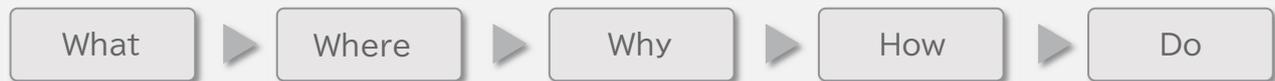
#### (2)事例把握シート作成

課題解決の為のツールとして  
AI機器を検討しており、  
導入及び活用事例について把握する。

## 作業手順

舞台、状況を踏まえた上で、施設の課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の設定	現在起きている現象(特に良くない)及び将来にわたり起こりうるもの
原因分析	何が原因で課題が発生しているのか、現状と理想(あるべき姿)のギャップを分析する。
解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 目的・背景の設定

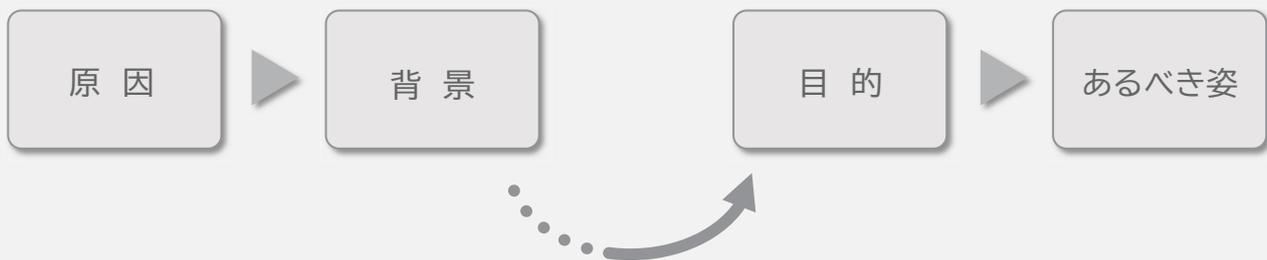
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉現場にて従事するスタッフの負担軽減</li> <li>・利用者への質の高いサービスの維持・向上を図る。</li> </ul>
背景	<p>昨今の福祉現場においては、少子高齢化社会、就業人口減少といった状況の影響を強く受け、サービスを提供するスタッフに限りがあるばかりでなく、今後はスタッフそのものの高齢化などの問題も予見される。</p> <p>現場にて従事するスタッフへの負担軽減、利用者への質の高いサービスの維持・向上を図るうえで、ロボットやICTといったデジタル機器の導入・活用が求められる。一方で、受け入れ側においても、抵抗なく、無理なく、無駄なく導入や活用が出来るかといった点が課題になっており、事業所、施設、法人全体で取り組む問題として捉える必要がある。</p> <p>今回は、施設における様々な先端機器によるスタッフの負担軽減と利用者の満足度の向上、スタッフ、利用者への「安心・安全」を提供するといったことを念頭に、さらなるサービスの質向上を図る為、「入浴支援機器」の導入・活用を検討している。</p>

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 目的・背景の設定

グループで情報共有と理解をはかるため、スタッフ個人が抱えている課題を抽出し、話し合い納得して介護ロボットを活用する環境を生み出す方策を探るにはどうしたら良いか。

職員の現状を把握して、状況把握シートを作成し、管理者がまとめて発表する。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 状況設定

この状況設定による演習へ



舞台	社会福祉法人(滋賀県) 特別養護老人ホーム(1人部屋5室、2人部屋7室、4人部屋29室 定員135名)のほか、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護を併設
目的背景	利用者へ提供するサービスの質を上げるべく、全スタッフでアイデアを出し合い、懸命に取り組んでいるものの、サービスを提供する上での課題(特に入浴介助における負担増)がある。スタッフの経験値や体力なども影響する為、質の高いサービスを維持・向上させる為に、「入浴支援機器」を活用したいと考えている。
状況(1)	施設においてスタッフが利用者へサービスを提供するにあたって、身体的・心理的負担が生じており、負担を軽減し、利用者の満足度を向上させる為に介護ロボットの導入を検討している。特に負担が大きいとされる入浴時における支援機器の導入を行いたく導入候補となる機器の調査、選定を行い、企画提案を図りたい。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

状況設定

レクリエーションとは？



状況(2)

管理者のあなたは、入浴支援に活用できるデジタル機器の導入を検討している。  
 これまで施設ではロボットを導入したことがない為、まずは導入を検討する機器の調査(実際に活用している事例をインターネット等で調べてグループディスカッションを行う)を予定している。

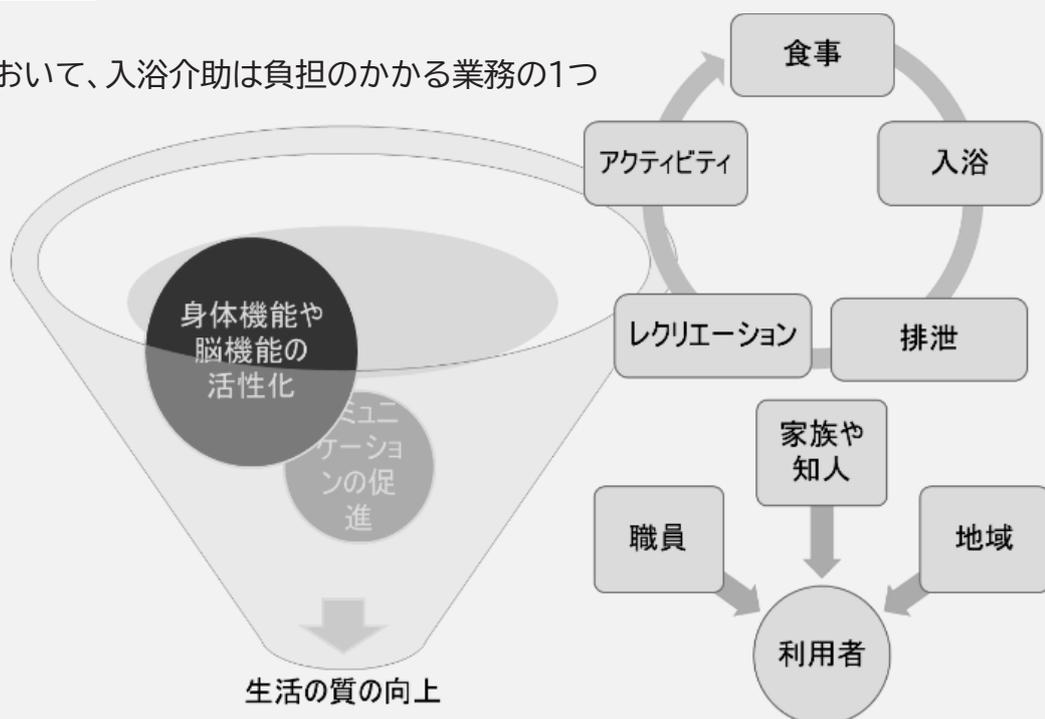


【出典】メーカーHPほか(左から酒井医療(株)「アラエル」、(株)アマノ「ヌクティ」、(株)金星「ピュアット」)

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

状況設定

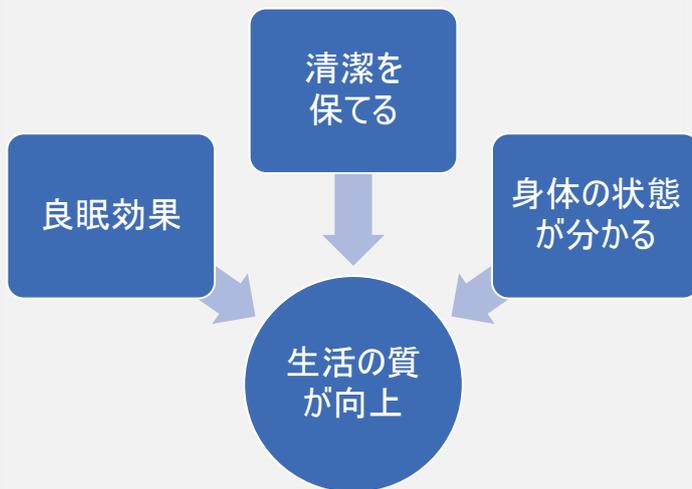
介護施設において、入浴介助は負担のかかる業務の1つ



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 状況設定

介護施設において、入浴介助は負担のかかる業務の1つ

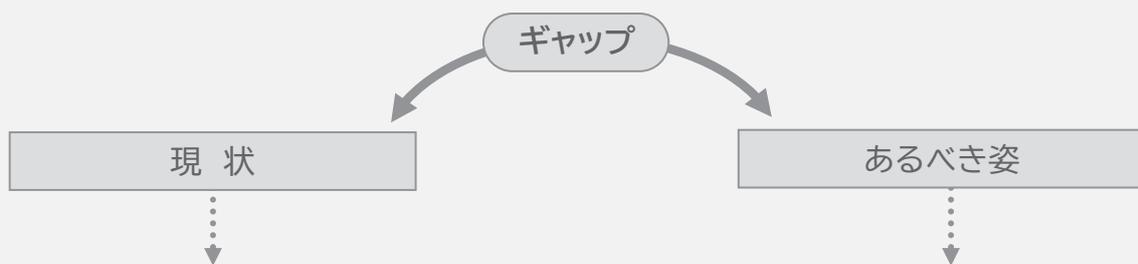


多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 課題抽出

福祉現場における課題と解決に向けて

1. 計画を実行する(入浴介助の活性化・充実やスタッフの負担軽減など)
2. 結果を振り返り、事業所へフィードバックする



入浴介助を担当するスタッフの経験や能力によって、サービスの内容に違いが生じている。利用者に対して安心・安全なサービスの提供が十分とは言えず、スタッフへの負担(身体的・精神的)も大きい。

利用者の安心・安全の確保と、スタッフに対しても負担軽減を図り、これまで課題となっていた腰痛等の理由での休職や離職をなくしたい。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 課題抽出

入浴介助は、体を清潔に保つことと同時に、血行をよくし、疾患を悪化させないといった効果がある。一方で温度・湿度の高い中での身体的負担、安全面への心理的負担があり、負荷がかかるサービスの1つと言える。



【出典】左)ポストセブン 右)京都新聞



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 目的・背景

- ・今回取り上げられた“施設”の「課題」は何か？ ⇒ 入浴介助の場面？
- ・課題解決に向けてどういった対応や取り組みが考えられるか。⇒ 新たな取り組み？
- ・この場面において必要と思われるAI機器はどういったものがあるか。選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か。⇒ 使用方法の理解や使用する人の選定？

以下の①②③(Step1～4)については振り返りの時期を設定する。

- ①目標設定(AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか)
- ②情報収集(導入予定のAIの活用事例等をリサーチ)
- ③導入計画(いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定)
- ④※導入
- ⑤※運用
- ⑥※導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う(いつ頃？)

(※については次の段階において議論を予定)



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ①

「アラエル」：酒井医療株式会社

アラエルは、絶妙な位置に配置されたシャワーノズルで、全身くまなく洗うことが出来、洗いたいところ、洗うべきところにあたる位置や角度を導き出している。身体の隅々までしっかりと洗える為、費やす時間や労力を大幅にカット出来、介助する側の負担軽減につながる。長さ1750mm×幅1130mmというコンパクトなシャワードーム。中の空間は広々としていて、まるでミニバンのような設計となっている。小さな浴室でもゆったり快適に使うことが出来る。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ②

「ヌクティ」：株式会社アマノ



『ヌクティ A99A/A99AS』は、入浴する方の身体状況にあわせて入浴スタイルを選べる座位入浴装置であり、2m×2mの省スペース浴室に設置可能である。1台で3パターンの入浴スタイルに対応している。歩いて入浴する「自立入浴」、スライドターンテーブルを使った「サポート入浴」、シャワーチェアで入浴する「シャワーチェア入浴」の3つのスタイルで入浴でき、バスタブは、毎回新しいお湯で入る「新湯タイプ」と、お湯をろ過して再利用する「ろ過タイプ」から選べる。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ③



## 「ピュアット」：株式会社金星

ウルトラファインバブルという目に見えない程の小さい泡が、ボディソープや擦り洗い不要で、お湯に浸かるだけで身体の汚れを落とす。

擦り洗いの必要がなくなるので、利用者の肌にとっても優しい洗身を提供し、職員様の介助負担や時間も大きく減らすことが出来る

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

Step 1  
演習

Step 1

## 演習

それでは、事例把握について演習をしてみましょう。

Step 1

## 演習

### 課題抽出(個人)15分

#### (1)現場での課題(回答例)

考えられる施設内の課題について記載をしてください。

課題

##### 【人的課題】

現在はスタッフは充足しているが、スタッフの経験値や意識の違いがあり、提供するサービスにおいても差が生じている。

今後、2025年・2040年問題と言われている社会情勢の中、少子高齢化が増進し、サービスを提供するスタッフの確保(及び育成)が難しくなるのではないかと懸念している。

##### 【環境課題】

外的環境・・・医療介護費の増大がもたらされる影響として、マイナス改定なども想定されており、現状のサービスを提供することが難しくなるのではないかと懸念がある。

内的課題・・・サービスを提供するスタッフの確保(及び育成・定着支援)について十分に出来ない可能性がある。特に管理職候補の養成が出来ていない。

##### 【その他】

現在のスタッフ間の良好な関係づくり、多職種連携、スタッフの能力格差の是正、事業規模拡大(及び縮小)など・・・

Step 1  
演習

## 課題共有(グループ)20分

### (2)課題の共有(回答例)

職員から聞き取りした施設内の課題について重要な内容を集約して記載してください。

回答

#### 【課題】

施設における入浴介助において、スタッフから負担が大きくデジタル機器の導入を検討してほしい旨、意見が出された。

当施設では自身で入浴、洗身が出来ない利用者もあり、入浴サポートを機械・装置を使用したいと思っている。導入により、スタッフの身体的負担の軽減や介助中の介護事故への不安(精神的負担)の軽減が図れるのではないかと。

利用者もスタッフに対する介助への不安が軽減される。

入浴介助は重労働であるといった認識を払しょくし、機器を使用することでサービスの提供がスムーズになるという意識を有し、積極的に活用してもらうことを想定している。

Step 1  
演習

## 課題共有(グループ)20分

### (2)課題の選択(回答例)

職員から聞き取りした施設内の課題について特に重要な内容について3つまで記載をしてください。

課題  
(1)

#### (施設における)スタッフ確保と育成

現場スタッフと管理業務を行えるスタッフのバランスが問題。  
また、夜勤や特定の時間において稼働できるスタッフが不足するなどの課題がある。

課題  
(2)

#### (将来を見越した)体制作りが出来ていない

今後の事業拡大を見越してスタッフの充足が求められるが、現状のサービスを提供する数は足りているが、将来を見越した採用には不安がある。

課題  
(3)

#### (施設における)利用者の確保とサービスの質向上

スタッフの数は充足しているが、スキルや経験の違いが提供するサービスの内容に影響(良くも悪くも)を与えている。施設数が多く、選ばれる事業所になる為には質の高いサービスを提供できる環境が必要であるが十分とは言えない。

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(1)

#### (施設における)スタッフ確保と育成

現場スタッフと管理業務を行えるスタッフのバランスが問題。  
また、夜勤や特定の時間において稼働できるスタッフが不足するなどの課題がある。

解決案  
(1)

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(2)

#### (将来を見越した)体制作りが出来ていない

今後の事業拡大を見越してスタッフの充足が求められるが、現状のサービスを提供する数は足りているが、将来を見越した採用には不安がある。

解決案  
(2)

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(3)

#### (施設における)利用者の確保とサービスの質向上

スタッフの数は充足しているが、スキルや経験の違いが提供するサービスの内容に影響(良くも悪くも)を与えている。施設数が多く、選ばれる事業所になる為には質の高いサービスを提供できる環境が必要であるが十分とは言えない。

解決案  
(3)

Step 1  
テスト

Yes,Noで答える単元テスト 6問

## Step 1 テスト

●をYes,Noのどちらかの枠内へ移動させてください。

問 題	Yes	No
①現在、日本では少子高齢化社会と言われており、高齢者を支える介護職が足りていないと言われている。		
②介護職が辞めた理由として上位の理由としては、「人間関係」が挙げられる。		
③今後、日本においては介護人材がますます足りなくなる？		
④介護現場における働き手が足りなくなることが想定された場合、ツールの1つとして、ロボットやICTといったデジタル機器の活用は有効である？		
⑤介護現場における課題については、一人で抱え込まず、管理者やスタッフと共有して、解決することが望ましい。		
⑥課題解決に向けては、現状を把握して、「あるべき姿」や「目指すべき姿」を想定して取り組む必要があり、やみくもに自身の意思を押し進めることは望ましいことではない。		

## Step 1 テスト

問 題	Yes	No
①統計的に見ると足りていない。さらに今後もこの傾向は続くと思われる。	●	
②統計的な退職理由としては、「人間関係」が上位。他には所属している法人や事業所の理念や方針についていけないなどが挙げられる。	●	
③少子高齢化社会が進み、働き手の数にも限りが出てくる。その為に、介護の担い手が足りなくなることが想定される。	●	
④人材不足が心配され、これまで通りのサービスを提供できなくなる可能性がある。解決策の1つとして、DX化が考えられるが、ロボットやICTの活用は有効なツールと言える。	●	
⑤現場における課題は、施設や事業所の利用者へ直結することでもあり、出来る限り共有して、解決策を検討しなくてはならない。	●	
⑥課題解決は一人は難しいこともあり、周囲のスタッフや管理者と相談し、進めていくことが望ましい。ノウハウを蓄積することで今後も同様の課題があった際、対応に役立つ。	●	

Step 2

## 事例調査

(1) 状況説明

(2) 事例調査シート作成

Step 1

Step 3

Step 5

Step 4

PBL教材（回答編）

Step 2  
演習

## 課題共有(グループ)20分

### (1)課題の選定

1. 先ほどの3つの課題から、導入可能なサービス1つを選定してください。
2. 選定理由を記載してください。

#### 進め方

- ・導入候補サービス①～③までの機器について、インターネットで調べる。
- ・グループディスカッションして機器の活用事例を調べる。
- ・施設における課題(例:レクリエーションのときにネタがない、スタッフへ負担が掛かっている等々)について、解決に役立つ機器はどれか?という観点から候補について調べる。

## Step 2 演習

1. この施設の課題から解決策と導入サービスを1つを選定してください。
2. 選定した理由を記載してください。(記載例)

回答

### 【課題】

(入浴支援時において)筋力低下した利用者へ、入浴介助を行うにあたり転倒リスクがあり、抑制することが求められる。一方で、介護者への腰痛などの身体的、さらには心理的負担も大きい。

### 【選定したサービス】

①～③を候補として、それぞれ機種種の調査、活用事例などから、選定を行う。

### 【解決策】

特に入浴支援時においてスタッフへの身体的・心理的負担が生じることもあり、解決策の1つとして、入浴支援機器の導入及び活用が検討される。

誰が(スタッフ)、誰に(利用者)、どの場面で使用するかについて事前に想定する必要がある。また、導入及び活用においては、

## Step 2 演習

1. この施設の課題から解決策と導入サービスを1つを選定してください。
2. 選定した理由を記載してください。

回答

### 【選定した機種】

「アラエル」(酒井医療株式会社)

### 【選定理由】

ADLの低下により入浴を怖がる利用者(Aさん、Bさん)が居る。提供するサービスの中でも特に重要とされる入浴に対して、困難であったり、不安を持ったりする方が、安心して入浴をして頂きたいと思っている。

身体状況や体格に応じて、それぞれ選択して、安心安全に入浴が出来る入浴装置が必要と考え、本機を選定した。

本機は操作が簡単であり、チェアを利用したまま段差がなくスムーズに浴槽へは入れることが特徴であり、入浴中に異変があった際は、チェアを後ろへ引くことでアラエルから素早く出すことが出来、安全確保が出来る。

同時にスタッフの負担軽減にも期待が寄せられる。

入浴支援は提供するサービスの中でも特に重要とされているが、反面重労働でもあり、介助するスタッフの身体的(腰痛等)・精神的負担(利用者を不安にさせない、ケガをさせない等々)が生じる側面がある。こうした背景を踏まえて、アラエルを使用することで、介護者、被介護者双方への負担軽減と安心・安全のサービス提供を図ることが出来る。

Step 2  
演習

回答



- 【1】洗浄力…ウルトラファインバブルシャワーにより汚れを落とし、肌のうるおいを保つ
- 【2】保温効果…ウルトラファインバブルの効果により、身体の芯まで温めて、入浴後10分後においても、貯湯式に比べても2℃ほど高い。
- 【3】節水効果…貯湯式より少ない湯量で、光熱費の削減にもつながる。使用湯量は85%カット 等の理由から「アラエル」の導入及び活用を検討している。

Step 2 事例調査 (2)事例把握シート作成

導入候補サービス ①

商品情報	「アラエル」(酒井医療株式会社)
ターゲット	自身で入浴、洗身が出来ない高齢者や障害のある方など
サービス概要・デジタル技術	<p>①絶妙な位置に配置されたシャワーノズルで、全身くまなく洗える。</p> <p>②介助する方の負担を大幅に軽減。洗えると、快適。</p> <p>③外は小さく、中はゆっつりの省スペース設計。</p> <p>(技術)・陰部・臀部専用シャワー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウルトラファインバブルシャワー</li> <li>・温度管理機能</li> <li>・おまかせモード 等</li> </ul>
活用により期待される効果 (想定されるもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子でのシャワー入浴支援機器である。</li> <li>・ウルトラファインミストシャワーにより毛穴の中の皮脂汚れなどを取り出す。</li> <li>・深部への加温効果がある。</li> <li>・ボディシャンプーとシャワーと一緒に出る「おまかせ洗浄」により、背中から臀部・足先までの完全な洗浄が可能で、介護職員は身体の洗浄が不要。</li> <li>・おしりシャワーにより肛門部の洗浄・温熱の効果がある。</li> <li>・設定した温度のみが出る「温度センサー」を内蔵している。</li> <li>・「殺菌・洗浄」モードにより、本体自体が機器の清掃・殺菌を自動で実施する。</li> </ul>
機器を活用した時の課題	価格が高い。設置場所の問題など。
参考URL	<a href="https://www.sakaimed.co.jp/bath/sitting-bathing/araeru/">https://www.sakaimed.co.jp/bath/sitting-bathing/araeru/</a>

Step 3

## 企画書・計画書作成

(1) 導入企画書作成

(2) 導入計画書作成

Step 2

Step 4

Step 1

Step 5

PBL教材（回答編）

### 演習 3 企画書(案)を作成してみよう！(1)

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因(①課題 ②要因)	
【2】企画の概要	
【3】企画の詳細 (①内容 ②実施時期 ③予算)	
【4】期待できる効果	
【5】補足(特に機器の耐久年数)	
【6】その他 ①企画の担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	

## 演習 3 企画書(案)を作成してみよう！(1)

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因(①課題 ②要因)	現状の課題と要因から、対応策として、デジタル機器の活用を検討する
【2】企画の概要	デジタル機器の導入及び活用により、〇〇を目標とする。
【3】企画の詳細 (①内容 ②実施時期 ③予算)	①商品名②いつ購入？③価格は？
【4】期待できる効果(機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか)	機器の導入及び活用がもたらす効果
【5】補足(特に機器の耐久年数)	費用対効果を図れるようにする
【6】その他 ①企画の担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	①担当は主任Aさん、責任者は副施設長 ②Bさん以下、4名が2階フロアの利用者へ ③メーカー協力のもと、導入前に3回、以降は、自分たちで月1回程度(6カ月位)

## 演習 3 計画書(案)を作成してみよう！(2)

計画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】導入時期・導入台数・購入日 (リースの場合は契約日)	
【2】事業概要及び導入スケジュール	
【3】利用者へのプライバシー配慮	
【4】導入後に達成すべき目標(3カ年)	
【5】期待される効果	
【6】その他 ①担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	

## 演習 3

# 計画書(案)を作成してみよう！(2)

計画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】導入時期・導入台数・購入日 (リースの場合は契約日)	【6】について事前協議の上、【1】の内容を決定、補助金や助成金情報も重要となる
【2】事業概要及び導入スケジュール	機器の導入目的を明確にし、導入予定日を策定する
【3】利用者へのプライバシー配慮	導入予定の機器はプライバシーに配慮出来ているか(入浴支援機器であればなおさら)
【4】導入後に達成すべき目標(3カ年)	具体的な目標(数字)を策定する (皮膚疾患や感染症を●%削減するなど)
【5】期待される効果	想定される効果について事例等を元に作成
【6】その他 ①担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	※前頁参照

Step 4

発表・講評

Step 3

Step 5

Step 2

Step 1

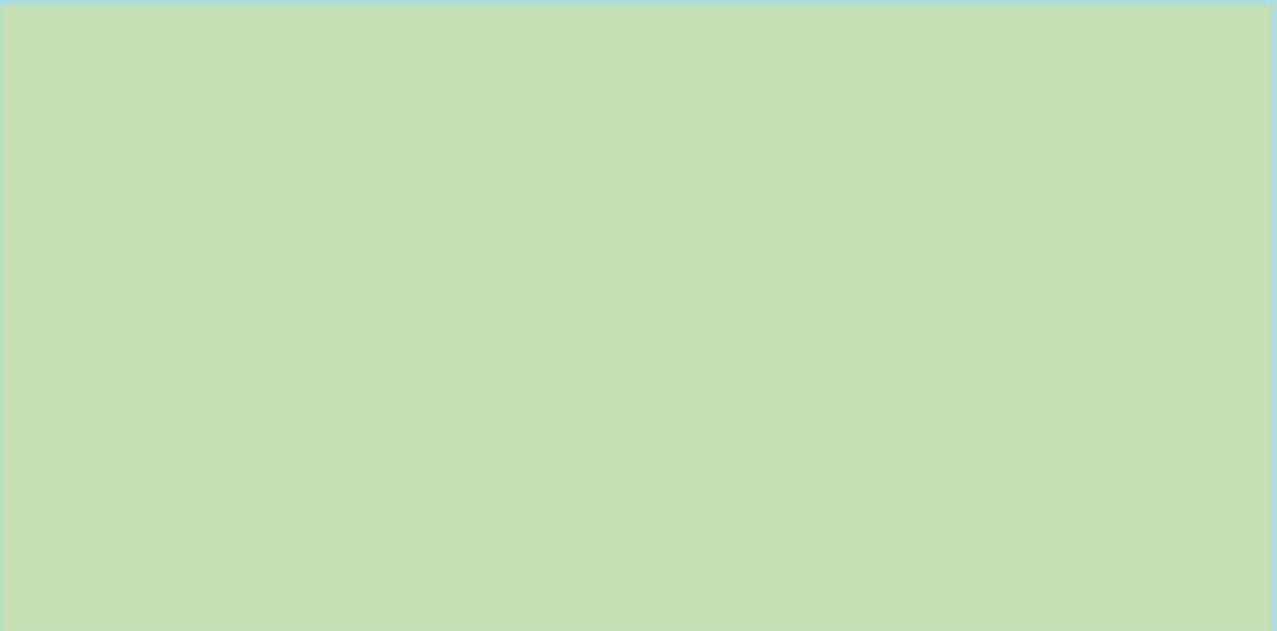
演習 4

発表・総評



演習 4

発表・総評



## 演習 4

## 発表・総評



Step 5

## 企画書・計画書再考

Step 4

Step 1

Step 3

Step 2

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう! ②

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【8】
【1】企画(書)の目的	
【2】対象者	
【3】導入予定の機器の商品概要	
【4】当施設の現状について	
【5】【3】以外の製品情報(比較)	
【6】導入によってもたらされる効果	
【7】導入スケジュール	
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう! ③

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】はじめに(①課題と対応②企画の目的)	
【2】導入予定の機器の商品概要	
【3】機器の導入効果 (①事例 ②当施設で想定される効果)	
【4】事例の調査結果 (①導入した施設の声 ②メーカーの見解)	
【5】導入スケジュール	
【6】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③活用の為の教育体制について ④管理体制(通常どこに保管するか)	

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう！④

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【7】
【1】企画した背景(なぜ機器が必要か)	
【2】業界及び当施設を取り巻く環境	
【3】利用者及びご家族、スタッフの声 (特にサービス内容への要望、不満など)	
【4】【3】の内容から導かれた見解 (ロボットやICTが必要である！?)	
【5】導入を検討している機器の商品概要	
【6】導入によってもたらされる効果	
【7】導入スケジュール	
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③活用の為の教育体制について ④管理体制(通常どこに保管するか)	

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう！②

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【8】
【1】企画(書)の目的	現場における業務改善、効率化
【2】対象者	スタッフ、利用者など
【3】導入予定の機器の商品概要	①商品名②働き③価格のほか、耐久保証年数やアフターフォローについても記載
【4】当施設の現状について	当施設における課題やスタッフの声
【5】【3】以外の製品情報(比較)	他機器との比較をした中で選定と記載
【6】導入によってもたらされる効果(機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか)	事例及び提供メーカーへのヒアリング内容(導入前と後との比較想定など)
【7】導入スケジュール	※別紙
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者名 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③教育体制について	①Aさん、管理者Bさん ②介護スタッフAさん等、利用者Cさん、入浴時 ③導入前にメーカーによる勉強会(計3回ほど) ④浴室

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう! ③

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】はじめに(①課題と対応②企画の目的)	①②利用者と介護者の負担軽減
【2】導入予定の機器の商品概要	「アラエル」(酒井医療(株))詳細説明
【3】機器の導入効果 (①事例 ②当施設で想定される効果)	①家庭のお風呂のような体験が出来る ②スタッフの負担軽減、利用者の安心・安全
【4】事例の調査結果 (①導入した施設の声 ②メーカーの見解)	① <a href="https://www.sakaimed.co.jp/case_study/">https://www.sakaimed.co.jp/case_study/</a> ②スタッフの職業寿命、利用者の安心・安全
【5】導入スケジュール	自治体の補助金申請に伴い、 ～5月調査・見積取得 6月申請(9月頃交付 予定)、10月導入
【6】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③活用の為の教育体制について ④管理体制(通常どこに保管するか)	※前頁参照

## 演習 5 ほかに企画書(案)を作成してみよう! ④

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【7】
【1】企画した背景(なぜ機器が必要か)	例)人手不足によるサービス低下の懸念
【2】業界及び当施設を取り巻く環境	例)人手不足(確保及び育成など)
【3】利用者及びご家族、スタッフの声 (特にサービス内容への要望、不満など)	例)スタッフは特に心身ともに負担があり、すぐ にでも軽減を図る必要がある
【4】【3】の内容から導かれた見解 (ロボットやICTが必要である!?)	デジタル機器の活用は手段の1つとしても有 効ではないか
【5】導入を検討している機器の商品概要	製品名、働き、効果、価格など
【6】導入によってもたらされる効果(機器を使 うことでどの業務がどれくらい軽減できるか)	事例及び提供メーカーへのヒアリング内容 (導入前と後との比較想定など)
【7】導入スケジュール	※別紙参照
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について(誰が、誰に、いつ) ③活用の為の教育体制について ④管理体制(通常どこに保管するか)	※前頁参照

# 多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業



## 介護現場で使用するAI先端機器

PBL教材 STEP1  
(コミュニケーションロボット)



Step 1

## 事例把握

- (1) 状況説明
- (2) 事例把握シート作成

Step 5

Step 2

Step 4

Step 3

# Step 1

## 事例把握

(1) 状況説明

(2) 事例把握シート作成

PBL教材（回答編）



### Step 1 事例把握 (1)状況説明

作業手順の  
設計

目的・背景の  
設定

現在の状況  
設定

現在抱えている  
課題の抽出

#### (1) 状況説明

- ・ 事例から福祉現場における課題を直視する。
- ・ 課題解決の為の作業や手法について検討する。
- ・ その目的と背景についても理解する。
- ・ 設定された状況から課題を抽出する。

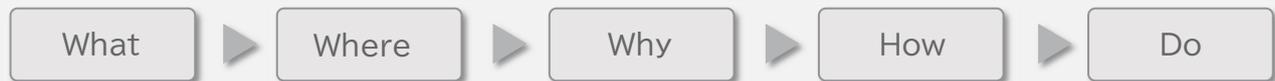
#### (2)事例把握シート作成

課題解決の為のツールとして  
AI機器を検討しており、  
導入及び活用事例について把握する。

## 作業手順

舞台、状況を踏まえた上で、施設の課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の設定	現在起きている現象(特に良くない)及び将来にわたり起こりうるもの
原因分析	何が原因で課題が発生しているのか、現状と理想(あるべき姿)のギャップを分析する。
解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 目的・背景の設定

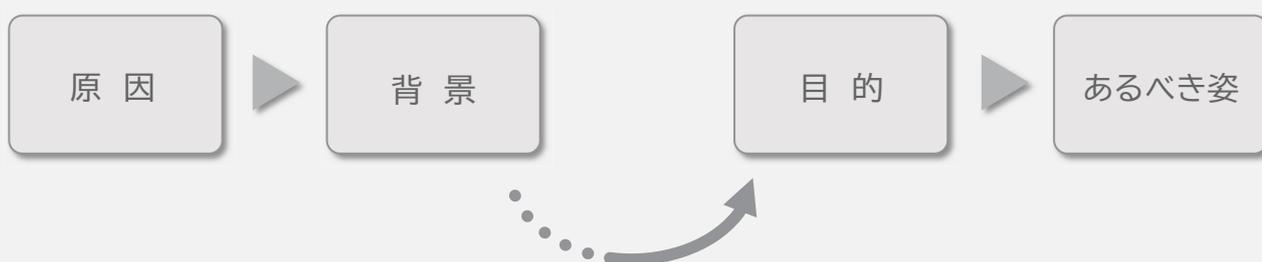
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉現場にて従事するスタッフの負担軽減</li> <li>利用者への質の高いサービスの維持・向上を図る。</li> </ul>
背景	<p>昨今の福祉現場においては、少子高齢化社会、就業人口減少といった状況の影響を強く受け、サービスを提供するスタッフに限りがあるばかりでなく、今後はスタッフそのもの高齢化などの問題も予見される。</p> <p>現場にて従事するスタッフへの負担軽減、利用者への質の高いサービスの維持・向上を図るうえで、ロボットやICTといったデジタル機器の導入・活用が求められる。一方で、受け入れ側においても、抵抗なく、無理なく、無駄なく導入や活用が出来るかといった点が課題になっており、事業所、施設、法人全体で取り組む問題として捉える必要がある。</p> <p>今回は、施設における様々な先端機器によるスタッフの負担軽減と利用者の満足度を向上させるために「業務支援ツール」「コミュニケーションロボット」「介護ロボット(移乗・排泄・入浴など)」「見守り支援(センサー・カメラなど)」の導入・活用を検討している。</p>

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 目的・背景の設定

グループで情報共有と理解をはかるため、スタッフ個人が抱えている課題を抽出し、話し合い納得して介護ロボットを活用する環境を生み出す方策を探るにはどうしたら良いか。

職員の現状を把握して、状況把握シートを作成し、管理者がまとめて提案書を作成する。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 状況設定

この状況設定による演習へ



舞台	正職員45名、準職員45名の法人(千葉県) 特別養護老人ホーム(定員50名)、デイサービス(定員32名)、ショートステイ(定員20名)、ケアハウス(定員62名)、居宅介護支援事業所等を運営
目的背景	利用者へ提供するサービスの質を上げるべく、全スタッフでアイデアを出し合い、懸命に取り組んでいるものの、スタッフからレクリエーションのテーマについて限界があるとの相談が相次いでいる。利用者の満足度向上の為、レクリエーションに興味を示さない利用者に対しても「コミュニケーションロボット」を活用したいと考えている。
状況(1)	スタッフが日々創意工夫をし、レクリエーションのテーマを設定し、実施。楽しみにしている利用者も多いが、全く興味を示さない利用者も居て、反応も極めて薄い為、レクリエーションを担当することに不安を持っているスタッフもいる。管理者としては、コミュニケーションロボットを活用しつつ、出来る限り多くの利用者が楽しみに思っ通ってほしいと考えている。また、レクリエーション担当者自身も楽しんで参加してもらいたい。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

状況設定

レクリエーションとは？



状況(2)

管理者のあなたは、レクリエーションに活用できるデジタル機器の導入を検討している。これまで施設ではロボットを導入したことがない為、まずは導入を検討する機器の調査(実際に活用をしている事例をインターネット等で調べてグループディスカッションを行う)を予定している。

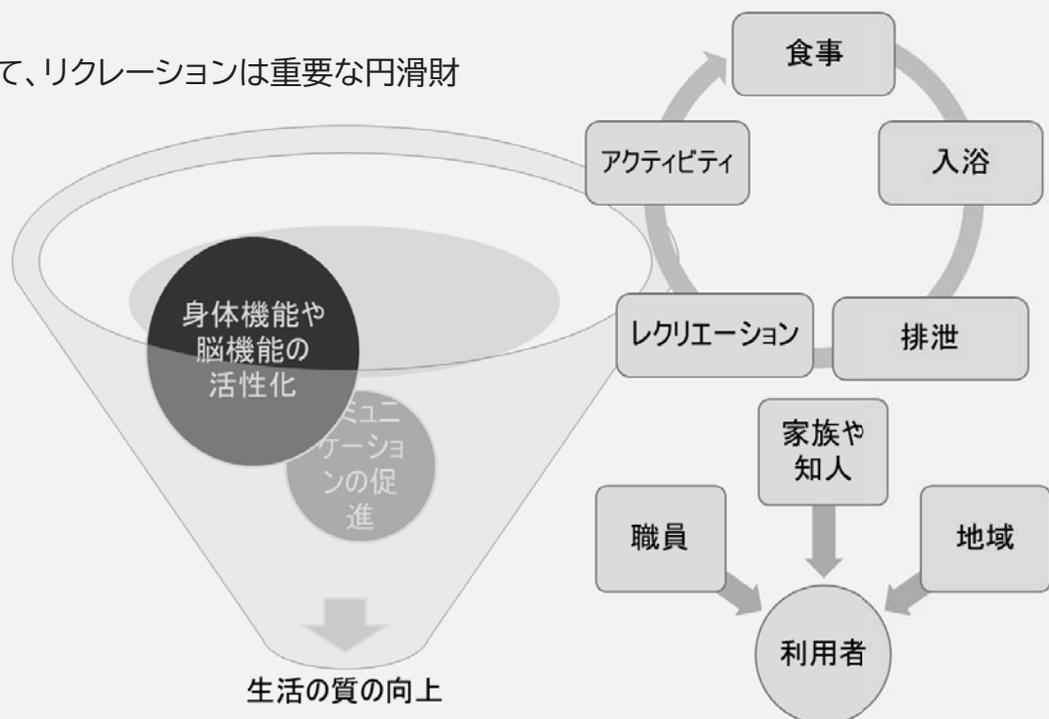


【出典】TOKYOMXNHKニュース、朝日新聞デジタルほか

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

状況設定

介護施設において、レクリエーションは重要な円滑財



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 状況設定(1日の流れ)

時間帯(目安)	スケジュール(予定)
7:00	起床(モーニングケア)
8:00	朝食
9:00	集団体操、健康チェック
10:00	入浴
12:00	昼食
14:00	レクリエーション①～⑤参照、入浴
15:00	おやつ
18:00	夕食
21:00	就寝(ナイトケア)

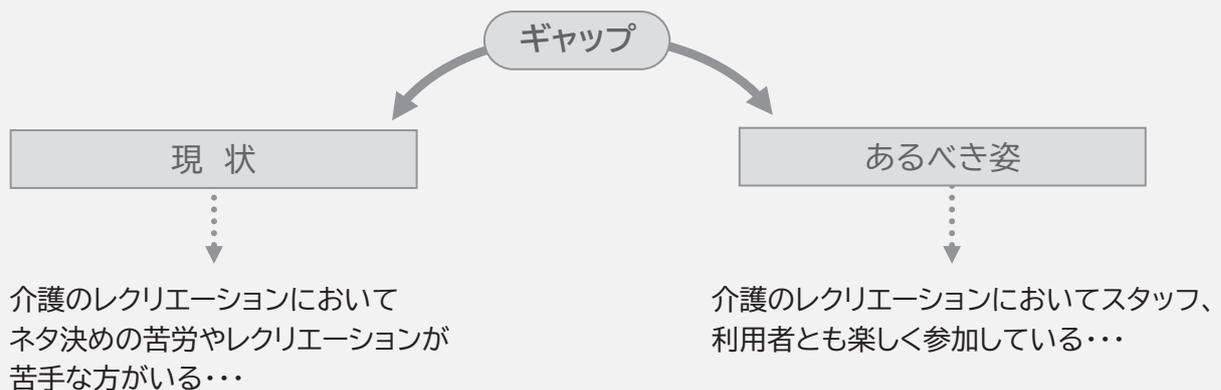
- ①身体を使うレクリエーション
- ②頭を使うレクリエーション
- ③音楽を取り入れたレクリエーション
- ④創作レクリエーション
- ⑤地域交流レクリエーション

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 課題抽出

福祉現場における課題と解決に向けて

1. 計画を実行する(レクリエーションの活性化・充実やスタッフの負担軽減など)
2. 結果を振り返り、事業所へフィードバックする



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 課題抽出

レクリエーションは、スタッフや利用者双方において介護の質向上に繋がるため、サービスの1つが売りになるとも考えられる。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業



## 目的・背景

- ・今回取り上げられた“施設”の「課題」は何か？ ⇒ レクリエーションの場面？
- ・課題解決に向けてどういった対応や取り組みが考えられるか。⇒ 新たな取り組み？
- ・この場面において必要と思われるAI機器はどういったものがあるか。選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か。⇒ 使用方法の理解や使用する人の選定？

以下の①②③(Step1～4)については振り返りの時期を設定する。

- ①目標設定(AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか)
- ②情報収集(導入予定のAIの活用事例等をリサーチ)
- ③導入計画(いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定)
- ④※導入
- ⑤※運用
- ⑥※導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う(いつ頃?)

(※については次の段階において議論を予定)



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## Step 1 事例把握 (2)事例把握シート作成

### 導入候補サービス ①

「PALRO(パルロ)」：富士ソフト株式会社

PALRO(パルロ)は、「PALRO パルロ」は会話とコミュニケーション力が特徴の介護コミュニケーションロボット(介護予防支援ロボット)として、介護サービスを提供する様々な場面で活用ができる。

利用者とのコミュニケーションの他にも歌、ダンス、体操、ゲームと多種多様な機能が満載されており、介護コミュニケーションロボットの最先端で職員様の一員として今、介護の現場で活躍の幅を増やしている。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## Step 1 事例把握 (2)事例把握シート作成

### 導入候補サービス ②



「LOVOT(らぼっと)」：GROOVE X 株式会社

カメラ、サーモグラフィー、マイク、障害物検知、明るさセンサーなど多種のセンサーを搭載しており、センサーがとらえた刺激を機械学習で処理し、リアルタイムでさまざまな動きがある。特に目はディスプレイになっていて、表現力も凄い。

LOVOTはペットのようにだんだんと家族になるロボットであり、名前を呼ぶと近づいてきて見つめてくる。

好きな人になついで抱っこをねだる。抱き上げるとほんのりと温かい。ロボットではあるが、まるで生き物のような生命感があるのが特徴である。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ③



「PARO(パロ)」：株式会社知能システムほか

メンタルコミットロボット「パロ」は、本物の動物を飼うことが困難な場所や人々のために、セラピーを目的に開発された。

デイサービスセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、小児病棟、児童養護施設などで、数多く、長期間に渡る実験を続けることにより、アニマル・セラピーと同じ効果を得られることを確認されており、人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行うことを目的にした、メンタルコミットロボットである。

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

Step 1  
演習

Step 1

## 演習

それでは、事例把握について演習をしてみましょう。

Step 1  
演習

### 課題抽出(個人)15分

#### (1)現場での課題抽出

課題

夜勤や休日出勤が多い。

認知症の方の対応やリハケアがうまくできない。

- 
- 
-

Step 1  
演習

## 課題共有(管理者:グループ)20分

### (2)課題の共有

職員から聞き取りした施設内の課題について重要な内容を集約して記載してください。

回答

夜勤や休日出勤が多い。

認知症の方の対応やリハケアがうまくできない。

スタッフ間での申し送りができず利用者から不満。  
リハビリスタッフ、看護師との意思疎通ができていない。

レクリエーションが利用者のニーズに答えられない。  
レクリエーションの企画運営に余裕が無く負担。

- ・
- ・
- ・
- ・

Step 1  
演習

## 課題共有(管理者:グループ)20分

### (2)課題の共有(グループ分類)

集約した施設内の課題についてグルーピングをして記載してください。

グループ  
分類

1. 人手不足 夜勤や休日出勤が多い。

2. 経験不足 認知症の方の対応やリハケアがうまくできない。

3. 情報共有 スタッフ間での申し送りができず利用者から不満。

4. 運動娯楽 レク内容が利用者のニーズに答えられない。企画に余裕が無い。

5.

6.

7.

Step 1  
演習

## 課題共有(管理者:グループ)20分

### (2)課題の共有(優先課題選択)

集約した施設内の課題について優先付けをして採点してください。

分類名	課題内容	点数
人手不足	夜勤や休日出勤が多い。	8
経験不足	認知症の方の対応やリハケアがうまくできない。	1
情報共有	スタッフ間での申し送りができず利用者から不満。	1
運動娯楽	レク内容が利用者のニーズに答えられない。	3
・	・	
・	・	
・	・	
		/10点

Step 1  
演習

## 課題共有(グループ)20分

### (2)課題の選択

職員から聞き取りした施設内の課題について特に重要な内容について3つまで記載をしてください。

課題 (1)	
課題 (2)	
課題 (3)	

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(1)

解決案  
(1)

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(2)

解決案  
(2)

Step 1  
演習

## 課題解決(グループ)20分

### (3-2)課題の解決案(資料・WEB参照:IT先端機器活用)

3つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題  
(3)

解決案  
(3)

Step 1  
テスト

Yes,Noで答える単元テスト 6問

## Step 1 テスト

●をYes,Noのどちらかの枠内へ移動させてください。

問 題	Yes	No
①現在、日本では少子高齢化社会と言われており、高齢者を支える介護職が足りていないと言われている。		
②介護職が辞めた理由として上位の理由としては、「人間関係」が挙げられる。		
③今後、日本においては介護人材がますます足りなくなる？		
④介護現場における働き手が足りなくなることが想定された場合、ツールの1つとして、ロボットやICTといったデジタル機器の活用は有効である？		
⑤介護現場における課題については、一人で抱え込まず、管理者やスタッフと共有して、解決することが望ましい。		
⑥課題解決に向けては、現状を把握して、「あるべき姿」や「目指すべき姿」を想定して取り組む必要があり、やみくもに自身の意思を押し進めることは望ましいことではない。		

## Step 1 テスト

問 題	Yes	No
①統計的に見ると足りていない。さらに今後もこの傾向は続くと思われる。	●	
②統計的な退職理由としては、「人間関係」が上位。他には所属している法人や事業所の理念や方針についていけないなどが挙げられる。	●	
③少子高齢化社会が進み、働き手の数にも限りが出てくる。その為に、介護の担い手が足りなくなることが想定される。	●	
④人材不足が心配され、これまで通りのサービスを提供できなくなる可能性がある。解決策の1つとして、DX化が考えられるが、ロボットやICTの活用は有効なツールと言える。	●	
⑤現場における課題は、施設や事業所の利用者へ直結することでもあり、出来る限り共有して、解決策を検討しなくてはならない。	●	
⑥課題解決は一人は難しいこともあり、周囲のスタッフや管理者と相談し、進めていくことが望ましい。ノウハウを蓄積することで今後も同様の課題があった際、対応に役立つ。	●	

Step 2

## 事例調査

(1) 状況説明

(2) 事例調査シート作成

Step 1

Step 3

Step 5

Step 4

PBL教材（回答編）

Step 2  
演習

## 課題共有(グループ)20分

### (1)課題の選定

1. 先ほどの3つの課題から、導入可能なサービス1つを選定してください。
2. 選定理由を記載してください。

#### 進め方

- ・導入候補サービス①～③までの機器について、インターネットで調べる。
- ・グループディスカッションして機器の活用事例を調べる。
- ・施設における課題(例:レクリエーションのときにネタがない、スタッフへ負担が掛かっている等々)について、解決に役立つ機器はどれか?という観点から候補について調べる。

Step 2  
演習

1. この施設の課題から解決策と導入サービスを1つを選定してください。
2. 選定した理由を記載してください。

回答

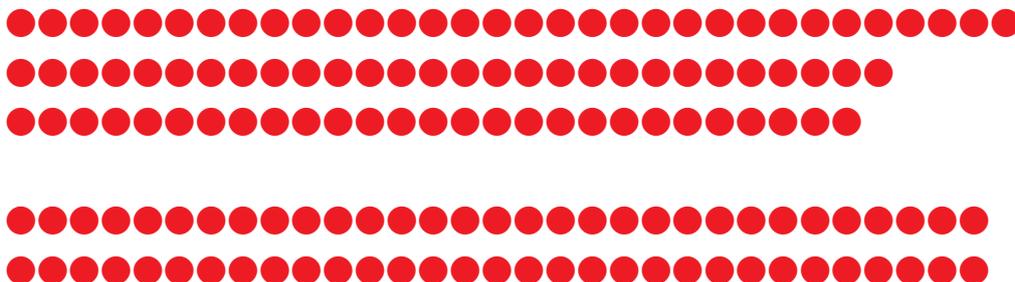
【課題】



【選定したサービス】



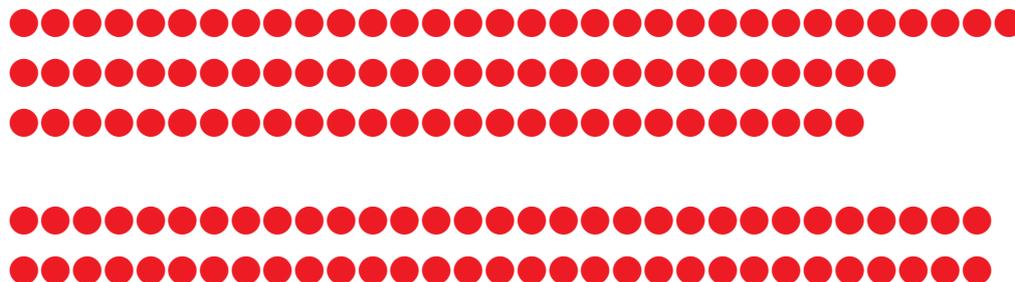
【解決策】



Step 2  
演習

回答

【選定理由】



写真や関連情報URLを貼るなどして、できるだけ情報を記載する。

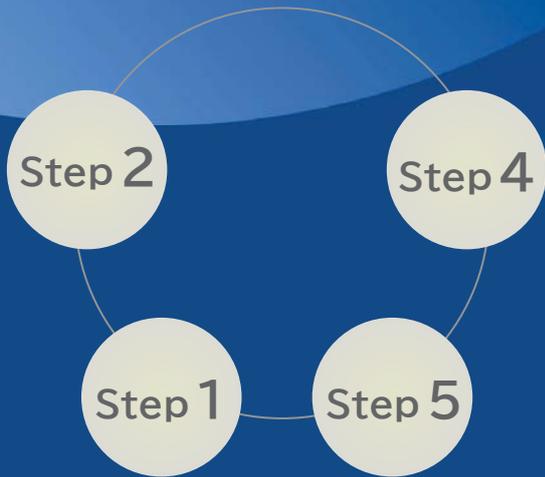
※複数ページになることも可

# Step 3

## 企画書・計画書作成

(1) 導入企画書作成

(2) 導入企画書改訂



PBL教材（回答編）

### Step 3 演習

1. 施設の課題、解決策より企画書を作成してください。
2. 作成した企画書を生成AIを活用して改訂してください。

企画

【課題】



【選定したサービス】



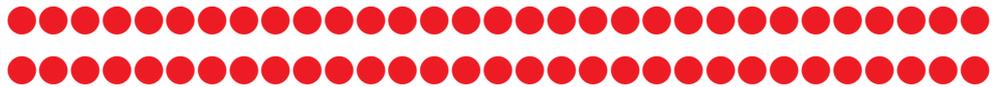
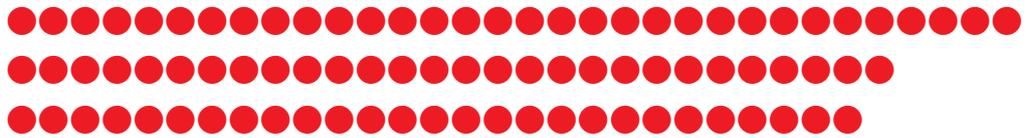
【解決策】



Step 3  
演習

企画

【選定理由】



※生成AI(ChatGPTなど)を活用して情報を追加しましょう。

※複数ページになることも可

Step 4

発表・講評

Step 3

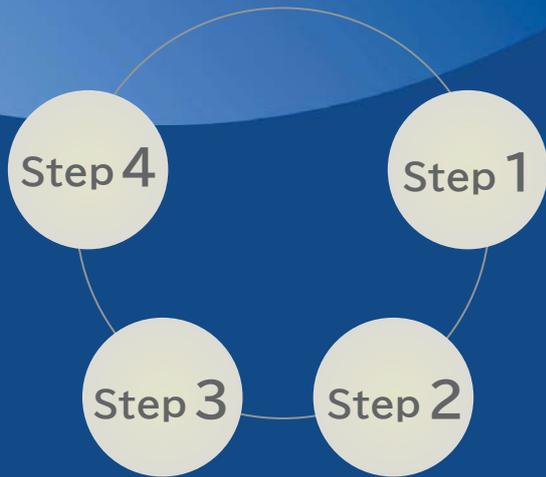
Step 5

Step 2

Step 1

Step 5

# 企画書・計画書再考



PBL教材（回答編）

# 多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業



介護現場で使用するAI先端機器



## PBL教材② STEP2

### ・・・目次・・・

【1】自己紹介・所属法人について(概要等の紹介)

【2】法人・施設における課題とその要因について

【3】課題解決の為のAI機器の紹介と活用事例について

【4】企画書の作成について

【5】気づき・振り返りについて



# 【1】自己紹介・所属法人について(紹介)

3

## 【1】自己紹介・所属法人について(概要等の紹介①)

施設名(例: ○○施設)

・

担当者氏名及び役職(例: 山田 太郎)

・

施設の設立年(例: 1995年3月)

・

施設の理念・方針(例: 地域に根差した介護サービスの提供)

主なサービス内容(例: デイサービス、訪問介護、リハビリ支援など)

施設の特徴(例: 家庭的な雰囲気、最新の介護設備導入など)

取り巻く環境(例: 高齢化地域での介護需要増加、スタッフ不足などの課題など)

今後の目標・課題(例: AIやICT技術の導入、地域連携の強化など)

## 【1】自己紹介・所属法人について(自施設と比較して)

気づいたポイント(例: 施設の規模による課題の違いがある)

- ・
- ・

他施設との共通点(例: 人材不足の悩みは共通している)

- ・
- ・

参考になった点(例: AI導入による業務効率化の事例が有益だった)

- ・
- ・

改善できる点(例: 費用対効果を明確に示すと説得力が増す)

- ・
- ・

今後のアクション(例: 施設内で技術導入に関するワークショップを実施する)

- ・
- ・

## 【2】法人・施設における課題と その要因について

## 【2】法人・施設における課題とその要因について

課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の抽出	現在起きている現象(特に良くない)および将来にわたり起こりうるもの。日々提供しているサービスやスタッフのマネジメントにおける課題など、具体的な内容を列挙する。
要因分析	何が原因で課題が発生しているのか、要因について分析を行い、現状と理想(あるべき姿)のギャップを分析する。
課題解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
課題解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。(IT先端機器の活用で解決の一助となるか)

### (1)課題抽出

- ①福祉現場における課題を直視する
- ②課題解決の為の作業や手法について検討する
- ③その目的と背景についても理解する
- ④設定された状況から課題を抽出する

### (2)課題解決シート作成

- ①課題解決の為のツールとしてIT先端機器の導入や活用を検討する
- ②検討している先端機器の導入状況及び活用事例について調査する

What

Where

Why

How

Do

## 【3】課題解決の為のAI機器の紹介と活用事例について①

### 【事例】(介護老人福祉施設の場合)

- ①床マットセンサーや背面センサーで見守りを行っていたが、同時に通知があった際に対応の優先順位をつけることが難しい。
- ②赤外線カメラによる見守りを試みたが、カメラの設定が難しく、うまく活用できていない。
- ③カメラセンサーの導入は、プライバシーへの配慮の面でハードルが高い。

### 【目標】(同上)

- ①1時間に1回行っている夜間巡視を、2時間に1回の頻度に減らしたい。
- ②取得したデータを活用し、ケアの見直しや健康管理に役立てたい。
- ③AI機器を導入しているユニットの職員が、導入していないユニットのヘルプに回れる体制を整えたい

### 【法人・施設の方針】

- ①設定が比較的簡単で、
- ②プライバシーに配慮した見守りが出来て、
- ③カメラやバイタルセンサ等、必要に応じて連携が図れる(使わなくても精度の高い見守りができる)機器が望ましい……

### 【導入理由とその目的】



## 【3】課題解決の為のAI機器の紹介と活用事例について②

### 【事例】(特別養護老人ホームの場合)

- ①歩くことが出来ていた利用者が、コロナ罹患後、ADLレベルが下がり、オムツ介助が必要となった。
- ②スタッフの高齢化に伴い、利用者を車椅子からトイレ・ベット間の移乗、入浴時に車椅子とシャワーチェア一間の移乗介助することが難しい。
- ③リフト移動の際は、2名が付き添いをしなくてはならない為、負担が大きい。

### 【目標】(同上)

- ①ADLの向上に努めたい。
- ②自力で排泄が出来るようになり、オムツの量を減らしたい。
- ③利用者の移乗介助は1人で対応出来るようにしたい。

### 【法人・施設の方針】

- ①スタッフの負担軽減(心理的・肉体的)を図り、
- ②利用者の立位機能回復等のリハビリに役立ち、
- ③夜勤スタッフの見守り等の負担軽減に役立つ機器が望ましい……

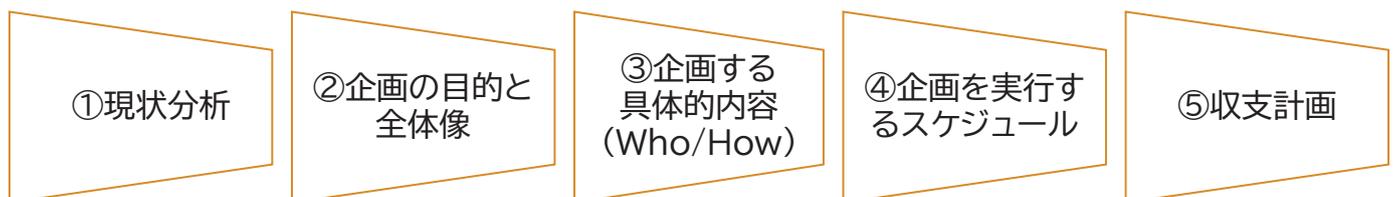
### 【導入理由とその目的】



【出典】介護ロボットポータルサイト

## 【4】企画書の作成について①

### 企画書(案)に必要な5つの要素



①企画アイデアを実際に裏付ける為に行うもので、現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社会リソースといった内部環境などの因果関係を整理、説明する

②現状分析によって判明した問題点の中から、課題を抽出し、その課題をどう解決するのか、目指す方向を示し、企画の目的とゴールを明らかにすることで実施すべきかを検討する

③企画の目的を踏まえて、どのようなターゲットに何を使って、どういう方法を用いるのか明確化する

④導入に向けて、実施すべきことを明確にし、スケジュールリングする必要がある

⑤導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるかを明確化する

## 【4】企画書様式例 ①

企画書テンプレート

日付：  
宛名：  
作成者：

件名（タイトル）

企画の目的  
・  
・

企画の内容  
・  
・  
・

スケジュール・予算  
<スケジュール>  
・  
・  
・  
<予算>  
・  
・  
・

添付資料

大小を「比較」したいとき ▶▶ 棒グラフ



「変化」を強調したいとき ▶▶ 折れ線グラフ



データ名が長いとき ▶▶ 横棒グラフ



「内訳」を表したい ▶▶ 円グラフ



## 【4】企画書様式例 ②

〇〇企画書	
<b>概要と目的</b>	
<企画の全体像と目的を簡潔に説明します。なぜこの企画を行うのか、何を達成したいのかを明確にします。>	
<b>背景と課題</b>	
企画の背景情報や解決すべき問題を説明します。なぜこの企画が必要なのかを示す部分です。	
<b>アプローチと内容</b>	
具体的な内容や実施方法を説明します。どのように課題を解決するのか、具体的なステップや手法を記載します。	
<b>スケジュールと予算</b>	
企画のタイムラインと必要な予算について記載します。主要なステップとその予定日程、および予算の概要を示します。	
<b>期待される効果とリスク</b>	
企画が成功した場合に期待される効果や利益、そして考えられるリスクとその対策を説明します。	

### 〇〇〇〇の企画書 [企画提案書]

作成日 令和 年 月 日  
作成者

(1) 現状・問題点・課題

(2) 提案

(3) 具体的な提案内容・企画内容 [改善案]

(4) 見込まれる効果 [具体的な到達目標]

## 【4】企画書様式例 ③

ターゲット	20代前半の女性。特に肌に悩みをもっている人
コンセプト	商品（石鹸）を实际使ってもらい、自分の肌がみずみずしく、もちもちになるのを体験していただく
目的	商品の認知を増やし、効果を実感してもらう。さらに商品購入につなげたい
目標	リピーター5人増。月間売上数10%アップ

イベント概要
●イベントタイトル モチモチ肌になる石鹸体験
●日程 20XX/12/10
●人数 10名程度
●入場料 0円
●講師 XX株式会社 Aさん
●タイムテーブル 10:00～ 準備 12:00～ 開始 16:00～ 終了 18:00～ 撤収

## 【4】企画書様式例 ④

**商品企画書**

令和〇年〇〇月〇〇日

出展区画	店舗名	〇〇〇〇〇〇〇〇		
	住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇-〇-〇 〇〇〇〇ビル〇〇階		
ターゲット	中小企業の経営者・決済者			
提供商品概要	主要商品			
		標準価格帯	予想売上高 構成比	提供内容
	基本サービス (無料)	0円	〇〇%	
	有料プラン	〇〇〇円～	〇〇%	
	オプション	〇〇〇円～	〇〇%	
営業時間	〇〇時～〇〇時 (ただしWEBで24時間問い合わせ受付)			
定休日	〇曜日			
従業員計画数	社員 〇〇名/アルバイト 〇〇名			
サービスの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本は無料です〇〇〇〇のサービスが利用できる</li> <li>高い効果を求める場合は月額〇〇〇〇円です有料プランを利用することもできる。</li> <li>オプションサービスを利用する際は課金されるが〇〇〇〇〇〇を利用することによる優位性を持たせられる。</li> <li>〇〇〇〇〇〇システムを導入することにより、誰かサービスを提供することができる</li> </ul>			
将来展開計画 (サービス・商品の方向性などを記載する)	「早く・安く・決める」ことができるサービスとして〇〇〇〇〇〇業界のリーディングカンパニーを目指します。 また、〇〇〇〇〇〇は無料として打ち出しているが、将来的には規模を拡大させ、有料化に持ち上げる運び。			

**新商品企画書**

提出日: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

- 企画の背景・理由

コンセプト	
企画の背景/ 現状分析	
企画の目的	
- 商品詳細

商品名	
価格	
ターゲット	
発売予定日	
- 実行方法

開発者	開発:
実行者	販売:
販売戦略	宣伝方法: 宣伝費用: スケジュール:
費用	開発コスト: 目標販売数: 目標販売額:

特記事項

添付資料

## 【4】企画書様式例 ⑤

<b>企画・提案書</b>	所属	
	作成者	
	作成日	年 月 日
顧客名称	様	
プロジェクト名		
企画の概要・コンセプト		
現状		
課題問題点		
目的		
具体的解決策のご提案		
提案1		
提案2		
提案3		
導入スケジュール		
提案1		
提案2		
提案3		
費用		
※ 費用詳細は別紙のとおり		
今回の到達目標		

〇〇部 山田 太郎様		提出日:
企画書タイトル		作成者:
現状分析・課題点	〇〇の必要性	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> <li>●</li> <li>●</li> </ul>	
〇〇〇〇 (スローガン)		
内容	スケジュール	

## 【4】企画書の作成について 記載シート

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因(①課題 ②要因)	
【2】企画の概要(写真画像やパンフレット)	
【3】企画の詳細(見積書など付ける) (①内容 ②実施時期 ③予算)	
【4】期待できる効果(機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか)	
【5】補足(特に機器の耐久年数)	
【6】その他(誰が担当、誰に使用する?)	

## 【4】企画書の作成について 記載例①

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因(①課題 ②要因)	現状の課題と要因から、対応策として、デジタル機器の活用を検討する
【2】企画の概要(写真画像やパンフレット)	デジタル機器の導入及び活用により、〇〇を目標とする。(具体的な数値や事柄を入れる)
【3】企画の詳細(見積書など付ける) (①内容 ②実施時期 ③予算)	①商品名②いつ購入?③価格は?
【4】期待できる効果(機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか)	機器の導入及び活用がもたらす効果(特に他施設の事例などを盛り込む)
【5】補足(特に機器の耐久年数)	費用対効果を図れるようにする (1年あたり〇〇万円ほど)
【6】その他(誰が担当、誰に使用する?)	自治体が支援する補助金等で導入するケースが見受けられるが、活用に至らないケースもあり、左記にある誰が、誰に、どの場面で使用するといった点をあらかじめ想定しておく必要がある。

## 【5】気づき・振り返りについて

気づいた点(総評など)	振り返りについて(補足など)
【1】	
【2】	
【3】	
【4】	
【5】	
【6】	

専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業

## PBL③

# 企画書ブラッシュアップ

介護DX多国籍共生介護現場のマネージャー対象AI導入研修

令和6年度

学校法人長良学園  
向陽台水口専門学校



- 1 PBL② の振り返り
- 2 企画書の  
フィードバック
- 3 企画書の  
ブラッシュアップ
- 4 最終発表 & 講評
- 5 まとめ & 次のステップ

# 1. PBL② の振り返り

## PBL② での学びと気づき

- 企画書の作成工程
- どんな企画書が作成されたか？
- 他施設と比較して、どんな特徴・課題があったか？
- 気づき記録シート（参考シート）を活用して整理



## 企画書の作成工程

### 【4】企画書の作成について①

#### 企画書(案)に必要な5つの要素



- ①企画アイデアを実際に裏付ける為に行うもので、現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社会リソースといった内部環境などの因果関係を整理、説明する
- ②現状分析によって判明した問題点の中から、課題を抽出し、その課題をどう解決するのか、目指す方向を示し、企画の目的とゴールを明らかにすることで実施すべきかを検討する
- ③企画の目的を踏まえて、どのようなターゲットに何をを使って、どのような方法を用いるのか明確化する
- ④導入に向けて、実施すべきことを明確にし、スケジュールリングする必要がある
- ⑤導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるかを明確化する

### 【4】企画書の作成について②

企画書テンプレート

大小を「比較」したいとき >>> 棒グラフ

「変化」を強調したいとき >>> 折れ線グラフ

データ名が多いとき >>> 縦棒グラフ

「内訳」を表したい >>> 円グラフ



# 施設における課題

## 施設における課題①(と解決に向けて)



## 施設における課題②(と解決に向けて)

### 【(課題となる)背景】

#### 1. 「業務・管理体制」が不十分

マニュアルの整備不良や時間外勤務の多さ、環境整備や取り扱いに対する意識の差がある。センサーの反応不足や気づきの遅れもある。

#### 2. 「コミュニケーション・職員間の協力」の欠如

職員間のコミュニケーション不足があり業務負担が偏っている。担当・委員会が機能していない

#### 3. 「人手・教育・資質」が足りない

人手が不足して教育・資質が伴わず業務への偏りがある。外国人職員への指導不足などにより利用者との関わりが少ない。

#### 4. 「施設・設備環境」の見直しと改善の必要性

車いすの種類やセンサーの不足、中間浴槽の老朽化、縦長の構造による見守りの難しさなど、ハード面(縦長構造)の改善が必要。収納場所や片づける場所、食事場所が不足している。汚れやほこりの多さなど、生活環境の整備が必要。



### 【(特に解決を優先すべき)課題】

#### 1. 「業務・管理体制」が不十分

倫理観や介護観はサービスを提供する上で一番優先すべき事柄であり、法人や施設、事業所の理念や方針が徹底されていないことが要因の1つと考えられる。経験、スキルの差だけでなく意識の欠如があるのではないかと施設においてケアを提供するにあたりベクトルが1つになっていないことが要因として挙げられる。こうした内容を徹底した上で、サービスを充実させるために必要なことは何か。活用できるAI機器はあるか？

## 3. 企画書のフィードバック

### 相互評価

- 相互評価シート(参考シート)を活用
- 他施設との比較から学ぶ
- 共通の課題と独自の課題を明確化

### 講師からのフィードバック

- 企画の方向性を強化するためのポイント
- 施設ごとの改善点の具体的な指摘
- 成功事例の紹介(「STEP 2 PBL教材」より)



## 4. 企画書のブラッシュアップ

### 改善の視点

1. AI機器の具体性（どの機器を、どの場面で使うか）
2. 導入計画の詳細化（スケジュール・リソース・コスト）
3. 施設の特性を活かした差別化
4. 実現可能性の向上

### 具体的な修正点

- 費用対効果の明確化
- 操作のしやすさ
- 他システムとの連携
- 導入後のサポート体制



## 5. 企画書の記載項目

- 目的（なぜAI機器を導入するのか）
- 導入対象者
- 実施施設
- 実施内容
- 予算計画
- 導入スケジュール
- 成功のためのポイント

### 記載例

- 「企画書（2.18サンプル）」より、AI機器選定の事例を参考にする。



## 6. 最終発表 & 講評

- 各施設が改善後の企画書を発表
- 講師と参加者からのフィードバック
- 講師の総評
- 実現可能な計画になっているか？
- 施設の特性に合わせた工夫があるか？
- 導入後の運用まで考えられているか？



## 7. まとめ & 次のステップ

- 本日の学びの振り返り
- 各参加者が「本日得た一番の学び」を共有
- 今後のアクション
- 各施設で実行に移すための準備



# 8. 参考資料

- STEP 2 PBL教材
- 企画書（2.18サンプル）
- 参考シート（気づき記録・相互評価）



## 参考資料

**AI機器導入における企画書③** (と題法に向けて)

**【1】課題**  
①タイトル 企画書におけるAI機器導入の提案について  
②提案者名 佐藤 太郎  
③提出先 管理課  
④提出日 令和7年2月18日(水)

**【2】現状分析・企画書概要**  
高齢者の生活の質の向上は多岐にわたる。一方で、スタッフの負担も軽減せず、稼働中のスタッフがいれば、サービスを維持する人員としては必要がないが実現である。  
AIサービス導入のメリットは、業務の自動化による業務効率化、コスト削減、スタッフの負担軽減などがある。一方で、導入初期には、スタッフの不安や慣れない操作による業務の遅延や、導入後の運用コストの増加などがある。  
本企画書の目的は、AIサービスの導入による業務効率化とコスト削減を実現するとともに、スタッフの負担軽減と業務の安定化を図ることである。  
本企画書の目的は、「導入後の運用コストの削減」と「導入後の業務効率化」を実現することである。  
本企画書の目的は、「導入後の業務効率化」と「導入後の業務安定化」を実現することである。

**AI機器導入における企画書③** (と題法に向けて)

**【3】機器の選定・選定**  
「ロボティック・プラットフォーム（株式会社）」  
「株式会社 株式会社」  
この機器は、ロボットが自動で掃除を行うことができる。音声コマンドで操作することができ、掃除の範囲や頻度を自由に設定することができる。また、掃除の履歴を確認することもできる。  
(価格) 2万円(税別)～

**【3】機器の選定・選定**  
ロボットの導入は、業務効率化やコスト削減を実現する上で、重要な役割を果たす。導入後は、業務の安定化を図ることができ、業務の効率化を図ることができる。  
(価格) 2万円(税別)～

**【4】期待とデメリット**  
メリット  
①業務効率化  
②コスト削減  
③業務の安定化  
デメリット  
①導入コスト  
②導入後の運用コスト

**AI機器導入における企画書③** (と題法に向けて)

**【6】導入スケジュール**  
①導入日: 2025年6月下旬(令和7年度の補助金による導入を検討している)  
②(実際の)活用予定日: 2025年7月以降  
(予定)スタート  
導入日→スタッフ・利用者及び家族への周知→活用トレーニング(1週間程度)  
7月～ → 8月中旬 → 8月末 → 9月第1週以降  
→ 開始は資料として実施

**【7】機器の導入先**




【企画】導入先は、ロボティック・プラットフォーム(株式会社)です。

**AI機器の活用事例①**

**【課題】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【状況】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【機器の選定と活用事例】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**AI機器の活用事例②**

**【課題】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【状況】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【機器の選定と活用事例】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**AI機器導入における企画書①** (と題法に向けて)

**【課題】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【状況】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

**【機器の選定と活用事例】**  
①(課題や課題)の解決が難しい。  
②(課題や課題)の解決が難しい。  
③(課題や課題)の解決が難しい。

## 気づき記録シート

項目	記入内容
気づいたポイント	例: 施設の規模による課題の違いがある
他施設との共通点	例: 人材不足の悩みは共通している
参考になった点	例: AI導入による業務効率化の事例が有益だった
改善できる点	例: 費用対効果を明確に示すと説得力が増す
今後のアクション	例: 施設内で技術導入に関するワークショップを実施する

## 導入候補サービス ①

### コミュニケーションロボット①

「PALRO(パルロ)」：富士ソフト株式会社

PALRO(パルロ)は、「PALRO パルロ」は会話とコミュニケーション力が特徴の介護コミュニケーションロボット(介護予防支援ロボット)として、介護サービスを提供する様々な場面で活用ができる。

利用者とのコミュニケーションの他にも歌、ダンス、体操、ゲームと多種多様な機能が満載されており、介護コミュニケーションロボットの最先端で職員様の一員として今、介護の現場で活躍の幅を増やしている。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ②

### コミュニケーションロボット②

「LOVOT(らぼっと)」：GROOVE X 株式会社

カメラ、サーモグラフィー、マイク、障害物検知、明るさセンサーなど多種のセンサーを搭載しており、センサーがとらえた刺激を機械学習で処理し、リアルタイムでさまざまな動きがある。特に目はディスプレイになっていて、表現力も凄い。

LOVOTはペットのようにだんだんと家族になるロボットであり、名前を呼ぶと近づいてきて見つめてくる。好きな人になついで抱っこをねだる。抱き上げるとほんのりと温かい。ロボットではあるが、まるで生き物のような生命感があるのが特徴である。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ③

### コミュニケーションロボット③

「PARO(パロ)」：株式会社知能システムほか

メンタルコミットロボット「パロ」は、本物の動物を飼うことが困難な場所や人々のために、セラピーを目的に開発された。

デイサービスセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、小児病棟、児童養護施設などで、数多く、長期間に渡る実験を続けることにより、アニマル・セラピーと同じ効果を得られることを確認されており、人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行うことを目的にした、メンタルコミットロボットである。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ④

### 入浴介助機器①

「アラエル」：酒井医療株式会社

アラエルは、絶妙な位置に配置されたシャワーノズルで、全身くまなく洗うことが出来、洗いたいところ、洗うべきところにあたる位置や角度を導き出している。身体の隅々までしっかりと洗える為、費やす時間や労力を大幅にカット出来、介助する側の負担軽減につながる。長さ1750mm×幅1130mmというコンパクトなシャワードーム。中の空間は広々としていて、まるでミニバンのような設計となっている。小さな浴室でもゆったり快適に使うことが出来る。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑤

### 入浴介助機器②

「ヌクティ」：株式会社アマノ

『ヌクティ A99A/A99AS』は、入浴する方の身体状況にあわせて入浴スタイルを選べる座位入浴装置であり、2m×2mの省スペース浴室に設置可能である。1台で3パターンの入浴スタイルに対応している。歩いて入浴する「自立入浴」、スライドターンテーブルを使った「サポート入浴」、シャワーチェアで入浴する「シャワーチェア入浴」の3つのスタイルで入浴でき、バスタブは、毎回新しいお湯で入る「新湯タイプ」と、お湯をろ過して再利用する「ろ過タイプ」から選べる。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑥

### 入浴介助機器③

「ピュアット」：株式会社金星

ウルトラファインバブルという目に見えない程の小さい泡が、ボディソープや擦り洗い不要で、お湯に浸かるだけで身体の汚れを落とす。擦り洗いの必要がなくなるので、利用者の肌にとっても優しい洗身を提供し、職員様の介助負担や時間も大きく減らすことが出来る



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

# 導入候補サービス ⑦

## 見守りシステム①

「見守りライフ」：トーテックアメニティ株式会社

ベッド脚に取り付けた4つのセンサが入居者のベッド上の動きを検知し、ナースコールへ通知することで 転倒・転落リスクの低減に貢献する。

従来のマット型センサでは難しかった「動き出し」「起き上がり」「端座位」を検知する為、入居者が離床する前に早期に駆けつけることが可能となる。

入居者の状態や体重・バイタル情報を蓄積することで、生活リズムや健康状況の把握が可能となり、生活改善・介護プランに活用出来る。複数人の入居者の状況を同時にモニターで見守ることができ、人手が少ない夜間などに介護スタッフの負担軽減を図り、介護の質向上に貢献する。既存の設備や機器に対して連携できるようになっており、新たに付帯設備を投資することなく利用することが出来る。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

# 導入候補サービス ⑧

## 見守りシステム②

「シルエット見守りセンサ」：キング通信工業株式会社

センサーで高齢者・入居者の動きを見守り、徘徊や転倒などのリスクを未然に防止。

離れた場所からシルエット動画を確認でき、介護の負担を軽減する。

シルエット見守りセンサは、入居者の動きを5段階で判別し端末に通知し、シルエット動画を確認することで離れた場所からでもプライバシーに配慮しながら、徘徊や転倒などの問題を未然に防ぐことが出来る。入居者の安心・安全を見守りながら、介護者・ご家族の負担を軽減する。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑨

### 見守りシステム③

「CareBird」：三昌商事株式会社

『CareBird(ケアバード)』は、施設内のパソコン画面上に部屋毎のアイコンで現在の利用者の状態を「色」と「体位」で表示する見守りセンサー。異常の際は、アイコンが画面中央にポップアップすると同時にパソコンから「アラートメロディ」で異常を知らせる。

事前に「指定された携帯端末やPHSへメールやLINEで部屋番号と共に異常を知らせる。センサーデータがクラウドに保存されるため、入所者毎に時系列グラフによるバイタル変化の把握、睡眠や生活リズムの傾向を可視化することが出来る。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑩

### 移乗サポートロボット①

移乗サポートロボット Hug：株式会社FUJI

「HUG(ハグ)」は、安全で快適な移乗サポートを実現する介護支援ロボットです。利用者と介護スタッフ双方の負担を軽減し、安心・安全な移乗介助をサポートします。高精度な動作制御と人間工学に基づいた設計により、ベッドや車椅子間の移乗をスムーズに行い、直感的な操作性で効率的な介助が可能です。介護スタッフの頼れるパートナーとして、「HUG(ハグ)」は日々の業務を支え、より質の高いケアを実現します。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑪

### 移乗サポートロボット②

ROBOHELPER SASUKE:マッスル株式会社

「ROBOHELPER SASUKE(サスケ)」は、移乗介助をより効率的かつ安全に行うために設計された介護支援ロボットです。特に、ベッドから車椅子への水平移乗を得意とし、介護スタッフの負担を大幅に軽減します。SASUKEは「水平移乗」に特化しており、安定性とスムーズな移動を重視しています。これにより、利用者は身体への負担が少なく、よりリラックスした状態で移乗が可能です。直感的な操作性と精密な動作制御により、スタッフは力を使わず効率的に移乗介助を行えます。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑫

### 移乗サポートロボット③

リシヨーンPLUS:パナソニックエイジフリー(株)

「リシヨーン(Resyone)」は、ベッドと車椅子が一体化した革新的な介護支援ロボットです。特に、移乗の動作自体を最小限に抑える設計が特徴で、介護スタッフと利用者双方の負担を大幅に軽減します。リシヨーンは「ベッドから車椅子への変形機能」を活かし、移乗というプロセスそのものを簡素化しています。これにより、利用者はほとんど体を動かすことなく、安全かつ快適に移乗が完了します。直感的な操作性とシンプルな機構により、スタッフは最小限の労力で効率的に介助を行えます。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑬

### 業務支援①

ポケットーク : ポケットーク株式会社

「ポケットーク」は、ポケットーク株式会社が提供するAI翻訳機で、音声とテキストの双方向翻訳を瞬時に行うことができるデバイスです。介護現場では、多国籍の利用者や外国人スタッフとの言葉の壁を取り払い、スムーズなコミュニケーションをサポートします。ポケットークは85以上の言語に対応しており、話した言葉をすぐに翻訳して音声とテキストで表示します。これにより、言語の違いによる誤解や情報の伝達ミスを防ぎ、信頼関係の構築や質の高いケアの提供が可能になります。「ポケットーク」は、介護現場の多様化が進む中で、言語の違いによる不安やストレスを解消し、円滑なコミュニケーションと安心感のあるケアを実現する頼れるAI翻訳パートナーです。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 導入候補サービス ⑭

### 業務支援②

FTCare-i ATコネクト : 株式会社エフトス

「FTCare-i ATコネクト」は、時間管理と多角的なデータ収集・分析に特化したモバイル用介護支援アプリケーションです。利用者の介護記録だけでなく、スタッフの業務内容や介護ロボット機器の稼働状況、自立度など、幅広いデータを一元管理し、効率的な業務改善やデータ分析を可能にします。これにより、日々のケア記録を超えて、生活リズムの把握や業務の可視化、効果的な運用改善が可能です。「FTCare-i ATコネクト」はデータを活用した業務改善とケアの最適化を実現するアプリです。どちらも介護現場に欠かせない存在ですが、その役割には明確な違いがあります。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

## 業務支援③

福祉の森 : 日立システムズ

「福祉の森タブレット」は、介護業務の効率化と情報共有を目的としたタブレット型介護支援システムです。スタッフはタブレットを通じて、日々の介護記録や利用者の状態を直感的な操作で簡単に入力・確認でき、現場の負担を軽減します。福祉の森タブレットは、情報共有と業務記録の効率化をバランスよく組み合わせ、タブレットならではの操作性と柔軟性を活かして、現場スタッフが無理なく日々の業務に取り組める環境を提供します。「福祉の森タブレット」は、使いやすさとリアルタイムな情報管理を両立させ、介護現場全体の業務効率向上ときめ細やかなケアの実現に貢献する、頼れるデジタルパートナーです。



多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

教材 知識教材



令和5年度  
「専門職業人材の最新技能アップデータのための  
専修学校リカレント教育推進事業」

## 介護DX多国籍共生 介護現場のマネージャー対象 AI導入研修①



学校法人長良学園  
向陽台水口専門学校

## 目次

### 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題

- 1 節 文化的多様性
- 2 節 言語障壁
- 3 節 チームワーク
- 4 節 適応と柔軟性
- 5 節 共生環境の構築

### 第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野

- 1 節 自然言語処理 (NLP)
- 2 節 機械学習
- 3 節 音声認識
- 4 節 感情分析
- 5 節 ロボティクス

### 第3章 AI導入における課題と倫理的考慮事項

- 1 節 プライバシー保護
- 2 節 倫理的判断
- 3 節 透明性
- 4 節 データの偏り
- 5 節 技術依存

### 第4章 導入事例の分析

- 1 節 成功事例
- 2 節 失敗事例
- 3 節 改善策
- 4 節 コスト効果分析
- 5 節 ユーザーフィードバック

### 第5章 導入計画

- 1 節 ニーズ分析
- 2 節 ハイロフトプロジェクト
- 3 節 トレーニングと教育
- 4 節 評価とフィードバック
- 5 節 スケールアップ



令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデータのための専修学校リカレント教育推進事業」

## 第1章

# 多国籍共生介護の重要性と課題



# 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題

- 1 節 文化的多様性
- 2 節 言語障壁
- 3 節 チームワーク
- 4 節 適応と柔軟性
- 5 節 共生環境の構築



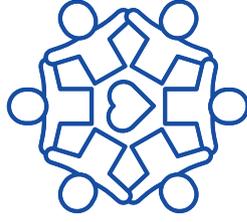
令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデータのための専修学校リカレント教育推進事業」

令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデータのための専修学校リカレント教育推進事業」

## 第1節 文化的多様性

「文化的多様性」とは介護現場での異文化間コミュニケーションの理解と尊重の必要性のことを指す

- ① 異背景が環境の豊かさに貢献
- ② 文化の違い理解で満足度の向上
- ③ 誤解偏見がコミュニケーション障壁に
- ④ 文化受容で協力信頼の構築
- ⑤ 独自性認識が共生を促進



## 第1節 文化的多様性

### ① 異背景が環境の豊かさに貢献

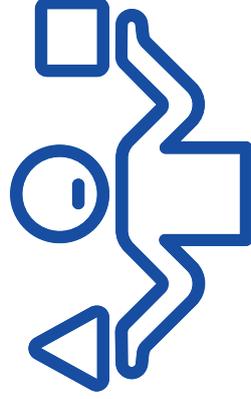
介護施設で異なる文化背景を持つ人々が集まることは、多彩な言語、価値観、信念、慣習が交わり合い、スタッフと利用者の両方にとって豊かな環境を創りだす。多国籍のスタッフによる文化的知識は、個別化されたケアの提供に。また、異文化の祭りや食事を取り入れた活動は、利用者に新たな体験、暮らし方や学びにも。



## 第1節 文化的多様性

### ② 文化の違い理解で満足度の向上

文化的多様性によって生じる創造的かつ革新的なアイデアが新たな介護環境を生み出す。そのためには、より広い視野を持ち、お互いの背景にある文化を尊重し、理解することが大切。このことが、働く環境をより包括的で快適なものに。



## 第1節 文化的多様性

### ③ 誤解偏見がコミュニケーション障壁に

それぞれの生活習慣から起こる独自の背景が、どのような場面でもすぐに理解できるとは限らない。多国籍が集まる中で、食べ物や生活スタイルなどが異なることへの理解を深める前の誤解や偏見を持ったまま接することは、人が集まるコミュニケーションの場で障壁となる。



## 第1節 文化的多様性

### ④ 文化受容で協力信頼の構築

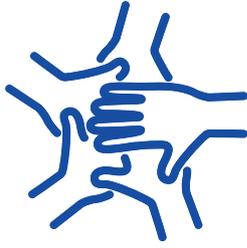
異なる背景の文化を尊重し、受け入れることでスタッフ間の信頼関係が生まれ、全体としての協力にもつながる。

たとえば、イベントを通して各国の祝日を祝い、

多文化の食事を共有したりすることで、

利用者やスタッフ間で異文化を学ぶことができる。

このような温もりを感じながらの相互理解がチームワークの強化、信頼関係を築く。



## 第1節 文化的多様性

### ⑤ 独自性認識が共生を促進

それぞれの異なる背景からくる文化や経験は、

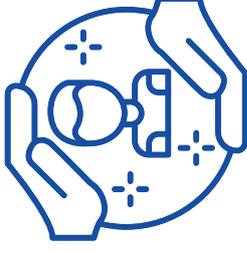
個人を定義する大切なこと。

スタッフが自分の国の文化を伝え、人々が交流、

お互いの歴史と価値観を共有する機会を持つことは、

スタッフや利用者の独自性を認識し、その価値を高める。

このようにそれぞれを認めることが、共生促進へ。



## 第2節 言語障壁

「言語障壁」とは日本人介護士と外国人介護士間の言語的な障壁の克服

### ① 言語問題がコミュニケーション障害

### ② 情報伝達困難で安全性へ影響

### ③ 緊急時対応の効率向上

### ④ 多言語ツール導入が解決策

### ⑤ 基本言語習得で障壁を克服



## 第2節 言語障壁

### ① 言語問題がコミュニケーション障害

言語的な障壁は日々のコミュニケーションを困難にして

いき、結果として信頼関係の構築に支障をきたす。

小さな誤解、わかりにくさが、次第に大きな溝となる。

介護現場では、スタッフ間の潤滑なコミュニケーションが

不可欠で、そのためには、日常のコミュニケーションが重要。

そのことが介護現場での共生、環境改善となり、

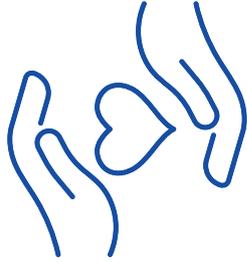
利用者との信頼も築くことに繋がる。



## 第2節 言語障壁

### ② 情報伝達困難で安全性へ影響

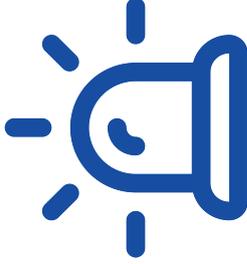
異なる言語での相互理解において、専門用語のみならず、利用者の複雑な感情なども伝わりにくいことがあり、不適切なケアとなりかねない。  
利用者の健康管理に気を配らなければならない介護の現場で、誤解や指示の不明確さは、緊急時のトラブルを招く恐れもある。



## 第2節 言語障壁

### ③ 緊急時対応の効率向上

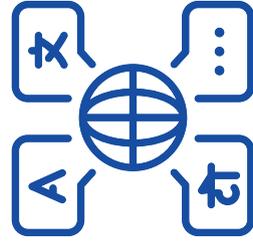
利用者などの急な体調変化やケガなど、急な対応が必要となる場合もあり、その際、正しい伝達がなされることで、速やかな対応ができる。  
まずは、言語的障壁の解消、日常的に円滑なコミュニケーションを取っておくことが、思わぬトラブルに見舞われた緊急時の迅速かつ正確な対応に繋がる。



## 第2節 言語障壁

### ④ 多言語ツール導入が解決策

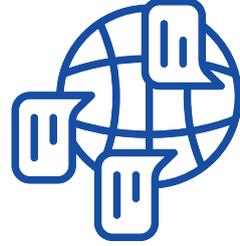
働く環境では、スタッフ間での多言語習得は難しく、個々の負担が少ない解決策として、多言語対応のコミュニケーションツールがある。  
このツールやアプリケーションの導入により、コミュニケーションを円滑にしていけることができる。  
これらの導入は、言語の壁を乗り越えた効果的なコミュニケーションを実現するための体系的なプロセスへと発展させることができる。



## 第2節 言語障壁

### ⑤ 基本言語習得で障壁を克服

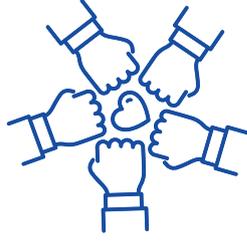
すべてのスタッフが基本的な共通言語を学び、言語障壁がなくなると、円滑なコミュニケーションできる。  
このことは、業務の効率化や緊急時の迅速な対応へ繋がる。  
個々の努力に合わせ、言語習得のサポート体制や学習のためのリソース、プログラムを整える環境も大切となる。



## 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題 第3節 チームワーク

「チームワーク」とは異文化背景を持つ  
スタッフ間での効果的なチームワーク構築の方法

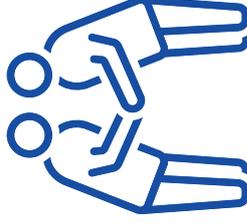
- ① 異文化理解の尊重から始まる
- ② 役割分担と責任共有が鍵
- ③ オープンコミュニケーションが重要
- ④ 文化的背景の強みを活用
- ⑤ 最高のケア提供への基盤



令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

## 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題 第3節 チームワーク

- ① 異文化理解の尊重から始まる  
介護現場では、異なる文化を認め、敬意を表することが重要。それぞれの背景にある文化を理解し、尊重することが基礎となり、それは効果的なチームワークとなる。そのためには、定期的な文化交流会や研修を通じて、お互いの習慣や価値観を共有し合うことも含め、チームのコミュニケーションを強めることや、互いの違いを「プラス」に変えることも必要となる。



令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

## 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題 第3節 チームワーク

- ② 役割分担と責任共有が鍵  
チームワークを円滑にする上では、チーム構成も重要。役割分担を明確にし、責任をチームで共有することは、個々の小さな動きを大きなチカラへと変えていくこともできる。  
各スタッフは、自分の役割を理解し、チーム全体の目標に貢献する意識を持つことも大切。異なる文化を強みを生かした役割分担は、それぞれの個性と能力を最大限に活かし、チームの総合力を高めることもできる。



令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

## 第1章 多国籍共生介護の重要性と課題 第3節 チームワーク

- ③ オープンコミュニケーションが重要  
多文化のチーム内で信頼を築き、誤解を防ぐためにはコミュニケーションは、オープンであることが必要。積極的なリスニングと相手の意見を尊重する姿勢から、信頼のおける意見交換などの環境を作り出すことができる。さらに、このような環境は、新しいアイデアや改善点が自由に提案される土壌を育み、チーム全体の向上へ繋がる。

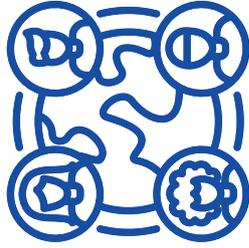


令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

### 第3節 チームワーク

#### ④ 文化的背景の強みを活用

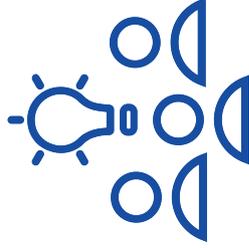
ある文化ではコミュニケーションスキルが、また別の文化では問題解決能力が高く評価されることがある。このようにそれぞれ別の文化的背景には、独自の強みがあるため、その特性を理解することは、チームの構築に効果的。介護プランの作成や実行にも異なる文化的背景が活用でき、より質の高いケアが提供できる。



### 第3節 チームワーク

#### ⑤ 最高のケア提供への基盤

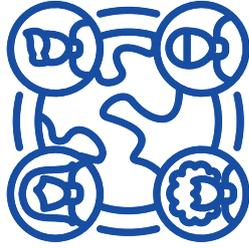
最高のケアを提供することを考える介護現場においては、効果的なチームワークが基盤となる。異文化理解を深めることは、利用者の文化的ニーズにも対応でき、快適な生活を向上させる。利用者にとって最も適切なケアを選択し、その実施を可能にすることは、介護サービスの目標であり、そのためにもチームワークの構築に努める必要がある。



### 第3節 チームワーク

#### ④ 文化的背景の強みを活用

ある文化ではコミュニケーションスキルが、また別の文化では問題解決能力が高く評価されることがある。このようにそれぞれ別の文化的背景には、独自の強みがあるため、その特性を理解することは、チームの構築に効果的。介護プランの作成や実行にも異なる文化的背景が活用でき、より質の高いケアが提供できる。



### 第4節 適応と柔軟性

「適応と柔軟性」とは多様なバックグラウンドを持つスタッフと患者に適応するための柔軟性

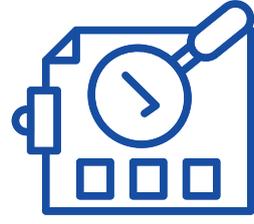
- ① 常に変化する患者ニーズに対応
- ② 異文化理解による柔軟性を要求
- ③ 文化価値観の尊重で適応
- ④ スタッフ協調性の向上効果
- ⑤ ケアの質向上に不可欠



### 第4節 適応と柔軟性

#### ① 常に変化する患者ニーズに対応

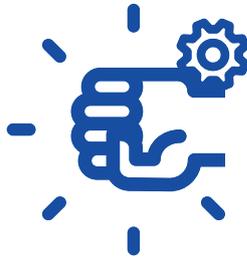
介護においては、患者のニーズが日々、時には時々刻々と変化することも多い。スタッフは、この変化に迅速かつ適切に対応するための柔軟性を持つ必要がある。これには、患者一人ひとりの生活習慣、文化的背景、そして個々の健康状態に敏感であることが求められ、絶えず変わるニーズに対応する能力は、高品質のケアを提供する上で不可欠である。



## 第4節 適応と柔軟性

### ② 異文化理解による柔軟性を要求

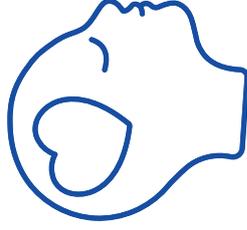
多様な文化的バックグラウンドを持つスタッフが働く現場では、異文化間の理解が深い柔軟性が求められる。言語や習慣の違いを乗り越え、各スタッフが相互の強みを理解し利用することは、チームとしての対応能力を高める。そのためにも異文化を理解することが、スタッフ間の協力を促進、多角的な視点で患者ケアに取り組むことを可能とする。



## 第4節 適応と柔軟性

### ③ 文化価値観の尊重で適応

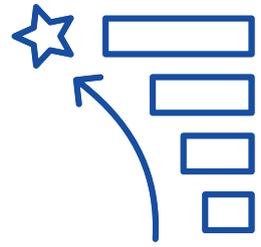
介護サービスにおいて患者の文化的価値観を尊重することは、心地よいケア環境を提供する上で重要です。それは、患者の信念や宗教的観点を考慮、それに基づいたケアを行うことを意味します。このような配慮は、患者に安心感を与え、スタッフへの信頼関係を構築、療養生活の質を高めることができます。文化的理解は、ケアの質を全体的に向上させることへと繋がっていきます。



## 第4節 適応と柔軟性

### ④ スタッフ協調性の向上効果

文化的多様性を受け入れることは、スタッフ間の協調性を向上させることにも寄与します。この協調により、患者ケアにおいてもプラスの効果を生み出し、効率的で連携の取れたケアの実現ができます。お互いの違いを理解、尊重することから次第にチームワークの強化となり、多様な患者への対応にも適応するチカラとすることができま。そして、これが全体のケアの質の向上となります。



## 第4節 適応と柔軟性

### ⑤ ケアの質向上に不可欠

多様なバックグラウンドを持つスタッフと患者へ柔軟に適応するためには、異文化間理解とともにスタッフの協調性が不可欠である。これらの要素が整うことにより、患者に寄り添ったケアを提供することができる。優れたケアは、利用者の満足度を高めることに繋がりが、患者の心身の健康を促進し、生活の質の向上に繋がる。



## 第5節 共生環境の構築

「共生環境の構築」とは  
多国籍共生介護現場における共生環境の構築方法

- ①異文化理解促進で共生基盤
- ②相互尊重が共生環境に必要
- ③文化学習と価値観の共有
- ④協力的な業務の遂行を支援
- ⑤支援的な共生環境の提供



## 第5節 共生環境の構築

### ① 異文化理解促進で共生基盤

異文化間の理解を促進することは、多国籍共生介護現場で共生するための基盤となる。

スタッフが互いの文化を学び、尊重するトレーニングを受けると、お互いの背景を理解し、より良いケアを提供するための協力的体制を強化できる。この共生の基盤は、多様性を利点として活かし、介護サービスの質を高めることにも繋がる。



## 第5節 共生環境の構築

「共生環境の構築」とは  
多国籍共生介護現場における共生環境の構築方法

- ①異文化理解促進で共生基盤
- ②相互尊重が共生環境に必要
- ③文化学習と価値観の共有
- ④協力的な業務の遂行を支援
- ⑤支援的な共生環境の提供



## 第5節 共生環境の構築

### ② 相互尊重が共生環境に必要

相互尊重は、共生環境を育むためには、不可欠。異なる文化的背景を持つ利用者や患者、スタッフがお互いの価値と尊厳を認め合うことで、信頼との信頼関係を築くことができる。このような環境作りに努めることは、スタッフが個々の利用者や患者に対してより適切なケアを提供する基盤となる。



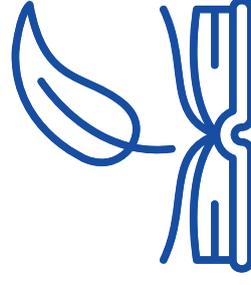
## 第5節 共生環境の構築

### ③ 文化学習と価値観の共有

スタッフは、異文化を理解するためにも文化的知識の学習と価値観の共有が効果的である。

例えば、定期的なカルチャートレーニングやセッションを開催すると、スタッフは様々な文化的慣習を学び、共有することができる。

このことにより得た知識は、日常の業務に応用することが可能、介護現場での共生とチームワークを促進にも繋がる。



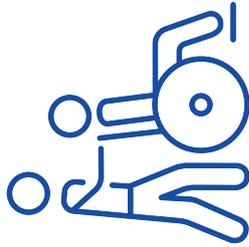
## 第5節 共生環境の構築

### ④ 協力的な業務の遂行を支援

異文化の理解を深めたスタッフは、役割分担を明確にしたチームで互いに協力して、より効率的かつ効果的なケアを提供することができる。

そのスタッフ間の協力を促すことは、共生環境における業務の遂行の支援となる。

協力的な業務環境が整うことは、スタッフの士気を高め、利用者や患者の満足度向上へ繋げることができる。



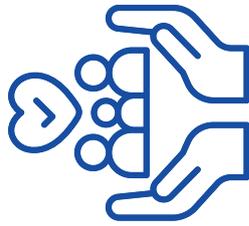
## 第5節 共生環境の構築

### ⑤ 支援的な共生環境の提供

スタッフは、利用者や患者一人ひとりのニーズに応じたケアを実施することができる。

そのためには、介護環境がスタッフの多様なバックグラウンドを支援し、それぞれが専門知識を活かして共に働きやすい職場を作り出すことが求められる。

このことにより、質の高いケアサービスへと繋がるため、支援的な共生環境を提供することは大切である。



## 第2章

# AI技術の概要と介護及びその隣接分野



# 第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野

## 1節 自然言語処理 (NLP)

## 2節 機械学習

## 3節 音声認識

## 4節 感情分析

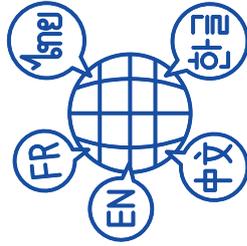
## 5節 ロボティクス



## 第1節 自然言語処理 (NLP)

「自然言語処理 (NLP)」とは言語の壁を越えるコミュニケーションツールとしての役割

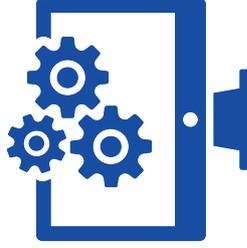
- ① コンピュータによる言語理解
- ② 多言語コミュニケーションの促進
- ③ 文書翻訳ツールの活用
- ④ 言語超えた会話支援システム
- ⑤ 包括的なケア提供の実現



## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ① コンピュータによる言語理解

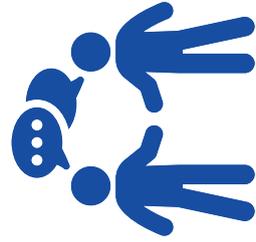
異言語を理解できないことからコミュニケーション不足となり、業務の障壁へ繋がることがある。しかし、その課題となる多言語をコンピュータが理解することにより、言語問題によるバリアを取り除くことができる。AI技術が、人間の言語の意味を解析し、異言語同士のコミュニケーションも円滑にすることができる。また、コンピュータがより複雑で多様な表現を認識することで、より正しい情報伝達となる。



## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ② 多言語コミュニケーションの促進

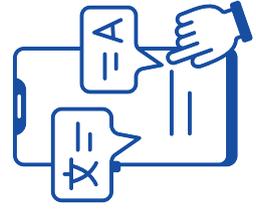
異なる言語背景を持つスタッフ同士で、人間の多言語を理解するコミュニケーションツールを利用することで、スムーズな情報伝達が可能となる。AI技術による自動翻訳機能は、即座に対話を可能にし、職場でのチーム連携を強化にも繋がる。また、スタッフだけでなく利用者や患者との異言語によるコミュニケーションを円滑におこなうことができるため、ケアの質も向上する。



## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ③ 文書翻訳ツールの活用

介護の現場では、専門用語を含む重要な書類やマニュアルなどがあり、迅速な共有が求められる。文書翻訳ツールを活用すると、異言語により課題も解決でき、全員が理解しやすい形で情報提供ができる。このことは、誤解の減少、作業効率向上となり、多様性をチカラに変えることにも繋がる。



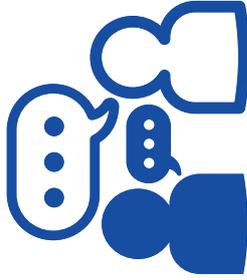
## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ④ 言語超えた会話支援システム

AI技術による会話支援システムを導入することで、言語の壁を感じさせないナチュラルな対話を実現できる。

これは、スタッフ同士のみならず、利用者や患者との円滑なコミュニケーション促進となり、多言語の理解不足による誤解も減少できる。

様々な文化的背景、ニュアンスや表現も理解することができ、チームの協調にも繋がる。

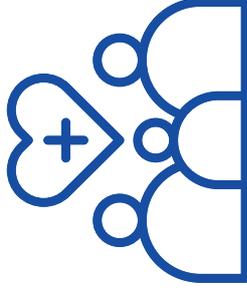


## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ⑤ 包括的なケア提供の実現

言語を超えた理解は、スタッフも迅速な業務をおこなうことができるため、チーム全体としての質も高めることができる。チームとしての向上が、患者一人ひとりの言語的ニーズに対応でき、利用者や患者にとって包括的なケアに繋がりを満足度を高める。

このように、AIによる多言語コミュニケーションツールは、包括的なケアを提供する上で不可欠である。



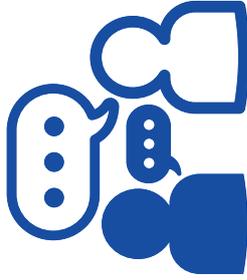
## 第1節 自然言語処理 (NLP)

### ④ 言語超えた会話支援システム

AI技術による会話支援システムを導入することで、言語の壁を感じさせないナチュラルな対話を実現できる。

これは、スタッフ同士のみならず、利用者や患者との円滑なコミュニケーション促進となり、多言語の理解不足による誤解も減少できる。

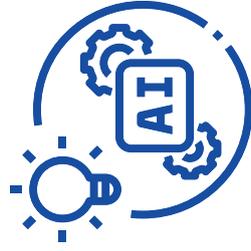
様々な文化的背景、ニュアンスや表現も理解することができ、チームの協調にも繋がる。



## 第2節 機械学習

「機械学習」により介護記録やコミュニケーションのパターンを分析し、改善を促す

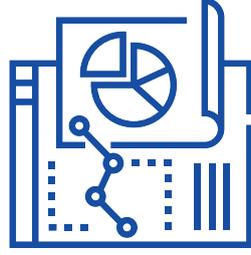
- ①データからの学習予測
- ②患者の健康状態を分析
- ③個別ケアプランの作成
- ④ケアの質向上に寄与
- ⑤介護データ活用の促進



## 第2節 機械学習

### ① データからの学習予測

機械学習は、過去の介護記録から有用なパターンを抽出し、これを利用して将来のケアニーズを予測する。この学習による予測を利用すれば介護現場のマネージャーは、リソースの配分を最適化することができ、チームでの役割分担にも活かすことができる。計画的な業務改善をおこない、効率的な対応となる予測モデルは常に新しいデータを学習していき、精度を高めていく。

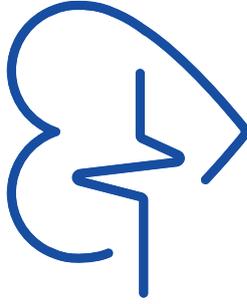


## 第2節 機械学習

### ② 患者の健康状態を分析

AI技術は、患者の健康記録を分析し、予測することもできる。微妙な変化やリスクを見抜き、病気の予防や早期発見が可能となれば介護の質も向上する。

マネージャーは、AIによる健康状態の分析を通して、患者ごとの健康リスクを理解し、個別の介護計画の調整を行うことができるため、緊急時の対応も含めた健康管理がしやすくなる。

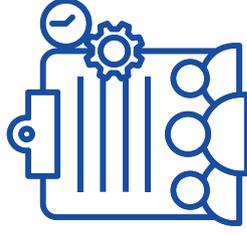


## 第2節 機械学習

### ③ 個別ケアプランの作成

過去の学習データの分析から、カスタマイズされた個別のケアプランを作成することも迅速で、より精度の高いものができる。

AIは、個人の健康状態、過去の介護履歴、好み、生活スタイルを考慮に入れた個別ケアプランの作成を支援。スタッフは、これらのケアプランに、より人間らしいケアを加えて、利用者や患者に提供することができる。



## 第2節 機械学習

### ④ ケアの質向上に寄与

AIは、膨大なデータから分析と学習と繰り返すため、定量的データと質的洞察の両方を統合することで、介護スタッフはより情報に基づいた決定を下すことが可能となる。

これまで人的におこなっていた作業を簡略化することができれば、ケア提供の質を大きく向上させることもできる。

そのことは、患者の満足度にも繋がる。

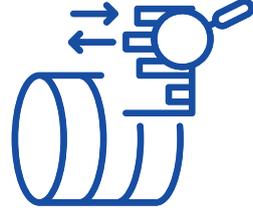


## 第2節 機械学習

### ⑤ 介護データ活用促進

スタッフが介護データをもとに得られた効果をフィードバックすることで、AIはその結果を学習し、より精度を高めた介護データを受け取ることができる。

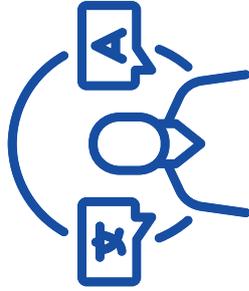
このように介護データの可視化と分析を通じて、介護サービスの効率化、コスト削減、さらには新しいサービスの創出につながる洞察を得ることができ、AIによる分析データの活用は、革新的なケアの提供を実現を可能にする。



第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野  
第3節 音声認識

「音声認識」とは言語やアクセントの違いを越える  
通訳ツールとしての使用

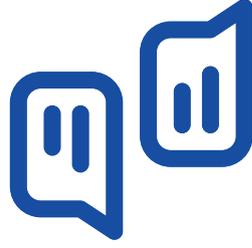
- ①話し言葉のテキスト変換
- ②スタッフ報告の文書化支援
- ③多言語音声認識システムの導入
- ④コミュニケーション障壁の減少
- ⑤記録の正確性向上



令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野  
第3節 音声認識

- ①話し言葉のテキスト変換  
音声認識技術により、話し言葉はリアルタイムでテキストに変換される。  
これは、多国籍共生の介護現場で働くスタッフにとって大きな利点であり、ストレスなくすべてのスタッフが同じ情報を共有することができる。  
この技術は、アクセントなどの癖も理解し、通常の話し言葉を変換するため、効率的なコミュニケーションを実現できる。



令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野  
第3節 音声認識

- ②スタッフが口頭で報告する情報を正確に文書化することは、介護現場での情報共有に不可欠である。  
音声認識はこのプロセスを自動化するため、スタッフの時間と労力を節約となる。  
また、ケアマネージャーは包括的な文書作成もこの支援による作業を簡易化することができる。



第2章 AI技術の概要と介護及びその隣接分野  
第3節 音声認識

- ③多言語音声認識システムの導入  
言語の多様性がある介護環境において、すべてのスタッフがその能力を完全に発揮できるようにするために、多言語をサポートする音声認識システムの導入が効果的。  
異なる言語やアクセントでも高い精度で認識し、介護スタッフ間での円滑なコミュニケーションを促進できる。  
これにより正確な情報伝達や迅速な作業が可能となる。



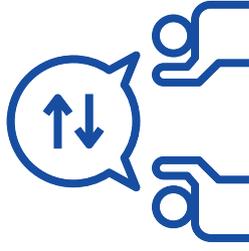
令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

令和5年度「専門職職人材の基幹技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

### 第3節 音声認識

#### ④ コミュニケーション障壁の減少

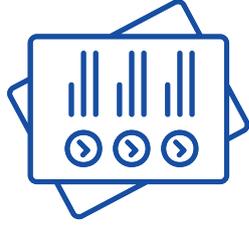
アクセントのある話し言葉なども通訳できる音声認識ツールは、異なる言語や方言を話すスタッフ間のコミュニケーション障壁を大幅に減少できる。これにより、コミュニケーション障壁から起こるチーム内での誤解がなくなり、より高いレベルでの協働が可能となる。介護ケアの質は、スタッフ間のコミュニケーションのクオリティに大きく依存するため、包括的なケアに繋げることができる。



### 第3節 音声認識

#### ⑤ 記録の正確性向上

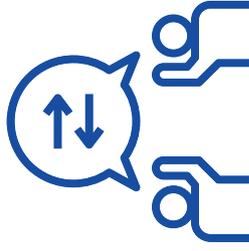
AIは、過去のデータからの学習を繰り返し、より精度の高い介護ケアプランを作成するため、正確な記録が必須となる。このことは、利用者や患者へ質の高い介護を提供する上で極めて重要であり、そのためにも音声認識技術を用いて、記録の正確性が向上させる必要がある。これにより間違いのリスクが低下し、患者のケアに関する詳細が正確に記録され、適切なケアの提供に繋がる。



### 第3節 音声認識

#### ④ コミュニケーション障壁の減少

アクセントのある話し言葉なども通訳できる音声認識ツールは、異なる言語や方言を話すスタッフ間のコミュニケーション障壁を大幅に減少できる。これにより、コミュニケーション障壁から起こるチーム内での誤解がなくなり、より高いレベルでの協働が可能となる。介護ケアの質は、スタッフ間のコミュニケーションのクオリティに大きく依存するため、包括的なケアに繋げることができる。



### 第4節 感情分析

「感情分析」とはスタッフや患者の感情状態を理解し、適切な対応を促す

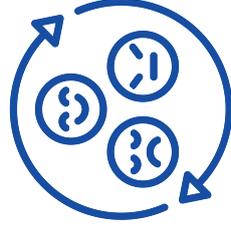
- ① テキスト音声からの感情検出
- ② 心理状態の深い理解
- ③ 潜在的問題の早期発見
- ④ 患者中心のケア実現
- ⑤ 介護の質のさらなる向上



### 第4節 感情分析

#### ① テキスト音声からの感情検出

心理的な感情は声や文章に現れる。AIは、感情分析技術により、このテキストや音声から感情を検出することが可能である。これにより、スタッフは利用者や患者の発言の背後にある感情を把握することがたやすくなる。コミュニケーションにおいてニュアンスの理解は大切。マネージャーは異言語のスタッフ間におけるストレスレベルも管理することができる。



## 第4節 感情分析

### ② 心理状態の深い理解

テキストや音声から感情を分析することは、スタッフや利用者、患者の心理状態を深く理解する一助となる。同じ言語を理解する者同士であっても間違った解釈をしてしまうことがあり、AIによる分析が正しい理解へ導くこともできる。

このことは、マネージャーは、スタッフのウェルビーイングをサポートし、そのスタッフは、患者に対するより良いケアを提供するためのアクションを起こす基盤となる。

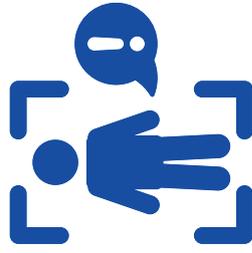


## 第4節 感情分析

### ③ 潜在的問題の早期発見

人間では見つけにくかった感情も分析できるAIの感情分析は、奥に隠された潜在的なストレスによる問題を早期に発見するのに役立つ。

過去のデータから感情的なシグナルを捉え、それが通常のパターンから外れている場合は、マネージャーが速やかに介入し、業務への支障を未然に防ぐこともできる。また、利用者や患者に対しても異言語では理解しにくい感情を掴むことは、健康管理における重症化を防ぐことにも繋がる。



## 第4節 感情分析

### ④ 患者中心のケア実現

テキストや音声から感情を分析することは、スタッフや利用者、患者の心理状態を深く理解する一助となる。同じ言語を理解する者同士であっても間違った解釈をしてしまうことがあり、AIによる分析が正しい理解へ導くこともできる。

このことは、マネージャーは、スタッフのウェルビーイングをサポートし、そのスタッフは、患者に対するより良いケアを提供するためのアクションを起こす基盤となる。



## 第4節 感情分析

### ④ 患者中心のケア実現

介護現場においては、患者一人ひとりの感情的なニーズに配慮することが重要。

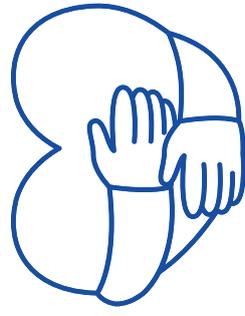
しかし、異言語では細かなニーズを的確に掴むことが難しい場合もあり、感情分析を用いることで、個々の患者の感情をより深く理解し、それに基づいた患者中心のケアが実現可能となる。このことは、スタッフと患者との信頼関係の構築においても重要なポイントとなる。

## 第4節 感情分析

### ⑤ 介護の質のさらなる向上

AIの感情分析により、利用者や患者を心理を深く理解することがたやすくなると、スタッフの対応はより感情に配慮したものに繋げることができるとなる。

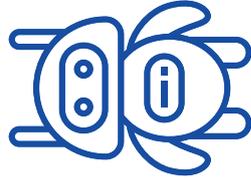
そして、感情分析のデータを介護のケアプランに活かすことで、業務時間の減少にも繋がりが、最終的にこのアプローチが介護の質の全体的な向上に寄与することになる。また、スタッフの業務が簡易化することは、ストレスなく介護現場で長く勤務することが可能となる。



## 第5節 ロボティクス

「ロボティクス」により介護支援ロボットとの連携による物理的な支援とその管理する

- ①物理支援と作業自動化
- ②重労働業務の補助
- ③対話型ロボットによる支援
- ④心理ケアへの貢献
- ⑤効率とケア質の向上

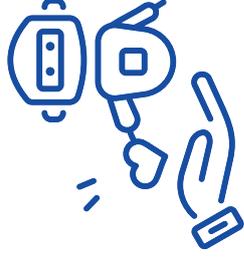


## 第5節 ロボティクス

### ①物理支援と作業自動化

重労働と長時間勤務が課題となっている介護の現場で、ロボティクス技術を介護現場に導入すると、物理的なサポートと作業の自動化が可能となる。

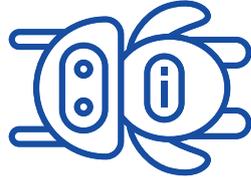
例えば、動くことのできない患者の移動支援、リフティング作業や日常生活動作の支援など、従来は人手に頼っていたタスクを効率化できる。これにより、ケアスタッフは肉体的負担が軽減され、より専門的なケアに集中できるようになる。



## 第5節 ロボティクス

「ロボティクス」により介護支援ロボットとの連携による物理的な支援とその管理する

- ①物理支援と作業自動化
- ②重労働業務の補助
- ③対話型ロボットによる支援
- ④心理ケアへの貢献
- ⑤効率とケア質の向上

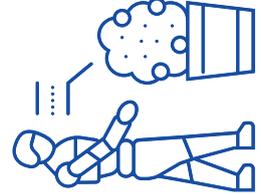


## 第5節 ロボティクス

### ②重労働業務の補助

介護ロボットは、重量物の持ち運びや患者の体位変換など、体力を要する重労働を補助し、スタッフの介護業務による疲労を軽減できる。

このことにより、作業効率を向上させ、スタッフの負担を大幅に減少できることは労働災害リスクを削減にも繋がりが、介護現場の安全性と効率性を同時に高める効果を持っている。



## 第5節 ロボティクス

### ③対話型ロボットによる支援

対話型ロボットは、言語的・非言語的コミュニケーションを通じて、患者との対話をする。

これは、定期的な健康チェックの他、感情も理解して患者の孤立感を減少させることにも繋がる。介護現場における人材不足から、患者の話し相手として時間を取ることが難しいことも多く、ロボットとの対話は、その一助となる。



## 第5節 ロボティクス

### ④ 心理ケアへの貢献

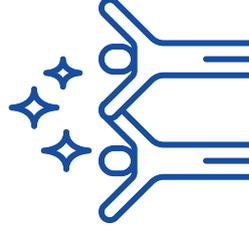
感情分析もできるロボティクスは、心理的なケアにも貢献する。過去のデータ分析をもとに対話するロボットとの交流は、患者に安心感を与えることができる。特に、対話を求めるニーズの高い認知症患者の不安や混乱を軽減することができ、心理的な安定が促され、治療への積極的な参加を促すことへ繋がる。また、スタッフの労働簡易化もできるため、より良い職場環境とすることができる。



## 第5節 ロボティクス

### ⑤ 効率とケア質の向上

介護支援ロボットとスタッフの協働により、介護サービスは包括的に効率と質が向上する。重労働などの物理的なサポートだけでなく、感情も理解し心理サポートも可能なロボットは、スタッフがより個別化されたケアに集中できる時間を創出できる。結果として、利用者や患者とスタッフ双方の満足度が高まる。



## 第3章

# AI導入における課題と倫理的考慮事項



# 第3章 AI導入における課題と倫理的考慮事項

- 1 節 プライバシー保護
- 2 節 倫理的判断
- 3 節 透明性
- 4 節 データの偏り
- 5 節 技術依存



## 第1節 プライバシー保護

### 「プライバシー保護」により 個人情報の取り扱いと保護の確保

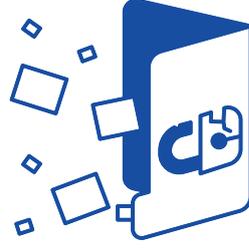
- ① 患者やスタッフの情報保護が重要
- ② 健康個人情報の安全管理
- ③ データ暗号化とアクセス管理
- ④ プライバシーポリシーの明確化
- ⑤ 侵害リスク最小化措置



## 第1節 プライバシー保護

### ① 患者やスタッフの情報保護が重要

介護現場では、多くの利用者や患者の個人情報を取り扱っているため、スタッフも含めた個人情報流出しないよう、情報の保護が非常に重要となる。異言語のスタッフなどが集まる中で作業効率を高めるAI技術を導入するにあたり、個人情報の取り扱いには最大限の注意が必要。患者やスタッフのプライバシーを守ることは、信頼関係を築き、より質の高いケアを提供する上で不可欠である。そのために適切な対応を心掛ける対策が求められる。



## 第1節 プライバシー保護

### ② 健康個人情報の安全管理

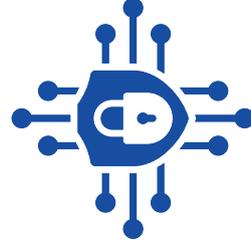
特に健康に関する個人情報、非常にデリケートなデータであり、これらの情報を管理する際は、データの安全性を最優先に考えなくてはならない。データの不正アクセスや漏洩を防ぐためには、最新のセキュリティ対策や定期的なセキュリティチェックをおこなうことが必要。また、スタッフ全員が情報保護に対する認識を共有し、責任を持って情報データを取り扱うことが大切となる。



## 第1節 プライバシー保護

### ③ データ暗号化とアクセス管理

スタッフの取り扱いだけでなく、システムによるデータの暗号化は、情報保護において有効な手段の一つとなる。患者やスタッフの個人情報を暗号化することにより、万が一データが漏洩した場合でも、情報が読み取られるリスクを大幅に低減できる。また、スタッフによるデータへのアクセス管理は徹底し、必要なスタッフのみが情報にアクセスできるよう制限することも重要である。



## 第1節 プライバシー保護

### ④ プライバシーポリシーの明確化

スタッフが個々に情報保護への認識を持つことの前に、全体としてのプライバシーポリシーを明確にすることが情報保護の基盤を作る上で欠かせない。

介護現場で扱う情報の種類や利用目的、情報保護のための具体的な措置などを文書化し、それらをスタッフ全員が共通認識としなければならぬ。

このプライバシーポリシーは定期的な見直しと更新も重要で、患者やその家族にも理解してもらうことで、信頼感を高めることができる。



## 第1節 プライバシー保護

### ⑤ 侵害リスク最小化措置

情報保護においては、侵害リスクを最小化する措置を講じるため、定期的なリスクアセスメントを実施し、潜在的な侵害リスクの特定とそれに対する予防策を講じることが求められる。

具体的には、スタッフに対する定期的なセキュリティ研修、強固なパスワードポリシーの実施、アクセス権限の厳格な管理など。また、万が一のデータ侵害発生時に迅速に対応できるよう、事前にインシデント対応計画を策定しておくことがリスクを最小化することに繋がる。



## 第1節 プライバシー保護

### ④ プライバシーポリシーの明確化

スタッフが個々に情報保護への認識を持つことの前に、全体としてのプライバシーポリシーを明確にすることが情報保護の基盤を作る上で欠かせない。

介護現場で扱う情報の種類や利用目的、情報保護のための具体的な措置などを文書化し、それらをスタッフ全員が共通認識としなければならぬ。

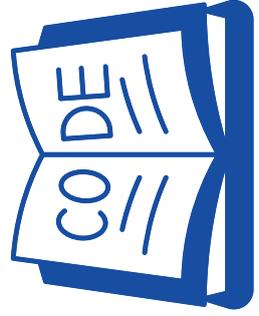
このプライバシーポリシーは定期的な見直しと更新も重要で、患者やその家族にも理解してもらうことで、信頼感を高めることができる。



## 第2節 倫理的判断

「倫理的判断」とは  
AIの判断基準と人間の倫理観との調和

- ① AI導入時の倫理問題発生
- ② 機械意思決定の倫理的妥当性
- ③ 人間倫理観とAIの調和
- ④ 不測事態責任所在の明確化
- ⑤ 人間中心のシステム設計

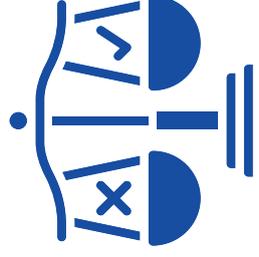


## 第2節 倫理的判断

### ① AI導入時の倫理問題発生

AI技術の導入は、介護現場で多くの利点をもたらすと同時に倫理的問題も引き起こすことがある。

特に、プライバシーの侵害、偏見の再生産、説明責任の不透明さが懸念され、これらの問題に対処するため、AI導入前には、潜在的な倫理的課題を人間による識別と照合していくことが必要となる。それらは、システムの設計段階から組み込み、人間の倫理観とAIの判断基準を統一していくことが求められる。



## 第2節 倫理的判断

### ② 機械意思決定の倫理的妥当

介護現場では、AIの判断によるデータが患者の生命や健康に直接影響を及ぼす可能性があるため、その倫理的妥当性は極めて重要となる。

そのためにもAIによる意思決定プロセスは、透明性や公平性を基準に評価されるべきで、判断基準を明確にし、その根拠を理解可能な形で提示できるようにしなければならぬ。

また、AIの判断基準は常に人間の介入が可能なシステムにし、最終的な判断を下すべきである。

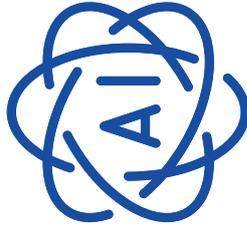


## 第2節 倫理的判断

### ③ 人間倫理観とAIの調和

AIと人間の倫理観の間には、根本的な違いがあり、AIはアルゴリズムに基づいての判断、人間の倫理観は文化、経験、感情に根ざしたものである。

そのため、介護現場でAIを導入する際には、これら二つの調和を図ることが求められる。AIの決定に人間の監視と評価を組み合わせることで、AIの判断が介護の倫理的基準に適合しているかを常に監視し、必要に応じて介入を行う体制を整えるべきである。

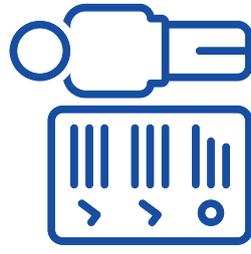


## 第2節 倫理的判断

### ④ 不測事態責任所在の明確化

AIシステムの導入にあたり、予期せぬ事態が生じた場合の責任所在を明確にしておくことも重要である。

そのことにより、万が一、不測の事態が生じた際は、対応プロセスに従って迅速な対応を取ることができ、また、全員が倫理的な対応ができるよう研修をして導入に関わる開発者や利用するスタッフなどの責任と役割も明確にしなければならない。

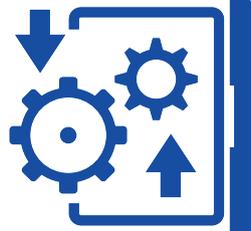


## 第2節 倫理的判断

### ⑤ 人間中心のシステム設計

AI導入に際しては、技術の利点を最大化しつつ、人間中心のアプローチを忘れてはならない。

人間中心のシステム設計とは、技術が人間の能力を補完し、支援する形を目指すもので、これには、利用者や被介護者の二一ズを深く理解し、それらをシステム設計に反映させることが含まれる。また、AIが提供する情報や判断に対し、最終的な意思決定権は常に人間が持つべきであるという原則を堅持することも重要。これらが、直感的で理解しやすいインタフェースの開発にも繋がっていく。



### 第3節 透明性

#### 「透明性」とはAIの意思決定プロセスの透明性と理解の促進

- ① AIシステム透明性の重要性
- ② 利用者信頼と理解促進
- ③ 判断推薦プロセスの明確化
- ④ 誤解不信感の防止
- ⑤ 知識普及と教育必須



### 第3節 透明性

#### ① AIシステム透明性の重要性

介護現場における信頼構築のためには、AIシステムの透明性が不可欠である。  
透明性が確保されたシステムは、意思決定プロセスが明確であり、その理由も利用者や関係者に理解される。このことからAIの決定に対する信頼が高まり、より広く受け入れられる。  
また、透明性はAIシステムの誤動作や偏見があった場合の迅速な識別と対応が可能となる。



### 第3節 透明性

#### 「透明性」とはAIの意思決定プロセスの透明性と理解の促進

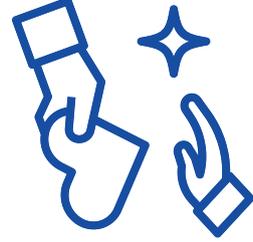
- ① AIシステム透明性の重要性
- ② 利用者信頼と理解促進
- ③ 判断推薦プロセスの明確化
- ④ 誤解不信感の防止
- ⑤ 知識普及と教育必須



### 第3節 透明性

#### ② 利用者信頼と理解促進

AIシステムの導入にあたり、目的とプロセスを透明にすることが利用者の信頼と理解となる。  
特に介護現場では、利用者やその家族がAI技術に対して不安を持つことがあり、この不安を解消するためには、AIがどのように機能し、どのような利益をもたらすのかを明確に伝えることが重要である。  
また、AI技術にすべてを委ねるのではなく、人間の介護士による介入と調和を継続することも付け加えることで、受容性が高くなる。



### 第3節 透明性

#### ③ 判断推薦プロセスの明確化

AIシステムの判断推薦プロセスを明確にすることは、透明性を実現する上で重要となる。  
このプロセスが明らかであれば、AIの提供する推薦や意思決定がどのように導き出されたかが理解しやすくなる。  
マネージャーやスタッフもAIの推薦が具体的なデータやアルゴリズムに基づいていることを知ることで、よりAIを信頼して利用することができる。



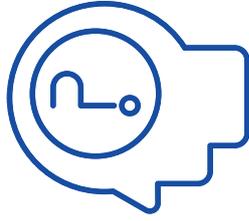
### 第3節 透明性

#### ④ 誤解不信任の防止

AIシステムの透明性を確保できれば誤解や不信任を防ぐこともできる。

しかし、透明性が不足していると、利用者やスタッフからの不信任が生じ、システムの有効性が低下する可能性もある。

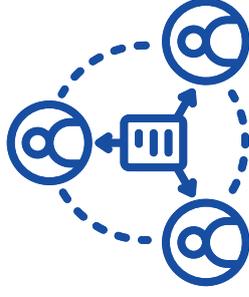
AIの判断基準やプロセスを明らかにし、その活用がどのような質の向上に寄与するのかを示すことで、これらの誤解を防ぐことができる。



### 第3節 透明性

#### ⑤ 知識普及と教育必須

スタッフやマネージャーにAIシステムの基本的な知識とその運用方法を教育することで、システムの理解が深まり、適切な使用が促進される。そのためには、定期的な研修やワークショップなどをおこない、共通の認識で最新の情報を得る体制作りも必要となる。利用するスタッフの知識が普及した上で、最新のAI技術情報を提供し、介護現場での効果的な活用を支援することが求められる。



### 第3節 透明性

#### ④ 誤解不信任の防止

AIシステムの透明性を確保できれば誤解や不信任を防ぐこともできる。

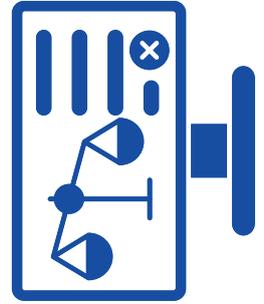
しかし、透明性が不足していると、利用者やスタッフからの不信任が生じ、システムの有効性が低下する可能性もある。

AIの判断基準やプロセスを明らかにし、その活用がどのような質の向上に寄与するのかを示すことで、これらの誤解を防ぐことができる。

### 第4節 データの偏り

#### 「データの偏り」により 訓練データの偏りによる偏見の回避

- ① 学習データ偏りの問題
- ② 偏りによる判断の歪み
- ③ 多様な患者群への対応
- ④ 平等なデータ収集の重要性
- ⑤ 注意深いデータ選定が必要



### 第4節 データの偏り

#### ① 学習データ偏りの問題

AIの意思決定品質は、学習データに大きく依存するため、そのデータに偏りがあると、不正確な判断を下すリスクが高まる。

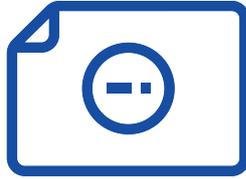
特に多国籍共生の環境では、文化的背景や言語の違いが影響し、データセットが十分に多様性を持っていない場合に特定の集団に対する偏見が生じる可能性がある。その対策として、データの偏りを把握し、これを最小限に抑える取り組みが必要となる。



## 第4節 データの偏り

### ② 偏りによる判断の歪み

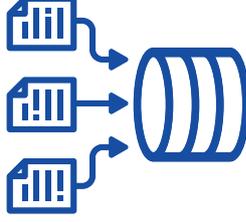
データの偏りは、AIによる判断の歪みを引き起こし、特定の患者群に対して不公平な結果をもたらす可能性がある。このような歪みが引き起こした結果は、介護サービスの質の低下や患者の信頼喪失に繋がるため、極めて重要な問題であり、介護現場で使用するAIシステムは、全ての患者に対して公正な判断を下すことが求められる。そのためには偏りのないデータセットの構築が不可欠となる。



## 第4節 データの偏り

### ③ 多様な患者群への対応

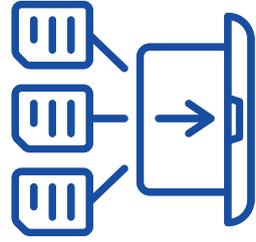
介護現場は、多様な背景を持つ患者が集まる場所であり、限られたスタッフでその対応を迫られている。AI導入によりこの状況を改善するためには、患者の多様性を反映したデータセットで機械学習する必要がある。異なる文化や言語、多様な生活習慣や背景を考慮したデータを収集、改善することで全ての患者に対して適切なケアを提供することが可能となる。



## 第4節 データの偏り

### ④ 平等なデータ収集の重要性

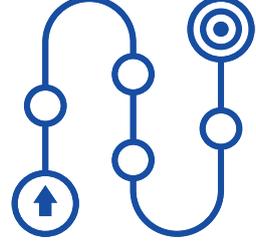
公平なAIシステムの構築には、まず平等なデータ収集のため、異なる人種、性別、年齢、文化的背景を持つ個人から最新の正しいデータを収集していくことが重要である。さらに、データ収集の過程で意図的または無意識的な偏りが生じないように監視、多様性が尊重されたデータセットの構築を目指すため、人間による機能チェック体制を整える。それらを併用して、AIの訓練に使用することがより適切なケアに繋がる。



## 第4節 データの偏り

### ⑤ 注意深いデータ選定が必要

AI導入後、適切な介護ケアへの利用には、注意深いデータ選定が必要となる。データ選定のプロセスにおいて、偏りがあるデータを排除しておくことで、多様な患者のニーズに合わせた質の良いケアをおこなうことができる。データ選定の過程で、データの出所、収集方法、代表性を慎重に評価し、AIの学習に最も適したデータセットを選定しておけば、公平で信頼性の高いAIシステムの構築が可能となる。



## 第5節 技術依存

### 「技術依存」過度な技術依存による 人間性の喪失を防ぐ

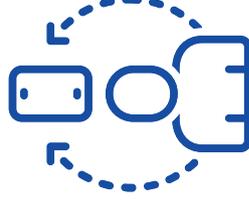
- ①過度な技術依存のリスク
- ②人間性損失の恐れ
- ③対人サービスの本質を尊重
- ④技術はサポート手段に
- ⑤適切なバランスの重要性



## 第5節 技術依存

### ① 過度な技術依存のリスク

AIを導入することで、これまでスタッフの判断のみでおこなってきた介護ケアが簡易化でき、業務改善を図ることができる。しかし、この技術への依存が過剰になると、スタッフ自身の判断力や対人スキルが低下するリスクも起こることが考えられる。このように過度な依存は、患者との関係構築に悪影響を及ぼす可能性があり、AIの技術を利用する一方で、人間としての判断力やコミュニケーション能力も維持していくことを忘れてはならない。



## 第5節 技術依存

### ② 人間性損失の恐れ

介護は、感情など人間の心理を重視したケアである。しかし、AI技術への過度な依存が日常的になることで、人間性の喪失を招く恐れがあり、それは患者との信頼関係の損失や、患者の孤立感の増大に繋がる。患者一人ひとりの背景からくる感情やニーズに寄り添うためには、AIによる技術や判断を利用しながらも人間と人間が寄り添う暖かい接触と理解は、大切に続けていきたい。



## 第5節 技術依存

### ③ 対人サービスの本質を尊重

介護ケアの本質は、人と人との関わりであり、AIの技術はこの人間関係を補助するものという点は押さえておきたい。決して、人間がおこなってきたことをすべてAIで置き換えるものではなく、効率化や品質向上を目指すための導入である。AIシステムやロボットなどは、人間の介護者が持つ共感や思いやりを補完する役割を果たすべきで、介護スタッフは技術を用いて業務をおこなう一方、人間らしいケアを提供することが大切となる。



## 第5節 技術依存

### ④ 技術はサポート手段に

機械学習を繰り返していくAIの技術、重労働を担い、対話もできる介護ロボットは、介護現場においてなくてはならない存在となると考えている。

しかし、介護スタッフの負担軽減、より質の高いケアを提供するために役立つものであっても、決して介護者の代わりとはならない。患者とスタッフ間のコミュニケーションや信頼関係の構築を避げるのではなく、人間の介護スタッフを支援する立場としての協働である。

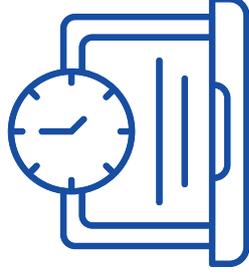


## 第5節 技術依存

### ⑤ 適切なバランスの重要性

AIの導入においては、その利点とリスクを検討し、適切なバランスを見極めることが重要である。

技術は介護の質を格段に向上させるものの、そのことが人間性を奪うことのないよう、バランスを考慮しながらの運用が求められる。AIの技術がスタッフの業務過多を防ぎ、人間のケアを支える役割を果たしつつ、利用者にとって人間同士の温かい関係の構築を忘れない取り組みが必要となる。



## 第4章

### 導入事例の分析



## 第4章 導入事例の分析

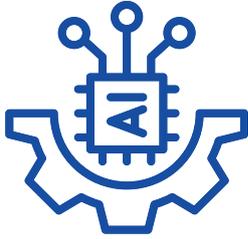
- 1 節 成功事例
- 2 節 失敗事例
- 3 節 改善策
- 4 節 コスト効果分析
- 5 節 ユーザーフィードバック



## 第1節 成功事例

「成功事例」とはAI技術を介護現場に導入し、成功した例

- ①多言語音声認識の導入
- ②コミュニケーション障壁を低減
- ③言語障壁を越えた情報伝達を実現
- ④患者の満足度向上効果
- ⑤スタッフ効率改善成功



## 第1節 成功事例

### ①多言語音声認識の導入

多国籍共生の介護施設で、かねてからの課題であった言語の多様性。この障壁がスタッフ間のみならず、利用者や患者とのコミュニケーションを複雑なものとしていき、より良いケアに繋げることが難しい状況から、多言語音声認識ツールを導入を検討することになった。



## 第1節 成功事例

### ②コミュニケーション障壁を低減

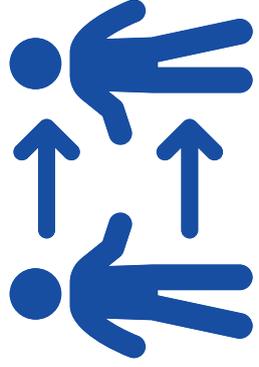
日本語だけでなく、英語、中国語、スペイン語など複数の言語に対応する音声認識ツールの利用により、多国籍共生の現場ならではの課題である「何を言っているかわからない」を迅速に解決できるようになった。言語の聞き取りが負担なくできることで、これまでのコミュニケーションの障壁となっていた誤解も最小限に抑え、よりスムーズなコミュニケーションを実現することに繋がった。



## 第1節 成功事例

### ③言語障壁を越えた情報伝達の実現

多国籍共生の現場ならではの課題であった言語によるコミュニケーションの障壁が減少できたことで、介護ケアの業務における迅速な対応も可能となった。専門用語などを含んだ情報伝達が改善できると患者の医療歴や個々の背景に応じたニーズを正確に理解することができ、スタッフ間で共有することが容易になった。



## 第1節 成功事例

### ④ 患者の満足度向上効果

導入により日常的な多国籍言語による課題が解決できたことで、言語によるコミュニケーション障壁がケアにおいて重要であったことを改めて認識できた。

患者とスタッフ間で自分の言語がスムーズに伝わることでより安心感と信頼感が増し、治療への積極的な参加や満足度も向上した。

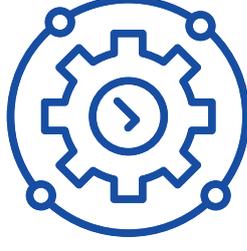


## 第1節 成功事例

### ⑤ スタッフ効率改善成功

専門用語のみならず、症状からくる感情を含んだ情報伝達はAI技術を導入しなければ難しい課題であった。しかし、導入後は迅速な対応が可能となり、患者の丁寧なケアに時間を割くことが可能となった。

さらに、スタッフ間の情報共有もスムーズになり、チームとしての連携も強化、個々の負担が減少することができた。

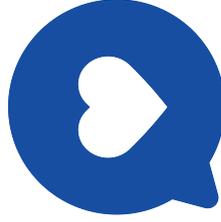


## 第1節 成功事例

### ④ 患者の満足度向上効果

導入により日常的な多国籍言語による課題が解決できたことで、言語によるコミュニケーション障壁がケアにおいて重要であったことを改めて認識できた。

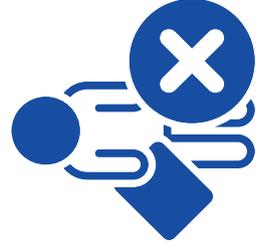
患者とスタッフ間で自分の言語がスムーズに伝わることでより安心感と信頼感が増し、治療への積極的な参加や満足度も向上した。



## 第2節 失敗事例

「失敗事例」とは  
AI導入で起きた問題点や失敗のこと

- ① ニーズ分析不足で失敗
- ② AI機能と現場の要件が不一致
- ③ 高度すぎる操作性の問題
- ④ 成果達成できず資源の無効化無駄
- ⑤ 現場理解の重要性を示唆



## 第2節 失敗事例

### ① ニーズ分析不足で失敗

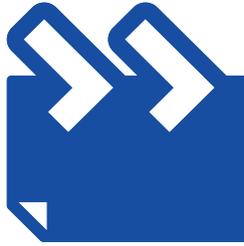
AI技術は、導入することですべての課題が改善されるわけではなく、利用環境とのニーズが一致することが重要である。導入にあたり、施設での課題分析が不十分であった場合、現場のニーズとずれてしまうことになる。ある施設では、適切な前提調査がなかったためにスタッフが期待していた機能と課題解決には繋がらないことが導入度に判明した。



## 第2節 失敗事例

### ② AI機能と現場の要件が不一致

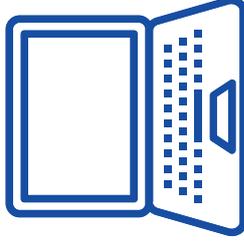
多機能なAIではあるものの、その機能が介護現場の課題解決の要件と一致しない場合、導入したという事実のみで終わる。必要とする言語対応能力や介護タスクの特性を理解せずに汎用的なAIソリューションを導入したのみで終わらずに、介護施設は、期待される成果が得られない。この不一致は、最終的にはプロジェクトの撤退に繋がることもある。



## 第2節 失敗事例

### ③ 高度すぎる操作性の問題

どのようなシステムであっても高度過ぎて操作が複雑であった場合、日々の介護ケアで多忙なスタッフが適切に使用できず、導入目的を果たせないことになる。AI技術は、介護ケアにおいて多くの効果をもたらすものであっても、使いやすさという操作性は利用する者にとって重要なポイントである。高度過ぎる場合、使えるスタッフと使えないスタッフが混在することもあり、結果として導入失敗に終わる可能性もある。



## 第2節 失敗事例

### ④ 成果達成できず資源の無効化無駄

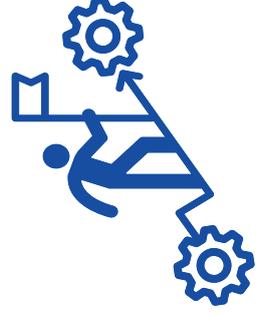
多機能であることを期待してAI技術を導入してもニーズと合わなかったり、高度過ぎる操作性からスタッフが使いきれないことに至った場合、新システムの操作にかけた時間や労力、費用などの資源が無駄になる。また、その成果が明確にはならずあまいまな達成とした場合も導入は失敗と見なされる。これは、組織全体のモチベーション低下を引き起こし、将来の技術導入に対する抵抗感を生む原因となる。



## 第2節 失敗事例

### ⑤ 現場理解の重要性を示唆

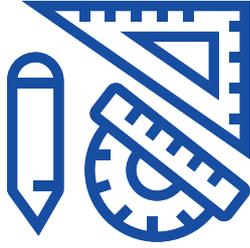
このようなAI導入プロジェクトにおける失敗例は、現場の深い理解の欠如を示唆している。介護現場の実情、操作に関するスタッフのスキル、患者のニーズなどを総合的に把握することなく技術を導入すると、その効果は期待したものにならない。導入に関しては、現場で直面している問題や課題に対して、AIがどのように解決策を提供できるかを理解し、スタッフのニーズを基にした適切なカスタマイズが求められる。



### 第3節 改善策

#### 「改善策」とは 失敗から学んだ教訓と改善策

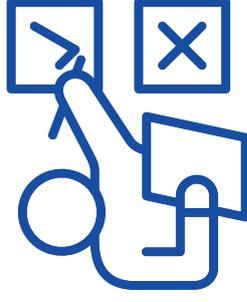
- ① 徹底したニーズの分析が必要
- ② スタッフ教育が不可欠
- ③ 技術選定の現場適合性を重視
- ④ 継続サポートとフィードバック
- ⑤ システム改善最適化の鍵



### 第3節 改善策

#### ① 徹底したニーズの分析が必要

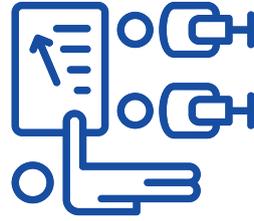
失敗例から、AI導入の前には、まず現場の詳細なニーズ分析をおこなうことが重要ということがわかった。このニーズ分析を経て、次に具体的な問題点や改善が求められる領域を明確にし、それに最適なAIソリューションを選定することが成功するためのポイントとなる。また、ニーズの分析には、現場スタッフの意見のみならず、利用者は患者のフィードバックを積極的に取り入れることも忘れてはならない。



### 第3節 改善策

#### ② スタッフ教育が不可欠

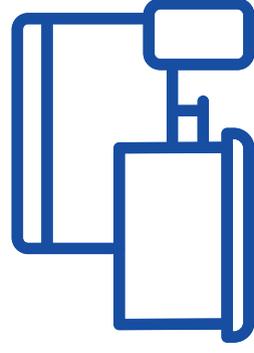
介護スタッフの中には、新しいシステム利用に抵抗を感じることも多く、操作にあたってはスタッフの教育とトレーニングが不可欠である。導入が無駄に終わらないよう操作方法を理解し、適切に活用できる能力を併せ持つことで施設の全員が利用でき、AIの技術が有効なものとなる。そのためには、定期的な研修やワークショップなどで技術リテラシーを高めることが求められる。



### 第3節 改善策

#### ③ 技術選定の現場適合性を重視

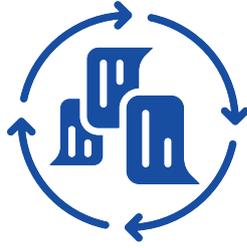
多機能なAIを導入する際は、まず、現場ニーズにあったものを選定しなければならない。介護現場の特定のニーズや課題に合わせて最適な技術を選択し、不要な機能による混乱を避けることも重要。また、選定にあたり、現場スタッフを積極的に関与させ、実際の使用シナリオを考慮した選択をおこなうことが成功への鍵となる。



### 第3節 改善策

#### ④ 継続サポートとフィードバック

システムは、導入して終わるのではなく、導入後も継続的なサポートとフィードバックの収集することが必要である。導入後のフォローアップにより、システムの使用状況を把握、問題点を迅速に特定して改善することが可能となる。また、スタッフや患者からのフィードバックを定期的に収集することで、機械学習で改善された機能を利用することができる。



### 第3節 改善策

#### ⑤ システム改善最適化の鍵

導入前にニーズを把握し、選定したシステムも使用感により改善が求められることがある。また、AI技術の進歩や現場のニーズも変化する場合があり、システムの定期的な評価とフィードバックが必要である。そのことに応じたアップデートやカスタマイズをおこない、システムは常に最新でベストな状態を保ち、介護現場の効率化と質の向上に貢献し続けることが可能となる。



### 第4節 コスト分析効果

「コスト効果分析」とはAI導入のコスト対効果を

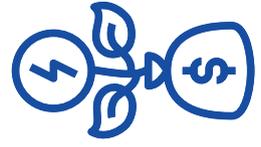
- ①初期投資後の長期分析
- ②通信改善で業務効率を向上
- ③人件費削減と高評価の獲得
- ④収入増加と人材定着の促進
- ⑤長期リターンへの期待大



### 第4節 コスト分析効果

#### ① 初期投資後の長期分析

システムを導入するには、初期投資が必要となるため、長期的な視点でコスト効果を分析することが重要となる。それは、運用コストの削減、効率化による業務改善、サービス品質の向上など、時間をかけて得られるリターンを総合的に評価していく。初期投資に見合った長期的運用の分析で継続利用がどのような価値を生み出していくかを定期的に見ていくことが必要である。



## 第4節 コスト分析効果

### ② 通信改善で業務効率を向上

多国籍共生の環境では、言語障壁を改善することがスムーズな業務に繋がっていくが、この伝達、通信が改善されれば業務効率が上がっていく。スタッフ不足で一人一人の業務負担が過度になっていた現場では、この効率化により、介護ケアに集中できるようになる。

このことは、中長期的に見て組織のコスト削減にも寄与する。



## 第4節 コスト分析効果

### ③ 人件費削減と高評価の獲得

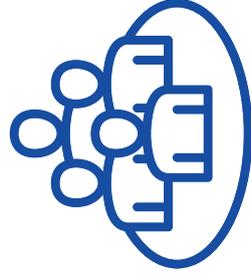
介護ケアの業務は、人と向き合う作業が多いため、丁寧さが求められ、重労働もこなさなくてはならない。それらをAI導入により、自動化できる業務と人間のスタッフによるものに分担できれば、業務の効率化と人件費の削減ができる。全体の業務を見直しも図ることで、役割分担の明確化が可能となり、スタッフが専門的な業務に集中できるため、サービス品質の向上に繋がりが、利用者や患者からの高評価を獲得することができる。



## 第4節 コスト分析効果

### ④ 収入増加と人材定着の促進

スタッフが一つ一つの業務に集中することが可能になり、質の高い介護サービスができると、顧客満足度も高まる。それは、顧客からの推薦やリピート利用が増え、組織全体の収入増加に寄与、安定した収入源の確保ができる。また、AIによる業務改善によりスタッフの労働条件を向上、働きやすい環境を提供することで人材の定着促進となる。



## 第4節 コスト分析効果

### ⑤ 長期リターンへの期待大

AI導入は、直接的なコスト削減だけでなく、介護施設としてのブランド価値の向上、顧客満足度の高まり、人材定着など、多面的な利益をもたらす。これらの利点は、初期投資を上回る長期リターンを生み出すことが期待され、導入から時間が経過するにつれて、より効果が明確になっていく。このように採用コストの削減や組織の知識保持などのメリットなど持続可能な組織としての成長と競争力の強化など大きな効果が期待される



## 第5節 ユーザーフィードバック

「ユーザーフィードバック」による  
導入後のスタッフや患者からのフィードバック

- ① フィードバックを収集して分析
- ② スタッフと患者の意見を活用
- ③ システムアップデートに反映
- ④ サービスの質を継続して向上
- ⑤ AI導入のニーズに対する適性を評価



## 第5節 ユーザーフィードバック

### ① フィードバックを収集して分析

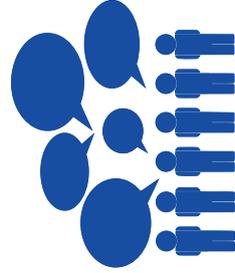
機械学習を繰り返しながらより精度を上げていくAIは、導入後もスタッフと患者からのフィードバックを定期的に収集し、それを詳細に分析して、改善を図っていく。このフィードバックには、システムの使用に関する具体的な意見や感想、改善要望が含まれる。これらをシステムに反映させることで、現場の実際のニーズ合  
うシステムとなる。



## 第5節 ユーザーフィードバック

### ② スタッフと患者の意見を活用

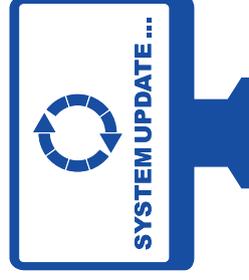
スタッフと患者などが実際に使用した意見や経験は、AIシステムの有用性に関して非常に価値のある情報源となる。AI技術は、人間との協働のために開発され、業務の支援をこなうものであり、実際に使用したのちの意見が大切。これらの意見をもとに、システムの改善やアップデートをおこなうことで、よりユーザーフレンドリーなシステムへと進化させることができる。



## 第5節 ユーザーフィードバック

### ③ システムアップデートに反映

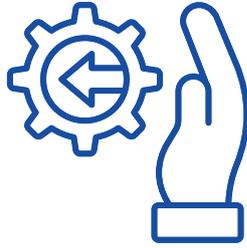
スタッフや患者などから収集したフィードバックは、AIシステムの定期的なアップデートに反映させながら、システムは改善されていく。このように定期的なアップデートをおこなうことで、AI導入の満足度を高め、さらに効果のあるサポートが提供できる。そして、このシステム改善のプロセスは、AI導入の成功を長期にわたって維持するために不可欠である。



## 第5節 ユーザーフィードバック

### ④ サービスの質を継続して向上

AIは、フィードバックを基にしたシステム改善を繰り返すことで、使用者のニーズに近づいていく。この最適化により、スタッフはより効率的かつ効果的な介護ケアを提供できるようになり、患者の満足度も向上、最終的に介護サービスの質は継続的に向上する。質の向上は、限られた人数のスタッフでも組織全体のサービスレベルを高め、競争力を強化する上で重要な要素である。



## 第5節 ユーザーフィードバック

### ⑤ AI導入のニーズに対する適合を評価

導入後にフィードバック分析を通じて、システムが現場のニーズにどの程度適合しているかを定期的に評価することも大切である。この評価は、導入されたAIシステムが介護現場の実際の要求を満たしているか、またどのような改善が必要かを判断する基準となる。ニーズへの適合度を高めようとすることで、システムの有効活用を実現し、介護サービスの全体的な品質と効率を向上させることができる。



## 第5章

### 導入計画



## 第5章 導入計画

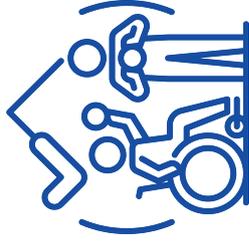
- 1 節 ニーズ分析
- 2 節 パイロットプロジェクト
- 3 節 トレーニングと教育
- 4 節 評価とフィードバック
- 5 節 スケールアップ



## 第1節 ニーズ分析

「ニーズ分析」とは  
介護現場のニーズとAI技術の選定

- ① 導入前の重要なステップ
- ② 具体的な課題の特定が必要
- ③ 解決可能なAI技術の選定
- ④ 現場要求との合致を確認
- ⑤ 導入計画の立案



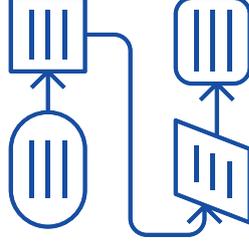
## 第1節 ニーズ分析

### ① 導入前の重要なステップ

介護現場におけるAI導入の前に、ケアの状況理解とニーズ分析が必要である。

1. スタッフや利用者、患者からのフィードバックを収集
2. 現場の実際の問題点や改善希望を把握
3. どのようなAI技術が適用可能かリサーチ

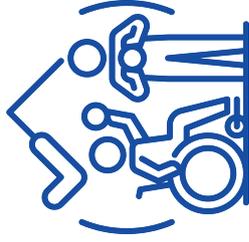
その際、法規制やプライバシー保護の観点も事前に検討し、スムーズな導入を促す準備をしっかりと整えることが、後のステップでの時間とコストの削減に繋がる。



## 第1節 ニーズ分析

「ニーズ分析」とは  
介護現場のニーズとAI技術の選定

- ① 導入前の重要なステップ
- ② 具体的な課題の特定が必要
- ③ 解決可能なAI技術の選定
- ④ 現場要求との合致を確認
- ⑤ 導入計画の立案



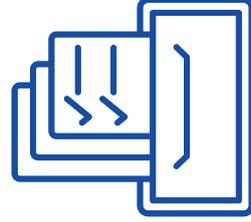
## 第1節 ニーズ分析

### ② 具体的な課題の特定が必要

重労働かつ多忙な介護現場で起きている様々な課題に対して、それぞれ適したAI技術がある。

例えば、多国籍なスタッフ間で正確にできる記録業務の自動化、コミュニケーションの効率化、安全管理の強化など、事前の段階で現場の声をヒアリングしたうえで、その課題を解決すべきAI導入となる。

そのためには、優先度も含めた現状の見極めが重要である。

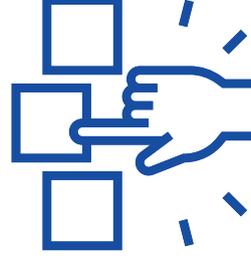


## 第1節 ニーズ分析

### ③ 解決可能なAI技術の選定

課題特定をしたのち、それに対してどのAI技術が有効かを選定していく段階に入る。

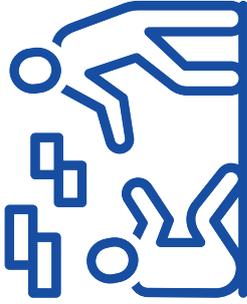
聞き取りにくさからくる利用者とのコミュニケーションの取りづらさに対しては、AIによる言語理解システム、顔の表情や身体の動きから健康状態や感情の変化を認識できる画像認識技術など、多くの機能がサポートが期待できる。また、選定においては技術の成熟度、導入コスト、操作の容易さ、将来的な拡張性、サポート体制などが重要な基準となる。



## 第1節 ニーズ分析

### ④ 現場要求との合致を確認

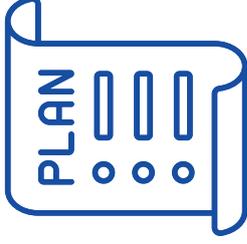
選定後すぐに決定するのではなく、事前にニーズ分析をして選定したAI技術が、実際の介護現場でニーズと合致しているかを検証することが必要である。技術導入の目的は、現場の作業負担を軽減し、サービスの質を向上させることにあり、スタッフや利用者、患者からのフィードバックを取り入れ、実際の運用を想定したテストをおこなうことが大切。この段階でも想定していなかった問題点や改善点を洗い出し、より良い導入へ向けていくことになる。



## 第1節 ニーズ分析

### ⑤ 導入計画の立案

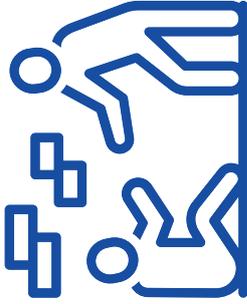
このような段階を経て、選定したAI技術を介護現場に導入するための計画立案をしていく。この計画には、技術導入のタイムライン、技術導入に必要なトレーニング、予算計画、リスク管理などが含まれ、計画の各ステップは、関係者全員が明確に理解し、協力できるように詳細に構築されなければならない。予算計画では、導入コストだけでなく、維持管理や将来のアップグレードコストも考慮に入れ、リスク管理計画では、技術の導入に伴う潜在的なリスクを特定、それらに対処するための戦略も策定する。



## 第1節 ニーズ分析

### ④ 現場要求との合致を確認

選定後すぐに決定するのではなく、事前にニーズ分析をして選定したAI技術が、実際の介護現場でニーズと合致しているかを検証することが必要である。技術導入の目的は、現場の作業負担を軽減し、サービスの質を向上させることにあり、スタッフや利用者、患者からのフィードバックを取り入れ、実際の運用を想定したテストをおこなうことが大切。この段階でも想定していなかった問題点や改善点を洗い出し、より良い導入へ向けていくことになる。



## 第2節 パイロットプロジェクト

「パイロットプロジェクト」とは、小規模な導入から始める重要性

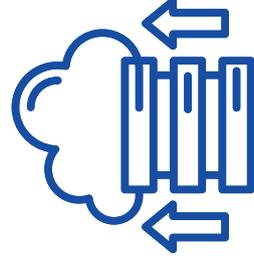
- ①小規模導入で効果を試験
- ②実際の適用可能性を検証
- ③問題点や改善領域の特定
- ④リスク最小化と最適化
- ⑤貴重なフィードバックの提供



## 第2節 パイロットプロジェクト

### ① 小規模導入で効果を試験

AI技術の選定、導入計画を立てたのち、まず小規模プロジェクトから始めることが推奨される。このステップアップアプローチにより、限定的なリソースでAI技術の効果を検証し、導入の可否を判断できる。小規模導入では、選定したAI技術の中から特定のタスクやプロセスに適用し、その影響を詳細に観察していく。これにより、大規模導入に先立って技術の有効性と実現可能性を確かめることができる。



## 第2節 パイロットプロジェクト

### ② 実際の適用可能性を検証

パイロットプロジェクトを通じて、AI技術が介護現場の具体的な状況や課題にどの程度適応可能かを検証すると、次のような点を評価することができる。

- ・技術が実際の作業フローにどう統合できるか。
- ・スタッフや利用者への影響は何か。
- ・改善点は何か。

このような適用を通じて明らかになる要素は、後の全面的な導入計画を策定する上で不可欠な情報となる。

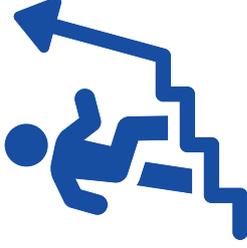


## 第2節 パイロットプロジェクト

### ③ 問題点や改善領域の特定

パイロットプロジェクトは、新技術導入に伴う潜在的な問題や課題を早期に特定するためにも重要である。

このフェーズでは、技術のパフォーマンス、ユーザビリティ、互換性など、さまざまな側面から評価がおこなわれ、特定された問題点は、改善策を講じるための重要な手がかりとなる。AI技術導入における効果を最大化するためにもしっかりと行いたいプロセスである。



## 第2節 パイロットプロジェクト

### ④ リスク最小化と最適化

小規模導入の主要な目的として、将来の大規模展開におけるリスクの最小化も挙げられる。

パイロットプロジェクトにより、初期段階で技術的な問題や運用上の課題を特定し、対処することで、

リスクを抑制できる。また、この過程で得られる知見は、AI技術の最適化にも寄与し、介護現場での効果的な利用を実現するための基盤となる。



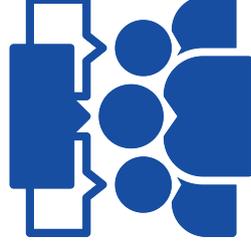
## 第2節 パイロットプロジェクト

### ⑤ 貴重なフィードバックの提供

パイロットプロジェクトは、スタッフや利用者、患者から直接的なフィードバックを得る貴重な機会である。

- ・AI技術が現場のニーズに適しているか。
- ・どのように改善すべきか。
- ・スタッフの受容性や利用者の満足度はどの程度か。

フィードバックにより、これらを理解することができ、技術導入の成功確率を高めるための洞察を得ることに繋がる。



### 第3節 トレーニングと教育

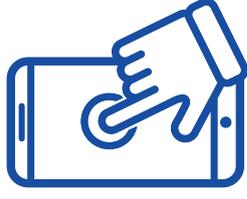
「トレーニングと教育」とは  
スタッフへのAI技術のトレーニングと教育のこと

- ①効果的な導入のために不可欠
- ②新システムの操作方法を学習
- ③技術活用の理解と深化
- ④倫理的側面もカバー
- ⑤技術ポテンシャルの最大化



### 第3節 トレーニングと教育

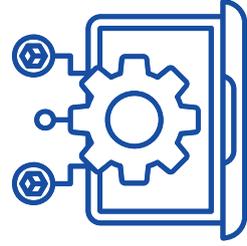
- ①効果的な導入のために不可欠  
AI技術の導入において、利用するスタッフのトレーニングと教育は必須となる。  
スタッフ全員が新しいシステムを適切に使用する方法を学び、共通認識と技術の基礎知識を身につけていく。  
また、教育プログラムは技術操作だけでなく、その背景にある理論や原理も理解することを目指すことにより、単に技術的操作だけでなく、その有効性や限界を理解し、効率的に作業を進めることができる。



### 第3節 トレーニングと教育

#### ②新システムの操作方法を学習

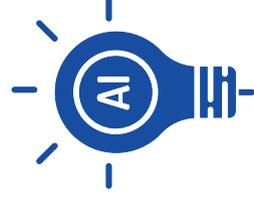
新しいシステムを導入する際には、利用するスタッフに操作方法を習得してもらう必要があり、迅速かつ緊急性の高い時にも難なく操作ができるよう実践的なトレーニングセッションを行うことが望まれる。  
この学習プロセスでは、直感的なインターフェイスやユーザーフレンドリーな設計の利点を最大限に活かすべき。  
基本的な操作から、段階的なトレーニング、徐々に高度な機能へと進むことで、スタッフの技術習得を効果的に進めることができる。



### 第3節 トレーニングと教育

#### ③技術活用の理解と深化

新しいシステムの利用にあたり、スタッフは操作方法だけでなくその活用の背景にある理解が求められる。  
また、AIがどのように業務を支援し、効率化や品質向上に貢献するのかを学ぶことも大切。  
このようにAI技術がどのように意思決定を支援し、どのような限界があるのかを理解することで、技術に対する過信を避け、適切な使い方を促すことができる。

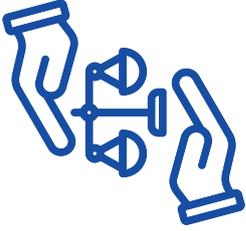


### 第3節 トレーニングと教育

#### ④ 倫理的側面もカバー

AI導入時のスタッフトレーニングと教育には、倫理的な側面も含める必要がある。特に多国籍共生の介護現場では、文化的な違いに配慮しなければならない。

個人の尊厳を守り、AIを用いた介護におけるプライバシーの保護、倫理的な問題への対応など、スタッフがこれらの問題を理解し、技術を倫理的に正しく使用することの重要性を学ぶことは重視しておきたい。



### 第3節 トレーニングと教育

#### ⑤ 技術ポテンシャルの最大化

AI技術はただ使うだけでなく、どのようにしてその機能を用いるかがポイントとなる。

(例1) データ分析機能を使うと、利用者の行動パターンや健康状態の変化をより正確に把握し、それに基づいたケアプランを立てることができる。

(例2) システム原理やロジックを理解すると、AIの判断と臨床的洞察や人間の経験と組み合わせることができる。

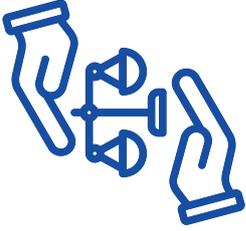


### 第3節 トレーニングと教育

#### ④ 倫理的側面もカバー

AI導入時のスタッフトレーニングと教育には、倫理的な側面も含める必要がある。特に多国籍共生の介護現場では、文化的な違いに配慮しなければならない。

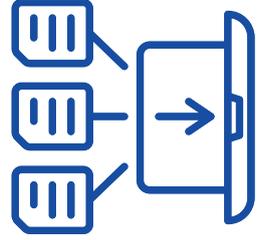
個人の尊厳を守り、AIを用いた介護におけるプライバシーの保護、倫理的な問題への対応など、スタッフがこれらの問題を理解し、技術を倫理的に正しく使用することの重要性を学ぶことは重視しておきたい。



### 第4節 評価とフィードバック

「評価とフィードバック」とは  
導入後の評価とフィードバックの収集

- ①パイロットと並行する評価
- ②定期的な効果問題点の検証
- ③システムの現場ニーズを調整
- ④スタッフや患者からフィードバック
- ⑤システム更新の改善へ活用



### 第4節 評価とフィードバック

#### ① パイロットと並行する評価

初期段階で行うパイロットプロジェクトは、システムの実効性を評価することが目的である。この段階で具体的な指標を設定、その達成度を測定することにより、並行して下記が可能となる。

- ・ 実働に向けて作業効率の向上
- ・ エラー率の低下
- ・ ユーザー満足度の改善

パイロット期間中はこれらの指標を定期的に監視し、初期の成功指標として、また必要な調整の指針として利用していく。



## 第4節 評価とフィードバック

### ② 定期的な効果問題点の検証

AI導入後も予め定めた評価基準に基づき定量的な分析と、実際のユーザー体験を反映した定性的な分析をおこなない、その効果と問題点を定期的に検証することが不可欠である。定期的な検証により、システムの性能が持続的に監視され、システムの持続的な改善と最適化がおこなえる。

- ・期待される利益が実現しているかどうかを確認
- ・新たに浮上った問題や不具合を早期発見、迅速対応

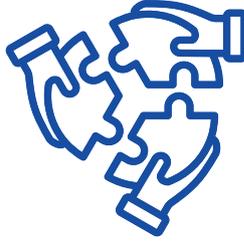


## 第4節 評価とフィードバック

### ③ システムの現場ニーズを調整

導入前に利用するスタッフなどからヒアリング、小規模導入での検証をおこなっていても、この段階が完成形ではない。多様なニーズにどれだけシステムが対応できているかの検証と調整が必要となる。

1. 現場からの具体的なフィードバックを収集
2. システムの機能や設定を現場の要求に合わせて調整
3. 調整後、スタッフへの操作サポート

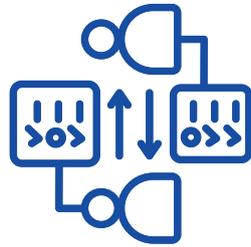


## 第4節 評価とフィードバック

### ④ 定期的な効果問題点の検証

AIは、人間の介護スタッフを支援する立場としての協働を目的としており、システム機能はニーズにマッチしていけるようフィードバックは、システムの評価と改善において貴重な情報源である。

- ・スタッフから収集 >
- ・システムの操作性
- ・業務への影響
- ・改善提案
- ・新たなニーズ



## 第4節 評価とフィードバック

### ④ スタッフや患者からフィードバック

AIは、人間の介護スタッフを支援する立場としての協働を目的としており、システム機能はニーズにマッチしていけるようフィードバックは、システムの評価と改善において貴重な情報源である。

- ・利用者、患者から収集 >
- ・ケアの品質
- ・多言語コミュニケーション利用などの満足度

## 第4節 評価とフィードバック

### ⑤ システム更新の改善へ活用

収集したフィードバックと定期的な評価結果は、AIシステムの更新と改善のために活用される。

<主とする改善>

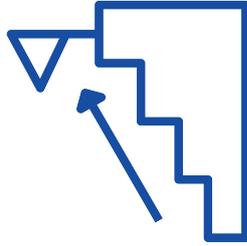
- ・システムの機能強化
  - ・ユーザーインターフェース（操作性）
  - ・新たなニーズへの対応
  - ・システムのセキュリティ更新
- これは、技術導入の成功と長期的な価値創出を保证するための大切なアプローチである。



## 第5節 スケールアップ

「スケールアップ」とは  
成功したプロジェクトの拡大とその計画

- ① 初期成功を基に拡大計画
- ② 効果や影響の広範囲を検証
- ③ 導入プロセスの洗練化
- ④ 組織全体での効果的な利用
- ⑤ 介護サービス質の向上を目指す



## 第5節 スケールアップ

### ① 初期成功を基に拡大計画

ニーズの把握、導入計画、パイロットプロジェクトなどのプロセスを経て初期導入が成功すると、どの要素が成功に貢献したのかを特定し、この成功体験を土台により広範囲への展開を計画することが可能となる。

拡大計画で望まれる内容

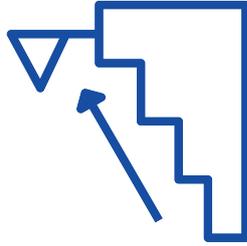
- ・ 初期段階での課題や限界を克服するための改善策
- ・ 拡大に伴う新たなリソース
- ・ 拡大に伴うサポート
- ・ 将来に向けての具体的な目標設定と実行計画



## 第5節 スケールアップ

「スケールアップ」とは  
成功したプロジェクトの拡大とその計画

- ① 初期成功を基に拡大計画
- ② 効果や影響の広範囲を検証
- ③ 導入プロセスの洗練化
- ④ 組織全体での効果的な利用
- ⑤ 介護サービス質の向上を目指す



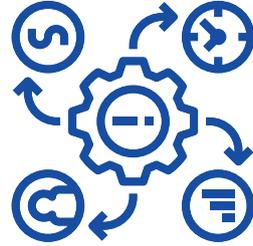
## 第5節 スケールアップ

### ② 効果や影響の広範囲を検証

スケールアップの過程では、まずAI技術が異なる部門や多様なケア環境にもたらす効果と影響を広範囲に検証をおこなう。

この評価は、技術の適用範囲を拡大する際に遭遇する可能性のある新しいチャレンジや機会を理解するために重要であり、異なるユーザーグループやケア環境での効果を評価、技術の汎用性と適応性を確認していく。

また、広範囲にわたる影響評価は、将来的な投資やリソース配分の決定にも役立つ。



## 第5節 スケールアップ

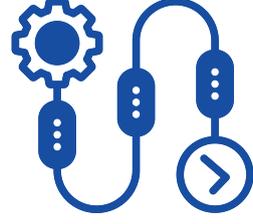
### ③ 導入プロセスの洗練化

初期段階での成功で完了するのではなく、将来に向けて導入プロセスをさらに洗練化、効率化する必要がある。

この過程では、初期導入で得られた教訓やベストプラクティスを活用、プロセスの各ステップを見直しと改善をおこなう。

導入プロセスの洗練化に含む主な内容

- ・ フィードバック項目の見直し
- ・ スタッフへのトレーニングやサポート
- ・ 積極的なユーザー利用の促進



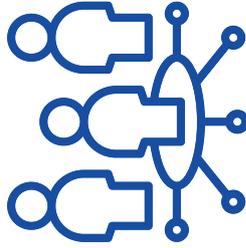
## 第5節 スケールアップ

### ④ 組織全体での効果的な利用

スケールアップは、導入範囲の拡大だけでなく、組織全体での効果的な利用も含んでいる。

- ・チーム全体での技術理解
- ・業務での最適な活用促進
- ・チーム全体の情報共有
- ・コラボレーションの促進

AI技術を介して異なる部門間の知識やデータのシェアリングを実現することが可能になり、業務の効率化へ繋がる。



## 第5節 スケールアップ

### ⑤ 介護サービス質の向上を目指す

システム導入の最終的な目標は、介護サービスの品質向上である。スケールアップの各段階でサービスの質に与える影響

を評価し、利用者の満足度向上、スタッフの業務効率改善、介護結果の質の向上を目指し、技術の効果的な利用をしていくことは、多国籍共生の介護現場において大きな価値を生み出す。

- ・介護を必要とする人が、より良いサポートを受けられる
- ・スタッフがより充実した業務環境で働ける
- ・介護サービス業界全体の発展に寄与できる








令和6年度  
「専門職業人材の最新技術アップグレードのための  
専修学校リカレント教育推進事業」

**介護DX多国籍共生  
介護現場のマネージャー対象  
AI導入研修②**

学校法人長良学園  
向陽台水口専門学校

介護DX多国籍共生介護現場のマネージャー対象AI導入 について学びます。

目次

- 第1章 多国籍介護現場の基礎理解**
  - 1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解
  - 2節 多国籍共生介護とケアの適応
  - 3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用
  - 4節 多国籍スタッフの業務特性と役割
  - 5節 多国籍共生介護を成功に導く方法
- 第2章 AI技術と多国籍共生介護現場への適応**
  - 1節 介護DXの概要とAIの基礎知識
  - 2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例
  - 3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング
  - 4節 AIを活用した言語サポートの拡充
  - 5節 多国籍共生介護における AI活用の倫理的課題
- 第3章 多国籍共生介護現場におけるリスク管理**
  - 1節 多国籍共生介護現場におけるリスクと課題の特定
  - 2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備
  - 3節 多国籍共生介護現場における問題解決手法
  - 4節 多国籍共生介護現場における AI運用問題解決手法
  - 5節 多国籍共生介護現場でのリスク管理
- 第4章 多国籍共生介護を支援するAIとコミュニケーション戦略**
  - 1節 AIを活用した多国籍共生介護現場でのコミュニケーション向上
  - 2節 自然言語処理 (NLP) を活用した多国籍共生介護現場の会話支援
  - 3節 多国籍共生介護現場におけるAI応答システムの活用
  - 4節 多国籍共生介護チームにおける遠隔行動防止とメンタルケア
  - 5節 多国籍共生介護現場でのコミュニケーション改善方法
- 第5章 現場適応型AI導入モデルの構築**
  - 1節 施設ごとの多国籍共生介護実態に応じた AI導入計画の策定
  - 2節 多国籍共生介護現場における業務最適化とAI導入の費用対効果
  - 3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIレニングプログラム
  - 4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減
  - 5節 多国籍共生介護現場に即応した AI導入方法



令和6年度「専門職業人材の最新技術アップグレードのための専修学校リカレント教育推進事業」

内容は  
 第1章 多国籍介護現場の基礎理解  
 第2章 AI技術と多国籍共生介護環境への適応  
 第3章 多国籍共生介護現場におけるリスク管理  
 第5章 現場適応型AI導入モデルの構築  
 第4章 多国籍共生介護を支援するAIとコミュニケーション戦略  
 について学習します。

## 第1章

# 多国籍介護現場の基礎理解



令和6年度「専門職職人対の最新技能アップデータのための研修学校リカレント教育推進事業」

# 第1章 多国籍介護現場の基礎理解

- 1 節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解
- 2 節 多国籍共生介護とケアの適応
- 3 節 言語の壁と多言語対応ツールの活用
- 4 節 多国籍スタッフの業務特性と役割
- 5 節 多国籍共生介護を成功に導く方法



令和6年度「専門職職人対の最新技能アップデータのための研修学校リカレント教育推進事業」

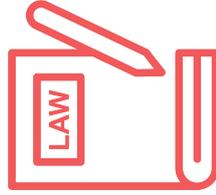
この章では、多国籍介護現場の基礎理解について学習します。

本章では、多国籍共生介護の現状や法制度、異文化対応、言語支援、職場環境の整備について整理します。多様なスタッフが円滑に協力し、質の高い介護を提供するために必要な要素を考察します。

## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

日本における外国人介護福祉士の受け入れ状況や法的枠組みを学び、就業ビザ・資格取得要件、介護制度の違い、労働権や待遇の課題を整理する。

- ① 日本における多国籍介護福祉士の受け入れ状況
- ② 外国人介護福祉士向けの法的枠組みと規制
- ③ 就業ビザや資格取得の要件
- ④ 日本と外国の介護制度の違い
- ⑤ 外国人介護福祉士の労働権と待遇に関する課題



令和6年度「専門職人材の異国別アップグレードのための研修取組」カレント教育推進事業

日本における外国人介護福祉士の受け入れは、介護人材不足を補うために重要で、就業ビザや資格取得要件が定められ、外国人スタッフが適応できるような研修や教育が実施されています。日本と外国の介護制度の違いを理解することは、職場の円滑な運営に不可欠です。また、外国人介護福祉士の労働権や待遇の適正な確保が、多国籍共生介護の推進につながります。

## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

### ① 日本における多国籍介護福祉士の受け入れ状況

日本では、介護人材の不足を補うため、外国人介護福祉士の受け入れが進められている。EPA（経済連携協定）、技能実習制度、特定技能制度などを通じ、各国からの人材が介護現場に参入している。外国人が介護職に就くには、日本語能力や介護技術の研修を受ける必要があり、国家試験の合格が求められる場合もある。受け入れ促進とともに、言語や文化の違いに対応するための職場環境の整備が重要となっている。



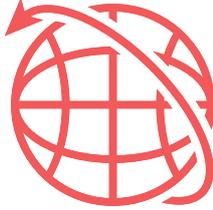
令和6年度「専門職人材の異国別アップグレードのための研修取組」カレント教育推進事業

日本では、介護人材不足を背景に、EPA、技能実習制度、特定技能制度を活用して外国人介護福祉士を受け入れています。就業には日本語能力や介護研修の受講、国家試験合格が求められることもあります。受け入れ促進とともに、文化や言語の違いに対応した職場環境の整備が必要です。

## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

### ② 外国人介護福祉士向けの法的枠組みと規制

外国人介護福祉士が日本で働くためには、法的枠組みや規制に従う必要がある。EPAでは、対象国の介護福祉士候補者が日本に滞在し、研修と試験を経て資格を取得する。技能実習制度は、一定期間の実務経験を積みながら技術を習得する制度である。特定技能制度では、日本語能力や技能試験の合格者が介護職に就くことができる。それぞれの制度には就業期間や条件が異なり、長期的な雇用確保のための支援が求められる。



令和6年度「専門職人材の海外活用アップデータのための研修取組リポート」教育推進事業

## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

### ③ 就業ビザや資格取得の要件

外国人介護福祉士が日本で働くには、適切なビザの取得が必要である。「介護ビザ」は、日本の介護福祉士資格を取得した外国人向けのもので、長期就労が可能である。「特定技能1号」は、試験合格者が最長5年間働ける制度である。「技能実習」は、実習期間終了後に帰国が前提となる。資格取得には、一定の日本語能力と実務経験が求められ、介護福祉士国家試験の合格が必要な場合もある。多様なビザ制度の活用が、外国人の就労機会の拡大につながる。



令和6年度「専門職人材の海外活用アップデータのための研修取組リポート」教育推進事業

外国人介護福祉士が日本で働くためには、EPA、技能実習制度、特定技能制度の枠組みに沿う必要があります。EPAでは研修と試験、技能実習制度では実務経験、特定技能制度では試験合格が求められます。制度ごとに就業期間や条件が異なるため、長期雇用を支援する体制が必要です。

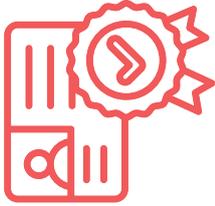
外国人介護福祉士の就業には、介護ビザ、特定技能、技能実習などの適切なビザの取得が必要です。介護ビザは長期就労が可能、特定技能1号は最長5年間、技能実習は実習後帰国が前提となります。資格取得には日本語能力や実務経験、国家試験合格が求められ、就労機会を広げるための制度活用が重要です。

## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

### ④ 日本と外国の介護制度の違い

日本の介護制度は、公的介護保険制度を基盤としており、要介護度に応じたサービスが提供される。

一方、外国では公的支援が少なく、家族介護が中心の国も多い。また、介護職の資格制度も国によって異なり、日本では国家資格が求められるが、海外では無資格で従事できる場合もある。こうした制度の違いは、外国人介護福祉士が日本で働く際の適応の難しさにつながるため、適切な研修とサポート体制が必要である。



## 第1節 多国籍共生介護の現状と法制度の理解

### ⑤ 外国人介護福祉士の労働権と待遇に関する課題

外国人介護福祉士が長期的に働ける環境を整備するためには、安定した雇用契約やキャリア形成の支援が不可欠となる。給与や労働時間の適正化に加え、言語サポートや文化適応支援を強化することで、職場への定着を促進できる。また、昇進機会の公平性を確保し、研修制度を充実させることで、キャリアアップの道を開くことが求められる。さらに、住居支援や生活環境の整備を進めることで、安心して働き続けられる職場を実現し、持続可能な多国籍共生介護を推進することが重要となる。



日本の介護は公的介護保険制度に基づき、要介護度に応じた支援が受けられます。一方、外国では家族介護が中心の国も多く、介護職の資格要件も異なります。日本では国家資格が必要ですが、海外では無資格で働ける場合もあります。こうした違いを理解し、外国人介護福祉士の適応を支援する研修が重要です。

外国人介護福祉士が長期的に働ける環境を整備するには、安定した雇用契約やキャリア形成の支援が不可欠です。給与や労働時間の適正化に加え、言語サポートや文化適応支援を強化することで、職場への定着を促進できます。また、昇進の機会を公平に確保し、研修制度を充実させることで、キャリアアップの道を開くことが求められます。さらに、住居支援や生活環境の整備を進めることで、安心して働き続けられる環境を整え、持続可能な多国籍共生介護を実現することが重要です。

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

多国籍スタッフが協力しながら介護を行うための役割理解や、偏見を避けるアプローチ、文化に応じたコミュニケーション方法、職場環境の整備を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフ間での役割理解と協力
- ② 偏見や誤解を避けるためのアプローチ
- ③ 文化的背景に基づくコミュニケーションの最適化
- ④ 多国籍共生介護の概念を取り入れた組織づくり
- ⑤ 介護業務における文化的感受性の重要性



令和6年度「専門職職人に対する認知症ケア研修」教育用講義資料

多国籍共生介護では、異なる文化を持つスタッフが協力し、適切な介護を提供することが求められます。役割を理解し、偏見を避ける工夫が必要です。また、文化的背景を考慮したコミュニケーションや職場環境の整備が重要になります。介護業務では、文化的感受性を高め、利用者スタッフが互いに尊重し合うことが、多国籍共生介護の成功につながります。

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

### ① 多国籍スタッフ間での役割理解と協力

多国籍スタッフが円滑に協力し合うためには、各自の役割を明確にし、業務の分担と責任を理解することが重要である。文化や言語の違いにより、業務の進め方や価値観に差が生じることがあるため、役割分担の明確化と協力体制の強化が求められる。多国籍スタッフのスキルや経験を活かし、チーム全体の効率を向上させるために、適切な指導や研修を実施し、協力的な職場環境を整備する必要がある。



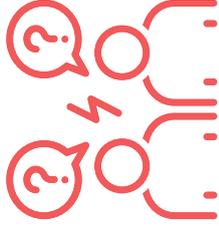
令和6年度「専門職職人に対する認知症ケア研修」教育用講義資料

多国籍スタッフが協力するには、役割分担を明確にし、責任を共有することが重要です。文化や言語の違いから業務の進め方に差が生じるため、適切な指導や研修を行い、協力体制を整えることが求められます。スタッフのスキルを活かしながら、チーム全体の業務効率を向上させることが大切です。

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

### ② 偏見や誤解を避けるためのアプローチ

多国籍共生介護では、異文化間の偏見や誤解を防ぐことが重要である。文化的背景の違いによる先入観が、スタッフ間の協力や利用者との関係に影響を及ぼす可能性がある。そのため、多文化理解を深める研修や、異文化交流の機会を設けることが有効である。共通のルールや価値観を共有し、オープンな対話を促進することで、誤解を最小限に抑え、多国籍スタッフが働きやすい環境を整える必要がある。

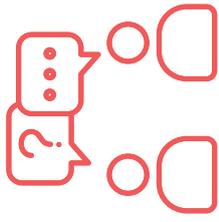


多国籍共生介護では、偏見や誤解を防ぐための取り組みが必要で、文化的背景の違いが、スタッフ間の協力や利用者との関係に影響することがあるため、異文化理解の研修や交流の機会を設けることが有効です。共通のルールを設定し、オープンな対話を促進することで、誤解を減らし、働きやすい環境をつくります。

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

### ③ 文化的背景に基づくコミュニケーションの最適化

多国籍スタッフと利用者の間で円滑なコミュニケーションを図るためには、文化的背景を理解し、それに基づいた適切な対応が必要となる。言語だけでなく、非言語コミュニケーション（ジェスチャーや表情）も重要な要素となる。文化によって価値観や意思表示の方法が異なるため、相手の立場を尊重し、柔軟なコミュニケーションを心がけることが求められる。多文化に適応したコミュニケーションの向上が、多国籍共生介護の質を高める要因となる。

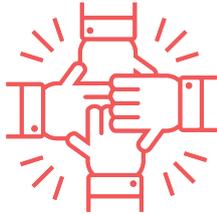


多国籍スタッフと利用者が円滑にコミュニケーションを取るには、文化的背景を理解することが重要です。言語だけでなく、ジェスチャーや表情などの非言語コミュニケーションも活用します。文化によって価値観や意思表示が異なるため、相手の立場を尊重し、柔軟な対応を心がけることが大切です。

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

### ④ 多国籍共生介護の概念を取り入れた組織づくり

多国籍共生介護の環境を整備するためには、組織全体が多国籍共生の理念を理解し、それに基づいた制度や方針を導入することが求められる。多国籍スタッフが安心して働ける職場環境を整えるために、言語サポートや文化適応支援を強化し、職員同士の相互理解を促進することが重要である。また、多国籍共生を意識した人材育成やキャリア支援の体制を整えることで、多国籍スタッフの定着率を向上させ、介護の質を高めることができる。



令和6年度「専門職人材の供給確保アップデータのための研修等取りかくりネット教育推進事業」

## 第2節 多国籍共生介護とケアの適応

### ⑤ 介護業務における文化的感受性の重要性

多国籍共生介護の現場では、スタッフが異なる文化的背景を持つ利用者や同僚と接するため、文化的感受性が重要となる。文化的価値観や習慣の違いを尊重し、それぞれの考え方を理解することが円滑な介護の提供につながる。特に、言語の違いや宗教的な配慮が必要な場面では、適切な対応が求められる。文化的感受性を高めることで、利用者の満足度を向上させ、多国籍スタッフが働きやすい環境を整えることができる。



令和6年度「専門職人材の供給確保アップデータのための研修等取りかくりネット教育推進事業」

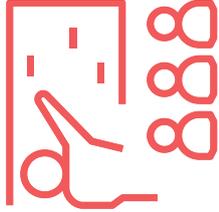
多国籍共生介護の環境を整えるには、組織全体が多国籍共生の理念を理解し、適切な制度を導入することが大切です。言語サポートや文化適応支援を強化し、職員同士の相互理解を深めることで、多国籍スタッフが安心して働ける職場環境を作り出す。また、人材育成やキャリア支援を充実させることで、定着率の向上を図ります。

多国籍共生介護では、異なる文化的背景を持つ利用者や同僚と接するため、文化的感受性が重要です。価値観や習慣の違いを尊重し、それぞれの考え方を理解することで、円滑な介護につながります。特に、言語や宗教的な配慮が求められる場面では、適切な対応をすることが必要です。

### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

言語の壁が介護現場に与える影響を理解し、多言語対応ツールやAI翻訳、通訳の活用方法、言語教育プログラムの導入を整理する。

- ① 言語の壁が介護現場に与える影響
- ② 多言語対応ツールの選定基準
- ③ 翻訳ソフトウェアやAI翻訳の活用方法
- ④ 通訳者の役割と適応手法
- ⑤ 言語教育プログラムとその効果



介護現場では、言語の壁がスタッフ間の連携や利用者との意思疎通を妨げる要因となります。これを解決するために、多言語対応ツールやAI翻訳の活用が重要です。また、通訳者の適切な配置や、言語教育プログラムを導入することで、円滑なコミュニケーションが可能になります。言語の壁を克服し、効果的な支援体制を整えることで、多国籍共生介護の質を向上させることができます。

### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

#### ① 言語の壁が介護現場に与える影響

介護現場では、多国籍スタッフや利用者間で言語の壁が生じることがある。これにより、意思疎通の困難、誤解の発生、業務の遅延といった問題が発生し、適切なケアの提供が妨げられる可能性がある。また、指示が正しく伝わらないことで安全管理にも影響を及ぼし、事故や医療ミスにつながるリスクも高まる。そのため、介護現場では多言語対応ツールや通訳者の配置が求められ、スタッフが基本的な日本語や専門用語を理解できるような教育の実施が重要となる。



介護現場では、言語の壁による意思疎通の困難が問題となります。誤解や業務の遅延が生じ、適切なケアが提供できない場合があります。また、安全管理に影響を与え、事故や医療ミスにつながるリスクもあります。そのため、多言語対応ツールの活用や通訳の配置が必要です。さらに、スタッフが基本的な日本語を理解できるよう、言語教育の充実も重要です。

### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

#### ② 多言語対応ツールの選定基準

介護現場で使用する多言語対応ツールを選定する際には、翻訳の精度、リアルタイム性、操作のしやすさが重要な基準となる。

高精度な翻訳ができるツールでなければ、誤訳によるトラブルが発生する可能性がある。また、現場では即時対応が求められるため、リアルタイムでの翻訳機能も必要となる。

さらに、介護スタッフや利用者が使いやすい設計であることも重要であり、文字の大きさ、音声入力の有無、携帯性なども考慮すべき点となる。

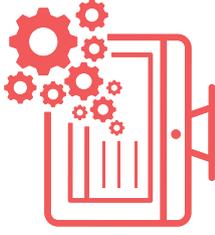


### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

#### ③ 翻訳ソフトウェアやAI翻訳の活用方法

AI技術の進歩により、介護現場でも翻訳ソフトやAI翻訳が活用されている。AI翻訳は、音声認識やリアルタイム翻訳機能を備えており、会話の即時翻訳が可能である。また、介護記録の翻訳や、多言語マニュアルの作成にも役立つ。特に、介護業務に特化したAI翻訳は、専門用語の誤訳を防ぐためにチューニングされている。

介護現場での導入には、スタッフが使いやすい設計であるか、必要な言語に対応しているかを確認し、適切なシステムを選定することが求められる。



介護現場で多言語対応ツールを選ぶ際は、翻訳の精度やリアルタイム性が重要です。誤訳があると、業務に支障が出るため、正確な翻訳ができるツールを選ぶ必要があります。また、操作のしやすさや携帯性も考慮し、スタッフや利用者が直感的に使えることが求められます。状況に応じて、音声入力機能や文字サイズ調整機能の有無も確認することが大切です。

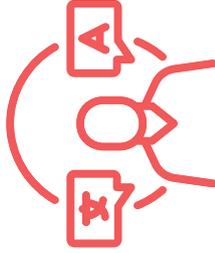
AI翻訳は、音声認識やリアルタイム翻訳を活用し、介護現場での会話を支援します。また、介護記録の翻訳やマニュアル作成にも役立ちます。特に、介護専門用語の誤訳を防ぐAI翻訳が重要です。導入時には、スタッフが使いやすい設計かどうかや、必要な言語に対応しているかを確認し、適切なツールを選ぶことが大切です。

### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

#### ④ 通訳者の役割と適応手法

通訳者は、介護現場において外国人スタッフや利用者との円滑な意思疎通を支援する重要な役割を担う。

言語の翻訳だけでなく、文化的背景を考慮した適切な表現を用いることで、誤解を防ぐことができる。通訳の方法には、対面通訳、オンライン通訳、電話通訳があり、状況に応じた手法を選択する必要がある。また、スタッフ自身が簡単な通訳を行えるように基本的な会話スキルを身につける研修を実施することで、業務の効率化を図ることも有効である。

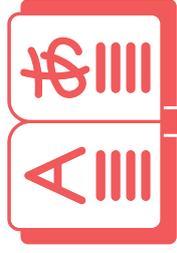


令和6年度「専門職人材の異動促進プログラム」のための研修資料(リカレント教育推進事業)

### 第3節 言語の壁と多言語対応ツールの活用

#### ⑤ 言語教育プログラムとその効果

外国人介護スタッフが日本の職場で円滑に業務を遂行するためには、言語教育プログラムの導入が不可欠である。専門用語を含む日本語教育を受けることで、介護業務の理解が深まり、指示の誤解や業務の遅延を防ぐことができる。また、継続的な学習を促すために、Eラーニングや会話トレーニングを取り入れることも効果的である。言語スキルの向上により、スタッフ間のコミュニケーションが円滑になり、利用者への対応力が向上するため、施設全体の業務の質の向上につながる。



令和6年度「専門職人材の異動促進プログラム」のための研修資料(リカレント教育推進事業)

通訳者は、外国人スタッフや利用者との円滑な意思疎通を支援します。翻訳だけでなく、文化的背景を考慮した表現を用いることで、誤解を防ぐことができます。通訳方法には、対面通訳、オンライン通訳、電話通訳があり、状況に応じて適切な方法を選びます。また、スタッフ向けの基本的な会話研修を実施し、簡単な通訳を行えるようにすることも重要です。

外国人介護スタッフが業務を円滑に行うためには、言語教育プログラムの導入が必要です。日本語の専門用語を学ぶことで、業務の理解が深まり、指示の誤解を防ぐことができます。Eラーニングや会話トレーニングを取り入れることで、継続的な学習を促進できます。言語スキルの向上は、スタッフ間のコミュニケーションを円滑にし、介護サービスの質を向上させるため、重要な取り組みです。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

多国籍スタッフの強みや業務特性を理解し、モチベーション向上、役割分担、チームワークの促進、管理職による支援方法を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフの強みとその活躍場面
- ② 多国籍共生介護を持つ介護スタッフの特性
- ③ 多国籍スタッフのモチベーションと課題
- ④ 役割分担の重要性とチームワークの促進
- ⑤ 管理職としての多国籍スタッフへの支援方法



令和6年度「専門職職人の職能開発アップグレードのための研修取組カリキュラム」教育推進事業

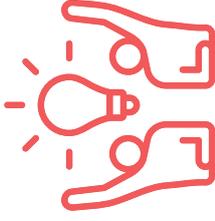
多国籍スタッフは、異文化理解や多言語対応などの強みを活かし、介護現場で重要な役割を果たします。適切な役割分担とチームワークの促進が、業務の効率化につながります。また、モチベーションを維持するためには、働きやすい環境と管理職の適切な支援が必要です。多国籍共生介護を円滑に進めるために、スタッフの特性を理解し、それぞれの能力を最大限に活かすことが求められます。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

### ① 多国籍スタッフの強みとその活躍場面

多国籍スタッフは、異文化理解力、多言語対応能力、柔軟な適応力などの強みを持ち、介護現場で活躍している。

特に、外国人利用者への対応や、多文化環境での橋渡し役としての役割が期待される。また、介護業務の中で、母国のケア方法や考え方を活かし、新たな介護の視点を提供できる。これにより、多様な価値観を取り入れた介護サービスの向上が可能となり、より包括的なケアが実現する。



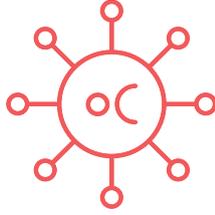
令和6年度「専門職職人の職能開発アップグレードのための研修取組カリキュラム」教育推進事業

多国籍スタッフは、異文化理解力や多言語対応能力を活かし、介護現場で活躍します。特に、外国人利用者への対応や、多文化環境での橋渡し役を担います。また、母国の介護方法を活かし、新たな視点を提供することで、多様な価値観を取り入れた介護サービスの向上につながります。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

### ② 多国籍共生介護を持つ介護スタッフの特性

多国籍共生介護を行うスタッフは、多文化環境に適応する力、異なる価値観を尊重する姿勢、柔軟な思考を持つことが求められる。特に、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うスキルが重要となる。また、母国と日本の介護制度の違いを理解し、適応する力も必要である。これらの特性を活かしながら、チーム全体で協力し合うことで、多国籍共生の職場環境を構築し、より包括的なケアの実現を目指す。



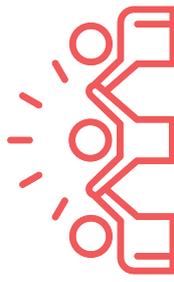
令和6年度「専門職職人対の異文化ケアアップグレードのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

多国籍共生介護を行うスタッフには、多文化環境に適応する力や異なる価値観を尊重する姿勢が求められます。特に、異文化間のコミュニケーション能力が重要です。また、母国と日本の介護制度の違いを理解し、適応することも必要です。チーム全体で協力し、多国籍共生の職場環境を築くことが大切です。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

### ③ 多国籍スタッフのモチベーションと課題

多国籍スタッフのモチベーションを維持するためには、キャリアアップの機会、適正な評価制度、職場環境の改善が重要である。一方で、言語の壁、文化の違い、労働条件の不安定さが課題となることが多い。日本の介護現場では、こうした課題に対し、適切なサポート体制の整備や、スタッフが安心して働ける環境づくりが求められる。定期的なフィードバックや、職場内での相談窓口の設置も、モチベーション維持に有効である。



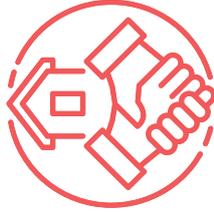
令和6年度「専門職職人対の異文化ケアアップグレードのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

多国籍スタッフのモチベーションを維持するには、キャリアアップの機会や適正な評価が重要です。一方、言語の壁や文化の違い、労働条件の不安定さが課題となります。こうした課題に対し、適切なサポート体制を整備し、安心して働ける環境を作ることが求められます。また、定期的なフィードバックや相談窓口の設置も有効です。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

### ④ 役割分担の重要性とチームワークの促進

多国籍スタッフが円滑に業務を進めるためには、明確な役割分担とチームワークの強化が必要である。各スタッフの強みを活かし、適切に業務を分担することで、業務の効率化や介護サービスの質の向上につながる。また、定期的なミーティングや情報共有の場を設けることで、信頼関係を築き、協力しやすい職場環境を整えることができる。文化の違いを理解し、互いに尊重し合う姿勢が、良好なチームワークの基盤となる。

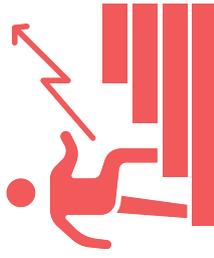


多国籍スタッフが円滑に働くためには、明確な役割分担とチームワークの促進が重要です。各スタッフの強みを活かし、適切に業務を分担することで、業務の効率化や介護サービスの向上につながります。定期的なミーティングや情報共有の場を設け、信頼関係を築くことも大切です。文化の違いを理解し、互いに尊重し合う職場環境を整えることが求められます。

## 第4節 多国籍スタッフの業務特性と役割

### ⑤ 管理職としての多国籍スタッフへの支援方法

多国籍スタッフが長く働き続けるためには、管理職による適切な支援が不可欠である。言語面のサポート、業務の進め方の明確化、職場環境の改善などが重要な要素となる。また、文化の違いを尊重し、多様な価値観を受け入れる姿勢が求められる。定期的な面談を行い、業務上の課題やキャリア形成に関する相談に対応することも有効である。これらの取り組みにより、多国籍スタッフが安心して働ける環境を整え、職場全体の活性化につなげる。

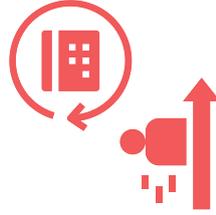


多国籍スタッフが長く働けるよう、管理職の適切な支援が求められます。言語サポートや業務の進め方の明確化を行い、職場環境を改善することが重要です。また、文化の違いを尊重し、定期的な面談を通じて業務上の課題を把握することも大切です。これにより、多国籍スタッフが安心して働ける環境が整い、職場全体の活性化につながります。

## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

多国籍スタッフの長期雇用や異文化理解を深める職場環境づくり、スタッフ間の連携強化、多言語サポートの導入、持続可能な管理体制を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフの長期的な雇用確保
- ② 異文化理解を深める職場環境の作り方
- ③ 多国籍スタッフ間の連携強化のための研修方法
- ④ 効率的な多言語サポートシステムの導入手法
- ⑤ 多国籍共生介護における持続可能な管理体制の構築



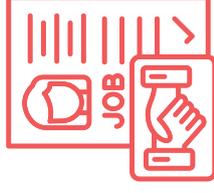
令和6年度「専門職人材の異文化能力アップのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍スタッフが長期的に働ける環境を整えることは、介護現場の安定につながります。そのためには、異文化理解を深める取り組みや、スタッフ間の連携を強化する研修が必要です。また、多言語サポートシステムを導入し、言語の壁を解消することも重要です。さらに、持続可能な管理体制を構築し、スタッフが安心して働ける環境を整えることで、多国籍共生介護の質を向上させることができます。

## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

### ① 多国籍スタッフの長期的な雇用確保

多国籍スタッフが安定して働き続けるためには、適正な雇用契約、昇進の機会、職場環境の改善が必要である。言語や文化の違いに適応しやすいサポート体制を整え、キャリアアップの機会を提供することで、定着率の向上が期待できる。また、労働条件の見直しや、スタッフの意見を取り入れた働きやすい環境づくりが重要である。長期的な雇用を確保することで、介護現場の人材不足解消にもつながる。



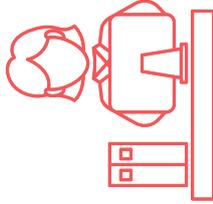
令和6年度「専門職人材の異文化能力アップのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍スタッフが長く働けるよう、適正な雇用契約や昇進の機会を確保することが重要です。言語や文化の違いに適応しやすいサポート体制を整え、キャリアアップの機会を提供することで、定着率の向上につながります。また、労働条件の見直しやスタッフの意見を反映した職場づくりが必要です。

## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

### ② 異文化理解を深める職場環境の作り方

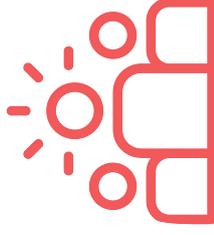
多国籍スタッフが安心して働ける環境を整えるためには、異文化理解を深める取り組みが欠かせない。異文化研修の実施や、多文化交流の機会を増やすことで、スタッフ同士の相互理解が促進される。また、職場内に多文化共生の方針を明確化し、共通の価値観を持つことで、異なる文化的背景を持つスタッフが協力しやすくなる。こうした取り組みを継続することで、円滑なチームワークと職場の安定性が向上する。



## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

### ③ 多国籍スタッフ間の連携強化のための研修方法

多国籍スタッフが円滑に連携するためには、定期的な研修の実施が重要である。言語の違いや文化の違いによる誤解を防ぐため、ロールプレイングやグループワークを活用し、実践的なトレーニングを行うことが効果的である。また、チームワークや、現場での実践的な事例を用いた学習を導入することが有効である。研修を通じて、スタッフ同士の信頼関係を築き、協力体制を強化することが求められる。



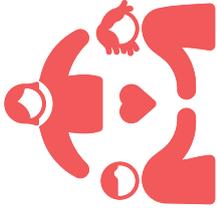
多国籍スタッフが働きやすい職場を作るには、異文化理解を深める取り組みが必要です。異文化研修や多文化交流の機会を設けることで、相互理解が進みます。また、共通の価値観を持つことができよう、職場の方針を明確にすることが重要です。こうした取り組みにより、チームワークが向上し、職場の安定につながります。

多国籍スタッフが円滑に連携できるよう、定期的な研修を実施することが重要です。ロールプレイングやグループワークを活用することで、実践的なトレーニングが可能になります。また、相互理解を深めるワークショップや事例を用いた学習も有効です。研修を通じて、スタッフ同士の信頼関係を築き、協力体制を強化することが求められます。

## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

### ④ 効率的な多言語サポートシステムの導入手法

多国籍スタッフがスムーズに業務を遂行するためには、多言語サポートシステムの導入が必要である。AI翻訳ツールや音声認識システムを活用することで、リアルタイムでの情報共有が可能となる。また、現場で使用する専門用語や手順を多言語で提供し、スタッフが理解しやすい環境を整えることも重要である。適切なシステムを選定し、現場に適用することで、コミュニケーションの効率化と業務のスムーズな進行を実現できる。



令和6年度「専門職・人材の供給確保アップデータのための研修等取組リポート」教育推進事業

## 第5節 多国籍共生介護を成功に導く方法

### ⑤ 多国籍共生介護における持続可能な管理体制の構築

多国籍共生介護の現場では、持続可能な管理体制を構築することが求められる。効果的なマネジメント、継続的な教育、適切な評価制度を導入することで、長期的な職場の安定が実現できる。特に、多国籍スタッフが働きやすい環境を整えるために、フィードバックを積極的にを行い、適切なキャリア支援を提供することが重要である。また、異文化間の摩擦を最小限に抑え、相互理解を深める仕組みを構築することで、より良い職場環境を実現できる。



令和6年度「専門職・人材の供給確保アップデータのための研修等取組リポート」教育推進事業

多国籍スタッフの業務を支援するためには、多言語サポートシステムの導入が必要で、AI翻訳ツールや音声認識システムを活用することで、リアルタイムでの情報共有が可能になります。また、専門用語や手順を多言語で提供することで、理解しやすい環境を整えます。適切なシステムを導入することで、業務の効率化とコミュニケーションの向上が期待できます。

多国籍共生介護では、持続可能な管理体制の構築が重要です。効果的なマネジメント、継続的な教育、適切な評価制度を導入することで、職場の安定が図れます。また、フィードバックやキャリア支援を行い、スタッフが働きやすい環境を整えることが大切です。異文化間の摩擦を減らし、相互理解を深める仕組みを構築することで、良好な職場環境が実現できます。

## 第2章

# AI技術と多国籍共生介護環境への適応



令和6年度「専門職職人対の施設情報アップデートのための研修学校リカレント教育推進事業」

## 第2章 AI技術と多国籍共生介護環境への適応

- 1 節 介護DXの概要とAIの基礎知識
- 2 節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例
- 3 節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング
- 4 節 AIを活用した言語サポートの拡充
- 5 節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題



令和6年度「専門職職人対の施設情報アップデートのための研修学校リカレント教育推進事業」

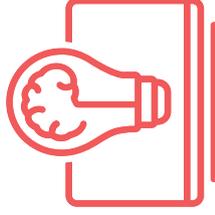
この章では、AI技術と多国籍共生介護環境への適応について学習します。

本章では、5つの節を通じて、AI技術の多国籍共生介護への適応を学び、介護DXの基礎、活用事例、教育、言語サポート、倫理的課題を考察します。

## 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

介護DXの定義と重要性を理解し、AIの基本概念や介護現場での活用方法、導入に必要な環境整備を学ぶ。

- ① 介護DXの定義とその重要性
- ② 介護業界におけるAIの基本概念と活用分野
- ③ AI技術の進化と介護分野への適用事例
- ④ 介護現場でのAI導入に必要な環境
- ⑤ 介護DXを成功させるための方法



介護DXIは、介護業務の効率化とサービスの質の向上を目的としたデジタル技術の導入を指します。AIを活用することで、記録の自動化や業務の最適化が可能となり、スタッフの負担軽減につながります。また、AI技術の基本概念や介護現場での応用例を理解し、適切なシステムを導入することが重要です。さらに、導入に必要な環境を整え、成功するための手法を検討することで、多国籍共生介護の現場にも適したDX推進を目指します。

## 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

### ① 介護DXの定義とその重要性

介護DX（デジタルトランスフォーメーション）は、AIやICT技術を活用し、介護業務の効率化とサービスの質の向上を図る取り組み。業務負担の軽減、記録作業の自動化、ケアの質向上が期待される。多国籍共生介護の現場では、言語支援技術の導入により、外国人スタッフとの円滑なコミュニケーションが促進される。

適切な技術活用を通じて、職場環境の改善と持続可能な介護DXの実現が求められる。



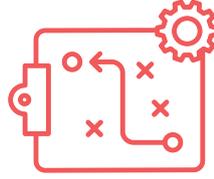
介護DXは、介護業務を効率化し、サービスの質を向上させるために、AIやICT技術を活用する取り組みです。業務負担の軽減や記録作業の自動化により、介護職員の負担が減り、生産性が向上します。多国籍共生介護の現場では、言語支援技術を活用することで、スタッフ間の連携が円滑になります。技術の適切な活用を通じて、より働きやすい職場環境を整えることが重要です。

### 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

#### ② 介護業界におけるAIの基本概念と活用分野

AIは、介護業界において業務の自動化や意思決定の支援に活用される。AI搭載の見守りシステムは、利用者の安全管理を強化し、異常行動を検知することが可能となる。介護記録の自動入力やケアプラン作成の支援システムも導入され、スタッフの業務負担を軽減する。

これにより、より質の高いケアを提供できる環境が整い、介護の質の向上が期待される。



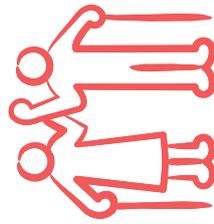
AIは、介護業界において業務の自動化や意思決定の支援に活用されています。AI搭載の見守りシステムは、利用者の安全管理を強化し、異常行動を検知することで迅速な対応が可能になります。介護記録の自動入力やケアプラン作成の支援システムを導入することで、スタッフの負担が軽減されます。これにより、より質の高いケアを提供できる環境が整い、介護の質の向上が期待されます。

### 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

#### ③ AI技術の進化と介護分野への適用事例

AI技術の進化に伴い、介護分野では画像認識、自然言語処理、機械学習を活用した多様なサービスが開発されている。

たとえば、顔認識による見守りシステムや、バイタルデータを活用した健康管理、自動翻訳機能を備えた介護記録システムが導入されている。これにより、介護職員の負担が軽減されるだけでなく、多国籍共生介護においても、スタッフと利用者間の円滑なコミュニケーションが可能となり、質の高い介護サービスの提供が実現される。

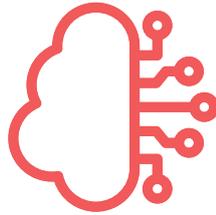


AI技術の進化により、介護分野では画像認識、自然言語処理、機械学習を活用したサービスが増えていきます。顔認識による見守りシステム、バイタルデータの活用、AI翻訳機能付き介護記録が導入されています。これにより、職員の負担が軽減され、利用者との円滑なコミュニケーションが可能になります。

## 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

### ④ 介護現場でのAI導入に必要な環境

介護現場でAIを導入するためには、適切なインフラ整備、スタッフの教育、データ活用の基盤構築が必要となる。まず、AI機器を活用するためのネットワーク環境の整備が求められる。また、介護職員がAIを効果的に活用できるように、操作研修や実践的なトレーニングを実施することが重要である。さらに、AIが収集したデータを活用し、介護サービスの改善につなげるための管理体制を整えることも、AI導入の成功に不可欠である。



令和6年度「専門職人材の発掘・育成・確保のための研修等取りかくりレポート教育推進事業」

## 第1節 介護DXの概要とAIの基礎知識

### ⑤ 介護DXを成功させるための方法

介護DXを成功させるためには、技術の導入、職員のスキル向上、環境整備が不可欠である。まず、業務の自動化やデジタルツールの活用を進め、介護現場の負担を軽減する必要がある。また、職員が新しい技術を適切に活用できるように、研修や教育プログラムの充実が求められる。さらに、AIやICT技術の活用に適したインフラを整備し、データ管理の仕組みを確立することで、より効果的な介護DXの実現が可能となる。



令和6年度「専門職人材の発掘・育成・確保のための研修等取りかくりレポート教育推進事業」

介護現場でAIを導入するには、適切なインフラ整備とスタッフの教育が必要です。AI機器を活用するためのネットワーク環境を整備し、職員向けの操作研修や実践トレーニングを実施することが重要です。また、AIが収集したデータを適切に活用し、介護サービスの向上につなげる管理体制を整えることも不可欠です。

介護DXを成功させるには、技術の導入、職員のスキル向上、環境整備が必要です。業務の自動化やデジタルツールの活用で、現場の負担を軽減します。また、職員向けの研修を充実させ、適切に技術を活用できるようにすることが大切です。さらに、インフラの整備とデータ管理の強化を行うことで、効果的な介護DXを実現できます。

## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

言語支援AI、介護記録の自動化、ケアプラン作成支援など、AIを活用した多国籍共生介護の具体的な事例を学ぶ。

- ① 言語支援AIによる多国籍スタッフとの連携強化
- ② AIを活用した介護記録の自動化
- ③ AIを活用したケアプランの作成支援
- ④ 多国籍共生介護スタッフ向けAIトレーニングシステムの導入方法
- ⑤ 多国籍共生介護におけるAI活用法



令和6年度「専門職人材の地域担い手アップグレードのための研修取組リポート教育推進事業」

AI技術は、多国籍共生介護の現場において業務の効率化とサービス向上を支援します。言語支援AIを活用することで、多国籍スタッフ間の意思疎通が円滑になり、業務の正確性が向上します。また、介護記録の自動化やAIによるケアプラン作成支援を導入することで、スタッフの負担軽減と利用者への質の高いケア提供が可能となります。さらに、スタッフ向けのAIトレーニングシステムを導入し、実践的な活用スキルを習得することで、より効果的なAIの活用が期待されます。

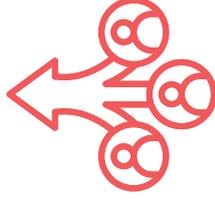
## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

### ① 言語支援AIによる多国籍スタッフとの連携強化

AI技術の進化により、多国籍介護現場では言語支援AIの活用が進んでいる。リアルタイム翻訳や音声認識技術を搭載したツールが導入され、言語の壁を克服する手段として活用されている。

たとえば、タブレットやスマートフォンデバイスに搭載された翻訳機能により、スタッフ間の円滑な意思疎通が可能となる。

これにより、業務の効率化が進むだけでなく、利用者との適切なコミュニケーションが確保され、質の高い介護サービスの提供につながる。



令和6年度「専門職人材の地域担い手アップグレードのための研修取組リポート教育推進事業」

言語支援AIの導入により、多国籍スタッフ間のコミュニケーションが円滑になります。リアルタイム翻訳や音声認識技術を活用することで、言語の壁が軽減されます。翻訳機能付きタブレットの活用により、スタッフの業務効率が向上し、利用者との円滑な対応が可能になります。適切なAI技術の導入により、より質の高い介護サービスの提供が実現できます。

## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

### ② AIを活用した介護記録の自動化

AI技術の発展により、介護現場では記録の自動化が進んでいる。音声入力AIを活用することで、スタッフが話した内容が自動的にデータ化され、介護記録の作成が効率化される。また、AIが蓄積されたデータを分析し、利用者の健康状態やケアの傾向を把握することで、適切な介護計画の立案が可能となる。これにより、記録作業の負担が軽減され、スタッフはより利用者のケアに集中することができる。

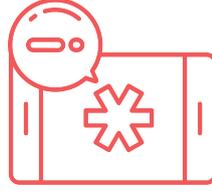


令和6年度「専門職職人に対する認知症ケアアップデートのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

### ③ AIを活用したケアプランの作成支援

AI技術の進化により、介護現場ではケアプラン作成の効率化が進んでいる。AIが過去のデータや類似ケースを分析し、利用者の健康状態に応じた最適なケアプランを提案するシステムが導入されている。リアルタイムでの健康情報のモニタリングが可能となり、必要に応じたケアプランの見直しも容易になる。これにより、スタッフの負担が軽減され、より個々のニーズに応じたケアの提供が実現される。



令和6年度「専門職職人に対する認知症ケアアップデートのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

AIの導入により、介護記録の作成が自動化され、スタッフの負担が軽減されます。音声入力AIを活用することで、会話内容を自動で記録し、作業時間を短縮できます。蓄積されたデータを分析することで、利用者の健康状態やケアの傾向を把握し、適切な介護計画を立案できます。業務の効率化が進むことで、より利用者に寄り添ったケアの提供が可能になります。

AIを活用することで、ケアプランの作成が効率化され、スタッフの負担が軽減されます。AIが過去のデータや類似ケースを分析し、利用者の健康状態に応じた最適なケアプランを提案するため、より個々の利用者に合った介護が可能になります。リアルタイムで健康情報をモニタリングすることで、必要に応じたケアプランの見直しも容易になります。適切な計画のもと、より質の高い介護サービスを提供できる環境が整います。

## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

### ④ 多国籍共生介護スタッフ向けAIトレーニングシステムの導入方法

AIを活用したトレーニングシステムの導入により、多国籍スタッフのスキル向上が促進されている。VRやシミュレーション技術を用いた実践型トレーニングにより、介護技術や接遇スキルを効率的に習得できる。さらに、AIが学習者の進捗を分析し、個々に最適なカリキュラムを自動で提供するシステムも導入されている。これにより、スタッフの習熟度が向上し、より専門性の高い介護サービスの提供が可能となる。

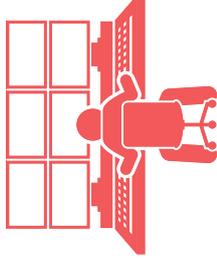


AIを活用したトレーニングシステムは、多国籍スタッフのスキル向上に貢献します。VRやシミュレーション技術を用いることで、実践的な介護技術を効果的に学ぶことができます。AIが学習進捗を分析し、個々に最適なカリキュラムを提供することで、より効率的なスキル習得が可能になります。スタッフの成長を支援することで、介護サービスの質の向上につながります。

## 第2節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例

### ⑤ 多国籍共生介護におけるAI活用法

多国籍共生介護の現場では、AI技術の活用により、業務効率化とサービスの向上が進んでいる。リアルタイム翻訳、見守りシステム、介護記録の自動化など、多様な技術が導入されている。AIを適切に活用することで、スタッフの業務負担を軽減し、利用者へのケアの質を向上させることができる。また、継続的な技術更新を行い、より効果的なAIの運用と介護現場への適応を進めることが求められる。



多国籍共生介護の現場では、AI技術の活用により、業務の効率化とサービスの向上が図られています。リアルタイム翻訳や見守りシステム、介護記録の自動化が導入され、スタッフの負担軽減に貢献しています。適切なAIの活用により、利用者のケアの質が向上し、より安全で快適な環境が整います。継続的な技術更新を行い、AIを最大限に活用することが重要です。

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

AIを活用した異文化理解促進の教育ツールやリモート教育プログラム、トレーニングの評価方法を学ぶ。

- ① 異文化理解を促進するAIトレーニングツールの活用
- ② AIによる多国籍共生介護向けのリモート教育プログラム
- ③ 教育効果を高めるためのAIトレーニング評価方法
- ④ 介護スキル向上を目的としたAIトレーニング手法
- ⑤ AIを活用した教育とトレーニング手法



令和6年度「専門職職人対の施設研修アップグレードのための研修取組リポート」教育推進事業

AIは、多国籍共生介護の現場において、教育とトレーニングの向上に貢献します。異文化理解を促進するAI教育ツールを活用することで、スタッフが異なる文化や価値観を学び、円滑な協力体制を築くことができます。また、AIによるリモート教育プログラムを導入することで、場所や時間に制約されず、必要なスキルを習得することが可能になります。さらに、教育効果を高めるために、AIを活用したトレーニング評価を行い、スタッフの成長を可視化することで、より効果的な教育の実施を目指します。

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

#### ① 異文化理解を促進するAIトレーニングツールの活用

多国籍共生介護の現場では、異文化理解が不可欠である。AIを活用した教育ツールは、シミュレーション学習や多言語対応コンテンツを提供し、異文化に対する理解を深めるのに役立つ。例えば、AI翻訳機能を備えた学習プラットフォームでは、異なる言語や文化の背景を持つスタッフが効率的に知識を習得できる。また、VR（仮想現実）を活用したトレーニングにより、異文化の価値観や介護習慣を学ぶ。



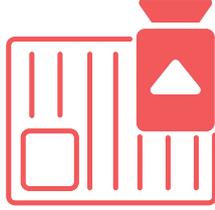
令和6年度「専門職職人対の施設研修アップグレードのための研修取組リポート」教育推進事業

AIを活用した教育ツールは、シミュレーション学習や多言語対応コンテンツを提供し、異文化理解を促進します。例えば、AI翻訳機能付きの学習プラットフォームでは、多国籍スタッフが効率的に知識を習得できます。また、VRを活用したトレーニングでは、異文化の価値観や介護習慣を実践的に学ぶことが可能です。

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

#### ② AIによる多国籍共生介護向けのリモート教育プログラム

多国籍共生介護に対応するため、AIを活用したリモート教育プログラムが導入されている。オンライン講義やインタラクティブ学習により、遠隔地のスタッフでも必要な知識を学ぶことができる。AIが個々の学習進捗を分析し、適切なフィードバックを提供することで、学習効果を向上させる。音声認識技術を活用した発話トレーニングや、多言語対応の動画教材は、外国人スタッフの教育に有効である。

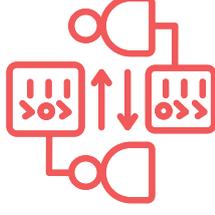


令和6年度「専門職職人に対する施設別アップグレードのための研修等取りかレント教育推進事業」

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

#### ③ 教育効果を高めるためのAIトレーニング評価方法

AIを活用したトレーニングでは、学習効果を定量的に評価するシステムが導入されている。AIは、受講者の理解度をリアルタイムで分析し、個別最適化された課題や補足教材を提供することで、学習の定着率を向上させる。また、VRを活用した介護シミュレーションでは、受講者の対応スピードや判断力を測定し、データに基づいた評価を行う。これにより、受講者ごとのスキルレベルに応じた教育プログラムを設計できる。



令和6年度「専門職職人に対する施設別アップグレードのための研修等取りかレント教育推進事業」

AIを活用したリモート教育プログラムでは、オンライン講義やインタラクティブ学習が可能です。遠隔地のスタッフでも学べる環境を整え、AIが学習進捗を分析し、適切なフィードバックを提供します。特に、音声認識技術を使った発話トレーニングや、多言語対応の動画教材は、外国人スタッフの学習を支援するのに有効です。

AIを活用したトレーニングでは、学習効果を定量的に評価できるシステムが導入されています。AIは、受講者の理解度をリアルタイムで分析し、個別最適化された課題や補足教材を提供することで、学習の定着率を向上させます。また、VRを活用した介護シミュレーションでは、受講者の対応スピードや判断力を測定し、データに基づいた評価が可能です。これにより、受講者ごとのスキルレベルに応じた適切な教育プログラムを設計できます。

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

#### ④ 介護スキル向上を目的としたAIトレーニング手法

AIを活用した学習手法により、介護スキルの向上が可能となる。たとえば、AIを搭載した対話型ロボットが、実際の介護場面をシミュレーションし、適切な対応を指導する。また、データ分析を用いて受講者の苦手分野を特定し、個別最適なカリキュラムを提供するシステムも開発されている。これにより、多国籍スタッフが実践的な介護技術を学び、現場での対応力を向上させることが期待される。



AIを活用した学習手法では、対話型ロボットを使ったシミュレーションが行えます。また、データ分析により受講者の苦手分野を特定し、個別最適なカリキュラムを提供するシステムもあります。

これにより、多国籍スタッフが実践的な介護技術を効果的に習得できるようになります。

### 第3節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

#### ⑤ AIを活用した教育とトレーニング手法

AIを活用した教育とトレーニングは、個別指導と効率的な学習環境の提供に貢献する。AIが学習進捗をリアルタイムで把握し、個々の理解度に応じた教材を提供することで、より効果的な教育が可能となる。また、シミュレーション学習やVRを活用した実践トレーニングにより、介護現場で求められるスキルを身につけることができる。これらの技術を活用することで、外国人スタッフの適応を支援し、介護サービスの質を向上させる。



AIを活用した教育では、個々の学習進捗に応じた教材提供が可能です。AIが理解度をリアルタイムで把握し、最適なトレーニングを提供します。また、VRを活用したシミュレーション学習により、介護現場で求められるスキルを効果的に習得できます。

これらの技術を活用することで、外国人スタッフの適応を支援し、介護サービスの質の向上につながります。

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

AI翻訳や応答システムを活用した言語支援、リアルタイム翻訳、言語教育プログラムの導入効果を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境における言語上の課題特定
- ② AIによるリアルタイム翻訳システムの活用法
- ③ AI応答システムを利用した言語支援事例
- ④ 言語教育プログラムへのAI導入効果
- ⑤ AIによる言語サポートの最適化



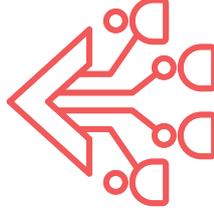
令和6年度「専門職人材の異国対応アップグレードのための研修等取りこ入れ」教育推進事業

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

### ① 多国籍共生介護環境における言語上の課題特定

多国籍共生介護環境では、言語の壁がスタッフ間意思疎通や利用者への対応の妨げとなることがある。特に、医療・介護専門用語の理解不足、文化的な言葉の違いが誤解を生む要因となる。また、利用者との会話が円滑に進まないことで、適切なケアが提供できない場合がある。

そのため、AIを活用した言語サポートシステムの導入が求められており、現場ごとに言語上の課題を特定し、適切な解決策を検討することが重要である。



令和6年度「専門職人材の異国対応アップグレードのための研修等取りこ入れ」教育推進事業

AI技術を活用することで、多国籍共生介護の現場における言語の壁を克服し、スムーズなコミュニケーションが可能になります。AI翻訳や応答システムを活用することで、スタッフと利用者間の意思疎通が円滑になり、業務の効率化が進みます。また、リアルタイム翻訳機能を活用することで、多国籍スタッフがより迅速に対応できる環境が整います。さらに、言語教育プログラムのAI導入により、スタッフの言語習得を支援し、多国籍チームの協力体制を強化します。

多国籍共生介護環境では、言語の壁がスタッフ間の意思疎通や利用者対応の妨げとなることがあります。特に、医療・介護専門用語の理解不足や文化的な言葉の違いが問題となり、誤解を生む要因になります。また、利用者との会話が円滑に進まないことで、適切なケアを提供することが難しくなる場合があります。そのため、AIを活用した言語サポートシステムの導入が求められており、現場ごとに言語上の課題を特定し、適切な解決策を検討することが重要です。

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

### ② AIによるリアルタイム翻訳システムの活用法

AIを活用したリアルタイム翻訳システムは、音声認識や文字変換を通じて、スタッフと利用者の意思疎通をサポートする。たとえば、スマートフォンやタブレットに搭載されたAI翻訳アプリを活用することで、リアルタイムで会話が可能となる。また、介護記録やマニュアルを多言語で提供することで、多国籍スタッフが業務を円滑に行える環境を整えられる。これにより、言語の違いによる業務の遅れや誤解を最小限に抑えることができる。



令和6年度「専門職人材の異動対応アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

### ③ AI応答システムを利用した言語支援事例

AI応答システムを活用することで、多国籍介護現場における言語サポートが向上する。AIチャットボットや音声アシスタントを導入することで、介護スタッフが質問に対して瞬時に適切な回答を得られる。たとえば、介護業務に関する多言語対応のFAQシステムを利用することで、言語の違いによる混乱を防ぎ、業務効率を向上させることができる。また、利用者とのコミュニケーションにも活用でき、多国籍スタッフの業務負担を軽減する効果が期待される。



令和6年度「専門職人材の異動対応アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AIを活用したリアルタイム翻訳システムは、音声認識や文字変換を用いて意思疎通をサポートします。スマートフォンやタブレットの翻訳アプリを使うことで、リアルタイムでの会話が可能になります。また、介護記録やマニュアルを多言語で提供することで、多国籍スタッフが業務を円滑に行える環境を整えられます。

AI応答システムは、チャットボットや音声アシスタントを活用し、介護スタッフの言語サポートを行います。例えば、多言語対応のFAQシステムを利用すると、業務に関する質問に対し、リアルタイムで適切な回答が得られます。また、利用者との会話にも活用でき、言語の違いによる混乱を防ぎながら、スタッフの業務負担を軽減することができます。

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

### ④ 言語教育プログラムへのAI導入効果

AIを活用した言語教育プログラムは、多国籍スタッフの日本語習得を援し、介護現場でのコミュニケーション能力向上に貢献する。たとえば、AIを活用した学習アプリでは、音声認識技術を活用し、発音や会話スキルを個別に指導することが可能である。

また、学習者の理解度をリアルタイムで分析し、個々に最適な教材を提供するシステムも導入されている。これにより、スタッフの言語スキル向上が加速し、職場内での意思疎通が円滑になる。



令和6年度「専門職人材の高度化アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

AIを活用した言語教育プログラムは、多国籍スタッフの日本語学習を支援します。AI搭載の学習アプリでは、音声認識技術を用いて発音や会話スキルの向上が可能です。また、学習者の理解度を分析し、個別に最適な教材を提供する機能もあります。これにより、スタッフの言語スキル向上が促進され、職場での円滑なコミュニケーションにつながります。

## 第4節 AIを活用した言語サポートの拡充

### ⑤ AIによる言語サポートの最適化

AI技術を活用することで、多国籍介護現場における言語サポートを最適化できる。リアルタイム翻訳、AI応答システム、学習支援ツールを組み合わせることで、スタッフが状況に応じた言語支援を受けられる環境を構築できる。たとえば、AI翻訳機能と学習プログラムを連携させることで、スタッフの日本語習得と業務サポートを同時に実現できる。また、データ分析に基づき、各現場のニーズに最適化された言語支援システムの設計が可能となる。



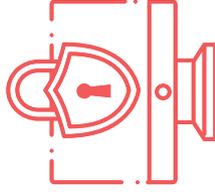
令和6年度「専門職人材の高度化アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

AIを活用することで、多国籍介護現場の言語サポートを最適化できます。リアルタイム翻訳やAI応答システム、学習支援ツールを組み合わせることで、スタッフが状況に応じた言語支援を受けられる環境を構築できます。また、データ分析を活用して各現場に最適な言語支援システムを導入することで、業務の円滑化が期待されます。

## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

プライバシー保護や公平性の確保、文化的感受性への配慮、AI導入による偏見軽減策など、倫理的課題への対応を学ぶ。

- ① AIによる多国籍共生介護環境でのプライバシー保護
- ② 公平性を確保するAI活用手法の設計
- ③ AIが多国籍共生介護の文化的感受性に与える影響
- ④ AI導入による多国籍共生介護環境での偏見軽減策
- ⑤ AI活用における倫理的配慮の方法



令和6年度「専門職人材の養成・研修（アップデータ）のための研修資料（リカレント）教育用講義集」

AIの導入により、多国籍共生介護の現場ではプライバシー保護や公平性の確保が重要な課題となります。AIを活用する際には、個人情報の適切な管理とデータの安全性を確保することが求められます。また、公平性の確保や文化的感受性への配慮が必要であり、適切な設計を行うことで、偏見のない環境を実現できます。さらに、AI導入による偏見軽減策を具体的に検討し、多国籍スタッフと利用者が安心して利用できるシステムの構築を目指すことが不可欠です。

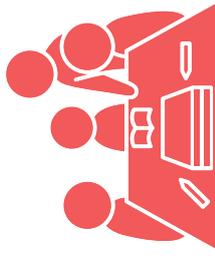
## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

### ① AIによる多国籍共生介護環境でのプライバシー保護

AIを活用した介護システムでは、利用者やスタッフの個人情報や健康データを適切に管理することが求められる。

特に、多国籍共生介護環境では、個人情報の取り扱いに関する国際的な基準や文化的な考え方の違いに配慮する必要がある。

データの暗号化やアクセス権の制御を適切に行うことで、情報漏洩のリスクを最小限に抑える。また、AIを活用した監視・記録システムがプライバシーを侵害しないよう、透明性のある運用ルールの整備が必要となる。



令和6年度「専門職人材の養成・研修（アップデータ）のための研修資料（リカレント）教育用講義集」

AIを活用した介護システムでは、個人情報や健康データの適切な管理が重要です。特に、多国籍環境では、個人情報の取り扱いに関する国際基準や文化の違いに配慮する必要があります。データの暗号化やアクセス制限を行い、情報漏洩を防ぐ対策が求められます。また、AIの監視機能がプライバシーを侵害しないよう、透明性のあるルールを整備することが大切です。

## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

### ② 公平性を確保するAI活用手法の設計

AIを活用する際には、すべての利用者やスタッフに公平なサービスが提供されることが求められる。多国籍共生介護環境では、AIのアルゴリズムが特定の国籍や言語を優先することなく、すべての人に平等な対応を行う必要がある。そのためには、多様なデータを学習させることで、偏りのない判断ができるAIシステムの設計が重要となる。また、AIの判断基準を透明化し、スタッフが適切に運用できるように研修を実施することで、公平性を確保できる。

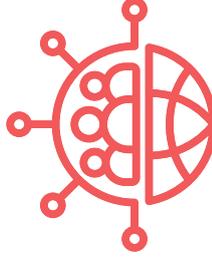


令和6年度「専門職人材の発掘・育成・確保に向けた研修等実施計画」

## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

### ③ AIが多国籍共生介護の文化的感受性に与える影響

多国籍共生介護環境では、AIが文化的な違いにどのように対応するかが重要な課題となる。AIは、データに基づいて意思決定を行うため、文化ごとの価値観や習慣を十分に理解できない場合がある。たとえば、食事や宗教的な習慣、コミュニケーションのスタイルが異なるため、AIが適切な対応を学習する必要がある。そのため、多文化データを反映したAIの開発が求められ、文化的背景に配慮したカスタマイズやスタッフの補助的な役割が不可欠となる。



令和6年度「専門職人材の発掘・育成・確保に向けた研修等実施計画」

AIを活用する際には、すべての利用者やスタッフに公平な対応を行うことが必要です。特定の国籍や言語を優先しないよう、多様なデータを学習させるAIシステムの設計が求められます。また、AIの判断基準を透明化し、スタッフが適切に運用できる研修を実施することで、公平性を確保し、誰もが平等に介護サービスを受けられる環境を整えることが重要です。

AIが多国籍共生介護に適切に対応するためには、文化的な価値観や習慣を理解することが重要です。例えば、食事や宗教的な習慣、コミュニケーションのスタイルは国によって異なるため、AIがそれらを学習し、適切に対応する必要があります。そのため、多文化データを反映したAIの開発や、スタッフが補助的な役割を果たす体制を整えることが求められます。

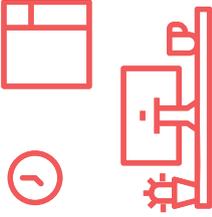
## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

### ④ AI導入による多国籍共生介護環境での偏見軽減策

AIを適切に活用することで、多国籍共生介護環境における無意識の偏見や差別を軽減することができます。

たとえば、採用や評価の場面でAIを用いることで、個人的な先入観を排除し、客観的な判断が可能となる。しかし、AI自体が偏ったデータを学習してしまうリスクもあるため、

公平なデータセットの使用や、定期的なシステムの見直しが必要なこととなる。AIの活用によって、文化的・言語的な違いを超えた公平な職場環境の構築が期待される。



## 第5節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

### ⑤ AI活用における倫理的配慮の方法

AIを介護分野で活用する際には、倫理的な配慮を十分に考慮した設計と運用が求められる。具体的には、個人情報の保護、公平な判断、文化的な配慮が重要なポイントとなる。

また、AIの意思決定プロセスを透明化し、利用者やスタッフがどのようにAIを活用しているのかを理解できる仕組みを作ることが必要である。さらに、AIの活用に関するルールを策定し、技術の進化に合わせた継続的な見直しを行うことで、倫理的な問題を最小限に抑えることができる。



AIを活用することで、無意識の偏見や差別を軽減できます。例えば、採用や評価の際にAIを使用すると、個人的な先入観を排除し、公平な判断が可能になります。ただし、偏ったデータを学習するとAIが誤った判断をする可能性があるため、公平なデータセットの使用や定期的なシステムの見直しが必要です。これにより、公平な職場環境の実現が期待されます。

AIを介護分野で活用する際は、個人情報の保護、公平性、文化的配慮を考慮することが重要です。また、AIの意思決定プロセスを透明化し、利用者やスタッフが仕組みを理解できるようにすることが求められます。さらに、AI活用のルールを策定し、継続的に見直すことで倫理的な問題を防ぐことができます。

## 第3章

### 多国籍共生介護環境におけるリスク管理



令和6年度「専門職職人対の最新技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

この章では、多国籍共生介護環境におけるリスク管理について学習します。

### 第3章 多国籍共生介護環境におけるリスク管理

- 1 節 介護DXの概要とAIの基礎知識
- 2 節 多国籍共生介護におけるAIの活用事例
- 3 節 AIを活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング
- 4 節 AIを活用した言語サポートの拡充
- 5 節 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題



令和6年度「専門職職人対の最新技術アップグレードのための研修学校リカレント教育推進事業」

本章では、5つの節を通じて、多国籍共生介護のリスク管理を学び、介護DXの概要、AI活用事例、教育・トレーニング、言語サポート、倫理的課題への対応策を考察します。

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

多国籍共生介護に伴うリスクを分析し、課題解決策やリスク管理体制の導入、事前対応の重要性を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境に起因するリスクの特定と分析
- ② 多国籍共生介護リスク管理体制の導入
- ③ 多国籍共生介護環境における課題解決策
- ④ リスク予測と事前対応の実践
- ⑤ リスク管理の効果的な実施方法

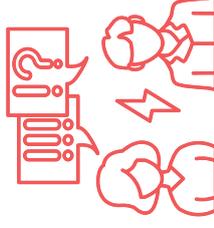


令和6年度「専門職職人に対する認知症ケア研修」教育推進事業

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

### ① 多国籍共生介護環境に起因するリスクの特定と分析

多国籍共生介護環境では、言語の壁、文化的価値観の違い、業務の進め方の相違など、さまざまなリスクが発生する可能性がある。たとえば、スタッフ間の認識のずれにより、介護手順やケアの内容に誤解が生じることがある。また、宗教や生活習慣の違いが業務の進行に影響を与える場合もある。これらのリスクを適切に管理するためには、問題を事前に特定・分析し、組織全体で対応策を講じることが重要である。職員向け研修や危機管理マニュアルの整備、相談窓口の設置を通じて、リスクを未然に防ぎ、安全な職場環境を構築する。



令和6年度「専門職職人に対する認知症ケア研修」教育推進事業

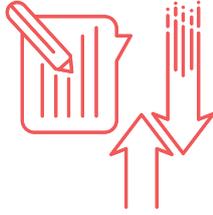
多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いが業務の進行を妨げる要因となることがあります。リスクを特定し、適切な管理体制を導入することで、トラブルの発生を未然に防ぐことが求められます。また、課題解決策を検討し、リスク予測を行うことで、安全で働きやすい環境を構築することが可能となります。事前対応の重要性を理解し、継続的なリスク管理を行うことで、介護サービスの質を向上させることができます。

多国籍共生介護環境では、文化や言語の違いによるリスクを適切に管理することが求められます。スタッフ間の認識のずれや、宗教・生活習慣の違いが業務に影響を与える可能性があります。そのため、職員向け研修の実施、危機管理マニュアルの整備、相談窓口の設置など、組織的な対策を講じることが重要です。また、リスクの特定・分析を定期的に行い、問題の早期発見と未然防止を徹底することで、スタッフが安心して業務に取り組みめる環境を確保します。

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

### ② 多国籍共生介護リスク管理体制の導入

多国籍共生介護環境においてリスクを適切に管理するためには、リスク管理体制の導入が不可欠である。具体的には、職員向けのリスク管理マネジメント研修の実施、リスク管理マニュアルの作成、言語・文化面の問題に対する相談窓口の設置などが求められる。特に、多国籍スタッフが安心して業務を行える環境を整えるためには、定期的なフィードバックを通じて、リスクを未然に防ぐ仕組みを構築することが重要である。

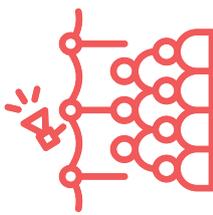


多国籍共生介護のリスクを管理するためには、リスク管理体制を整備することが必要です。具体的には、職員向けの研修や危機管理マニュアルの作成が求められます。また、言語や文化の違いによる問題に対応できる相談窓口の設置も重要です。定期的なフィードバックを通じて、リスクを未然に防ぐ仕組みを構築することが大切です。

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

### ③ 多国籍共生介護環境における課題解決策

多国籍共生介護環境において発生するリスクや課題を解決するためには、適切な対策を講じることが重要である。たとえば、言語の壁を克服するためにAI翻訳ツールや多言語対応のマニュアルを導入することが有効である。また、文化の違いを理解し、相互に尊重するための異文化交流イベントや研修の実施も効果的である。これらの取り組みにより、スタッフ間の信頼関係を構築し、円滑な業務遂行を可能にすることができる。

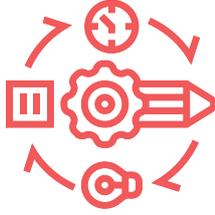


多国籍共生介護の課題を解決するには、言語や文化の違いに対応する取り組みが重要です。例えば、AI翻訳ツールの導入や多言語対応マニュアルの整備が有効です。また、異文化交流イベントや研修を実施し、相互理解を深めることも大切です。これにより、スタッフ間の信頼関係が築かれ、業務の円滑な進行が可能になります。

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

### ④ リスク予測と事前対応の実践

多国籍共生介護環境でのリスクを最小限に抑えるためには、リスクを事前に予測し、適切な対応策を準備することが必要である。たとえば、定期的な職員面談を実施し、スタッフが抱える課題や不安を早期に把握することが重要である。また、シミュレーション研修を導入し、緊急時の対応力を高めることも有効である。さらに、AIを活用したデータ分析により、リスクの発生傾向を事前に把握し、問題が発生する前に対策を講じることが求められる。

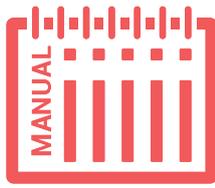


多国籍共生介護のリスクを減らすには、事前にリスクを予測し、適切な対応策を準備することが大切です。例えば、職員面談を定期的に行い、課題や不安を早期に把握することが重要です。また、シミュレーション研修を導入し、緊急時の対応力を高めることも有効です。さらに、AIを活用したデータ分析により、リスクの発生傾向を把握し、未然に防ぐことが求められます。

## 第1節 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

### ⑤ リスク管理の効果的な実施方法

多国籍共生介護環境におけるリスク管理を効果的に実施するためには、リスクマネジメントの体制を構築し、全スタッフが適切に対応できる環境を整備することが重要である。たとえば、緊急時の対応マニュアルを作成し、全員がその内容を理解できるようにすることが求められる。また、継続的な研修を実施し、リスクへの意識を高めることも有効である。さらに、リスク発生時には迅速に情報共有を行い、適切な対策を講じる体制を確立することが必要である。

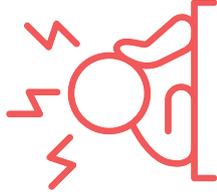


多国籍共生介護のリスク管理を効果的に行うには、リスクマネジメント体制の構築が必要です。例えば、緊急時の対応マニュアルを作成し、全スタッフが理解できるようにすることが求められます。また、継続的な研修を実施し、リスクに対する意識を高めることも有効です。リスク発生時には、迅速な情報共有を行い、適切な対策を講じる体制を確立することが重要です。

## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

多国籍スタッフが快適に働ける環境づくり、迷惑行為防止策、ストレス管理、多文化に配慮した職場設計を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフが快適に働ける環境作り
- ② 多国籍共生介護に配慮した職場設計
- ③ 迷惑行為防止と多国籍共生介護への理解促進
- ④ 多国籍共生介護チームのストレス管理方法
- ⑤ 多国籍共生介護職場環境の改善手法



令和6年度「専門職・人材の異動・異任・アップグレードのための研修等」(リカレント教育推進事業)

多国籍共生介護の現場では、多様な文化背景を持つスタッフが快適に働ける職場環境の整備が重要です。適切な職場設計や迷惑行為防止策を講じることで、安心して働ける環境を整えることが求められます。また、ストレス管理の手法を取り入れ、メンタルヘルスを支援することで、スタッフの働きやすさを向上させることができます。多文化に配慮した職場環境の改善を進めることで、スタッフ間の協力が促進され、介護サービスの質の向上につながります。

## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

### ① 多国籍スタッフが快適に働ける環境作り

多国籍スタッフが快適に働くためには、言語サポート、文化的配慮、職場の支援体制が必要である。特に、多言語対応のマニュアルやAI翻訳ツールを活用することで、コミュニケーションの障壁を減らすことができる。また、文化的背景を尊重し、ハラール対応の食事提供や宗教的配慮を行うことで、スタッフが安心して働ける環境が整う。さらに、定期的な意見交換の場を設け、スタッフの声を反映することで、働きやすい職場づくりが可能となる。



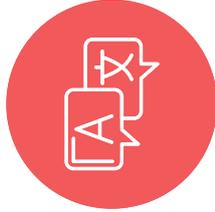
令和6年度「専門職・人材の異動・異任・アップグレードのための研修等」(リカレント教育推進事業)

多国籍スタッフが快適に働くには、言語サポートや文化的配慮が必要です。例えば、多言語マニュアルやAI翻訳ツールを活用し、円滑なコミュニケーションを実現します。また、ハラール食や宗教的配慮を行うことで、安心して働ける環境を整えます。さらに、定期的な意見交換の場を設け、職場の改善を進めることが重要です。

## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

### ② 多国籍共生介護に配慮した職場設計

多国籍スタッフが働きやすい職場を作るためには、施設内の多言語表記、動線の最適化、リラクゼーションスペースの確保が重要である。たとえば、案内表示や業務マニュアルを複数言語で用意することで、業務の円滑化が図れる。また、スタッフ同士のコミュニケーションを促進するために、多文化交流スペースを設置することも有効である。さらに、業務内容を考慮し、無理のない動線設計を行うことで、スタッフの負担軽減につながる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

多国籍スタッフが働きやすい職場を作るには、多言語表記の導入や動線の最適化が重要です。例えば、案内表示や業務マニュアルを複数言語で用意することで、業務の円滑化が進みます。また、多文化交流スペースを設け、スタッフ同士の相互理解を深めることも効果的です。業務負担を軽減するため、無理のない動線設計を行うことが求められます。

## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

### ③ 迷惑行為防止と多国籍共生介護への理解促進

多国籍共生介護環境では、職場内でのハラスメント防止や、異文化に対する理解の促進が重要である。特に、文化的価値観の違いによる誤解が生じやすいため、適切な研修やガイドラインの整備が求められる。たとえば、外国人スタッフへの差別を防ぐために、多文化理解を深めるワークショップを実施することが効果的である。

また、迷惑行為を未然に防ぐため、匿名で相談できる窓口の設置や、AIを活用したハラスメント防止システムの導入が有効である。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

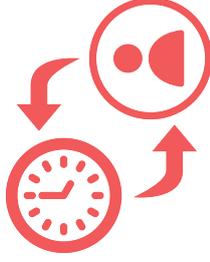
多国籍共生介護では、ハラスメント防止や異文化理解の促進が重要です。文化的価値観の違いによる誤解を防ぐため、適切な研修やガイドラインを整備する必要があります。また、多文化理解を深めるワークショップを実施することで、相互理解を促進できます。さらに、匿名で相談できる窓口やAIによるハラスメント防止システムの導入も効果的です。

## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

### ④ 多国籍共生介護チームのストレス管理方法

多国籍スタッフがストレスなく働くためには、適切なストレス管理体制を整えることが重要である。例えば、業務負担の軽減策として、シフトの柔軟化やメンタルヘルスケアの導入が挙げられる。

また、異文化間での摩擦を軽減するために、定期的なミーティングやカウンスリングの機会を設けることが有効である。さらに、AIを活用したストレスチェックシステムを導入し、スタッフの健康状態をリアルタイムで把握し、適切なサポートを提供することが求められる。



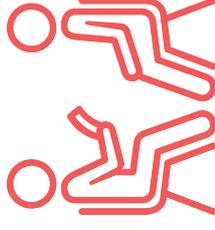
## 第2節 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

### ⑤ 多国籍共生介護職場環境の改善手法

多国籍共生介護環境を改善するためには、職場の働きやすさを向上させる具体的な手法を導入することが重要である。

たとえば、定期的な意見交換の場を設け、スタッフの要望を反映した職場改善を行うことが有効である。また、多国籍スタッフの生活環境を整えるために、住居支援や生活相談サービスを提供することで、長期的な定着を促進できる。

さらに、デジタルツールを活用して、言語の壁を克服し、業務の効率化を図ることも職場環境の改善につながる。



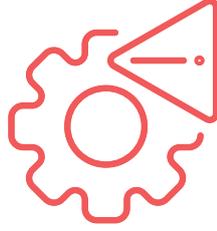
多国籍スタッフがストレスなく働けるよう、適切なストレス管理体制を整えることが大切です。業務負担を軽減するため、シフトの柔軟化やメンタルヘルスケアを導入することが有効です。また、定期的なミーティングやカウンスリングを行い、異文化間の摩擦を軽減することも重要です。さらに、AIを活用したストレスチェックシステムを導入し、スタッフの健康状態を把握することで、適切なサポートを提供できます。

多国籍共生介護の職場環境を改善するには、スタッフの意見を反映した働きやすい環境を整えることが重要です。例えば、定期的な意見交換の場を設け、スタッフの要望を反映した職場改善を行うことが有効です。また、住居支援や生活相談サービスを提供し、多国籍スタッフの生活環境を整えることで、長期的な定着を促進できます。さらに、デジタルツールを活用して、言語の壁を克服し、業務の効率化を図ることも、職場環境の向上につながります。

### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

課題の特定と解決策の考案、スタッフのフィードバック活用、システムエラー防止策、問題解決の効率化を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境上の問題の特定と解決策
- ② 多国籍共生介護環境の整備とサポート体制
- ③ スタッフへのフィードバックを活用した改善手法
- ④ システムエラーの防止策と予備システムの設計
- ⑤ 効果的な問題解決手法



令和6年度「専門職職人対の施設訪問アップデータのための研修資料(リカレント教育用講義集)」

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いによる課題が発生しやすいため、問題の特定と適切な解決策の考案が重要です。スタッフのフィードバックを活用することで、現場の課題を明確にし、業務の改善につながることができます。また、システムエラーの防止策を導入し、予備システムを整備することで、業務の安定性を確保できます。問題解決の効率化を進めることで、より良い職場環境を実現し、介護サービスの質の向上を目指します。

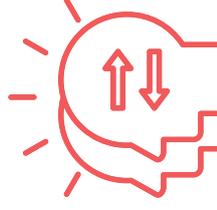
### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

#### ① 多国籍共生介護環境上の問題の特定と解決策

多国籍共生介護の現場では、言語の壁や文化の違いが業務の効率や職場環境に影響を与える。

コミュニケーション不足や業務理解の違いが、トラブルの原因となることもある。問題を特定し、適切な対策を講じることで、スタッフ間の協力体制が強化される。

具体的な解決策として、多言語対応ツールの導入や異文化理解研修の実施が挙げられる。



令和6年度「専門職職人対の施設訪問アップデータのための研修資料(リカレント教育用講義集)」

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いが業務に影響を与えることがあります。コミュニケーション不足や業務理解の違いがトラブルにつながることがあります。多言語対応ツールの導入や異文化理解研修の実施により、問題の解決が図れます。適切な対策を講じることで、職場の協力体制が強化され、業務の効率化につながります。

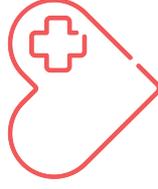
### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

#### ② 多国籍共生介護環境の整備とサポート体制

多国籍共生介護の現場では、スタッフが安心して働ける職場環境を整えることが重要となる。

言語の壁を克服するためのツール導入や、業務の明確な指示が必要である。また、相談窓口の設置やメンタルヘルス支援を充実させることで、スタッフの定着率が向上する。

適切なサポート体制を整えることで、スタッフのパフォーマンスを最大限に引き出すことができる。



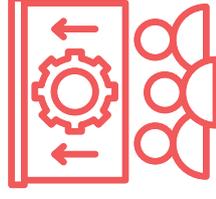
### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

#### ③ スタッフへのフィードバックを活用した改善手法

多国籍共生介護の現場では、スタッフの成長を促すために適切なフィードバックが必要となる。

定期的な評価を行い、業務の進め方やコミュニケーションの課題を明確にすることが重要である。

フィードバックの内容をもとに、トレーニングの改善や業務手順の見直しを行うことが求められる。この仕組みにより、スタッフの能力向上が促進され、職場の効率が向上する。



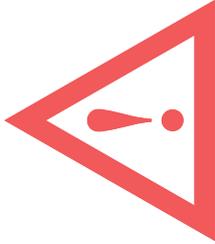
多国籍共生介護の現場では、スタッフが安心して働ける職場環境の整備が必要です。言語の壁を克服するためのツール導入や、業務の明確な指示が求められます。相談窓口の設置やメンタルヘルス支援を充実させることで、スタッフの定着率が向上します。適切なサポート体制を構築することで、スタッフの能力を最大限に活かすことができます。

多国籍共生介護の現場では、スタッフの成長を促すために適切なフィードバックが必要です。定期的な評価を実施し、業務の進め方やコミュニケーションの課題を明確にすることが重要です。フィードバックを活かし、トレーニングの改善や業務手順の見直しを行います。スタッフの能力向上を促進することで、職場の効率化が期待されます。

### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

#### ④ システムエラーの防止策と予備システムの設計

介護現場でAIやデジタルツールを活用する際には、システムエラーを未然に防ぐことが重要となる。  
予備のシステムやマニュアルを用意し、エラー発生時にも業務が滞らない体制を整える必要がある。  
データのバックアップや定期的なシステムチェックを行い、トラブルを最小限に抑える。  
また、トラブル発生時の対応フローを明確にし、迅速な復旧を可能にすることが求められる。

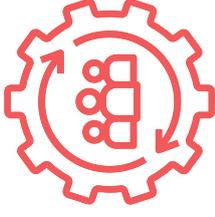


介護現場でAIを活用する際には、システムエラーを未然に防ぐ対策が必要です。予備のシステムやマニュアルを用意し、エラー発生時にも業務が滞らない体制を整えることが求められます。データのバックアップや定期的なシステムチェックを行い、トラブルを最小限に抑えます。また、トラブル発生時の対応フローを明確にし、迅速な復旧ができるよう備えることが重要です。

### 第3節 多国籍共生介護環境における問題解決手法

#### ⑤ 効果的な問題解決手法

多国籍共生介護の現場では、問題発生時に迅速かつ効果的に対応できる体制を整えることが重要となる。  
業務の流れを可視化し、どの段階で問題が生じるのかを明確にすることが必要である。  
定期的な職員会議を開き、現場での課題を共有し、解決策を協議する機会を設ける。  
このような体制を整えることで、業務の円滑化と職場の安定性を向上させることができる。

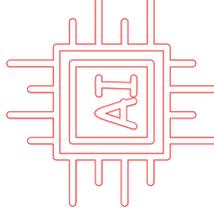


多国籍共生介護の現場では、問題発生時に迅速に対応できる体制を整えることが重要です。業務の流れを可視化し、どの段階で問題が生じるのかを明確にします。定期的な職員会議を開き、現場の課題を共有し、解決策を協議する機会を設けます。この体制を整えることで、業務の円滑化と職場の安定性が向上します。

## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

AI導入後のトラブル対応、早期発見と予防策、スタッフによるトラブル対応スキル、サポート体制の構築を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境で起こりやすいAI運用トラブル
- ② トラブル解決のための多国籍共生介護向けサポート体制
- ③ AIトラブルの早期発見と予防策
- ④ 多国籍共生介護スタッフによるAIトラブル対応スキル
- ⑤ AIトラブル対応の最適な手法



## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

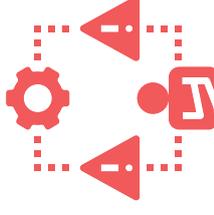
### ① 多国籍共生介護環境で起こりやすいAI運用トラブル

AIを活用する多国籍共生介護の現場では、システムの誤作動やデータ処理の遅延が発生する可能性がある。

言語の違いによる翻訳精度のばらつきや、利用者の発話を正しく認識できないケースも課題となる。

AIの学習データが偏っていると、一部の文化に適合しない判断を下すことがあり、利用者の満足度に影響を与える。

これらのトラブルを最小限に抑えるためには、定期的なシステムの調整とアップデートが不可欠である。



多国籍共生介護の現場でAIを活用する際には、導入後のトラブル対応や予防策が重要になります。AIの誤作動やシステムエラーを早期に発見し、適切な対応を行うことで、業務の安定性を確保できます。また、スタッフがトラブルに対応できるスキルを身につけるための研修やサポート体制の整備も必要です。AIの運用を適切に管理し、問題解決の手法を確立することで、介護サービスの質を維持し、効率的な業務運営を実現します。

多国籍共生介護の現場では、AIの誤作動やデータ処理の遅延が発生することがあります。翻訳精度のばらつきや、利用者の発話を正しく認識できないことが課題となります。AIの学習データが偏ると、適切な判断ができず、利用者の満足度に影響を与える可能性があります。トラブルを防ぐためには、システムの調整とアップデートを定期的に行うことが重要です。

## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

### ② トラブル解決のための多国籍共生介護向けサポート体制

AIを活用する介護現場では、トラブルが発生した際に迅速な対応ができるサポート体制が必要となる。

システムエラーやAIの誤作動が生じた際には、専門スタッフが速やかに対応できる環境を整える。利用者やスタッフがAIに関する問題を報告できるフィードバックシステムを導入し、課題の早期発見を図る。

トラブル対応マニュアルを作成し、全スタッフが適切な対処方法を理解できるようにすることが求められる。



令和6年度「専門職人材の養成・研修等に関する調査報告書」

## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

### ③ AIトラブルの早期発見と予防策

AIの運用において、トラブルの早期発見と予防が業務の安定性を確保する鍵となる。

データ分析による異常検知システムを導入し、AIの動作に不具合が発生した際に即座に対応できるようにする。スタッフが日常的にAIの動作を確認し、不具合を見つけた際には迅速に報告できる体制を整える。

定期的なシステムの点検と、AIの学習データの更新を行い、トラブルの発生を未然に防ぐことが求められる。



令和6年度「専門職人材の養成・研修等に関する調査報告書」

AIを活用する介護現場では、トラブル発生時に迅速に対応できるサポート体制が必要です。システムエラーやAIの誤作動には、専門スタッフが速やかに対応できる環境を整えます。フィードバックシステムを導入し、利用者やスタッフがAIに関する問題を報告しやすくし、課題の早期発見を図ることが重要です。トラブル対応マニュアルを作成し、スタッフが全員が適切な対処方法を理解できるようにすることが求められます。

AIの運用では、トラブルを早期に発見し、未然に防ぐことが重要です。データ分析を活用した異常検知システムを導入し、不具合発生時に迅速に対応できる環境を整えます。

スタッフが日常的にAIの動作を確認し、問題が発生した際に迅速に報告できる仕組みを導入します。

定期的なシステムの点検と、AIの学習データの更新を行い、トラブルの発生を防ぎます。

## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

### ④ 多国籍共生介護スタッフによるAIトラブル対応スキル

AIを介護現場で適切に運用するためには、スタッフが基本的なトラブル対応スキルを習得することが必要となる。

システムの基本操作やエラー対応方法を学ぶ研修を定期的の実施し、スタッフのスキル向上を図る。

AIの動作に異常を感じた際に、適切に報告し、

初期対応ができる環境を整えることが重要である。

専門スタッフとの連携を強化し、必要な場合には迅速に技術的なサポートを受けられる体制を構築する。



## 第4節 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

### ⑤ AIトラブル対応の最適な手法

AIを活用する介護現場では、トラブル発生時の迅速な対応と標準的な対応手順の確立が不可欠である。システムエラーや誤作動を防ぐため、リスクの種類を特定し、適切な予防策を講じることが重要である。

また、問題発生時の対応手順を明確にし、全スタッフが共通のルールに基づいて行動できる体制を構築することが求められる。AI技術のアップデートや研修を通じて、トラブル対応のスキルを継続的に向上させることが必要である。



AIを適切に運用するためには、スタッフがトラブル対応スキルを習得することが重要です。システムの基本操作やエラー対応方法を学ぶ研修を定期的の実施し、スキル向上を図ります。AIに異常が発生した際に、適切に報告し、初期対応ができる環境を整えることが求められます。専門スタッフと連携し、技術的なサポートを迅速に受けられる体制を構築することが大切です。

AIを活用する介護現場では、トラブルの発生を未然に防ぎ、迅速な対応を行うことが求められます。システムエラーや誤作動を防ぐため、定期的な点検とアップデートを実施し、リスク管理を徹底します。また、トラブル発生時の対応手順を標準化し、全スタッフが共通のルールで迅速に対応できる体制を整えます。最新のAI技術やトラブル対応手法を学ぶ研修を継続し、スタッフの対応能力を高めることが重要です。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

リスク管理の基本方針、AI活用のリスク対策、異文化間の課題発見、問題解決ツールの導入、効果的なチーム運営を学ぶ。

- ① 多国籍スタッフ間での透明性を保つための方針設定
- ② リスク管理におけるAIの活用手法
- ③ 異文化間の課題を早期に発見するための管理手法
- ④ 問題解決手法を効率化するためのツール導入
- ⑤ リスク管理を成功に導くためのチーム全体での取り組み

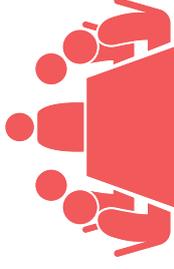


令和6年度「専門職・人材の異文化能力アップのための研修等取組（リカレント教育推進事業）」

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

### ① 多国籍スタッフ間での透明性を保つための方針設定

多国籍共生介護の現場では、スタッフ間の信頼関係を築くために透明性を確保することが重要となる。業務のルールや役割分担を明確にし、公平な評価制度を導入することで職場の一体感が高まる。定期的なミーティングを実施し、スタッフの意見を積極的に取り入れることで、職場環境を改善する。適切な情報共有を行うことで、文化の違いを尊重しながら円滑なコミュニケーションが可能になる。



令和6年度「専門職・人材の異文化能力アップのための研修等取組（リカレント教育推進事業）」

多国籍共生介護の現場では、リスクを適切に管理し、安全で働きやすい環境を整えることが求められます。リスク管理の基本方針を明確にし、AIを活用したリスク対策を導入することで、業務の安定性を高めることができます。また、異文化間の課題を早期に発見し、問題解決ツールを活用することで、効果的な対策を講じることが可能です。チーム全体でリスク管理に取り組むことで、透明性を確保し、より良い介護サービスの提供を目指します。

多国籍スタッフの信頼関係を築くためには、職場の透明性を確保することが大切です。業務のルールや役割分担を明確にし、公平な評価制度を導入することで職場の一体感が高まります。

スタッフの意見を取り入れるため、定期的なミーティングを実施することが有効です。適切な情報共有を行い、文化の違いを尊重しながら円滑なコミュニケーションを図ります。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

### ② リスク管理におけるAIの活用手法

AIを活用することで、介護現場におけるリスクを事前に特定し、迅速な対応を可能にする。

リアルタイムモニタリングやデータ分析を活用し、利用者の健康状態や業務の異常を検知する。

AIが蓄積したデータを基に、リスクの発生傾向を予測し、未然に防ぐための対策を講じることができる。

AIを活用したリスク管理システムを導入することで、スタッフの負担を軽減し、安全な職場環境を実現する。



令和6年度「専門職職人対の異文化間ケアアップデートのための研修資料(リフレント教育推進事業)」

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

### ③ 異文化間の課題を早期に発見するための管理手法

多国籍共生介護の現場では、異文化間の摩擦を早期に発見し、適切に対処することが求められる。

文化的背景の違いによる誤解や価値観の相違を把握し、相互理解を深める取り組みを進める。

スタッフ同士の定期的な意見交換やアンケート調査を実施し、問題点を明確にすることが重要となる。

異文化理解を促進するための教育プログラムやワークショップを導入し、より良い職場環境を構築する。



令和6年度「専門職職人対の異文化間ケアアップデートのための研修資料(リフレント教育推進事業)」

AIを活用することで、介護現場のリスクを事前に特定し、迅速に対応することが可能になります。

リアルタイムモニタリングやデータ分析を活用し、利用者の健康状態や業務の異常を検知します。

AIがリスクの発生傾向を予測し、未然に防ぐための対策を講じることができません。

リスク管理システムを導入することで、スタッフの負担を軽減し、安全な職場環境を整えます。

多国籍共生介護の現場では、異文化間の摩擦を早期に発見し、適切に対処することが重要です。

文化的背景の違いによる誤解や価値観の相違を理解し、相互理解を深めることが求められます。

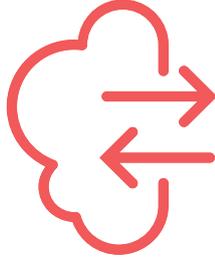
定期的な意見交換やアンケート調査を実施し、問題点を明確にすることが有効です。

異文化理解を促進する教育プログラムを導入し、より良い職場環境を整えることが大切です。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

### ④ 問題解決手法を効率化するためのツール導入

多国籍共生介護の現場では、問題解決の効率を高めるためにデジタルツールの導入が進められている。  
AIを活用したAI翻訳機能や、業務管理システムを導入することで、言語や業務の課題を解決する。  
コミュニケーションアプリやクラウド型の情報共有ツールを活用し、リアルタイムでの連携を強化する。  
デジタル技術を活用することで、業務の効率化とスタッフの負担軽減が実現される。



令和6年度「専門職職人対の認知症ケアアップデートのための研修等取組リポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、問題解決の効率化を図るためにデジタルツールの導入が進められています。  
AIを活用した自動翻訳ツールや業務管理システムを導入することで、言語や業務の課題を解決します。  
クラウド型情報共有ツールを活用し、リアルタイムでのスタッフ間の連携を強化します。  
デジタル技術を活用することで、業務の効率化とスタッフの負担軽減が期待されます。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのリスク管理

### ⑤ リスク管理を成功に導くためのチーム全体での取り組み

多国籍共生介護の現場では、リスク管理を成功させるために、チーム全体での協力が不可欠である。  
スタッフ全員がリスクの意識を持ち、共通の対応方針に基づいて行動することで、職場の安全性が向上する。  
リスク発生時の対応マニュアルを整備し、定期的な訓練を実施することで、迅速な対応が可能となる。  
継続的な改善を行い、リスク管理の体制をより強固にすることが求められる。



令和6年度「専門職職人対の認知症ケアアップデートのための研修等取組リポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、リスク管理を成功させるために、チーム全体での取り組みが重要です。  
スタッフ全員がリスクの意識を持ち、共通の対応方針に基づいて行動することで、職場の安全性が向上します。  
対応マニュアルを整備し、定期的な訓練を実施することで、リスク発生時に迅速に対応できます。  
継続的な改善を行い、リスク管理の体制をより強固にしていけることが求められます。

## 第4章

### AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上



令和6年度「専門職職人に対する認知能力アップグレードのための研修等取組」カレント教育推進事業」

この章では、AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上について学習します。

## 第4章 多国籍共生介護を支援するAIと コミュニケーション戦略

- 1 節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上
- 2 節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援
- 3 節 多国籍共生介護環境における AI応答システムの活用
- 4 節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア
- 5 節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法



令和6年度「専門職職人に対する認知能力アップグレードのための研修等取組」カレント教育推進事業」

本章では、多国籍共生介護の現場におけるAI活用やコミュニケーション改善策を整理します。リアルタイム翻訳やNLPを活用し、意思疎通を円滑にする方法を考察します。また、迷惑行為防止やメンタルケアの強化、チーム連携向上の手法を検討します。AIを適切に活用し、スタッフが協力しやすい環境を整え、質の高い介護を目指します。

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

AI翻訳や音声認識を活用し、多国籍スタッフと利用者間の円滑なコミュニケーションを促進する方法を学ぶ。

- ① AIを活用した多国籍共生介護の促進と効果
- ② 多国籍共生介護環境でのAIの役割
- ③ AIで解消できる多国籍共生介護環境のコミュニケーション課題
- ④ AIを使った多国籍共生介護環境の壁の克服方法
- ⑤ AIを活用した効果的なコミュニケーション方法



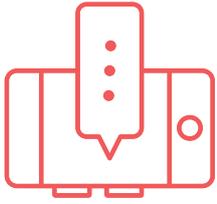
令和6年度「専門職人材の異域異国アップデータのための研修等取組カリキュラム」教育用講義集

多国籍共生介護の現場では、言語の壁がスタッフや利用者間のコミュニケーションの障害となることがあります。AI翻訳や音声認識技術を活用することで、異なる言語を話すスタッフ同士や利用者との円滑な意思疎通が可能になります。また、AIによるリアルタイム翻訳や自動音声変換システムの導入により、業務の正確性が向上し、介護サービスの質の向上につながります。AI技術を効果的に活用することで、より良い職場環境を実現し、多国籍スタッフが協力しやすい環境を整えることができます。

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

### ① AIを活用した多国籍共生介護の促進と効果

多国籍共生介護の現場では、言語の壁や文化の違いがスタッフ間の連携や利用者との意思疎通に影響を与える。AIを活用したリアルタイム翻訳や音声認識システムの導入により、コミュニケーションの障害を軽減できる。介護記録の自動翻訳や多言語対応のAIチャットボットの活用により、業務の効率化が進む。AI技術を適切に活用することで、言語や文化の違いを超えたスムーズな連携が可能となる。



令和6年度「専門職人材の異域異国アップデータのための研修等取組カリキュラム」教育用講義集

介護施設で異なる文化背景を持つ人々が集まることは、多彩な言語、価値観、信念、慣習が交わり合い、スタッフと利用者や患者の双方にとって豊かな環境を創り出します。また、多国籍のスタッフによる文化的知識は、個別化されたケアの提供にもなります。異文化の祭りや食事を取り入れた活動は、利用者にとって新たな体験、暮らし方や学びにも繋がります。

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

### ② 多国籍共生介護環境でのAIの役割

AIは多国籍共生介護の現場において、言語の壁を克服し、業務の円滑化を支援する役割を果たす。  
音声認識や自動翻訳機能を活用することで、スタッフ間や利用者との意思疎通が容易になる。  
AIが介護記録の作成を自動化し、スタッフの負担を軽減するとともに、情報の正確性が向上する。  
多国籍スタッフの適応をサポートし、職場全体の生産性向上に貢献する。



令和6年度「専門職職人対の異国語対応アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

### ③ AIで解消できる多国籍共生介護環境でのコミュニケーション課題

多国籍共生介護の現場では、言語の違いによる意思疎通の困難さが業務の妨げとなることがある。  
AIを活用した翻訳ツールや音声認識技術を導入することで、スタッフ間のコミュニケーションを円滑にできる。  
利用者とスタッフの間でも、AIを活用した会話支援ツールを使うことで、意思疎通がスムーズになる。  
適切なAIの活用により、文化や言語の壁を越えた多国籍共生介護の実現が可能となる。



令和6年度「専門職職人対の異国語対応アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AIは多国籍共生介護の現場で、言語の壁を克服し、業務を円滑にする役割を果たします。  
音声認識や自動翻訳機能を活用し、スタッフや利用者との意思疎通をスムーズにします。  
介護記録の作成を自動化し、業務負担を軽減するとともに、情報の正確性を向上させます。  
多国籍スタッフの適応を支援し、職場全体の生産性向上に貢献します。

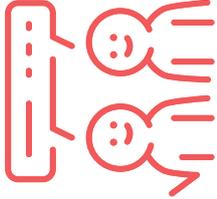
多国籍共生介護の現場では、言語の違いが業務の妨げとなることがあります。  
AIを活用した翻訳ツールや音声認識技術により、スタッフ間のコミュニケーションが改善されま

す。  
利用者との意思疎通もAI会話支援ツールを活用することでスムーズになります。  
適切なAI活用により、文化や言語の壁を越えた介護環境を実現できます。

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

### ④ AIを使った多国籍共生介護環境の壁の克服方法

文化の違いや言語の壁がある多国籍共生介護の現場では、AIの活用が課題解決の鍵となる。  
AIを活用した多言語対応のコミュニケーションツールを導入することで、言語障壁を低減できる。  
異文化理解を深めるためのAIトレーニングプログラムを導入し、スタッフの適応力を高めることができる。  
リアルタイム翻訳や音声解析技術を活用し、多国籍スタッフがスムーズに協力できる環境を構築する。

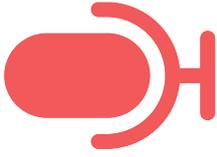


令和6年度「専門職職人対の異文化対応アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

## 第1節 AIを活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

### ⑤ AIを活用した効果的なコミュニケーション方法

AI技術を活用することで、多国籍共生介護の現場におけるコミュニケーションを効果的に支援できる。  
AIを用いた音声アシスタントや自動翻訳アプリを活用し、リアルタイムで正確な情報を伝達することが可能となる。  
チャットボットを導入することで、スタッフが必要な情報を即座に取得し、業務の効率化を図ることができる。  
AIの適切な導入と活用により、言語の違いを超えた円滑なコミュニケーションを実現し、介護サービスの向上につなげる。



令和6年度「専門職職人対の異文化対応アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、文化の違いや言語の壁が課題となります。AIを活用した多言語対応のツールを導入することで、言語障壁を軽減できます。異文化理解を深めるためのAI教育プログラムの導入し、スタッフの適応力を高めることができます。リアルタイム翻訳や音声解析技術を活用し、多国籍スタッフがスムーズに協力できる環境を構築します。

AIを活用することで、多国籍共生介護の現場におけるコミュニケーションが向上します。音声アシスタントや自動翻訳アプリを導入し、リアルタイムで正確な情報を伝達します。チャットボットを活用することで、スタッフが必要な情報を即座に取得し、業務の効率化を図ります。  
AIを適切に導入することで、言語の壁を超えた円滑なコミュニケーションが可能になります。

## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

NLP技術を活用し、多言語対応の会話支援システムを導入することで、専門用語の翻訳や通訳支援を強化する方法を学ぶ。

- ① NLP 技術を活用した多国籍共生介護環境での会話支援方法
- ② NLP 会話支援システムの導入による効果
- ③ 多国籍共生介護での複雑な専門用語の翻訳・通訳支援
- ④ NLP 技術の進化による多国籍共生介護環境でのサービス向上
- ⑤ NLP を活用した会話支援の導入方法



令和6年度「専門職・人材の高度化・アップグレードのための研修等取組（リカレント教育推進事業）」

多国籍共生介護の現場では、言語の壁がコミュニケーションの課題となることがあります。NLP 技術を活用した多言語対応の会話支援システムを導入することで、専門用語の翻訳や通訳を強化し、スタッフや利用者との意思疎通を円滑にできます。リアルタイム翻訳や音声認識を活用することで、正確な情報共有が可能になり、業務の効率化が期待されます。適切なNLP技術を導入し、介護サービスの質を向上させることが重要です。

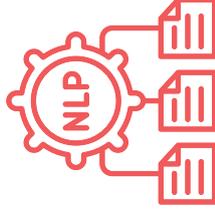
## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

### ① NLP 技術を活用した多国籍共生介護環境での会話支援方法

多国籍共生介護の現場では、言語の違いが業務の円滑な進行を妨げる要因となる。

NLP（自然言語処理）技術を活用することで、リアルタイム翻訳や音声認識を行い、コミュニケーションの障害を軽減できる。

AIを搭載した音声アシスタントやチャットボットを活用することで、スタッフ間の情報伝達をスムーズにする。適切なNLP技術の導入により、言語の壁を克服し、多国籍スタッフが協力しやすい環境を構築できる。



令和6年度「専門職・人材の高度化・アップグレードのための研修等取組（リカレント教育推進事業）」

多国籍共生介護の現場では、言語の違いが業務の妨げとなることがあります。NLP 技術を活用することで、リアルタイム翻訳や音声認識を行い、コミュニケーションを改善できます。

AI音声アシスタントやチャットボットを導入し、スタッフ間の情報共有を円滑にします。NLP 技術を適切に活用することで、言語の壁を克服し、協力しやすい職場環境を整えます。

## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

### ② NLP 会話支援システムの導入による効果

NLP会話支援システムを導入することで、多国籍共生介護の現場におけるコミュニケーションが向上します。

リアルタイム翻訳機能により、スタッフと利用者間の意思疎通がスムーズになります。

多言語対応のAIチャットボットを活用することで、業務に必要な情報を素早く取得できます。

スタッフの業務負担が軽減され、より良いケアの提供が可能になります。



令和6年度「専門職人材の異動対応アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

### ③ 多国籍共生介護での複雑な専門用語の翻訳・通訳支援

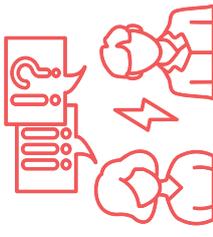
多国籍共生介護の現場では、介護や医療に関する専門用語がスタッフ間のコミュニケーションを妨げる要因となる。

NLP技術を活用したAI翻訳ツールを導入することで、

専門用語を正確に翻訳し、誤解を防ぐことが可能となる。

音声認識と連携した自動通訳機能を活用することで、スタッフと利用者間の意思疎通も円滑になる。

適切な翻訳・通訳支援ツールの導入により、多国籍スタッフの業務効率が向上し、ケアの質も向上する。



令和6年度「専門職人材の異動対応アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

NLPを活用した会話支援システムは、多国籍共生介護の現場において大きな効果を発揮する。リアルタイム翻訳機能を備えたNLPシステムにより、スタッフと利用者間の意思疎通がスムーズになる。

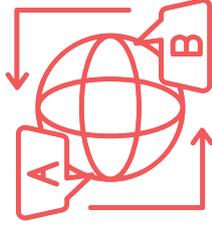
多言語対応のAIチャットボットを導入することで、業務に必要な情報を即座に取得できる。この技術の導入により、スタッフの業務負担が軽減され、より良いケアの提供が可能となる。

多国籍共生介護の現場では、専門用語の違いがスタッフ間の意思疎通を妨げる要因になります。NLP技術を活用したAI翻訳ツールを導入することで、専門用語を正確に翻訳し、誤解を防ぐことが可能になります。音声認識と連携した自動通訳機能を活用することで、スタッフと利用者間の意思疎通が円滑になります。適切な翻訳・通訳支援ツールを導入することで、多国籍スタッフの業務効率が向上し、ケアの質も向上します。

## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

### ④ NLP 技術の進化による多国籍共生介護環境でのサービス向上

NLP技術の進化により、多国籍共生介護の現場における言語サポートがより精度の高いものとなる。  
AIを活用した翻訳技術が向上し、スタッフと利用者間の言語障壁が大幅に軽減される。  
音声認識の精度向上により、リアルタイムでの情報伝達や業務の効率化が促進される。  
これにより、介護スタッフの負担が軽減され、利用者に対するサービスの質も向上する。



令和6年度「専門職職人に対する高度な研修等に関する調査報告書」

## 第2節 自然言語処理（NLP）を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

### ⑤ NLP を活用した会話支援の導入方法

多国籍共生介護の現場では、言語の壁がスタッフ間や利用者との円滑な意思疎通を妨げる要因となる。  
NLP（自然言語処理）技術を活用することで、リアルタイム翻訳や音声認識による対話支援が可能となる。  
特に、多言語対応のチャットボットや自動通訳システムを導入することで、業務の効率化とコミュニケーションの質の向上が期待される。  
スタッフや利用者が負担なく利用できるシステムを選定し、実際の介護現場に適用することが重要である。



令和6年度「専門職職人に対する高度な研修等に関する調査報告書」

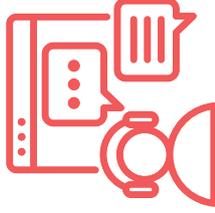
NLP技術の進化により、言語サポートがより精度の高いものとなり、スタッフと利用者の意思疎通が向上します。  
AI翻訳技術が向上し、言語障壁が大幅に軽減されることで、多国籍スタッフの業務負担が減少します。  
音声認識の精度向上により、リアルタイムでの情報伝達や業務の効率化が進みます。  
介護スタッフの負担軽減とサービスの質の向上が期待されます。

多国籍共生介護の現場では、言語の壁が意思疎通の課題となるため、NLP技術の活用が求められます。  
リアルタイム翻訳や音声認識を活用することで、スタッフと利用者の円滑なコミュニケーションが可能になります。  
また、多言語対応のチャットボットや自動通訳システムを導入し、業務の効率化を図ることが重要です。  
導入時には、現場のニーズに適したシステムを選定し、スムーズに活用できる体制を整えます。

### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

AIチャットボットや音声アシスタントを活用し、スタッフや利用者への迅速な対応を可能にする方法を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境向け応答システムの開発と導入ステップ
- ② 多国籍共生介護環境での多言語サポート事例
- ③ AI応答システムによる即時対応の実施
- ④ 多国籍共生介護環境向け応答システムの効果
- ⑤ 効果的なAI応答システムの活用方法



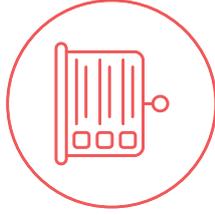
令和6年度「専門職人材の異国対応アップデータのための研修等取組リポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、言語の壁や業務の負担を軽減するために、AI応答システムの導入が進められています。AIチャットボットや音声アシスタントを活用することで、スタッフや利用者への迅速な対応が可能となり、業務の効率化が図れます。また、多言語対応のAIシステムを導入することで、コミュニケーションが円滑になり、利用者の満足度向上にもつながります。AI応答システムを適切に活用し、より良い介護環境を実現することが求められます。

### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

#### ① 多国籍共生介護環境向け応答システムの開発と導入ステップ

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いによる意思疎通の課題を解決するため、AI応答システムの導入が進められている。リアルタイム翻訳機能を備えたAIチャットボットを活用することで、スタッフと利用者間のコミュニケーションが円滑になる。導入ステップとしては、介護現場のニーズを分析し、適切なAI応答システムを選定し、段階的に実装することが求められる。適切な運用と継続的な改善を行うことで、AI応答システムの精度を向上させ、より質の高い介護サービスを提供できる。



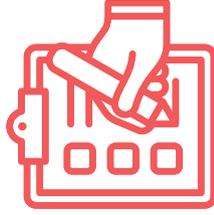
令和6年度「専門職人材の異国対応アップデータのための研修等取組リポート教育推進事業」

リアルタイム翻訳機能を備えたAIチャットボットを導入することで、スタッフと利用者間のコミュニケーションが円滑になります。導入時には、介護現場のニーズを分析し、適切なAI応答システムを選定し、段階的に実装することが求められます。適切な運用と継続的な改善を行うことで、AI応答システムの精度を向上させ、より質の高い介護サービスを提供できます。

### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

#### ② 多国籍共生介護環境での多言語サポート事例

多国籍共生介護の現場では、多言語対応が必要な場面が多く、AI応答システムがそのサポートとして活用されている。音声認識と翻訳機能を組み合わせたAIシステムにより、スタッフが利用者とスムーズに意思疎通できる環境が整えられる。また、介護記録や業務マニュアルを多言語化することで、多国籍スタッフの業務理解を深めることができる。こうした多言語サポートの導入により、スタッフの負担軽減とサービスの向上が実現される。



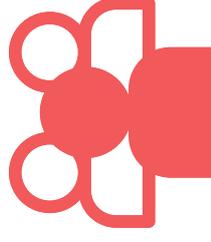
令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

多国籍共生介護の現場では、多言語対応が求められる場面が多く、AI応答システムが活用されています。音声認識と翻訳機能を組み合わせたAIシステムにより、スタッフと利用者の意思疎通が円滑になります。介護記録や業務マニュアルを多言語化することで、多国籍スタッフの業務理解が深まります。これにより、スタッフの負担軽減と介護サービスの質の向上が期待されます。

### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

#### ③ AI応答システムによる即時対応の実施

多国籍共生介護の現場では、リアルタイムでの即時対応が求められる場面が多く、AI応答システムが有効な手段となる。音声認識を活用したAIシステムにより、スタッフが必要な情報を即座に取得し、迅速な対応が可能となる。また、AIが利用者の問い合わせに自動で対応することで、業務の負担を軽減し、サービスの満足度向上と、即時対応を実現することで、利用者の満足度向上と、スタッフの負担軽減につながる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

多国籍共生介護の現場では、リアルタイムでの即時対応が求められる場面が多く、AI応答システムが活用されています。音声認識を活用したAIシステムにより、スタッフが必要な情報を即座に取得し、迅速な対応が可能になります。AIが利用者の問い合わせに自動で対応することで、業務の負担が軽減され、サービスの効率化が進みます。即時対応を実現することで、利用者の満足度向上とスタッフの負担軽減が期待されます。

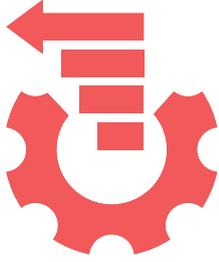
### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

#### ④ 多国籍共生介護環境向け応答システムの効果

AI応答システムを導入することで、多国籍共生介護の現場における業務効率とサービスの質が向上する。スタッフが言語の壁を感じることなくスムーズに業務を行えるため、業務負担の軽減が期待される。

また、利用者とのコミュニケーションが円滑になり、より適切なケアを提供できる環境が整う。

AI技術の適切な活用により、職場全体の生産性とサービスの質を向上させることが可能となる。

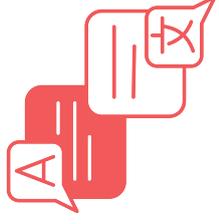


令和6年度「専門職人材の異動促進アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

### 第3節 多国籍共生介護環境におけるAI応答システムの活用

#### ⑤ 効果的なAI応答システムの活用方法

多国籍共生介護の現場では、AI応答システムを適切に活用することで、業務効率の向上とサービスの質の改善が期待される。音声認識技術や自動翻訳機能を活用することで、スタッフと利用者のコミュニケーションが円滑になり、誤解を防ぐことができる。また、AIチャットボットを活用し、介護スタッフが必要な情報を迅速に取得できる環境を整えることが重要となる。定期的なシステムの更新とトレーニングを行い、AI技術を最大限に活用することで、職場全体の生産性向上につなげる。



令和6年度「専門職人材の異動促進アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AI応答システムの導入により、多国籍共生介護の現場における業務効率とサービスの質が向上します。

言語の壁を感じることなくスムーズに業務を行えるため、スタッフの負担が軽減されます。利用者とのコミュニケーションが円滑になり、より適切なケアの提供が可能になります。AI技術を適切に活用することで、職場全体の生産性とサービスの質が向上します。

AI応答システムを適切に活用することで、業務効率の向上とサービスの質の改善が可能になります。

音声認識技術や自動翻訳機能を活用し、スタッフと利用者の意思疎通を円滑にし、誤解を防ぎます。

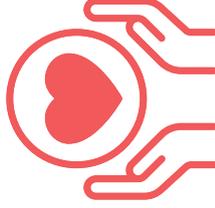
AIチャットボットを導入することで、介護スタッフが必要な情報を迅速に取得できる環境を整えます。

定期的なシステムの更新とトレーニングを行い、AI技術を最大限に活用することが重要です。

## 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

AIを活用した迷惑行為の検出や、スタッフのメンタルケアを支援するプログラムを導入する方法を学ぶ。

- ① 迷惑行為防止のためのAIツール活用方法
- ② 多国籍共生介護チームのメンタルケア支援AI導入事例
- ③ 多国籍共生介護環境での迷惑行為解決策
- ④ 多国籍共生介護チームにおける心のケアとサポート方法
- ⑤ 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止手法



令和6年度「専門職職人対の認知症ケアアップグレードのための研修取組」カリキュラム「教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、スタッフの安全と働きやすい環境を確保するために、迷惑行為の防止とメンタルケアの支援が重要です。AIを活用した迷惑行為の検出システムを導入することで、職場内のトラブルを早期に発見し、防止策を講じることができま。また、AIを活用したストレスチェックやカウンセリング支援ツールにより、スタッフのメンタルケアを強化し、健康的な職場環境を維持することができます。適切なAI技術の導入を通じて、安心して働ける職場を実現します。

## 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

### ① 迷惑行為防止のためのAIツール活用方法

多国籍共生介護の現場では、ハラスメントや差別などの迷惑行為を防ぐために、AI技術が活用されている。AI監視システムを導入することで、職場内のトラブルを早期に検知し、問題発生を未然に防ぐことができます。また、AIチャットボットを活用し、スタッフが匿名で相談できる窓口を設けることで、安心して働ける環境を整える。適切なAIツールを導入し、職場の安全性を向上させることで、スタッフがストレスなく業務に集中できる。



令和6年度「専門職職人対の認知症ケアアップグレードのための研修取組」カリキュラム「教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、迷惑行為の防止にAI技術が活用されています。AI監視システムを導入することで、職場内のトラブルを早期に検知し、問題発生を防ぐことができます。

AIチャットボットを活用し、スタッフが匿名で相談できる環境を整えることが重要です。適切なAIツールを導入することで、職場の安全性が向上し、スタッフのストレスを軽減できま

#### 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

##### ② 多国籍共生介護チームのメンタルケア支援AI導入事例

多国籍共生介護の現場では、異文化環境で働くスタッフのメンタルケアが重要な課題となる。

AIを活用したストレス管理システムを導入することで、スタッフの心理的負担を軽減する取り組みが進められている。たとえば、AIがスタッフのストレスレベルを測定し、適切なカウンセリングやリラクゼーションプログラムを推奨するシステムが導入されている。AIによるメンタルケア支援を活用することで、スタッフの働きやすさを向上させ、職場環境の改善につなげることができる。



令和6年度「専門職人材の異文化対応アップグレードのための研修取組リカレント教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、異文化環境で働くスタッフのメンタルケアが重要です。AIを活用したストレス管理システムを導入することで、スタッフの心理的負担を軽減できます。AIがストレスレベルを測定し、適切なカウンセリングやリラクゼーションプログラムを提供する事例があります。メンタルケア支援AIの導入により、スタッフの働きやすさが向上し、職場環境の改善につながります。

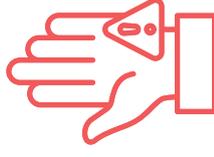
#### 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

##### ③ 多国籍共生介護環境での迷惑行為解決策

多国籍共生介護の現場では、迷惑行為を防止するだけでなく、発生した場合の迅速な対応が求められる。

AIを活用した通報システムを導入することで、スタッフが安全に報告できる仕組みを整えることができる。また、AIデータ分析により、過去の事例をもとに適切な対応策を講じ、再発防止策を強化することが可能となる。

組織全体で迷惑行為をなくすために、AIと人間が協力しながら対策を強化することが重要となる。



令和6年度「専門職人材の異文化対応アップグレードのための研修取組リカレント教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、迷惑行為が発生した場合の迅速な対応が求められます。AIを活用した通報システムを導入することで、スタッフが安全に報告できる仕組みを整えることができます。AIのデータ分析により、過去の事例をもとに適切な対応策を講じ、再発防止策を強化することが可能です。組織全体で迷惑行為をなくすために、AIと人間が協力しながら対策を強化することが重要です。

## 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

### ④ 多国籍共生介護チームにおける心のケアとサポート方法

異文化環境で働く多国籍スタッフの心理的負担を軽減するため、心のケアを充実させることが求められる。AIを活用したカウンセリングプログラムやストレスチェックツールの導入により、スタッフの心理状態を継続的に把握することができる。また、オンラインでのメンタルヘルス相談窓口を設置し、言語の壁を越えたサポートを提供することで、より安心して働ける環境を整える。心のケアを強化することで、スタッフの満足度が向上し、職場全体のチームワークが強化される。



令和6年度「専門職職人対の異文化アファーマーのための研修取組カリキュラム」教育推進事業

多国籍共生介護の現場では、スタッフの心理的負担を軽減するために心のケアが重要です。AIを活用したカウンセリングプログラムやストレスチェックツールの導入が効果的です。オンラインでのメンタルヘルス相談窓口を設置し、言語の壁を超えたサポートを提供します。心のケアを強化することで、スタッフの満足度が向上し、職場のチームワークが強化されます。

## 第4節 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

### ⑤ 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止手法

迷惑行為を防止するためには、AI技術を活用しながら職場環境を改善することが重要となる。AIによる職場モニタリングシステムを導入し、問題が発生する前にリスクを検知し、早期対応を可能にする。また、スタッフ向けに迷惑行為防止に関する研修プログラムを実施し、意識向上を図ることも有効である。AIと人間の協力による包括的な対策を講じることで、より安全で働きやすい職場環境を実現することができる。



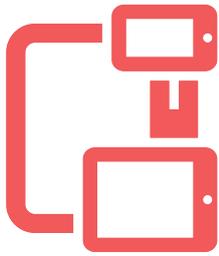
令和6年度「専門職職人対の異文化アファーマーのための研修取組カリキュラム」教育推進事業

迷惑行為を防止するためには、AI技術を活用しながら職場環境を改善することが重要です。AIによる職場モニタリングシステムを導入し、問題発生前にリスクを検知し、早期対応を行います。スタッフ向けに迷惑行為防止研修を実施し、意識向上を図ることも効果的です。AIと人間の協力により、より安全で働きやすい職場環境を実現します。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

リアルタイム翻訳ツールや多言語チャットシステムを活用し、スタッフ間の意見交換を促進する方法を学ぶ。

- ① AIを用いた多国籍共生介護環境での連絡手段の統一
- ② AI翻訳ツールを活用したコミュニケーション効率化
- ③ リアルタイム通訳デバイスの導入と運用方法
- ④ 多国籍共生介護スタッフ間での共通理解を深める研修
- ⑤ 定期的な意見交換を通じたコミュニケーションの向上策



令和6年度「専門職人材の異動・異任・アップグレードのための研修等取組レポート」教育推進事業

多国籍共生介護の現場では、スタッフ間の円滑なコミュニケーションが重要です。リアルタイム翻訳ツールや多言語対応のチャットシステムを活用することで、言語の壁を克服し、意見交換を促進できます。また、AIを活用した通訳デバイスや翻訳ツールを導入することで、スタッフと利用者の意思疎通がスムーズになります。さらに、共通理解を深める研修や定期的な意見交換の場を設けることで、チームワークを強化し、より良い介護環境を実現します。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

### ① AIを用いた多国籍共生介護環境での連絡手段の統一

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いにより、スタッフ間の連絡が円滑に進まないことがある。AIを活用した多言語対応の連絡ツールを導入することで、スタッフ間の意思疎通が向上する。翻訳機能を備えたチャットツールや音声認識アプリを使用することで、リアルタイムでの情報共有が可能となる。AIを活用した統一された連絡手段の導入により、業務効率の向上とチームワークの強化が期待される。



令和6年度「専門職人材の異動・異任・アップグレードのための研修等取組レポート」教育推進事業

多国籍共生介護の現場では、スタッフ間の連絡手段の統一が課題となることがあります。AIを活用した多言語対応のツールを導入することで、意思疎通が円滑になります。翻訳機能を備えたチャットツールや音声認識アプリを活用することで、リアルタイムでの情報共有が可能になります。統一された連絡手段を導入することで、業務の効率化とチームワークの強化が期待されます。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

### ② AI翻訳ツールを活用したコミュニケーション効率化

多国籍共生介護の現場では、スタッフと利用者間のコミュニケーションの円滑化が重要な課題となる。AI翻訳ツールを活用することで、多言語間の意思疎通がスムーズになり、誤解やトラブルを防ぐことができる。リアルタイム翻訳機能を備えたデバイスを活用することで、現場での即時対応が可能となる。適切な翻訳ツールを導入することで、スタッフの負担軽減と介護サービスの質の向上が期待される。



令和6年度「専門職人材の異域対応アップグレードのための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

### ③ リアルタイム通訳デバイスの導入と運用方法

多国籍共生介護の現場では、リアルタイム通訳デバイスの活用により、言語の壁を克服することができる。ウェアラブル型やスマートフォン対応の通訳デバイスを導入することで、スムーズな対話が可能となる。適切な運用方法として、現場スタッフの研修を実施し、デバイスの効果的な活用を促進することが重要である。リアルタイム通訳デバイスの活用により、スタッフと利用者のコミュニケーションが向上し、ケアの質が向上する。



令和6年度「専門職人材の異域対応アップグレードのための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

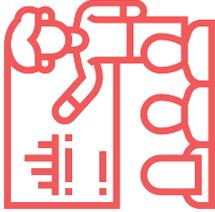
多国籍共生介護の現場では、スタッフと利用者間のコミュニケーションの円滑化が重要な課題です。AI翻訳ツールを活用することで、多言語間の意思疎通がスムーズになり、誤解やトラブルを防ぐことができます。リアルタイム翻訳機能を備えたデバイスを活用することで、現場での即時対応が可能となります。適切な翻訳ツールを導入することで、スタッフの負担軽減と介護サービスの質の向上が期待されます。

多国籍共生介護の現場では、リアルタイム通訳デバイスを活用することで、言語の壁を克服することが可能です。ウェアラブル型やスマートフォン対応の通訳デバイスを導入することで、スムーズな対話を実現します。適切な運用方法として、現場スタッフの研修を実施し、効果的な活用を促進することが重要です。リアルタイム通訳デバイスの活用により、スタッフと利用者間のコミュニケーションが向上し、ケアの質が向上します。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

### ④ 多国籍共生介護スタッフ間の共通理解を深める研修

多国籍共生介護の現場では、スタッフ間の共通理解を深めるための研修が重要となる。異文化コミュニケーションを学ぶ研修や、多言語対応のトレーニングプログラムを導入することで、スムーズな連携を図る。AIを活用したコミュニケーション研修を実施することで、実際の現場での対応力を強化することができる。スタッフの相互理解を促進することで、より良いチームワークが構築され、職場環境の向上につながる。



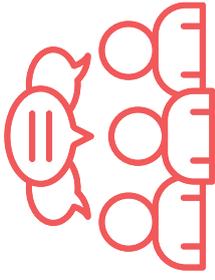
令和6年度「専門職人材の異文化能力アップのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、スタッフ間の共通理解を深めるための研修が重要です。異文化コミュニケーションを学ぶ研修や、多言語対応のトレーニングを導入することで、スムーズな連携が可能になります。AIを活用したコミュニケーション研修を実施することで、現場での対応力を強化することができます。スタッフの相互理解を促進することで、より良いチームワークが構築され、職場環境の向上につながります。

## 第5節 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

### ⑤ 定期的な意見交換を通じたコミュニケーションの向上策

多国籍共生介護の現場では、定期的な意見交換を行うことで、スタッフ間のコミュニケーションを向上させることができます。AIを活用した意見収集ツールを導入することで、スタッフの意見を効率的に収集・分析し、課題解決に活用する。多国籍スタッフが気軽に意見を共有できる環境を整え、業務改善や職場環境の向上につなげることが重要となる。定期的な意見交換を実施することで、スタッフのモチベーション向上とチームワークの強化が期待される。



令和6年度「専門職人材の異文化能力アップのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、定期的な意見交換を行うことで、スタッフ間のコミュニケーションが向上します。AIを活用した意見収集ツールを導入することで、スタッフの意見を効率的に収集し、課題解決に活用します。多国籍スタッフが気軽に意見を共有できる環境を整え、業務改善や職場環境の向上を図ることが重要です。定期的な意見交換を実施することで、スタッフのモチベーションが向上し、チームワークが強化されます。

## 第5章

### 現場適応型AI導入モデルの構築



令和6年度「専門職職人対の施設活用アップデートのための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

この章では、現場適応型AI導入モデルの構築について学習します。

### 第5章 現場適応型AI導入モデルの構築

- 1 節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定
- 2 節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果
- 3 節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム
- 4 節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減
- 5 節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法



令和6年度「専門職職人対の施設活用アップデートのための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

本章では、多国籍共生介護の現場におけるAI導入の計画策定と実践方法について整理します。施設ごとの特性を考慮したAI導入計画の立案や、業務最適化の手法、導入に伴う費用対効果を考察します。また、多国籍スタッフのAI活用スキル向上のためのトレーニングプログラムや、業務効率化と負担軽減のための活用事例を検討します。さらに、各施設がAI導入を成功させるための適応方法を整理し、持続可能な運用を目指します。

## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

施設の特性に応じたAI導入計画を策定するために、ニーズ分析、システム選定、スタッフ教育の進め方を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護背景に基づいたニーズ分析
- ② 施設ごとの特化型多国籍共生介護AI導入プラン
- ③ 多国籍共生介護に適したAIシステムの選定
- ④ スタッフ教育とインフラ整備の調整方法
- ⑤ 施設別のAI導入計画を成功に導く方法



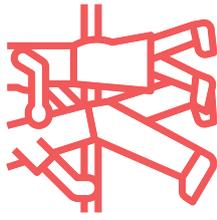
令和6年度「専門職人材の施設別アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場に適したAIを導入するためには、施設ごとの特性やニーズを分析することが重要です。施設ごとに異なる課題を把握し、最適なAIシステムを選定することで、業務の効率化とサービスの向上が期待されます。また、スタッフのAI活用スキルを向上させるための研修を実施し、インフラ整備を進めることで、スムーズな導入を実現できます。適切な導入計画を策定することで、AIの効果を最大限に活かし、持続可能な介護環境を構築します。

## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

### ① 多国籍共生介護背景に基づいたニーズ分析

施設ごとに異なる多国籍共生介護の状況を把握し、AI導入のニーズを適切に分析することが重要である。言語サポート、介護記録のデジタル化、AIによるケアプラン作成など、施設ごとに必要な技術を選定する。多国籍スタッフがスムーズに業務を遂行できるよう、導入するAIシステムが現場に適合するかを事前に検討する。適切なニーズ分析を行うことで、AI導入の効果を最大化し、介護サービスの質を向上させることができる。



令和6年度「専門職人材の施設別アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AI導入を成功させるためには、施設ごとの多国籍共生介護の状況を分析することが必要です。言語サポートや介護記録のデジタル化など、施設ごとのニーズに応じた技術を選定します。多国籍スタッフが円滑に業務を行えるよう、導入するAIシステムの適合性を検討します。適切なニーズ分析を行い、AI導入の効果を最大限に引き出し、介護サービスの質を向上させます。

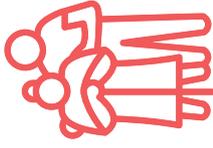
## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

### ② 施設ごとの特化型多国籍共生介護AI導入プラン

施設ごとに最適なAI導入プランを策定し、多国籍共生介護の環境に適応したシステムを構築する。

AIを活用した多言語翻訳システムや、スタッフ向けのトレーニングプログラムを導入し、業務の効率化を図る。利用者の健康管理を支援するAIツールの導入により、リアルタイムでのデータ収集と分析が可能となる。

施設ごとの環境に応じた導入プランを策定することで、AIの効果を最大限に発揮し、介護サービスの質を向上させる。



令和6年度「専門職職人に対する施設別アップグレードのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

### ③ 多国籍共生介護に適したAIシステムの選定

多国籍共生介護の現場に適したAIシステムを選定し、言語や文化の違いに配慮したシステムを導入する。

スタッフのスキルレベルや施設の業務プロセスに合わせたカスタマイズが可能なAIツールを選ぶことが重要となる。多言語対応のコミュニケーションツールや、リアルタイム翻訳機能を備えたAIシステムが業務効率化に貢献する。

適切なAIシステムの選定を行うことで、スタッフの負担を軽減し、介護の質を向上させることができる。



令和6年度「専門職職人に対する施設別アップグレードのための研修等取組カリキュラム教育推進事業」

施設ごとに適したAI導入プランを策定し、多国籍共生介護環境に対応するシステムを構築します。多言語翻訳システムやスタッフ向けトレーニングプログラムを導入し、業務の効率化を図ります。利用者の健康管理を支援するAIツールの導入により、リアルタイムでのデータ収集と分析が可能になります。施設の環境に適した導入プランを策定することで、AIの効果を最大限に活用し、介護サービスの向上を目指します。

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いに配慮したAIシステムの選定が重要です。スタッフのスキルレベルや施設の業務プロセスに合わせたカスタマイズが可能なAIツールを導入します。多言語対応のコミュニケーションツールやリアルタイム翻訳機能を備えたAIシステムを活用し、業務効率化に貢献します。適切なAIシステムの選定を行うことで、スタッフの負担を軽減し、介護の質を向上させることができます。

## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

### ④ スタッフ教育とインフラ整備の調整方法

AI導入を効果的に進めるためには、スタッフへの教育とインフラの整備が不可欠となる。

AI技術の基本操作や活用方法を学ぶ研修を実施し、スタッフがスムーズにAIシステムを運用できるようにする。

Wi-Fi環境の安定化や、データ管理システムの強化など、インフラ整備を同時に進めることで、AIの活用効果を高める。適切な教育とインフラ整備を行うことで、AI導入後のトラブルを最小限に抑え、スムーズな運用を実現する。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

## 第1節 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じたAI導入計画の策定

### ⑤ 施設別のAI導入計画を成功に導く方法

施設ごとの特性を考慮したAI導入計画を策定し、成功に導くための具体的な戦略を構築する。

導入前に試験運用を行い、実際の業務に適用可能かを確認し、必要な調整を加えることが重要となる。

スタッフの意見を取り入れながら、AI導入後の評価を行い、継続的な改善を進めることで、効果的な活用を実現する。

計画的にAIを導入し、施設の環境に適した形で運用することで、介護サービスの質を向上させることができる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデー」のための研修資料(リフレント教育推進事業)

AI導入を成功させるためには、スタッフ教育とインフラ整備を同時に進めることが重要です。

AI技術の基本操作や活用方法を学ぶ研修を実施し、スタッフがスムーズに運用できる環境を整えます。

Wi-Fi環境の安定化やデータ管理システムの強化を行い、AIの活用効果を最大化します。

適切な教育とインフラ整備を行うことで、AI導入後のトラブルを防ぎ、スムーズな運用を実現します。

施設ごとの特性を考慮し、成功するAI導入計画を策定することが重要です。

導入前に試験運用を行い、業務への適用可能性を確認し、必要な調整を行います。

スタッフの意見を取り入れながら、AI導入後の評価を行い、継続的な改善を進めます。

計画的なAI導入を進めることで、施設の環境に適した形で運用し、介護サービスの質を向上させます。

## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

AIを活用した業務効率化の手法と、導入コストと成果を評価する方法を学ぶ。

- ① 多国籍共生介護環境での業務プロセス最適化手法
- ② AI導入の費用対効果を測る指標
- ③ AI導入後の多国籍共生介護環境での効率化とコスト削減の成果
- ④ 多国籍共生介護環境におけるAI活用の収益性
- ⑤ コスト削減と品質向上を両立するAI導入手法

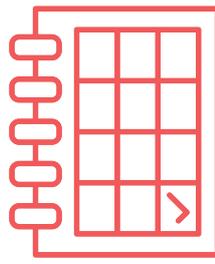


多国籍共生介護の現場では、AIを活用して業務を効率化し、スタッフの負担を軽減することが求められています。AIによる業務プロセスの最適化やコスト削減の手法を導入することで、介護サービスの質を維持しながら運営の安定化を図ることが可能です。また、導入コストと成果を評価し、費用対効果を測定することで、持続可能なAI活用を実現できます。業務効率化とコスト削減を両立するAIの導入手法を学び、最適な運用方法を検討します。

## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

### ① 多国籍共生介護環境での業務プロセス最適化手法

多国籍共生介護の現場では、業務の効率化と最適化が求められており、AI技術の導入が重要な役割を果たす。AIを活用したスケジューリング管理や自動記録システムを導入することで、スタッフの業務負担を軽減できる。リアルタイムデータ分析を活用し、利用者の健康状態やスタッフの作業負担を適切に管理することが可能となる。業務プロセスを最適化することで、スタッフの負担を軽減し、利用者により質の高いケアを提供できる環境を整える。

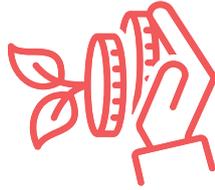


多国籍共生介護の現場では、業務プロセスの最適化が求められています。AIを活用したスケジューリング管理や自動記録システムを導入し、スタッフの負担を軽減します。リアルタイムデータ分析を活用し、利用者の健康状態や業務の適正管理を行います。業務の効率化を図ることで、スタッフの負担を軽減し、質の高いケアの提供が可能になります。

## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

### ② AI導入の費用対効果を測る指標

AI導入の成功には、費用対効果を正確に測定し、投資に見合った成果を得ることが重要となる。  
導入コストと運用コストを算出し、業務時間の短縮や業務負担の軽減による経済的なメリットを評価する。  
利用者満足度の向上や介護の質の改善など、定性的な成果も指標として取り入れ、総合的な判断を行う。  
定期的に評価を行い、導入したAIシステムの運用状況を見直し、最適な活用方法を模索することが求められる。

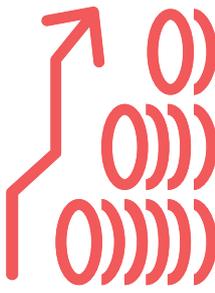


令和6年度「専門職人材の供給確保アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

### ③ AI導入後の多国籍共生介護環境での効率化とコスト削減の成果

AIの導入により、介護現場の業務プロセスが効率化され、スタッフの負担が軽減される。  
デジタル記録システムやAI翻訳機能を活用することで、業務時間の短縮が実現し、コスト削減につながる。  
AIによる作業の自動化が進むことで、スタッフが利用者へのケアに集中できる環境が整う。  
業務の効率化とコスト削減を両立させることで、持続可能な多国籍共生介護の仕組みを構築することが可能となる。



令和6年度「専門職人材の供給確保アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AI導入の効果を最大限に引き出すためには、費用対効果を正確に測定することが重要です。  
導入・運用コストを算出し、業務時間の短縮やスタッフの負担軽減による経済的メリットを評価します。

利用者満足度や介護の質の向上など、定性的な指標も取り入れ、総合的な判断を行います。  
定期的に評価を行い、最適なAI活用方法を見直し、運用の改善を図ります。

AI導入により、介護現場の業務プロセスが効率化され、スタッフの負担が軽減されます。  
デジタル記録システムや自動翻訳ツールを活用することで、業務時間の短縮とコスト削減が可能になります。

AIによる作業の自動化が進むことで、スタッフが利用者へのケアに集中できる環境が整います。  
業務の効率化とコスト削減を両立させることで、持続可能な多国籍共生介護の仕組みを構築できます。

## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

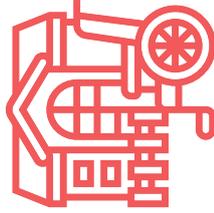
### ④ 多国籍共生介護環境におけるAI活用の収益性

AIの活用による業務の最適化により、介護施設の運営コストが削減され、収益性の向上が期待される。

労働力不足の補完としてAIを活用し、人的リソースを適切に配分することで、運営の安定化を図る。

利用者へのサービス向上が評価されることで、施設の信頼性が高まり、利用者数の増加につながる。

AIの活用により、長期的なコスト削減と収益の確保が可能となり、持続可能な介護経営を実現できる。



## 第2節 多国籍共生介護環境における業務最適化とAI導入の費用対効果

### ⑤ コスト削減と品質向上を両立するAI導入手法

AI導入によるコスト削減と介護サービスの品質向上を両立するためには、適切な技術選定と活用が重要となる。

業務負担を軽減しながら、利用者の満足度を向上させるために、AIによるデータ分析と業務支援機能を強化する。

運用開始後も継続的な評価を行い、システムの改善を重ねることで、最適なコストパフォーマンスを維持する。

AIの活用を段階的に進めることで、スタッフの適応を促し、持続的な運用が可能な環境を整える。



AIの活用による業務の最適化により、介護施設の運営コストが削減され、収益性の向上が期待されます。労働力不足の補完としてAIを活用し、人的リソースを適切に配分することで、運営の安定化を図ります。利用者へのサービス向上が評価されることで、施設の信頼性が高まり、利用者数の増加につながります。AIの活用により、長期的なコスト削減と収益の確保が可能となり、持続可能な介護経営を実現できます。

AI導入によるコスト削減と介護サービスの品質向上を両立するためには、適切な技術選定と活用が重要です。

業務負担を軽減しながら、利用者の満足度を向上させるために、AIによるデータ分析と業務支援機能を強化します。

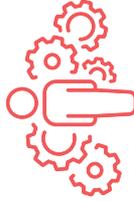
運用開始後も継続的な評価を行い、システムの改善を重ねることで、最適なコストパフォーマンスを維持します。

AIの活用を段階的に進めることで、スタッフの適応を促し、持続的な運用が可能な環境を整えます。

### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム

多国籍スタッフ向けAIトレーニングの設計と評価方法を学び、スキル向上に活かす手法を整理する。

- ① 多国籍共生介護向けAIトレーニングプログラムの設計方法
- ② 多国籍共生介護に特化したAIトレーニングの実施
- ③ トレーニングの評価方法と効果測定
- ④ AIトレーニングを通じた多国籍共生介護スタッフスキル向上
- ⑤ 多国籍共生介護AIトレーニングプログラムの実施方法



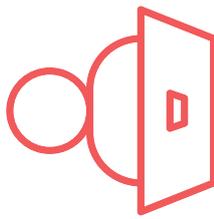
令和6年度「専門職人材の高度化・アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場でAIを効果的に活用するためには、スタッフ向けの適切なトレーニングが必要で、AIトレーニングプログラムの設計や評価方法を学ぶことで、スキル向上に向けた最適な学習環境を構築できます。また、多国籍スタッフが実践的なスキルを身につけるために、シミュレーション研修やオンライン学習を活用することが有効です。継続的なトレーニングを実施することで、AIを活用した介護業務の質を向上させ、スタッフの負担を軽減することができます。

### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラムの設計方法

#### ① 多国籍共生介護向けAIトレーニングプログラムの設計方法

多国籍共生介護の現場では、AIを効果的に活用するためのトレーニングプログラムの導入が求められる。AIの基本操作や活用方法を学ぶ基礎研修と、実践的なシミュレーション研修を組み合わせたことが有効である。多言語対応の教材やeラーニングを活用し、スタッフが個々のペースで学習できる環境を整えることが重要となる。トレーニングプログラムを継続的に見直し、AIの進化に対応した最新の知識を提供できる体制を構築する。



令和6年度「専門職人材の高度化・アップグレードのための研修等取りかレポート教育推進事業」

AIを効果的に活用するためには、適切なトレーニングプログラムの導入が必要です。基礎研修と実践的なシミュレーション研修を組み合わせ、スタッフの理解を深めます。多言語対応の教材やeラーニングを活用し、個々のペースで学習できる環境を整えます。トレーニング内容を定期的に見直し、AIの進化に対応した最新の知識を提供します。

### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム

#### ② 多国籍共生介護に特化したAIトレーニングの実施

多国籍スタッフがAI技術を適切に活用できるよう、特化したトレーニングプログラムを実施することが必要となる。実際の業務シナリオを基にしたシミュレーション研修を行い、AIツールの効果的な活用方法を学ぶ機会を提供する。多国籍スタッフが直面する特有の課題を反映した実践的な学習コンテンツを設計することで、より実践的な学習が可能となる。研修の成果を定期的に評価し、改善を重ねることで、トレーニングの効果を最大限に引き出すことができる。



### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム

#### ③ トレーニングの評価方法と効果測定

AIトレーニングの効果を最大限に高めるためには、適切な評価方法を導入し、学習成果を測定することが重要となる。トレーニング終了後のテストや実技評価を実施し、スタッフの理解度を確認することで、研修の効果を客観的に判断する。実際の業務でのAI活用状況を観察し、スタッフが適切にAIを運用できているかを継続的に評価することが求められる。研修のデータを分析し、内容を適宜調整することで、より実践的で効果的なAIトレーニングを提供できるようにする。



多国籍スタッフがAIを適切に活用できるよう、特化したトレーニングプログラムを実施します。実際の業務シナリオを基にしたシミュレーション研修を行い、AIツールの活用方法を学びます。多国籍スタッフが直面する特有の課題を反映した学習コンテンツを提供し、より実践的な学習を促進します。

研修の成果を定期的に評価し、改善を行うことで、トレーニングの効果を最大化します。

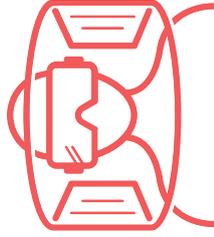
AIトレーニングの効果を高めるために、適切な評価方法を導入し、学習成果を測定します。トレーニング終了後にテストや実技評価を行い、スタッフの理解度を確認します。

実際の業務でのAI活用状況を観察し、スタッフが適切にAIを運用できているかを評価します。研修データを分析し、内容を適宜調整することで、より実践的なAIトレーニングを提供します。

### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム

#### ④ AIトレーニングを通じた多国籍共生介護スタッフスキル向上

AIトレーニングを充実させることで、多国籍共生介護のスタッフが技術を適切に活用し、業務の質を向上させることができる。オンライン講座やVRシミュレーションを活用し、実践的なトレーニングを行うことで、スキル習得を効率的に進める。言語や文化の違いを考慮した教育コンテンツを提供することで、多国籍スタッフが理解しやすい学習環境を整える。継続的なスキルアップ研修を実施し、最新のAI技術を取り入れながらスタッフの専門性を高めることが求められる。



令和6年度「専門職職人に対する研修取組リカレント教育推進事業」

AI教育を充実させることで、多国籍共生介護スタッフのスキル向上を促進します。オンライン講座やVRシミュレーションを活用し、実践的なトレーニングを行います。言語や文化の違いを考慮した教育コンテンツを提供し、スタッフが理解しやすい環境を整えます。

継続的なスキルアップ研修を実施し、最新のAI技術を活用しながら専門性を高めます。

### 第3節 多国籍共生介護スタッフのためのAIトレーニングプログラム

#### ⑤ 多国籍共生介護AIトレーニングプログラムの実施方法

AIトレーニングプログラムを効果的に実施するためには、計画的なカリキュラム設計と段階的な学習プロセスが必要となる。基礎知識の学習から始め、実践的なトレーニングを取り入れながら、スタッフが徐々にAI技術に慣れていく環境を整える。多言語対応の学習システムを導入し、各スタッフが自身の言語で学べる柔軟なトレーニング環境を構築する。定期的に研修を実施し、学習成果を評価しながらプログラムを改善し、AI活用スキルの向上を促進する。



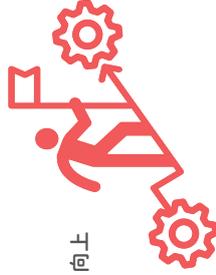
令和6年度「専門職職人に対する研修取組リカレント教育推進事業」

AIトレーニングプログラムを効果的に実施するためには、計画的なカリキュラム設計が必要です。基礎知識の学習から実践的なトレーニングへと進み、スタッフがAI技術に慣れる環境を整えます。多言語対応の学習システムを導入し、各スタッフが自身の言語で学習できる体制を構築します。定期的に研修を実施し、学習成果を評価しながらプログラムを改善し、AI活用スキルの向上を促進します。

## 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

AIによる業務の自動化と負担軽減策を学び、実際の介護現場での適用方法を理解する。

- ① AIを活用した多国籍共生介護業務の自動化と効率化手法
- ② 多国籍共生介護スタッフの負担軽減と業務最適化
- ③ AIによる多国籍共生介護環境での問題削減とクオリティ向上
- ④ AI導入後の多国籍共生介護スタッフ負担軽減の実例
- ⑤ ベストプラクティス：AIを活用した業務効率化手法



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、AIを活用することで業務の自動化を進め、スタッフの負担を軽減することが求められています。AIを導入することで、介護記録の自動入力やスケジュール管理が効率化され、業務の最適化が可能になります。また、AIによる作業負担の軽減により、スタッフがより利用者のケアに集中できる環境を整えることができます。AIの導入事例を学び、実際の介護現場での適用方法を理解することで、より質の高い介護サービスを提供することが可能になります。

## 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

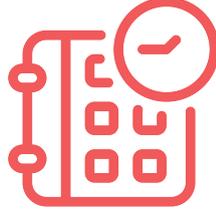
### ① AIを活用した多国籍共生介護業務の自動化と効率化手法

多国籍共生介護の現場では、業務の負担軽減と効率化を図る

ため、AI技術の活用が求められる。

介護記録の自動入力やAIを用いたスケジュール管理システムの導入により、スタッフの作業負担が軽減される。

また、AIによる業務プロセスの最適化により、作業時間が短縮され、スタッフが利用者へのケアに集中できる環境が整う。適切なAI導入により、スタッフの負担を減らし、より質の高い介護サービスを提供することが可能となる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデートのための研修等取りかレポート教育推進事業」

多国籍共生介護の現場では、業務の負担を軽減するためにAI技術の活用が進められています。介護記録の自動入力やスケジュール管理システムを導入し、スタッフの作業負担を軽減します。AIによる業務プロセスの最適化により、作業時間を短縮し、スタッフが利用者のケアに集中できる環境を整えます。

適切なAI導入を進めることで、業務の効率化と介護サービスの質の向上が期待されます。

#### 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

##### ② 多国籍共生介護スタッフの負担軽減と業務最適化

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いによる業務負担を軽減し、スタッフの働きやすさを向上させることが重要となる。

AIを活用した自動翻訳ツールや介護記録システムを導入することで、言語の壁による業務の遅れを防ぐことができる。また、AIによる作業自動化が進むことで、スタッフの業務負担が減少し、より利用者のケアに専念できる環境が整う。スタッフの業務を最適化し、適切なAI支援を行うことで、多国籍共生介護の持続可能な運営が可能となる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

#### 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

##### ③ AIによる多国籍共生介護環境での問題削減とクオリティ向上

AI技術の活用により、多国籍共生介護の現場における業務の問題を削減し、介護サービスの質を向上させることが可能となる。リアルタイム監視システムやAIによるデータ分析を活用することで、業務上の問題を早期に発見し、迅速な対応を行うことができる。

AIの予測分析により、利用者の健康状態やリスクを事前に把握し、適切なケアプランの提供が可能となる。業務の効率化とサービスの向上を両立させることで、多国籍スタッフが働きやすい環境を実現できる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデータのための研修等取りかレポート教育推進事業」

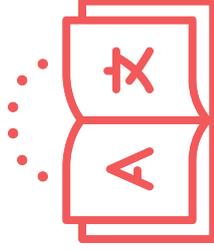
多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いによる業務負担を軽減することが求められています。AIを活用した自動翻訳ツールや介護記録システムを導入することで、言語の壁による業務の遅れを防ぎます。作業自動化の導入により、スタッフの業務負担を減少させ、より利用者のケアに専念できる環境を整えます。適切なAI支援を行うことで、多国籍共生介護の持続可能な運営が可能となります。

AI技術の活用により、多国籍共生介護の現場での業務上の問題を削減し、介護サービスの質を向上させます。リアルタイム監視システムやデータ分析を活用し、業務上の問題を早期に発見し、迅速な対応を行います。AIの予測分析を活用することで、利用者の健康状態やリスクを事前に把握し、適切なケアを提供できます。業務の効率化とサービスの向上を両立させることで、スタッフの働きやすい環境を整えます。

## 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

### ④ AI導入後の多国籍共生介護スタッフ負担軽減の実例

AI導入後の多国籍共生介護の現場では、スタッフの負担が軽減され、業務の効率化が進んでいます。自動翻訳機能付き介護記録システムを活用し、言語の壁を克服しながら情報共有が可能になりました。AIによる業務スケジュールの最適化や作業負担の軽減が実現し、スタッフの業務効率向上に寄与しています。スタッフの利用者とのコミュニケーションに時間を割くことで、ケアの質の向上につながります。

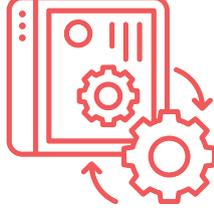


令和6年度「専門職人材の負担軽減のための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

## 第4節 AIを活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

### ⑤ ベストプラクティス：AIを活用した業務効率化手法

AIを活用して多国籍共生介護の現場で業務効率化を成功させるためには、適切な技術と運用方法を選定することが重要となる。言語の壁を克服するために、リアルタイム翻訳機能を活用し、スタッフの意思疎通を強化することが有効である。介護記録の自動化や、AIによる業務スケジュールの最適化を行うことで、業務負担を軽減し、効率的な運営を実現する。定期的なAIシステムの評価と改善を行い、持続的に業務の効率化とサービスの質の向上を図ることが求められる。



令和6年度「専門職人材の負担軽減のための研修等取組カリキュラム」教育推進事業

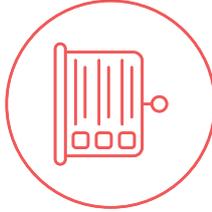
AI導入後の多国籍共生介護の現場では、スタッフの負担が軽減され、業務の効率化が進んでいる。例えば、自動翻訳機能を備えた介護記録システムにより、言語の壁を克服しながら円滑に情報共有が可能となった。AIによる業務スケジュールの最適化や、作業負担の軽減が実現し、スタッフの業務効率向上に寄与している。これにより、スタッフは利用者とのコミュニケーションにより多くの時間を割くことができ、ケアの質が向上している。

AIを活用して多国籍共生介護の現場で業務効率化を成功させるためには、適切な技術の選定が重要である。リアルタイム翻訳機能を活用し、スタッフの意思疎通を強化することで、言語の壁を克服します。介護記録の自動化や業務スケジュールの最適化を行い、業務負担を軽減し、効率的な運営を実現します。定期的なAIシステムの評価と改善を行い、持続的な業務効率化とサービスの質の向上を図ります。

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

異文化環境におけるAI導入の課題や成功事例を学び、効果的な導入のポイントを整理する。

- ① 多国籍共生介護に対応したAI導入計画
- ② 異文化環境におけるAI導入の挑戦と成功
- ③ AI導入後の多国籍共生介護環境での適応状況の分析
- ④ 多国籍共生介護ニーズに応じたAI導入最適事例
- ⑤ 成果を最大化するためのAI導入手法



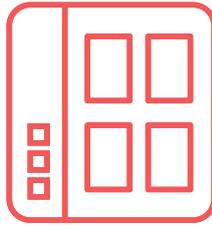
令和6年度「専門職人材の地域貢献アップデー」のための研修資料(リカレント教育推進事業)

AI導入の成果を最大化するためには、適切な技術選定と計画的な運用が必要で、導入の初期段階で、施設のニーズに合ったシステムを選定し、試験運用を行いながら調整を進めることが求められます。スタッフへの継続的なトレーニングとフィードバックの収集を行いながら、運用の調整を進め、最適化を図ります。長期的な視点でAI活用計画を策定し、業務の効率化と介護サービスの質の向上を両立させることが重要です。

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

### ① 多国籍共生介護に対応したAI導入計画

多国籍共生介護の現場では、言語や文化の違いに対応し、業務を円滑に進めるために適切なAI導入計画が必要となる。施設ごとのニーズを分析し、適したAI技術を選定し、段階的に導入することで、スタッフの適応を促すことができる。多国籍スタッフが利用しやすいインターフェースを持つシステムを選定し、言語の壁を越えた業務支援が求められる。AI導入後も継続的な評価を行い、業務の効率化とサービスの質向上を実現するための改善策を講じることが重要である。



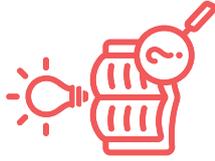
令和6年度「専門職人材の地域貢献アップデー」のための研修資料(リカレント教育推進事業)

多国籍共生介護の現場では、適切なAI導入計画が必要です。施設ごとのニーズを分析し、適したAI技術を選定し、段階的に導入します。多国籍スタッフが利用しやすいシステムを選定し、言語の壁を越えた業務支援を行います。導入後も継続的な評価を行い、業務の効率化とサービスの質向上を図ります。

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

### ② 異文化環境におけるAI導入の挑戦と成功

異文化環境におけるAI導入には、スタッフの適応や文化的な違いによる課題が伴うが、適切な対策により成功に導くことができる。導入前にスタッフへの教育やトレーニングを行い、AI技術への理解を深めることで、スムーズな運用が可能となる。AIシステムの利用を促進するために、多言語対応のマニュアルやサポートを充実させ、スタッフが安心して利用できる環境を整える。成功事例を共有し、導入施設同士が連携することで、より実践的なAI活用ノウハウを蓄積し、効果的な運用を実現する。

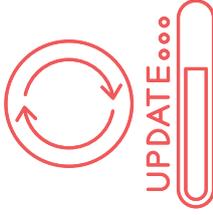


令和6年度「専門職人材の施設別アップデータのための研修取組」(リレント教育推進事業)

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

### ③ AI導入後の多国籍共生介護環境での適応状況の分析

AI導入後の多国籍共生介護環境における適応状況を分析し、導入効果を測定することが求められる。スタッフのAI活用度や業務効率の変化、利用者満足度の向上など、定量的・定性的な指標をもとに評価を行う。分析結果を基に、改善が必要な点を特定し、AIシステムのアップデータやスタッフ向けの追加研修を実施する。適応状況のデータを蓄積し、今後のAI導入計画の指針として活用することで、持続的な運用を実現できる。



令和6年度「専門職人材の施設別アップデータのための研修取組」(リレント教育推進事業)

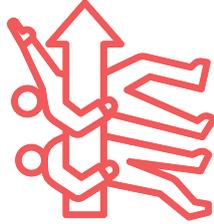
異文化環境でのAI導入には、スタッフの適応や文化的な違いによる課題があります。導入前に教育やトレーニングを行い、AI技術への理解を深めることで、スムーズな運用が可能になります。多言語対応のマニュアルやサポートを充実させ、スタッフが安心して利用できる環境を整えます。成功事例を共有し、導入施設同士が連携することで、効果的なAI活用が実現されます。

AI導入後の適応状況を分析し、導入効果を測定することが重要です。スタッフのAI活用度や業務効率の変化、利用者満足度を評価します。分析結果を基に、改善点を特定し、AIシステムの調整や追加研修を実施します。データを蓄積し、今後のAI導入計画に活用することで、持続的な運用を実現します。

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

### ④ 多国籍共生介護ニーズに応じたAI導入最適事例

多国籍共生介護の現場で成功しているAI導入の最適事例を分析し、導入の参考とすることが求められる。  
例えば、音声認識AIを活用したリアルタイム翻訳システムの導入により、スタッフ間の言語の壁を克服した事例がある。  
また、介護記録の自動化によって業務の負担を軽減し、スタッフが利用者との時間を増やすことができた成功例も報告されている。  
これらの事例を活用し、自施設のニーズに適したAI導入方法を検討することで、効果的な業務改善が可能となる。



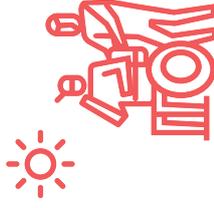
令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデータのための事例集」(リカレント教育推進事業)

多国籍共生介護の現場で成功したAI導入事例を分析し、導入の参考とします。  
音声認識AIを活用したリアルタイム翻訳システムの導入により、言語の壁を克服した事例があります。  
介護記録の自動化により業務負担を軽減し、スタッフが利用者と向き合う時間を増やした成功例もあります。  
これらの事例を活用し、自施設のニーズに合ったAI導入方法を検討することで、効果的な業務改善が実現できます。

## 第5節 多国籍共生介護環境に適応したAI導入方法

### ⑤ 成果を最大化するためのAI導入手法

AI導入の成果を最大化するためには、適切な技術選定と計画的な運用が重要となる。  
AI導入の初期段階で、施設のニーズに応じたシステムを選定し、試験運用を行いながら調整を進めることが求められる。  
また、導入後の効果を最大化するために、スタッフへの継続的なトレーニングやフィードバックの収集が欠かせない。  
長期的な視点でAIの活用計画を策定し、業務の効率化と介護サービスの質の向上を両立させることが重要である。



令和6年度「専門職人材の負担軽減アップデータのための事例集」(リカレント教育推進事業)

AI導入の成果を最大化するためには、適切な技術選定と計画的な運用が必要です。  
導入の初期段階で、施設のニーズに合ったシステムを選定し、試験運用を行います。  
スタッフへの継続的なトレーニングとフィードバックの収集を行い、運用の最適化を図ります。  
長期的な視点でAI活用計画を策定し、業務の効率化と介護サービスの質の向上を両立させます。

教材 知識教材確認テスト

## 第1章: 多国籍共生介護の重要性と課題

### 第1節: 文化的多様性

1. 文化的多様性を理解することは、介護現場におけるチームワークの向上に寄与するが、利用者のケアには影響を与えない。(×)
2. 異文化を取り入れたレクリエーション活動は、利用者の生活の質を向上させる効果がある。(○)
3. 多文化共生の介護現場では、スタッフが自国の文化を優先することが求められる。(×)

### 第2節: 言語障壁

4. 言語の壁がある場合、意思疎通の不備による業務ミスが発生するリスクが高まる。(○)
5. AI翻訳ツールを導入すれば、全てのスタッフが完全に意思疎通できるようになり、言語教育は不要となる。(×)
6. 多言語対応のコミュニケーションツールは、緊急時の対応にも有効である。(○)

### 第3節: チームワーク

7. 異文化理解の促進は、チームワークの向上には寄与しないため、介護業務には必要ない。(×)
8. 役割分担を明確にすることで、多国籍スタッフのスキルを最大限に活かすことができる。(○)
9. 多文化チームでは、オープンなコミュニケーションよりも、業務上の指示のみに従うことが推奨される。(×)

### 第4節: 適応と柔軟性

10. 利用者のニーズは固定されているため、介護スタッフが柔軟に対応する必要はない。(×)
11. 異文化間の相互理解を深めることで、介護スタッフの適応力が向上する。(○)
12. 日本の介護現場では、日本の文化的価値観に完全に適応することが求められるため、多文化教育は不要である。(×)

### 第5節: 共生環境の構築

13. 多国籍スタッフが協力し合う環境を整えることで、利用者のケアの質が向上する。(○)
14. 異文化学習の機会を設けることは、スタッフの間に不要な対立を生む可能性があるため、避けるべきである。(×)
15. 共生環境の構築には、文化の違いを尊重しつつ、協力体制を築くことが重要である。(○)

## 第2章: AI技術の概要と介護及びその隣接分野

### 第1節: 自然言語処理(NLP)

16. 自然言語処理(NLP)を活用すると、異なる言語を話すスタッフ同士のコミュニケーションがスムーズになる。(○)

- 17. NLP 技術は、音声認識や自動翻訳などの機能を含む。(○)
- 18. 介護現場における NLP の活用は、テキスト翻訳に限定される。(×)

#### 第 2 節:機械学習

- 19. 機械学習を活用することで、介護記録の分析や個別ケアプランの作成が可能になる。(○)
- 20. 機械学習のアルゴリズムは、一度学習させればデータの更新なしに正確な結果を出し続けることができる。(×)
- 21. 機械学習は、介護現場のデータを活用し、業務の最適化を支援することができる。(○)

#### 第 3 節:音声認識

- 22. 音声認識技術は、話し言葉を自動的にテキスト化し、記録業務の効率化に貢献する。(○)
- 23. 多言語対応の音声認識システムは、異文化間の意思疎通を促進する役割を果たす。(○)
- 24. 音声認識技術を導入すれば、手書きによる記録業務が完全になくなる。(×)

#### 第 4 節:感情分析

- 25. 感情分析を活用すると、利用者のストレスレベルを把握し、適切なケアを提供できるようになる。(○)
- 26. 感情分析は、音声やテキストデータを用いて行われるが、介護現場では活用の余地は少ない。(×)
- 27. 感情分析技術は、認知症患者の心理状態を把握し、適切な対応を取る際に役立つ。(○)

#### 第 5 節:ロボティクス

- 28. 介護ロボットは、利用者の身体介助を完全に代替できるため、スタッフの業務負担をゼロにできる。(×)
- 29. 介護ロボットの導入により、スタッフの業務効率が向上し、身体的負担の軽減が期待される。(○)
- 30. ロボティクス技術は、単に作業を支援するだけでなく、利用者の心理的サポートにも活用されることがある。(○)

### 第 3 章:AI 導入における課題と倫理的考慮事項

#### 第 1 節:プライバシー保護

- 31. AI 導入時には、利用者やスタッフの個人情報保護が最優先事項となる。(○)
- 32. AI を活用すれば、スタッフの個人情報管理の負担が減り、プライバシー対策を考慮する必要がなくなる。(×)
- 33. 介護現場でのデータ管理には、アクセス制限や暗号化技術が重要な役割を果たす。(○)

## 第 2 節:倫理的判断

- 34. AI の意思決定は倫理的に完全なため、人間の介入は不要である。(×)
- 35. AI が提供する介護支援の判断は、倫理的基準に基づいて常に適切であるとは限らない。(○)
- 36. 介護現場では、AI の判断をそのまま受け入れるのではなく、人間が最終判断を下す仕組みが求められる。(○)

## 第 3 節:透明性

- 37. AI の意思決定プロセスが不透明な場合、利用者やスタッフの信頼を損なう可能性がある。(○)
- 38. AI の意思決定はすべてデータに基づいて行われるため、透明性を考慮する必要はない。(×)
- 39. AI の導入にあたり、意思決定のプロセスを明確にし、説明可能なシステムを構築することが重要である。(○)

## 第 4 節:データの偏り

- 40. AI の学習データに偏りがあると、一部の利用者に対して不適切な判断を下す可能性がある。(○)
- 41. AI は公平な判断を下すため、学習データの選定に注意を払う必要はない。(×)
- 42. 多国籍共生の介護現場では、さまざまな文化的背景を考慮したデータの収集と活用が求められる。(○)

## 第 5 節:技術依存

- 43. 介護業務において、AI 技術に過度に依存すると、人間の判断力が低下する可能性がある。(○)
- 44. AI が導入されれば、人間の介護スタッフの役割は不要になる。(×)
- 45. 技術の利便性を享受しつつ、人間中心のケアを維持するためには、AI の適切な活用バランスを保つことが重要である。(○)

## 第 4 章:導入事例の分析

### 第 1 節:成功事例

- 46. 多言語対応 AI の導入により、利用者の満足度が向上した事例がある。(○)
- 47. 介護ロボットの導入により、職員の身体的負担が増加した事例が多い。(×)
- 48. AI 導入の成功事例には、業務効率の向上や人材不足の解決が含まれる。(○)

### 第 2 節:失敗事例

- 49. AI システムの導入に際し、ニーズ分析を十分に行わなかった結果、失敗するケースがある。(○)

50. AI 技術が介護現場の要件と合致しない場合でも、導入後に調整すれば問題なく機能する。(×)

51. 操作が複雑な AI システムは、現場のスタッフが活用しづらくなるリスクがある。(○)

### 第 3 節:改善策

52. AI 導入の成功には、導入前の徹底したニーズ分析が不可欠である。(○)

53. AI システムの導入後にフィードバックを収集し、定期的な改善を行うことで、運用の最適化が可能となる。(○)

54. 現場スタッフのトレーニングを実施しなくても、AI は自動的に適応するため、教育は不要である。(×)

### 第 4 節:コスト効果分析

55. AI 導入の費用対効果を評価する際には、初期投資と長期的なコスト削減のバランスを考慮する必要がある。(○)

56. AI システムの維持管理コストは導入時のみ発生し、その後の追加費用は一切かからない。(×)

57. 業務の効率化により、人件費削減や収益向上につながる可能性がある。(○)

### 第 5 節:ユーザーフィードバック

58. スタッフや利用者からのフィードバックを収集し、AI システムの改善に活用することが重要である。(○)

59. フィードバックを無視して AI システムをそのまま運用しても、介護現場に適したシステムとして機能し続ける。(×)

60. フィードバックを基にシステムを定期的にアップデートすることで、より適切な介護支援が可能となる。(○)

## 第 5 章:導入計画

### 第 1 節:ニーズ分析

61. AI 導入前に現場の課題を詳細に分析することが、成功の鍵となる。(○)

62. 介護現場のニーズに関係なく、汎用的な AI システムを導入すれば効率化できる。(×)

63. ニーズ分析では、スタッフや利用者のフィードバックを活用することが重要である。(○)

### 第 2 節:パイロットプロジェクト

64. AI システムの効果を事前に検証するため、小規模なパイロットプロジェクトを実施することが望ましい。(○)

65. パイロットプロジェクトは、最初から全施設で AI を導入するよりも、リスクを軽減できる。(○)

66. 試験導入せずに AI システムを全面導入する方が、効率的な運用が可能となる。(×)

### 第 3 節:トレーニングと教育

67. スタッフ向けのトレーニングを実施することで、AIシステムの効果的な活用が促進される。(○)

68. AI技術の導入に際し、操作方法だけでなく、システムの背景や目的を理解することが重要である。(○)

69. AIシステムは直感的に使用できるため、事前の教育は不要である。(×)

#### 第4節:評価とフィードバック

70. AIシステム導入後の評価を定期的に行い、必要な改善を実施することが重要である。(○)

71. 導入したAIシステムが問題なく稼働している場合、フィードバックを収集する必要はない。(×)

72. フィードバックの収集と分析を通じて、システムの最適化や新たなニーズの把握が可能となる。(○)

#### 第5節:スケールアップ

73. AI導入の成功事例を基に、段階的にシステムの適用範囲を拡大することが推奨される。(○)

74. スケールアップの際には、施設ごとの課題や運用環境を考慮する必要がない。(×)

75. AIシステムの拡大適用に際し、導入の効果や影響を定期的に評価し、適切な調整を行うことが望ましい。(○)

## 第1章: 多国籍共生介護を支援する AI とコミュニケーション戦略

### 第1節: AI を活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

- 16. AI を活用することで、多言語対応が容易になり、意思疎通がスムーズになる。(○)
- 17. コミュニケーション問題は AI では解決できないため、技術の導入は不要である。(×)
- 18. AI を活用すると、異文化間の非言語コミュニケーションの違いも補助できる。(○)

### 第2節: 自然言語処理(NLP)を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

- 19. NLP 技術を活用すると、介護現場での多言語対応がスムーズになる。(○)
- 20. NLP は翻訳や通訳に特化しており、会話支援機能は持たない。(×)
- 21. NLP 技術は、文脈を理解して適切な翻訳を行う能力を持っている。(○)

### 第3節: 多国籍共生介護環境における AI 応答システムの活用

- 22. AI 応答システムを活用することで、多国籍スタッフの業務負担を軽減できる。(○)
- 23. AI 応答システムはリアルタイムでの情報提供が可能であるため、緊急時の対応にも有効である。(○)
- 24. AI 応答システムの導入には特別なトレーニングは必要ない。(×)

### 第4節: 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

- 25. AI 技術を活用することで、職場内の迷惑行為を検知し、早期対応が可能となる。(○)
- 26. メンタルケアの一環として、ストレスチェックツールの活用が推奨されている。(○)
- 27. 多国籍共生介護環境では、迷惑行為が発生することはないため、特別な対策は不要である。(×)

### 第5節: 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

- 28. 定期的な意見交換を行うことで、スタッフ間のコミュニケーションが向上する。(○)
- 29. 翻訳ツールの活用によって、多国籍チームの連携は不要となる。(×)
- 30. コミュニケーションの改善には、文化的感受性を高めることが重要である。(○)

## 第2章: AI 技術と多国籍共生介護環境への適応

### 第1節: 介護 DX の概要と AI の基礎知識

- 16. 介護 DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入により、業務負担の軽減や記録作業の自動化が期待される。(○)
- 17. AI 技術を活用することで、介護職員の業務負担が増加する傾向にある。(×)
- 18. AI による介護記録の自動化は、業務の効率向上に寄与する。(○)

### 第2節: 多国籍共生介護における AI の活用事例

- 19. AI を活用することで、外国人スタッフの日本語学習を支援することができる。(○)
- 20. AI 搭載の見守りシステムは、利用者の異常行動を検知するために用いられる。(○)
- 21. AI の画像認識技術を導入すれば、転倒リスクを完全になくすことができる。(×)

### 第3節: AI を活用した多国籍共生介護向け教育とトレーニング

- 22. AI を活用した VR トレーニングは、介護技術の習得に有効である。(○)

- 23. AIトレーニングシステムは、受講者の進捗を分析し、個別最適化された学習を提供する。(○)
- 24. AIトレーニングプログラムでは、スタッフの自己学習能力に依存するため、個別指導は不要である。(×)

#### 第4節: AIを活用した言語サポートの拡充

- 25. AI翻訳を活用することで、外国人スタッフとのコミュニケーションが円滑になる。(○)
- 26. AI応答システムは、利用者とのコミュニケーション支援には使えない。(×)
- 27. 多言語対応AIの活用は、緊急時の対応にも有効である。(○)

#### 第5節: 多国籍共生介護におけるAI活用の倫理的課題

- 28. AIを活用する際には、個人情報の適切な管理が求められる。(○)
- 29. AIは完全に公平な判断を下すため、倫理的配慮は不要である。(×)
- 30. AIの意思決定は、倫理的基準に基づいたものであるかどうかを確認する必要がある。(○)

### 第3章: 多国籍共生介護環境におけるリスク管理

#### 第1節: 多国籍共生介護環境におけるリスクと課題の特定

- 1. 文化的価値観の違いによる誤解は、多国籍共生介護におけるリスクの一つである。(○)
- 2. すべての外国人スタッフは同じ文化的背景を持っているため、リスク管理は不要である。(×)
- 3. リスクを適切に管理するためには、職場の安全マニュアルを多言語で提供することが望ましい。(○)

#### 第2節: 多国籍共生介護を考慮した職場環境の整備

- 4. 多国籍共生介護におけるリスク管理では、文化的背景の違いによるコミュニケーションギャップを最小限に抑えることが重要である。(○)
- 5. 職場環境の整備において、多文化研修の導入は不要である。(×)
- 6. 多国籍スタッフが安心して働ける環境を整えるためには、言語サポートや生活支援が求められる。(○)

#### 第3節: 多国籍共生介護環境における問題解決手法

- 7. 問題解決手法の一つとして、多国籍スタッフへの定期的なフィードバックが有効である。(○)
- 8. 文化の違いによるトラブルを未然に防ぐため、職場内でのオープンな対話の場を設けることが望ましい。(○)
- 9. 問題が発生した場合、個別に解決するのではなく、組織全体で取り組む方が効果的である。(○)

#### 第4節: 多国籍共生介護環境におけるAI運用問題解決手法

- 10. AIシステムを導入することで、すべてのリスクを完全に防ぐことができる。(×)

- 11. AI を活用したリスク管理システムは、異常を検知し、早期対応を可能にする。(○)
- 12. AI を活用する際には、データの偏りや倫理的課題にも注意を払う必要がある。(○)

#### 第 5 節: 多国籍共生介護環境でのリスク管理

- 13. リスク管理の基本は、リスクの特定・評価・対策・監視のサイクルを確立することである。(○)
- 14. 緊急時の対応マニュアルは、定期的に更新しなくてもよい。(×)
- 15. リスク管理を成功させるためには、全スタッフがリスク意識を持つことが重要である。(○)

### 第 4 章: 多国籍共生介護を支援する AI とコミュニケーション戦略

#### 第 1 節: AI を活用した多国籍共生介護環境でのコミュニケーション向上

- 16. AI を活用することで、多言語対応が容易になり、意思疎通がスムーズになる。(○)
- 17. コミュニケーション問題は AI では解決できないため、技術の導入は不要である。(×)
- 18. AI を活用すると、異文化間の非言語コミュニケーションの違いも補助できる。(○)

#### 第 2 節: 自然言語処理(NLP)を活用した多国籍共生介護環境の会話支援

- 19. NLP 技術を活用すると、介護現場での多言語対応がスムーズになる。(○)
- 20. NLP は翻訳や通訳に特化しており、会話支援機能は持たない。(×)
- 21. NLP 技術は、文脈を理解して適切な翻訳を行う能力を持っている。(○)

#### 第 3 節: 多国籍共生介護環境における AI 応答システムの活用

- 22. AI 応答システムを活用することで、多国籍スタッフの業務負担を軽減できる。(○)
- 23. AI 応答システムはリアルタイムでの情報提供が可能であるため、緊急時の対応にも有効である。(○)
- 24. AI 応答システムの導入には特別なトレーニングは必要ない。(×)

#### 第 4 節: 多国籍共生介護チームにおける迷惑行為防止とメンタルケア

- 25. AI 技術を活用することで、職場内の迷惑行為を検知し、早期対応が可能となる。(○)
- 26. メンタルケアの一環として、ストレスチェックツールの活用が推奨されている。(○)
- 27. 多国籍共生介護環境では、迷惑行為が発生することはないため、特別な対策は不要である。(×)

#### 第 5 節: 多国籍共生介護環境でのコミュニケーション改善方法

- 28. 定期的な意見交換を行うことで、スタッフ間のコミュニケーションが向上する。(○)
- 29. 翻訳ツールの活用によって、多国籍チームの連携は不要となる。(×)
- 30. コミュニケーションの改善には、文化的感受性を高めることが重要である。(○)

### 第 5 章: 現場適応型 AI 導入モデルの構築

#### 第 1 節: 施設ごとの多国籍共生介護背景に応じた AI 導入計画の策定

- 31. 施設ごとのニーズを把握し、それに応じた AI 導入計画を立てることが重要である。(○)

32. AI 導入の計画は全国一律のものであり、施設ごとのカスタマイズは不要である。(×)

33. 導入計画を策定する際には、スタッフの意見を反映することが望ましい。(○)

#### 第 2 節: 多国籍共生介護環境における業務最適化と AI 導入の費用対効果

34. AI 導入の費用対効果を評価する際には、初期投資と長期的なコスト削減のバランスを考慮する必要がある。(○)

35. AI システムの維持管理コストは導入時のみ発生し、その後の追加費用は一切かからない。(×)

36. 業務の効率化により、人件費削減や収益向上につながる可能性がある。(○)

#### 第 3 節: 多国籍共生介護スタッフのための AI トレーニングプログラム

37. AI 導入後の効果を最大化するためには、スタッフ向けのトレーニングが不可欠である。(○)

38. AI システムは直感的に使用できるため、特別な研修は不要である。(×)

39. トレーニングプログラムには、実践的なシミュレーションやフィードバックを含めることが望ましい。(○)

#### 第 4 節: AI を活用した業務効率化と多国籍共生介護スタッフ負担軽減

40. AI を活用することで、介護スタッフの業務負担が軽減される可能性がある。(○)

41. AI 導入により、すべての介護業務が完全に自動化される。(×)

42. AI を活用した業務の効率化は、スタッフの満足度向上にも寄与する。(○)

#### 第 5 節: 多国籍共生介護環境に適応した AI 導入方法

43. AI 導入の成功には、施設ごとの業務フローに適応したシステムを選定することが重要である。(○)

44. すべての施設で同じ AI システムを導入すれば、最適な運用が可能になる。(×)

45. AI 導入後も定期的に評価を行い、改善を続けることで、最適な運用が可能となる。(○)

eラーニング PBLシステム

## 演習

# 今後の演習手順

これからの演習の進行について説明します。

ここからは、システムを活用しながら演習を進めます。

## (1)課題の解決

抽出した4つの課題についてグループで話し合い、それぞれの解決策を考えます  
(先端機器の選定も含みます)。

管理者は話し合いで出た解決策をまとめ、システムに入力します。

## (2)事例の選定

4つの課題とその解決策から、最も重要と思われる1つを事例として選びます。  
管理者は選定理由を整理し、システムに入力します。

## (3)課題の把握

解決案に挙げた先端機器について、Webや事例集などから情報を調査します。  
管理者は調査結果をまとめ、システムに入力します。

## 演習

## (4) ①企画書の作成(項目設定)

企画書の骨組みを考えます。グループで話し合うか、ChatGPTなどを活用して、  
企画書に必要な項目を洗い出します。

管理者は洗い出した項目をシステムに入力します。

## ②企画書の作成(内容を具体化)

設定した項目ごとに具体的な内容を検討します。

管理者は検討した内容をまとめ、システムに入力します。

## (5)企画書の作成

これまでに集めた情報をもとに、企画書を作成します。  
パワーポイントやGoogleスライドを使用して進めます。

# 演習

## システムへのログイン

これからの演習は、システムを活用しながら、スマホやパソコンを使って進めます。

①パソコンのブラウザに以下のURLを入力するか、QRコードを読み取ります。

<https://edusev.site/nagaraai6/>



②ログイン画面で、ユーザーID・パスワードを入力して、ログインします。

※アカウントは、別途お知らせします。



# 演習

## (1)課題の解決

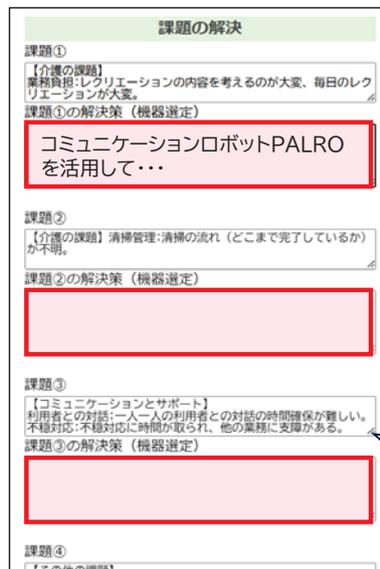
抽出した4つ課題についてグループで話し合い、それぞれ解決案（先端機器選定を含む）を考えてください。

管理者はその解決案をまとめて、システムに入力します。

①「課題の解決」ボタン



②各課題について解決案を入力



③入力が完了したら保存



枠の右下をドラッグすることで、枠の大きさを調整できます。

※パソコンのみ

# 演習

## (2)事例の選定

4つ課題と解決案について、**最も重要と思われる1つ**を事例として選定してください。

管理者はその**選定理由**をまとめて、システムに入力します。

①「事例の選定」ボタン

令和6年度  
専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業  
AI導入スキル

個人学習用eラーニング教材

グループ学習用PBL教材

課題の解決

**事例の選定**

課題の把握

企画書項目

企画書作成

ログアウト

学校法人 長良学園

②課題を選択してチェック

学校法人 長良学園

グループ学習用PBL教材  
事例の選定

課題①  
【介護の課題】  
業務負担:レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。

課題②  
【介護の課題】清掃管理:清掃の流れ(どこまで完了しているか)が不明。

課題③  
【コミュニケーションとサポート】  
利用者との対話:一人一人の利用者との対話の時間確保が難しい。不応対:不応対に時間が取られ、他の業務に支障がある。

課題④  
【その他の課題】  
指導の難しさ:外国人への指導が大変。

保存

戻る

③選定理由を入力して保存

学校法人 長良学園

グループ学習用PBL教材  
事例の選定

課題①  
【介護の課題】  
業務負担:レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。

選定理由  
レクリエーション中は、施設員がその間ずっと時間をとられてしまい、離れられない。PALROを活用することで、ラジオ体操等をしている時間などPALROに任せることができ、時間を有効に活用できると考えた。やはりこれが喫緊の課題であると感じた。

課題②  
【介護の課題】清掃管理:清掃の流れ(どこまで完了しているか)が不明。

課題③  
【コミュニケーションとサポート】  
利用者との対話:一人一人の利用者との対話の時間確保が難しい。不応対:不応対に時間が取られ、他の業務に支障がある。

課題④  
【その他の課題】  
指導の難しさ:外国人への指導が大変。

保存

# 演習

## (3)課題の把握

解決案に挙げた先端機器について、Webや事例集などから**情報を調査**します。

管理者は調査結果をまとめ、システムに入力します。

①「課題の把握」ボタン

令和6年度  
専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業  
AI導入スキル

個人学習用eラーニング教材

グループ学習用PBL教材

課題の解決

事例の選定

**課題の把握**

企画書項目

企画書作成

ログアウト

学校法人 長良学園

②商品情報を調査して入力

学校法人 長良学園

グループ学習用PBL教材  
課題の把握

課題①  
【介護の課題】  
業務負担:レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。  
課題①の解決策(機器選定)  
コミュニケーションロボットPALROを活用して・・・

導入候補サービス①  
商品情報  
富士ソフト株式会社が開発したヒューマノイド型のコミュニケーションロボット

ターゲット  
主なターゲットは、高齢者福祉施設や介護現場での利用者、および離れて暮らす高齢者

サービス概要・デジタル技術  
※尽可能、個々の利用者の顔と名前を覚え、その人に合わせた会話やレクリエーションを提供。また、専用アプリ「PALROしゃべりリンク」を通じて、離れて暮らす家族とのコミュニケーションや見守り機能も備えている。

活用により期待される効果(想定されるもの)  
・高齢者の認知機能の維持・向上  
・レクリエーション活動の活性化  
・職員の負担軽減

機器を活用した時の課題  
・初期導入コスト、定期的なメンテナンスやアップデートの必要性

③すべて入力後に保存

機器を活用した時の課題  
・初期導入コスト、定期的なメンテナンスやアップデートの必要性

参考URL  
<https://palro.jp/>

保存

戻る

# 演習

## (4) ①企画書の作成(項目設定)

企画書の骨組みを考えます。グループで話し合うか、ChatGPTなどを活用して、企画書に必要な項目を洗い出します。

管理者は洗い出した項目をシステムに入力します。

①「企画書項目」ボタン

令和6年度  
専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業  
AI導入スキル

個人学習用 eラーニング教材

グループ学習用 PBL 教材

課題の解決

事例の選定

課題の把握

**企画書項目**

企画書作成

ログアウト

学校法人 長良学園

②企画書に必要な項目を入力

学校法人 長良学園

グループ学習用 PBL 教材  
企画書項目

項目①  
はじめに(目的・背景)

項目②  
導入の目的と目標

項目③  
導入予定の機器とその概要

項目④  
導入のメリット

項目の枠は①～⑩まであります。  
必要な項目数の分だけ入力します。

③すべて入力後に保存

項目⑦  
導入のデメリット

項目⑧  
導入にかかるコストと投資対効果

項目⑨  
導入プロセスとスケジュール

項目⑩  
まとめと提案

保存

戻る

# 演習

## (4) ②企画書の作成(内容を具体化)

設定した項目ごとに具体的な内容を検討します。

管理者は検討した内容をまとめ、システムに入力します。

①「企画書項目」ボタン

令和6年度  
専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育推進事業  
AI導入スキル

個人学習用 eラーニング教材

グループ学習用 PBL 教材

課題の解決

事例の選定

課題の把握

**企画書項目**

企画書作成

ログアウト

学校法人 長良学園

②企画書に必要な項目を入力

学校法人 長良学園

グループ学習用 PBL 教材  
企画書項目

項目①  
はじめに(目的・背景)

日本は超高齢社会を迎え、介護施設の役割はますます重要になっていきます。しかし、介護業界では慢性的な人手不足が深刻化しており、スタッフの業務負担が増大し、質の高いサービス提供が難しい状況が続いています。また、利用者やその家族からは「より安全で安心できる介護サービス」の提供が強く求められています。

こうした状況を打開するためには、業務効率化やスタッフの負

項目②  
導入の目的と目標

導入の目的

スタッフの業務負担軽減  
非労働や単調作業の効率化を図り、介護スタッフの負担を軽減する。

介護サービスの質の向上  
利用者の安全性を高め、快適な生活環境を提供する。

施設運営の効率化  
業務のデジタル化により、管理業務や記録業務を省力化する。

スタッフの離職率低下  
業務環境を改善し、職場の満足度を向上させる。

項目③  
導入予定の機器とその概要

③すべて入力後に保存

導入プロセスとスケジュール

導入プロセス  
現状分析と導入計画の作成(1ヶ月)  
施設の課題やニーズを確認し、導入する機器とその範囲を明確化します。  
補助金や助成金の申請条件を確認。  
試験導入の実施(2ヶ月)  
一部のフロアや利用者で先頭機器を試験的に導入し、運用方法を検証します。  
試験導入時のスタッフと利用者のフィードバックを収集。  
評価と改善(1ヶ月)  
試験導入結果を基に、効果や課題を検証します。  
必要に応じて運用方法や機器の選定を調整します。  
全体導入の準備(2ヶ月)  
導入手続や設置作業の計画を立案。  
スタッフ向けの操作研修を実施し、運用体制を整備します。  
本格導入と運用開始(1ヶ月)  
施設全体での導入を完了し、運用を開始します。  
定期的な効果測定し、運用の最適化を行います。

項目⑨  
まとめと提案

まとめ

現状の課題

- ・人手不足の深刻化とスタッフの業務負担増加。
- ・利用者の安全性確保や介護サービスの質向上への期待が高まっている。

導入の目的

- ・業務効率化、スタッフの負担軽減、利用者満足度の向上。

期待される効果

- ・留守りシステムによる転倒検知の削減。
- ・管理業務の効率化とサービス提供時間の拡充。
- ・利用者および家族の信頼向上。

保存

戻る

枠は縦、横、拡大が可能になっています。必要に応じて調整します。

# 演習

## (5) 企画書の作成

これまでに集めた情報をもとに、企画書を作成します。  
パワーポイントやGoogleスライドを使用して進めます。  
ここでは、googleスライドの活用例について説明します。

①「企画書作成」ボタン



②googleドライブが表示されます。



③講座専用アカウントでログインしておしてください。  
※専用アカウントは、別途お知らせします。

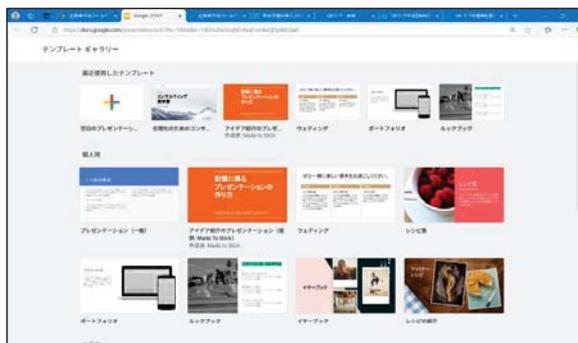
# 演習

④企画書のデザインを選択します。

ウィンドウ内で、右クリック→googleスライド→テンプレートから

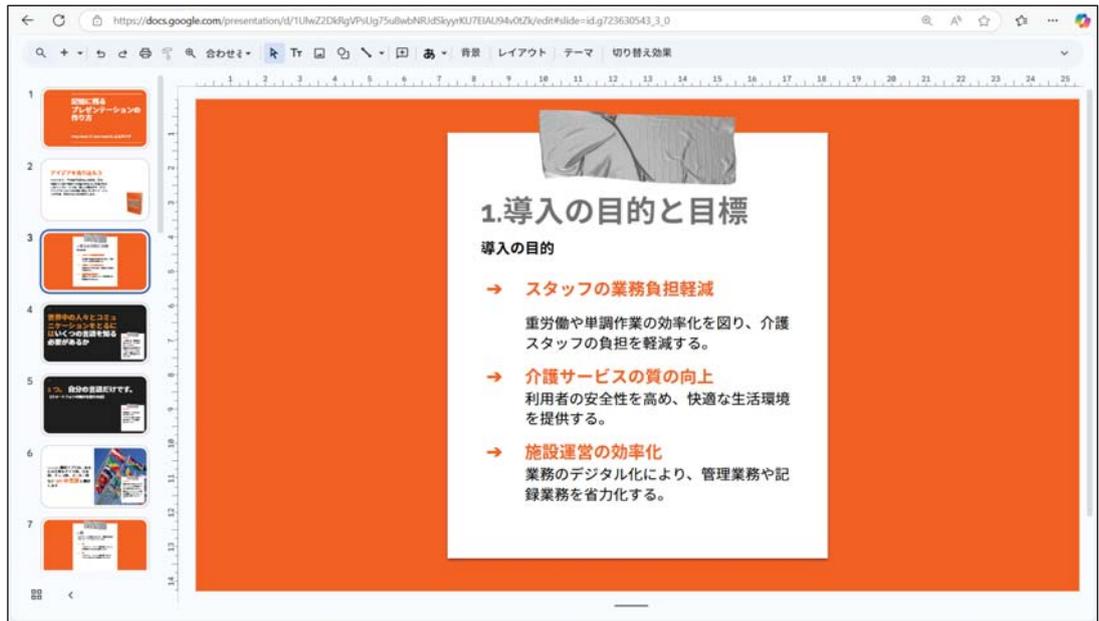


⑤好きなデザインを選択します。



# 演習

⑥これまでにシステムで情報収集した結果などをコピー＆ペーストするなどして、企画書を仕上げていきます。



本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として「学校法人長良学園 向陽台水口専門学校」が実施した令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果をとりまとめたものです。

---

令和6年度

専門職業人材の最新技能アップデートのための  
専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業

事業成果報告書多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

令和7年3月

学校法人長良学園 向陽台水口専門学校

---